

く げ まえ い せき
久下前遺跡Ⅳ (D 1 ・ E 1 地点)

く げ ひがし い せき
久下東遺跡Ⅴ (F 1 地点)

—本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書5—

2012

本庄市教育委員会

序

埼玉県北部に位置する本庄市では、本庄地方拠点都市地域の指定を受けてより、県北地域の新たな拠点形成を推進するため、上越新幹線本庄早稲田駅の開設、早稲田リサーチパーク地区の整備、新幹線駅周辺の土地区画整理事業などを行ってまいりました。この中で、「職・住・遊・学」の機能を備えた魅力ある街づくりを目的とした本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業は、対象面積が64.6haの大規模造成工事を伴う中心的な開発事業であり、その事業地内には貴重な埋蔵文化財が数多く存在しておりました。その埋蔵文化財の保護と開発との調整については、計画当初より長い年月をかけて、多くの関係機関と協議を重ねた結果、やむを得ず破壊される部分については事前に発掘調査を実施して記録保存の措置をとることになりました。事業の性格上、その調査面積も膨大であるため、平成18年度から開始した現地調査は6年の歳月を要し、ようやく今年度で概ね終了することになりました。

本書は、この土地区画整理事業地内の都市計画道路建設に伴う事前の記録保存を目的として、平成22年度に実施した久下前遺跡D1・E1地点と久下東遺跡F1地点の発掘調査の成果を記録したものです。両遺跡は、これまでの調査によって、古墳時代から奈良・平安時代にかけての古代の大規模集落跡と、鎌倉時代から室町時代の中世屋敷跡を主体とする遺跡であることが知られていましたが、久下東遺跡F1地点では古代集落に伴う多くの住居跡や中世屋敷跡に関係する井戸や地下式坑などの多くの遺構が調査され、本遺跡の内容を資料的により充実させることができました。また、久下前遺跡D1地点では、古墳時代前期から中期の河川跡と思われる大溝から、大量の土器とともに全国的にも非常に珍しい当時の漆の塊が出土するなど、学術的にも大変貴重な成果をあげることができました。

本書が、学術的な資料としてはもとより、当地域の歴史研究や文化財保護の啓発・普及のため、研究機関や教育機関をはじめ地域住民の皆様の生涯学習の場で、広くご活用いただければ幸甚に存じます。

最後に、現地の発掘調査から整理・報告書の刊行にあたり、多大なご協力を賜りました独立行政法人都市再生機構本庄都市開発事務所をはじめ、様々なご教示やご尽力をいただきました地元関係者各位に対しまして、厚くお礼を申し上げます。

平成24年 3月

本庄市教育委員会
教育長 茂木孝彦

例 言

1. 本書は、埼玉県本庄市北堀に所在する、久下前遺跡D 1 地点・E 1 地点、久下東遺跡F 1 地点の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業の都市計画道路建設に伴う事前の記録保存を目的として、平成22年5月10日～平成23年2月28日の期間に実施した。
3. 発掘調査は、本庄市教育委員会が実施し、その調査担当には恋河内昭彦と野善行があたった。
4. 本書中で使用した地図は、国土地理院発行の5万分の1と2万5千分の1である。
5. 一部の出土遺物について、実測及び観察表の作成と写真撮影を、(有)毛野考古学研究所に委託した。
6. 出土遺物観察表に記した記号は、以下のとおりである。
A - 法量 (単位はcm、g、カッコは推定)、B - 成形、C - 整形・調整、D - 胎土、材質、
E - 色調、F - 残存度、G - 備考、H - 出土層位・位置
7. 本書に掲載した写真は、遺構を各調査担当者が、遺物は委託分以外を磯崎勝人と恋河内が撮影した。
8. 本書の執筆及び編集は、恋河内が行った。
9. 発掘調査から本書刊行にあたって、下記の方々や機関からご教示・ご協力を賜った。記して感謝します。
赤熊 浩一、岩瀬 譲、大木紳一郎、大谷 徹、金子 彰男、小島 敦子、坂本 和俊、
佐々木幹雄、篠崎 潔、外尾 常人、田村 誠、瀧瀬 芳之、田中 広明、富田 和夫、
中沢 良一、長滝 歳康、中村 倉司、福田 聖、藤根 久、丸山 修、山崎 武
埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団、
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

発掘調査組織

(平成22年度)

主体者	本庄市教育委員会 教 育 長	茂木 孝彦
事務局	事 務 局 長 文化財保護課長 副参事兼課長補佐 埋蔵文化財係長 主 査 主 査 主 任 主 任 臨 時 職 員	腰塚 修 金井 孝夫 鈴木 徳雄 太田 博之 恋河内昭彦 (調査担当) 大熊 季広 松澤 浩一 松本 完 の野 善行 (調査担当)

整理・報告書刊行組織

(平成23年度)

主体者	本庄市教育委員会 教 育 長	茂木 孝彦
事務局	事 務 局 長 文化財保護課長 副参事兼課長補佐 課長補佐兼埋蔵文化財係長 主 幹 主 査 主 査 主 任 臨 時 職 員	関和 成昭 金井 孝夫 鈴木 徳雄 太田 博之 恋河内昭彦 (整理担当) 大熊 季広 松澤 浩一 松本 完 の野 善行

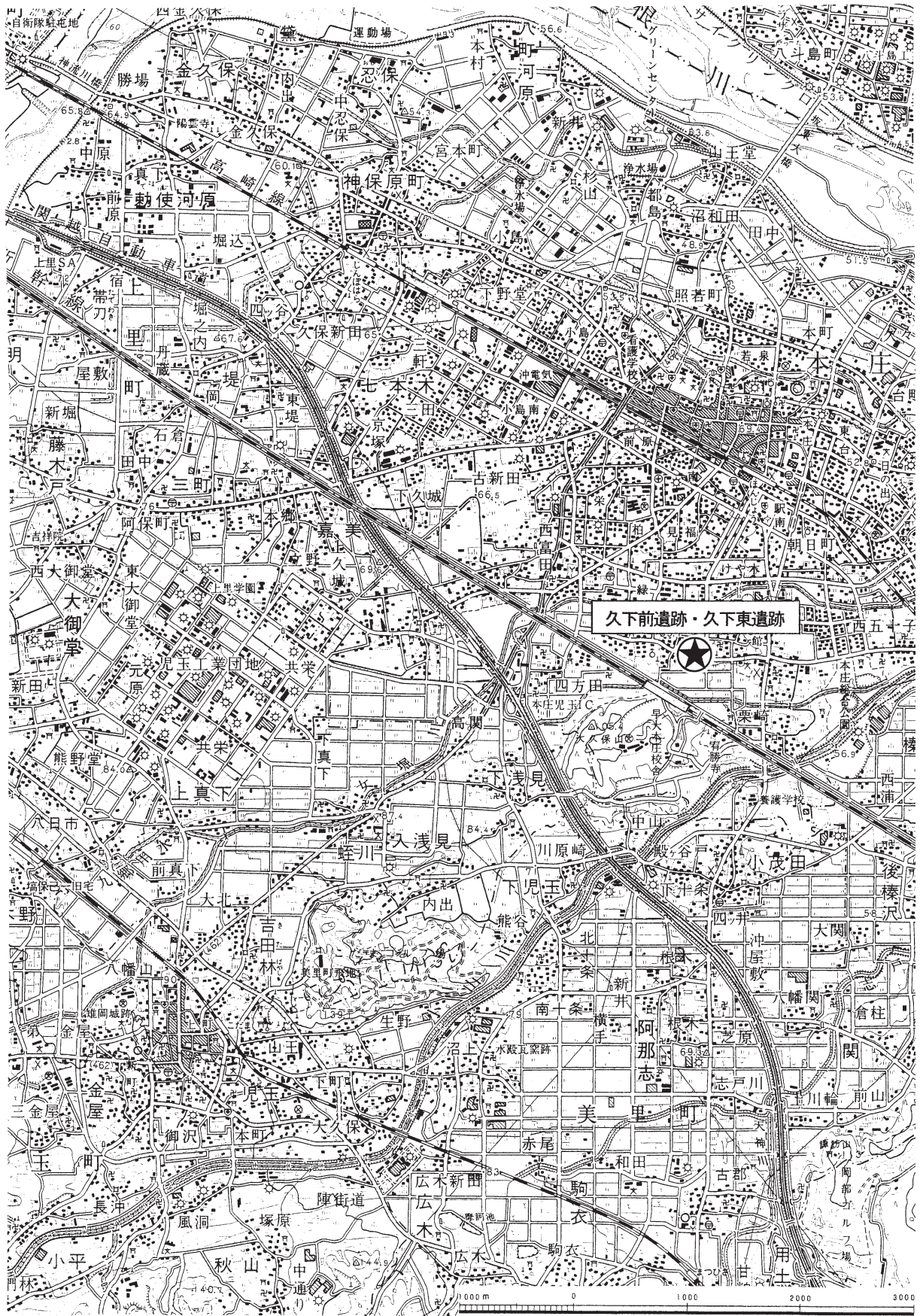
目 次

序

例 言

第 I 章	発掘調査に至る経緯	1
第 II 章	遺跡の立地と歴史的環境	3
第 III 章	久下前遺跡 D 1 地点の調査	5
	第 1 節 D 1 地点の概要	5
	第 2 節 検出された遺構と遺物	7
	1. 竪穴式住居跡	7
	2. 井戸跡	11
	3. 土坑	25
	4. 溝跡	42
	5. 河川跡	61
第 IV 章	久下前遺跡 E 1 地点の調査	83
	第 1 節 E 1 地点の概要	83
	第 2 節 検出された遺構と遺物	86
	1. 溝跡	86
	2. 河川跡	88
第 V 章	久下東遺跡 F 1 地点の調査	93
	第 1 節 F 1 地点の概要	93
	第 2 節 検出された遺構と遺物	94
	1. 竪穴式住居跡	94
	2. 掘立柱建物跡	141
	3. 井戸跡	141
	4. 地下式坑	143
	5. 土坑	145
	6. 溝跡	158
	7. 調査区内出土の遺物	168
第 VI 章	ま と め	169
	第 1 節 久下東遺跡 F 1 地点出土の古代土器の様相	169
	第 2 節 中世の出土土器・陶磁器の様相	174
	<参考文献>	176

写 真 図 版
抄 録



第1図 遺跡の位置

第 I 章 発掘調査に至る経緯

本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う発掘調査は、平成18年9月に事業認可を受けて、独立行政法人都市再生機構(U R)本庄都市開発事務所・本庄市・埼玉県教育委員会・本庄市教育委員会の4者によって、平成18年11月10日に締結された「本庄早稲田駅周辺地区埋蔵文化財に関する協定書」に基づいて、平成18年12月より本庄市教育委員会が実施している。

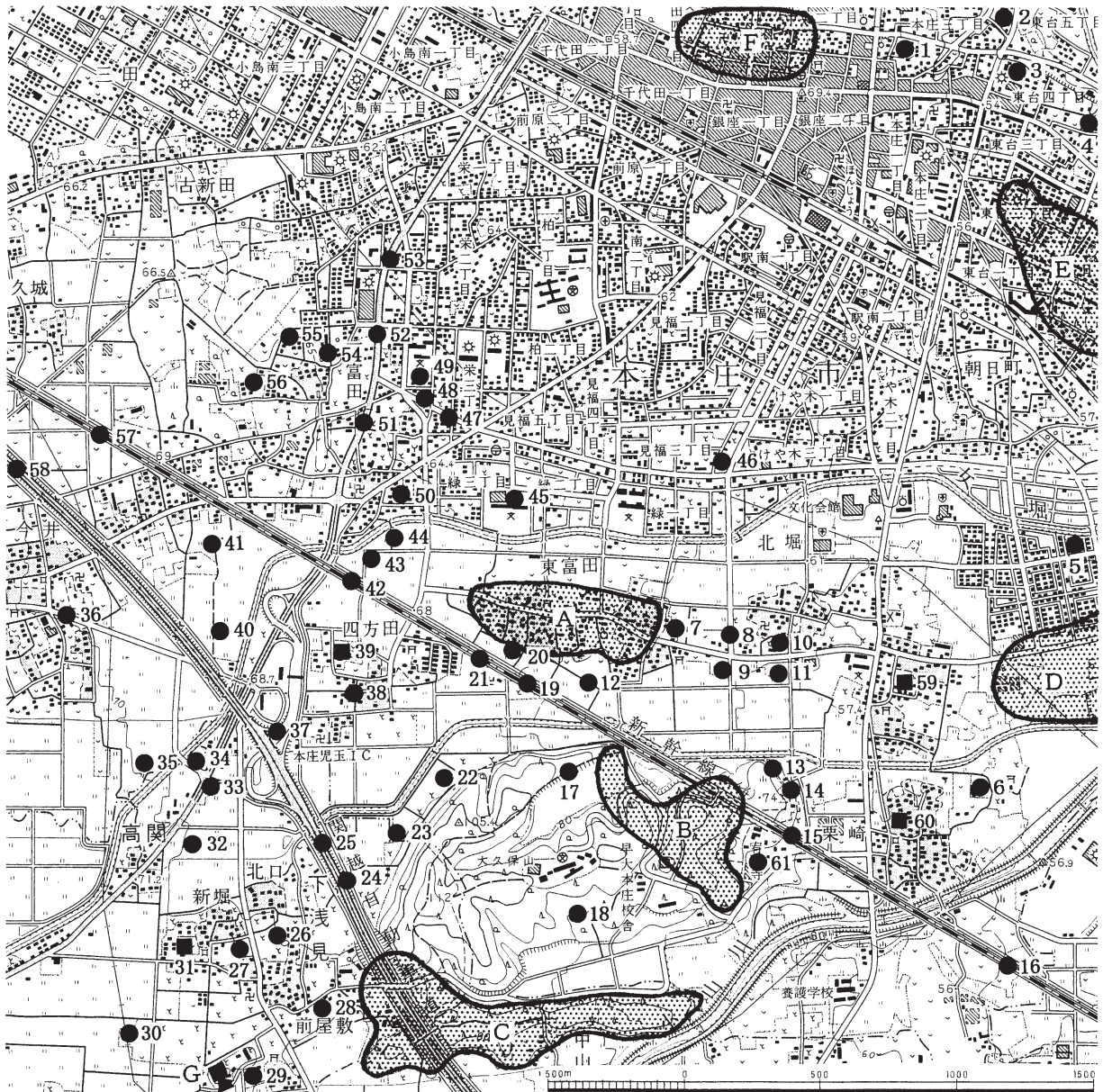
事業地内の発掘調査は、機構(U R)側の費用負担区域である都市計画道路建設部分と本庄市の費用負担区域であるそれ以外の区域に分かれている。これまでに発掘調査を実施した地点は以下のとおりである。

- <平成18年度> 機構負担区域－七色塚遺跡B 1 地点、北堀新田前遺跡A 1 地点
市負担区域－七色塚遺跡B 2 地点、北堀新田前遺跡A 2～A 4 地点
- <平成19年度> 機構負担区域－浅見山 I 遺跡A 1・A 2 地点、久下東遺跡A 1・B 1 地点
北堀久下塚北遺跡A 地点
市負担区域－浅見山 I 遺跡B 1・B 2 地点、久下東遺跡A 2・B 2 地点
- <平成20年度> 機構負担区域－久下東遺跡C 1・D 1・E 1 地点、久下前遺跡A 1・B 1 地点、北堀久下塚北遺跡B 地点
市負担区域－久下東遺跡B 3・C 2・D 2・D 3・E 2・E 3 地点、北堀久下塚北遺跡C・D 地点
- <平成21年度> 機構負担区域－久下前遺跡C 1 地点、北堀新田遺跡A 1 地点、宥勝寺北裏遺跡A 1・B 1 地点
市負担区域－久下前遺跡C 2・C 3 地点、北堀新田遺跡A 2 地点、北堀久下塚北遺跡C 2・D 2 地点、宥勝寺北裏遺跡A 2・B 2 地点

平成22年度に発掘調査を行った機構負担区域は、久下前遺跡D 1・E 1・F 1 地点と久下東遺跡F 1・G 1 地点の5 地点である。これらは、平成22年4月9日に独立行政法人都市再生機構本庄開発事務所長川端茂壽と本庄市長吉田信解の間で、「平成22年度本庄早稲田駅周辺地区埋蔵文化財発掘調査等業務」の委託契約を締結して行った。この機構負担区域の5 地点には、すべて既存建物が存在していたため、1軒ずつそれらの移転撤去の完了するのを待って、発掘調査が可能になった場所から随時実施した。

調査期間は、久下前遺跡のD 1 地点が平成22年7月5日から平成23年1月26日、同E 1 地点が平成22年11月24日から平成23年1月14日、久下東遺跡F 1 地点が平成22年5月10日から平成23年2月28日までである。

今回報告するのは、平成22年度に機構負担分として実施した5カ所のうち、久下前遺跡D 1・E 1 地点と久下東遺跡F 1 地点の3カ所分である。



第2図 周辺の主要遺跡

1. 城山遺跡
2. 天神林遺跡
3. 天神林Ⅱ遺跡
4. 薬師堂遺跡
5. 田端屋敷遺跡
6. 東本庄遺跡
7. 北堀久下塚北遺跡
8. 久下東遺跡
9. 久下前遺跡
10. 北堀新田遺跡
11. 北堀新田前遺跡
12. 七色塚遺跡
13. 宥勝寺裏壇輪窯跡
14. 宥勝寺北裏遺跡
15. 東谷遺跡
16. 古川端遺跡
17. 浅見山Ⅰ遺跡
18. 大久保山遺跡
19. 下田遺跡
20. 元富遺跡
21. 観音塚遺跡
22. 山根遺跡
23. 根田遺跡
24. 雷電下遺跡
25. 飯玉東遺跡
26. 中畑遺跡
27. 天神耕地遺跡
28. 南ノ前遺跡
29. 鷺山南遺跡
30. 浅見境北遺跡
31. 関根氏館跡
32. 東牧西分遺跡
33. 梅沢遺跡
34. 川越田遺跡
35. 今井川越田遺跡
36. 北廓遺跡
37. 後張遺跡
38. 四方田遺跡
39. 四方田氏館跡
40. 今井条里遺跡
41. 地神・塔頭遺跡
42. 九反田遺跡
43. 西富田前田遺跡
44. 西富田・四方田条里遺跡
45. 雌濠遺跡
46. 笠ヶ谷戸遺跡
47. 南大通り線内遺跡
48. 薬師元屋敷遺跡
49. 薬師遺跡
50. 西富田本郷遺跡
51. 社具路遺跡
52. 夏目遺跡
53. 二本松遺跡
54. 夏目西遺跡
55. 弥藤次遺跡
56. 西富田新田遺跡
57. 諏訪遺跡
58. 久城前遺跡
59. 北堀本田館跡
60. 栗崎館跡
61. 大久保山寺院跡
- A. 東富田古墳群
- B. 大久保山古墳群
- C. 塚本山古墳群
- D. 西五十子古墳群
- E. 塚合古墳群
- F. 北原古墳群
- G. 鷺山古墳

第Ⅱ章 遺跡の立地と歴史的環境

今回報告する久下前遺跡と久下東遺跡は、上越新幹線本庄早稲田駅の北東側約500mの本庄市北堀地内に位置し、低地部の同じ微高地上に立地する古代から中近世の遺構が連続して分布する同一の複合遺跡と考えられるものである。遺跡周辺は、埼玉県と群馬県の県境をなす神流川の両側に広がる神流川扇状地の東端部にあたり、上武山地内の湧水を水源とする金鑽川や旧赤根川などの小河川を集めて北東方向に流れる現女堀川の下流域にあたる。両遺跡は、この女堀川沖積低地内の女堀川と、児玉町高関地内で同河川から分岐する男堀川に挟まれた、標高59m～63mを測る東西方向に長い微高地上に立地し、北側には女堀川を挟んで低平で広大な本庄台地が、南側には男堀川を挟んで児玉丘陵から列状に延びる残丘性丘陵の大久保山が対峙している。本遺跡周辺の女堀川下流域の遺跡は、本遺跡が立地する低地内の微高地上のほか、低地を取り囲むように、本庄台地の南側縁辺部と大久保山残丘上や残丘斜面下の低台地上に分布している。また、周辺の低地内の水田部には、現代のほ場整備による土地改良事業が実施される以前までは、一町四方の方格地割りが連続する条里形地割りが広範囲に認められた(増田2002)。

当地域では、古墳時代になって遺跡数が爆発的に増加し、特に前時代までと異なり、古墳時代前期より低地内への集落の進出が顕著に認められる。これらの低地内に進出した集落は、弥生時代からの伝統的な在地系土器ではなく、畿内や東海西部地方などの外来系土器を主体にしており、おそらく当地域の弥生時代までの水田経営とは技術的系譜を異にした集団によって、灌排水路の掘削による低地内の大規模開発が行われていったものと思われる。この当地域における低地開発の成功は、その後の中・後期の遺跡数の安定的な増加からも窺え、当地域でも地域社会の再編成の象徴として、前期には大久保山残丘上に前方後円墳とされる前山1号墳、中期前半には方墳とされる前山2号墳(松本・町田2002)、中期後半には低地内の微高地上に大形円墳の公卿塚古墳(増田・坂本他1986)などの首長墓級の古墳が築造され、後期には多数の小形円墳を主体とする東富田古墳群、大久保山古墳群、西五十子古墳群などの群集墳が形成される。当地方では、7世紀後半の白鳳時代になると、流域の低地全域に見られる条里形地割りの施工と呼応してか、低地内の集落は周辺部に移動する傾向が見られる。しかしながら下流域では、本遺跡をはじめ、古墳時代後期からそのまま継続的に立地する集落が多く、平安時代中期まで集落の立地傾向に大きな変化は見られないようである。

中世の遺跡は、本遺跡周辺の下流域では多く確認されている。児玉地方は、平安時代末期から鎌倉時代初期に活躍した武蔵七党の児玉党の本貫地であり、当地域は地名から児玉党久下塚氏との関係が深い地域と考えられる。中世後期の15世紀後半には、関東内乱の象徴でもある古河公方と敵対した関東管領上杉氏側の一大防衛陣地の五十子陣が近くに築かれており、それに関連する遺跡も当地域には多く存在するものと思われる。



第3図 発掘調査地点位置図

第Ⅲ章 久下前遺跡D1地点の調査

第1節 D1地点の概要

久下前遺跡のD地点は、北堀字久下塚の飯玉神社の東側に位置し、北側には道路を挟んで久下東遺跡のB地点(松本・大熊他2009)が、南東側には久下前遺跡のA地点(恋河内・的野2010)とE地点(本報告)が隣接している。調査区域は、複数の宅地があった場所で、それ以前は主に畑として利用されていたが、調査区中央部のちょうど第27号溝跡によって四角に圍繞された中世の区画地が所在する部分は、宅地造成以前のは場整備事業による面工事によって、すでにローム層下の淡白褐色粘土層まで削平され、他の場所とは違って以前より水田として利用されていたようである。なお、この調査区中央部には、昭和58年2月～3月にかけて発掘調査した「第1地点」(増田1985)が含まれており、その調査で検出された溝跡の時期や性格も今回の調査で明らかになった(注)。

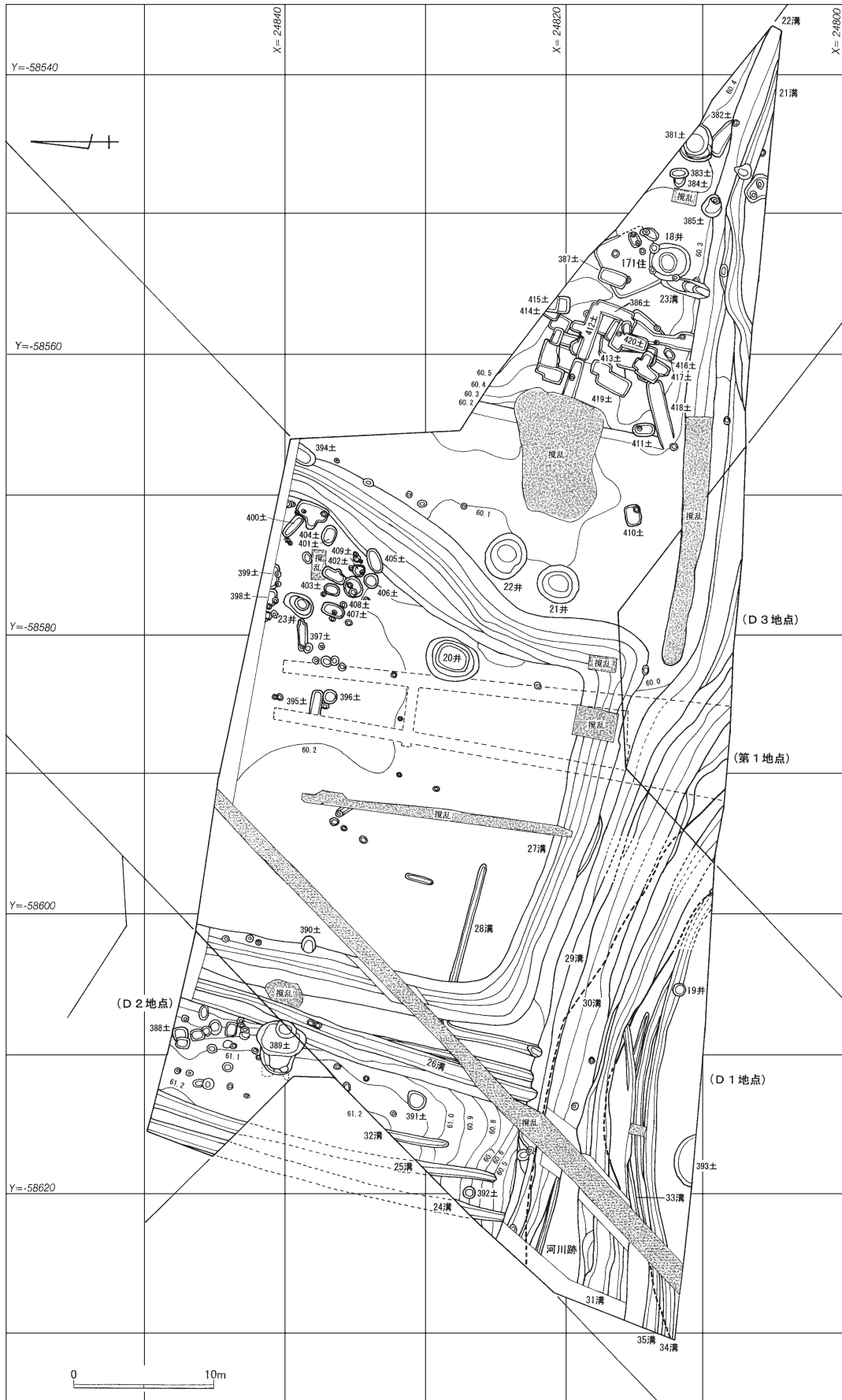
調査地点は、都市計画道路の南北に走る中央通り線とそれから東に分岐する中通り線の建設予定地部分がD1地点、西側の市道取り付け部分がD2地点、南側のその他の部分がD3地点の3ヵ所に分かれる。今回報告するのは、そのうちの都市再生機構(UR)負担分として調査したD1地点で、市負担分として調査したD2地点とD3地点については、後日別途報告の予定である。

D1地点から検出された遺構は、竪穴式住居跡1軒、井戸跡6基、土坑38基、溝跡15条、河川跡1条で、時期は古代～中世後期を主体としている。

古代の遺構は、調査区南側で古墳時代前期～中期の河川跡1条、調査区東側で後期の住居跡1軒(第171号住居跡)と土坑1基(第381号土坑)、調査区南側の河川埋没後に白鳳時代～奈良時代前半の溝跡4条(第31・33・34・35号溝跡)、井戸跡1基(第19号井戸跡)、土坑1基(第393号土坑)が見られる。

中世の遺構は、いずれも後期の15世紀後半から16世紀前半頃のもので、井戸跡5基、土坑4基、溝跡3条が検出されている。この中で、調査区内の中央部で四角に巡る第27号溝跡は、道路を挟んで北側に隣接する久下東遺跡B地点の第1号溝跡(松本・大熊他2009)と同一の溝で、比較的規模の大きな薬研堀に類似した形態を呈し、平面形が長方形ぎみに圍繞することから、屋敷地の中で特別の区画を構成する区画溝と考えられるものである。この区画地の性格については明確ではないが、第27号溝跡や区画内の第20号井戸跡から五輪塔や板碑の破片が多く出土していることから、寺院や堂あるいは墓地との関係が深い区画の可能性もあろう。

(注) 本遺跡の「第1地点」は、発掘調査当時は「両遺跡は一連の遺構が連続するものと考えられることから久下東遺跡と命名した」と、学術的見地から久下東遺跡の「第1次調査地点」として報告されている(増田1985)。しかしながら、現在では北側の久下東遺跡(No53-064)とは文化財保護行政上の周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲が異なっていることから、久下前遺跡(No53-065)の「第1地点」として、行政的に区別して扱っている。なお、報告書では第1地点の北西側に住居跡1軒の存在が示唆されているが確認できなかった。



第4図 久下前遺跡D1地点全体図

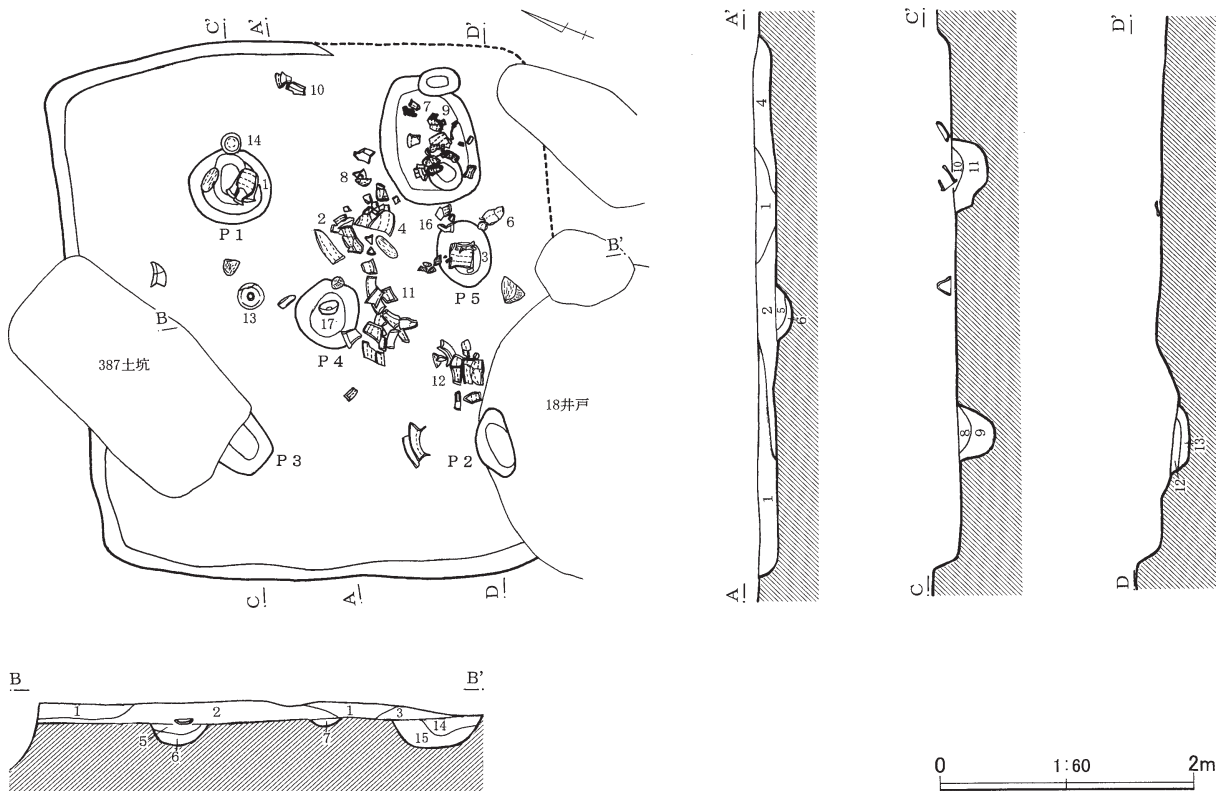
第2節 検出された遺構と遺物

1. 竪穴式住居跡

第171号住居跡（第5図、図版3）

調査区の東側に位置する。遺構の遺存状態はあまり良好ではなく、住居跡の東側はほ場整備時の整地作業によって削平され、住居跡の北側と南側の一部を重複する第387号土坑と第18号井戸跡によって切られている。

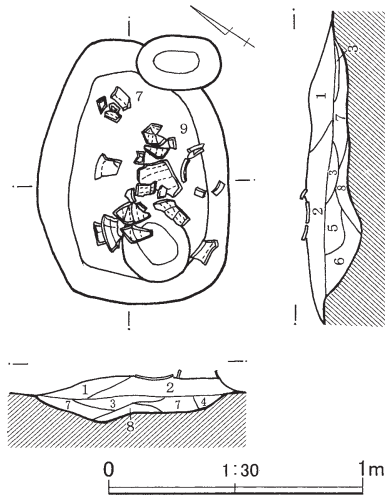
平面形は、コーナー部がやや丸みをもつ方形ぎみの形態を呈すると思われる。規模は、東



第5図 第171号住居跡

第171号住居跡土層説明

- 第1層：黒褐色土層（径0.3～0.5cmのローム粒、径0.5～1cmの炭化物粒を少量含む。粘性あり、しまりなし。）
- 第2層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロックを多量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第3層：暗褐色土層（第1層に似るが、径0.5cmの炭化物粒を含み、径0.5cmの焼土粒を含む。粘性あり、しまりなし。）
- 第4層：暗褐色土層（径1～2cmのロームブロックを多量含む、径0.5cmの炭化物粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第5層：暗褐色土層（径0.5cmのローム粒、径0.5cmの焼土粒を少量含む。やや砂質である。粘性、しまり共にあり。）
- 第6層：暗褐色土層（径0.5～1.5cmのロームブロックを含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第7層：暗褐色土層（径0.5～1cmのローム粒、径0.1cmの炭化物粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第8層：暗褐色土層（径0.5cmのローム粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第9層：暗褐色土層（径0.5～1.5cmのロームブロックを含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第10層：暗褐色土層（径20cmの石が含まれ、混入物はなし。粘性、しまり共にあり。）
- 第11層：暗褐色土層（径0.3cmのローム粒を多量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第12層：暗褐色土層（混入物はなし。粘性、しまり共にあり。）
- 第13層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロックを多量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第14層：暗褐色土層（径1～2.5cmのロームブロックを多量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第15層：暗褐色土層（径1～2.5cmのロームブロックを多量に、焼土粒を斑状に含む。粘性、しまり共にあり。）



第6図 第171号住居跡カマド

第171号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径1～3cmの焼土ブロックを含み、径0.1～0.3cmの焼土粒を多量に、径0.3cmのローム粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第2層：暗褐色土層（径0.5～1.5cmのローム粒を含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第3層：暗褐色土層（径1～2cmの焼土ブロックを含み、径0.5～1cmの焼土粒を多量に、径0.5～1cmのローム粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第4層：暗褐色土層（径1.5cmのロームブロックを少量含み、径0.5cmの焼土粒を含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第5層：暗褐色土層（径0.3cmのローム粒、径0.3cmの焼土粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第6層：暗褐色土層（径1～3cmのロームブロックを多量に含み、径1～2cmの黒色土ブロックを含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第7層：暗褐色土層（径0.5cmの焼土粒、径0.3～0.5cmの炭化物粒を少量含み、径0.5～2cmのロームブロックを含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第8層：黒褐色土層（径0.5cmの焼土粒を少量含み、径0.5～1cmのローム粒を含む。粘性、しまり共にあり。）

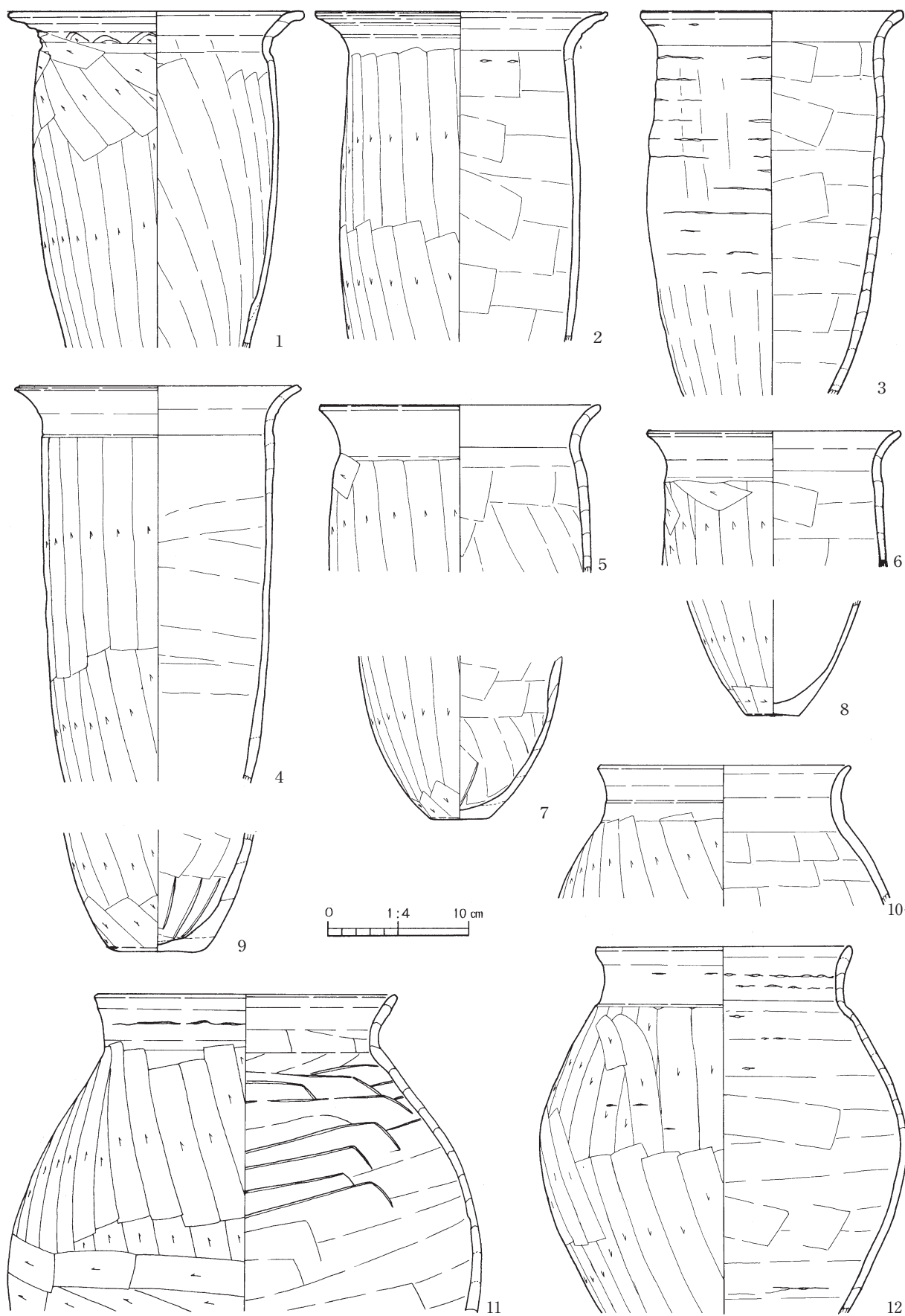
西方向が4.30m、南北方向は3.95mまで測れる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは西壁で最高22cmある。壁溝は、検出されていない。床面は、ロームブロックを多量に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。

ピットは、P1～P5の5箇所が検出されている。P1～P3は、住居の対角線上に位置する様相が窺えることから、4本主柱穴を構成する可能性も考えられる。P1が直径65cmの円形、P2とP3が長さ45cm～55cmの楕円形ぎみの形態を呈し、床面からの深さはいずれも30cm前後で浅い。P4は、住居のほぼ中心にあり、直径50cmの円形ぎみの形態を呈している。床面からの深さは13cmと浅く、断面は皿状である。P5は、住居の南側に位置し、50cm×40cmの楕円形ぎみの形態を呈している。床面からの深さは10cm程度で、断面は皿状である。P5の上面からは、No3の土師器甕の破片が出土している。

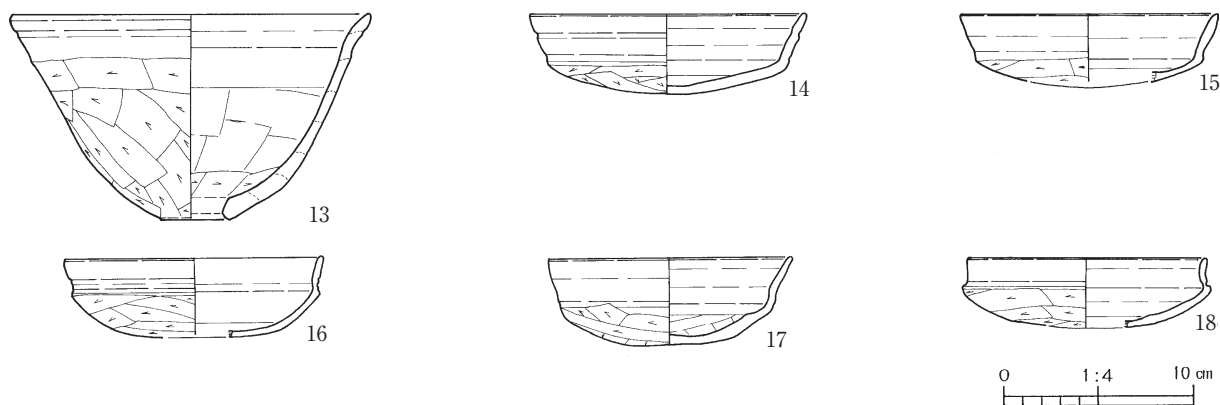
カマドは、住居東側壁の中央より南東側コーナー部寄りに位置する。カマド本体は、すでに崩壊してその形状を留めていないが、掘り方と考えられる隅丸長方形ぎみの掘り込みが、壁際から検出されている。規模は、東西方向102cm、南北方向77cmを測る。燃烧面(火床)は、焼土ブロックや焼土粒子を多量に含む第3層あたりではないかと思われ、住居の床面とほぼ同じ高さであったことが窺える。上面からは、カマドの補強かあるいはカマドに掛けられていたと思われる土師器甕の破片が、散乱したような状態で多く出土している。

出土遺物は、住居中央部からカマド周辺の床面付近から、多くの土器が破片になって出土している(第7・8図)。これらの出土土器の多くは、その出土状態から見て、住居の廃絶に伴って一括廃棄されたものと推測されるが、完形品は少ない。土器以外では、P1内から長さ25cmのやや大形の角閃石安山岩と長さ10cm程度の棒状の礫が出土し、住居の床面付近から17cm×10cmの安山岩系の扁平な河原石や角閃石安山岩の破片などが出土しただけである。

本住居跡の時期は、住居の形態や出土土器の様相から、6世紀後半の古墳時代後期と考えられる。



第7图 第171号住居跡出土遺物(1)



第8図 第171号住居跡出土遺物(2)

第171号住居跡出土遺物観察表

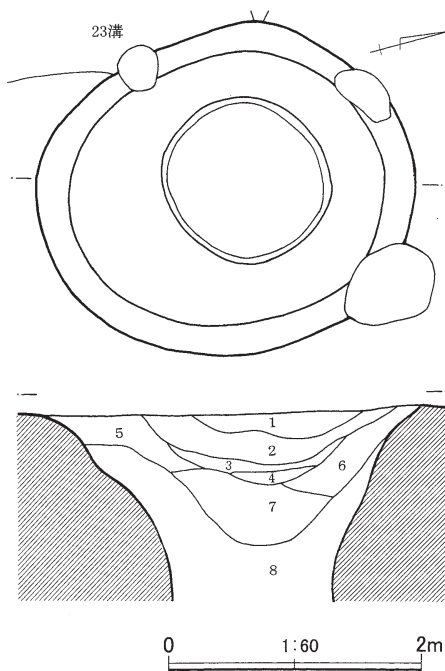
1	甕	A.口縁部径 21.0、残存高 24.0。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窺ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.外-暗褐色、内-暗橙褐色。F.上半 3/4。G.口縁部内外面は二次焼成を受けて赤色化している。H.P 1 上面。
2	甕	A.口縁部径 21.8、残存高 23.6。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窺ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外-茶褐色。F.上半 1/2。H.床面上。
3	甕	A.口縁部径 18.6、残存高 27.4。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面窺ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.外-淡茶褐色、内-明茶褐色。F.底部欠失。G.外面は二次焼成を受けて赤色化している。H.P 5 上面。
4	甕	A.口縁部径 20.2、残存高 28.3。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外-淡茶褐色。F.上半 3/4。H.床面上。
5	甕	A.口縁部径 (20.0)、残存高 12.0。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窺ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外-淡橙褐色。F.口縁部 1/3 破片。H.覆土中。
6	甕	A.口縁部径 (18.0)、残存高 9.6。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窺ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外-明茶褐色。F.口縁部 1/3 破片。H.カマド内。
7	甕	A.残存高 11.6、底部径 4.2。B.粘土紐積み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面窺ナデ。底部外面ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.外-暗茶褐色、内-淡茶褐色。F.下半 1/3。H.カマド内。
8	甕	A.残存高 8.2、底部径 3.8。B.粘土紐積み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面丁寧なナデ。底部外面木葉痕を残す。D.片岩粒、白色粒。E.外-淡茶褐色、内-淡褐色。F.下半 3/4。H.床面上。
9	甕	A.残存高 8.5、底部径 7.0。B.粘土紐積み上げ。C.胴部外面ケズリ、内面窺ナデ。底部外面木葉痕を残す。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外-淡茶褐色。F.底部のみ。H.カマド内。
10	甕	A.口縁部径 18.0、残存高 10.0。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窺ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.外-淡褐色、内-淡橙褐色。F.上半 1/2。H.床面上。
11	甕	A.口縁部径 21.4、残存高 22.5。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面窺ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外-明茶褐色。F.上半のみ。H.床面上。
12	甕	A.口縁部径 18.2、残存高 26.2。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窺ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.外-淡褐色、内-黒褐色。F.上半 1/2。G.外面に黒斑あり。H.床面上。
13	小形甔	A.口縁部径 19.0、器高 10.9、底部径 3.5。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窺ナデの後下半ケズリ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外-明茶褐色。F.完形。G.外面に黒斑あり。H.床面上。
14	坏	A.口縁部径 14.6、器高 4.3。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-淡茶褐色。F.完形。G.外面に黒斑あり。内外面ともやや荒れている。H.床面上。
15	坏	A.口縁部径 (13.6)、残存高 3.6。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-明橙褐色。F.1/4。H.覆土中。
16	坏	A.口縁部径 13.6、器高 4.2。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.外-淡茶褐色、内-暗茶褐色。F.1/2。G.内面はやや荒れている。H.覆土中。
17	坏	A.口縁部径 13.0、器高 4.7。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-淡橙褐色。F.完形。H.床面上。
18	坏	A.口縁部径 (12.6)、器高 3.7。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外-暗茶褐色。F.1/4。H.覆土中。

2. 井戸跡

第18号井戸跡（第9図、図版3）

調査区の東側に位置し、重複する第171号住居跡を切っている。井戸掘り方の平面形は、南北方向に長い楕円形ぎみの形態で、規模は南北方向が3.00m、東西方向が2.55mを測る。壁は、上半分が緩やかに傾斜し、下半分は直径1.30m前後の円形の筒状になって垂直ぎみに落ち込んでいる。湧水が激しく、井戸底面まで調査できなかったが、確認面からの深さは、2m以上あるものと思われる。覆土の土層観察では、覆土の堆積は自然堆積を示している。覆土上層には5cm～10cm程度の礫が多く見られたが、井戸掘り方内には石組や木枠等の井筒構造物の痕跡は見られなかった。

出土遺物は、瀬戸窯系の四(三)耳壺の破片(第10図No5)、在地産の内耳鍋(No1・2)・播鉢(No3)・片口鉢(No4)・かわらけ(No6)などの破片と、粉挽き白の上白(No7)と下白(No8)の破片が、覆土中から出土している。この他では、古墳時代後期～平安時代の土師器や須恵器の破片も、覆土中に混入して少量ながら出土しており、この中の須恵器の破片には、窯体が付着しているものも見られる。本井戸跡の時期は、出土遺物の様相から見て、15世紀末頃～16世紀初頭頃の中世後期と考えられる。



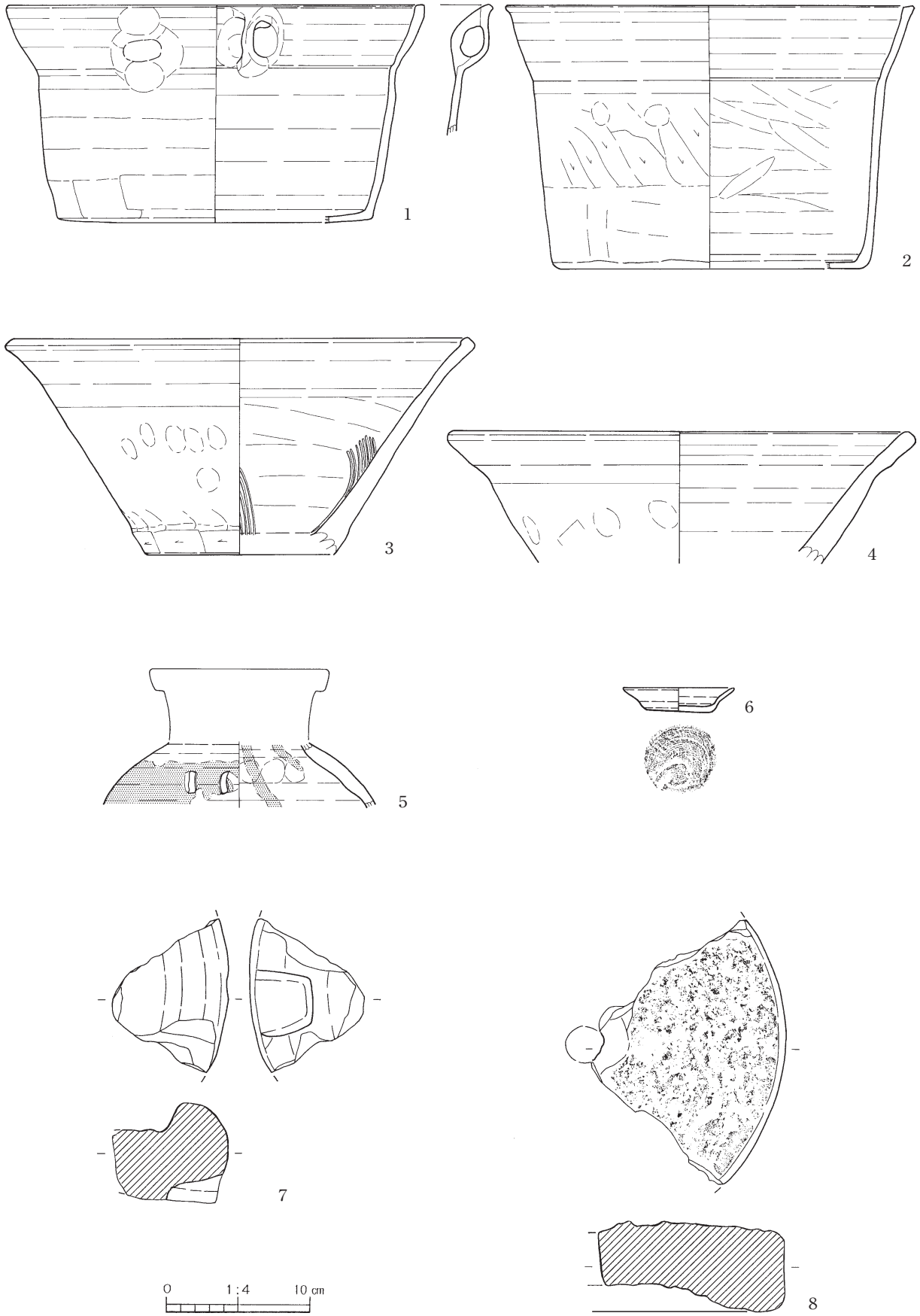
第9図 第18号井戸跡

第18号井戸跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～1cmのローム粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第2層：暗褐色土層（径7～13cmの礫を多量に含み、径0.5cm～1cmのローム粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第3層：暗褐色土層（径0.5～1cmの礫を含み、粉状の土器片を含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第4層：黒褐色土層（径1cmのローム粒、径0.5～1cmの礫を少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第5層：暗褐色土層（径0.5～1cmの礫を含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第6層：暗褐色土層（径0.5～1cmの礫を少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第7層：暗褐色土層（径5～10cm、径1～2cmの礫を多量に含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第8層：暗褐色土層（径1～2cmの礫を含み、径1～2cmのローム粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）

第18号井戸跡出土遺物観察表

1	内耳鍋	A. 口縁部径29.4、器高15.3、底部径(22.2)。B. 粘土紐積み上げ。内耳貼り付け。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。底部外面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗灰色。F. 2/3。G. 外面煤付着顕著。H. 覆土中。
2	内耳鍋	A. 口縁部径(29.0)、器高18.5、底部径(22.2)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後雑なケズリ、内面ナデ。底部外面ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外-暗灰色。F. 1/6。G. 外面下半煤付着。胴部外面下半は荒れて、底部外縁は磨滅して丸みを帯びる。H. 覆土中。



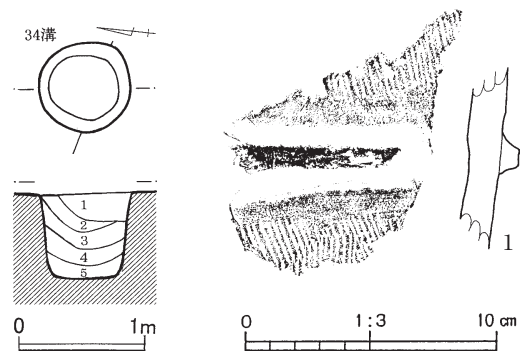
第10図 第18号井戸跡出土遺物

3	播 鉢	A. 口縁部径(33.0)、器高15.2、底部径(13.6)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下端ケズリ、内面窺ナデの後8本歯の播目。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-黒褐色、内-暗灰色、肉-淡茶褐色。F. 1/6。G. 内面は良く擦れて磨滅している。H. 覆土中。
4	片 口 鉢	A. 口縁部径(33.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面雑なナデ、内面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡灰色、肉-淡茶褐色。F. 体部1/6破片。G. 内面は良く擦れている。H. 覆土中。
5	瀬戸窯系 四(三)耳壺	B. 粘土紐積み上げ後ロクロ成形。耳貼り付け。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-淡灰色。F. 肩部破片。G. 外面に自然釉。耳部剥離。H. 覆土中。
6	かわらけ (灯明皿)	A. 口縁部径7.8、器高1.7、底部径5.1。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-淡褐色、内-黒褐色。F. ほぼ完形。G. 口縁部の一部に油焰附着。H. 覆土中。
7	粉挽き臼 (上 白)	A. 残存高7.0、残存長8.1。B. 削り出し。C. 上・下・側面とも研磨。D. 砂岩。F. 破片。G. 下面は良く擦れて播目は磨滅している。下面の台形の窪みに煤附着。H. 覆土中。
8	粉挽き臼 (下 白)	A. 直径(28.6)、高さ6.3。B. 削り出し。C. 上・側面は研磨。下面は雑な打ち欠き。D. 安山岩。F. 1/4。G. 上面は良く擦れて播目は不明瞭。芯棒穴は貫通している。H. 覆土中。

第19号井戸跡 (第11図、図版3)

調査区南側の低地部に接する黒色土部分に位置し、重複する第34号溝跡を切っている。井戸掘り方の平面形は、長径75cm×70cmの円形ぎみの形態を呈している。壁は、垂直ぎみに深くなり、底面は平坦である。確認面からの深さは67cmであるが、調査区南側の黒色土部分は上面が近年のほ場整備や水田開発によって1m以上削平されており、本来の深さは2m近くあったものと思われる。覆土の土層観察では、覆土の堆積は自然堆積を示している。掘り方内には、石組や木杵等の痕跡は認められなかった。

出土遺物は、覆土中から古墳時代後期の円筒埴輪の破片(第11図No1)のほか、古墳時代中期～白鳳時代の土師器や須恵器の破片が数片出土しただけである。本井戸跡の時期は、覆土の状態や出土遺物から、古代の所産と考えられる。



第11図 第19号井戸跡及び出土遺物

第19号井戸跡土層説明

- 第1層：暗灰色土層（鉄斑を均一に、ローム粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第2層：黒灰色土層（鉄斑、ローム粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第3層：暗灰褐色土層（ロームブロックを多量に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第4層：黒灰色土層（ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第5層：暗灰色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第19号井戸跡出土遺物観察表

1	円筒埴輪	B. 粘土紐積み上げ。凸帯貼り付け。C. 外面ハケ、内面指ナデ。凸帯部ヨコナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外-橙褐色、内-暗橙褐色。F. 破片。H. 覆土中。
---	------	--

第20号井戸跡 (第12図、図版3)

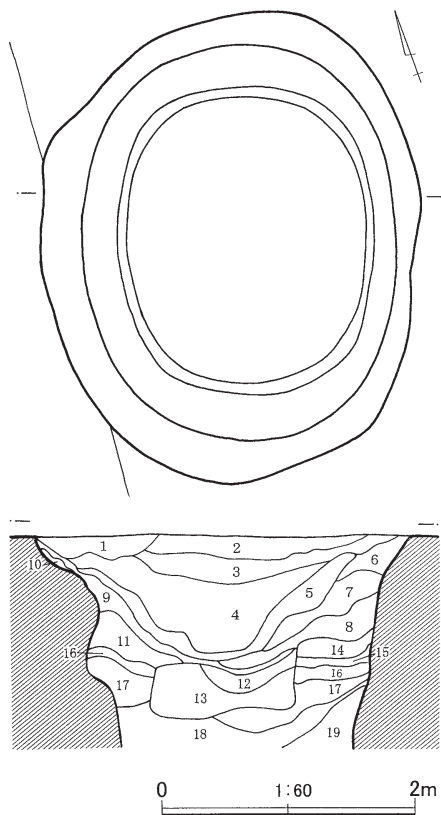
調査区中央部の第27号溝跡によって長方形に囲繞された中世の屋敷跡内の東端に位置する。この本井戸跡が位置する調査区中央部は、近年のほ場整備事業に伴う面工事によって削平されており、確認面はハードローム層下の淡白褐色粘土層である。

井戸掘り方の平面形は、南北方向に長い楕円形ぎみの形態を呈している。規模は、南北方

向が3.74m、東西方向が3.00mを測る。壁は、上部が緩やかに傾斜しているが、途中から2.45 m×2 m程度の楕円形を呈する筒状になって垂直ぎみに落ち込んでいる。湧水が激しく、井戸底面まで調査できなかったが、確認面からの深さは、2 m以上はあるものと思われる。

井戸掘り方内には、石組や木枠等の井筒構造物は見られなかったが、覆土の土層観察では、中位に幅1.15mの箱堀状を呈する不自然な落ち込み(第12・13層)が見られる。これは、その外側の第14層～第17層が比較的薄い水平堆積で、裏込めの版築などの充填土の様相に似ていることから、木枠などの井筒構造物を抜き取った痕ではないかと思われる。

出土遺物は、龍泉窯系の鎬連弁文青磁碗、常滑窯系の甕、瀬戸窯系の天目茶碗の小破片や、在地産の内耳鍋、搦鉢、片口鉢、かわらけなどの破片と、五輪塔の火輪と水輪、板碑、粉挽



第12図 第20号井戸跡

第20号井戸跡土層説明

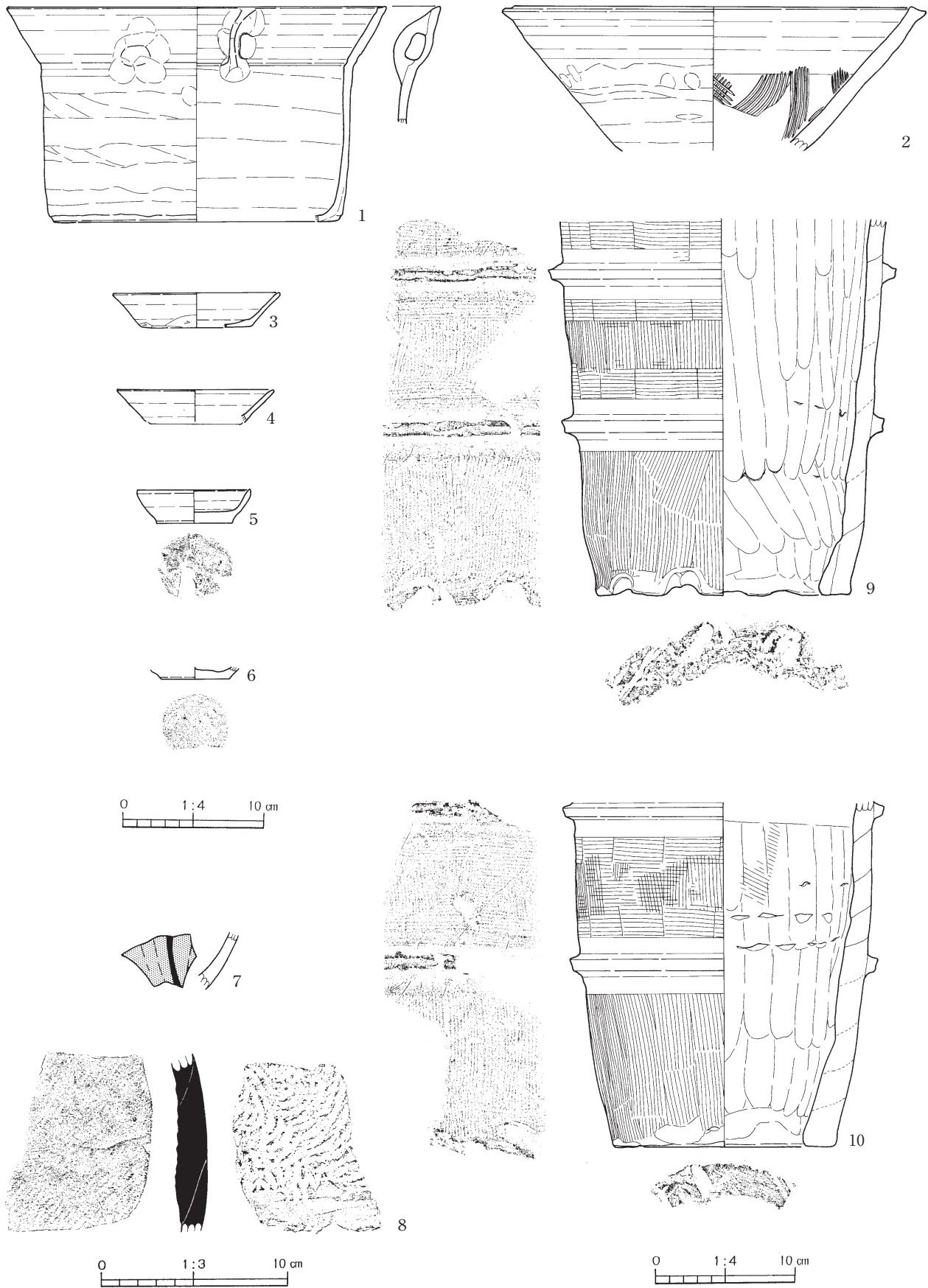
- 第1層：褐色土層（炭化物、焼土粒、白色粒、径3 cmの礫を微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒を微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第3層：暗褐色土層（径1 cmのローム塊、焼土粒、径5 cmの礫を微量含む、酸化鉄を斑状に微量含む。）
- 第4層：暗褐色粘質土層（径1 cmの礫を少量含む、炭化物、径1 cmの焼土塊、焼土粒を微量、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第5層：暗褐色粘質土層（炭化物、径3 cm、5 cmの礫を微量含む、酸化鉄を斑状に少量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第6層：黄褐色砂質シルト層（黄褐色粘質シルトを少量含む、ローム粒、焼土粒を微量、酸化鉄を斑状に多量に含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第7層：暗褐色粘質土層（黄褐色砂質シルトを多量に含む、径1 cmのローム塊、炭化物、焼土粒、径3 cmの礫を微量、酸化鉄を斑状に少量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第8層：黄褐色シルト質砂層（径1 cmのローム塊、炭化物、焼土粒、径5 cmの礫を微量含む、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性強く、しまりなし。）
- 第9層：暗褐色シルト質砂層（炭化物、焼土粒、径5 cmの礫、径3 cmの第5層塊を微量含む、酸化鉄を斑状に微量含む。下部に灰黄褐色粘土を带状に堆積する。粘性強く、しまりなし。）
- 第10層：黄褐色砂層（地山ブロック、酸化鉄を斑状に多量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第11層：黄褐色砂層（径1 cmの礫を少量含む、径3 cmの礫、径5 cmの黄褐色粘質土塊を微量含む。粘性、しまり共になし。）

- 第12層：黄褐色粘質土層（褐色砂を多量に含む、ローム粒子、炭化物、焼土粒子、径5 cmの礫を微量、酸化鉄を斑状に少量含む。粘性強く、しまりなし。）
- 第13層：暗褐色粘質土層（暗褐色砂を多量に含む、径3 cmのローム塊、ローム粒子、炭化物、焼土粒子を微量、酸化鉄を斑状に微量含む。人頭大の礫あり。粘性強く、しまりなし。）
- 第14層：暗褐色粘質土層（径1 cmのローム塊、焼土粒子、径1 cmの黄褐色砂質シルト塊を微量に含む、酸化鉄を斑状に極微量含む。粘性、しまり共に強い。）
- 第15層：黄褐色粘質土層（黄褐色砂質シルトを少量含む、ローム粒子、焼土粒子を微量、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性、しまり共になし。）
- 第16層：暗褐色粘質土層（ローム粒子を少量含む、炭化物を微量、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性強く、しまりなし。）
- 第17層：褐色粘質土層（ローム粒子を多量に含む、径3 cmのローム塊を少量、炭化物を微量、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性、しまり共に強い。）
- 第18層：灰黄褐色粘質土層（炭化物、径5 cmの粘質土塊を微量含む、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性強く、しまりなし。）
- 第19層：黄褐色砂層（径1 cmの礫を少量含む、径3 cmのローム塊を微量、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性、しまり共になし。）

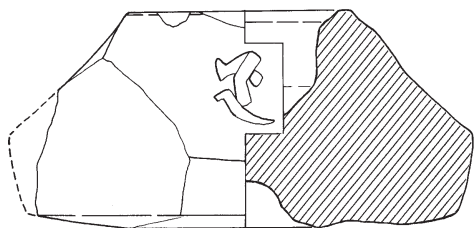
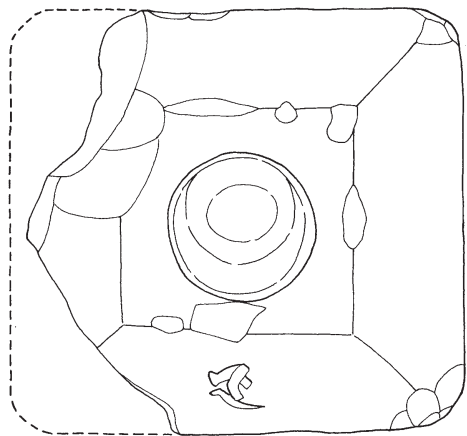
き臼の上臼と下臼などの破片が覆土中から出土している(第13~16図)。この他では、古墳時代中期の雑なB種ヨコハケを施した円筒埴輪の大形破片や、古墳時代後期~平安時代の土師器や須恵器の破片が、覆土中に混入して出土している。本井戸跡の時期は、覆土の状態や出土遺物から見て、15世紀末頃~16世紀初頭頃の中世後期と考えられる。

第20号井戸跡出土遺物観察表

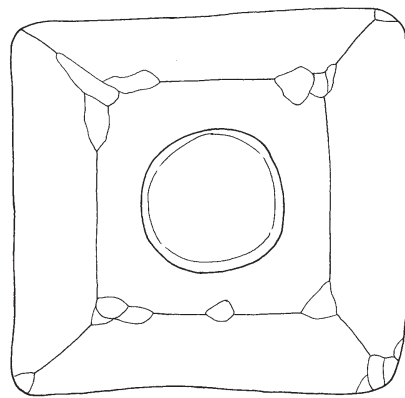
1	内 耳 鍋	A.口縁部径(27.2)、器高15.4、底部径(20.4)。B.粘土紐積み上げ。内耳貼り付け。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。底部内外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-黒灰色、底部外-明茶褐色。F.1/3。G.外面煤付着顕著。底部外面二次焼成により荒れている。H.覆土中。
2	播 鉢	A.口縁部径(30.4)、残存高10.4。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外-灰色。F.1/4破片。G.播目は8本歯。H.覆土中。
3	かわらけ	A.口縁部径(12.0)、器高2.5、底部径(7.8)。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り後ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-淡褐色。F.口縁部1/2。G.底部外面の4ヵ所を意図的にケズリ落としている。H.覆土中。
4	かわらけ	A.口縁部径(11.2)、残存高2.3。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-淡橙褐色。F.口縁部1/4破片。H.覆土中。
5	かわらけ	A.口縁部径(8.2)、器高2.4、底部径5.4。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り後ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-淡褐色。F.2/3。H.覆土中。
6	かわらけ	A.底部径4.8。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D.赤色粒、白色粒。E.内外-淡茶褐色。F.底部のみ。H.覆土中。
7	龍泉窯系 青磁碗	B.ロクロ成形。C.体部外面鑄蓮弁文。D.白色粒。E.内外-淡緑色、肉-淡灰白色。F.体部破片。G.内外とも施釉。H.覆土中。
8	須 恵 器 甕	B.粘土紐積み上げ後叩き。C.外面平行叩き目、内面当道具痕(青海波文)を残す。D.白色粒。E.内外-淡灰色。F.破片。H.覆土中。
9	円筒埴輪	A.残存高26.9、底部径(18.0)。B.粘土紐積み上げ。凸帯貼り付け。C.外面タテハケの後2段目と3段目にB種ヨコハケ。凸帯部ヨコナデ。内面指ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-明茶褐色。F.1/4。H.覆土中。
10	円筒埴輪	A.残存高24.7、底部径(15.8)。B.粘土紐積み上げ。凸帯貼り付け。C.外面タテハケの後2段目にB種ヨコハケ。凸帯部ヨコナデ。内面指ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外-明橙褐色、内-明茶褐色。F.1/4。H.覆土中。
11	五 輪 塔 (火 輪)	A.最大幅22.4、高さ11.5。B.削り出し。C.各面とも研磨。D.角閃石安山岩。F.3/4。G.梵字はやや簡略化して陰刻。上下両面とも窪み穴を持つ。H.覆土中。
12	五 輪 塔 (火 輪)	A.最大幅21.0、高さ12.6。B.削り出し。C.各面とも研磨。D.砂岩。F.完形。G.上面に窪み穴を持つ。一部被熱により赤色化。H.覆土中。
13	五 輪 塔 (水 輪?)	A.最大径24.8、高さ12.9。B.削り出し。C.研磨。D.角閃石安山岩。F.ほぼ完形。G.上面に窪み穴を持つ。一部被熱により赤色化。各面とも剥離顕著。H.覆土中。
14	五 輪 塔 (水 輪)	A.最大径24.0、高さ15.3。B.削り出し。C.各面とも研磨。D.角閃石安山岩。F.一部欠損。G.上下両面に窪み穴を持つ。梵字はかなり簡略化して陰刻。H.覆土中。
15	石 製 品	A.最大径13.7、高さ7.0。B.削り出し。C.各面とも雑な研磨。D.砂岩。F.1/2。G.中央に直径4cmの貫通孔を持つ。外面の一部に被熱痕あり。H.覆土中。
16	板 碑	A.残存長42.0、幅28.6、厚さ4.0。B.板状に剥離。C.表面研磨、裏面部分的に鑿ケズリ。D.緑泥片岩。F.1/3。G.表面に梵字(種子)を陰刻。H.覆土中。
17	粉 挽 き 臼 (下 臼)	A.残存長12.0、高さ12.5。B.削り出し。C.下・側面雑な研磨。D.花崗岩。F.1/12。G.上面は良く擦れて播目は磨滅している。H.覆土中。
18	粉 挽 き 臼 (下 臼)	A.残存長11.5、高さ7.8。B.削り出し。C.下・側面雑な研磨。D.花崗岩。F.1/6。G.上面は良く擦れて播目は磨滅している。H.覆土中。
19	粉 挽 き 臼 (上 臼)	A.残存長13.8、高さ10.5。B.削り出し。C.上・下・側面研磨。D.安山岩。F.1/6。G.下面は良く擦れて播目は磨滅している。側面に挽き木穴が一部見られる。H.覆土中。
20	粉 挽 き 臼 (上 臼)	A.残存長13.9、高さ8.9。B.削り出し。C.上・下・側面研磨。D.安山岩。F.1/6。G.下面は良く擦れて播目は磨滅している。H.覆土中。
21	粉 挽 き 臼 (上 臼)	A.推定径(29.0)、高さ13.5。B.削り出し。C.上・下・側面研磨。D.安山岩。F.1/4。G.下面は良く擦れて播目は磨滅している。供給口と挽き木穴は円形。一部被熱により赤色化。H.覆土中。
22	粉 挽 き 臼 (下 臼)	A.推定径(37.0)、高さ14.8。B.削り出し。C.上・下・側面研磨。D.安山岩。F.1/4。G.上面は良く擦れて播目は磨滅している。芯棒穴は貫通している。煤付着。H.覆土中。
23	粉 挽 き 臼 (上 臼)	A.推定径(30.0)、高さ10.8。B.削り出し。C.上・下・側面研磨。D.安山岩。F.1/4。G.芯棒受穴は貫通していない。下面は良く擦れて播目は磨滅している。供給口と挽き木穴は四角形。H.覆土中。
24	粉 挽 き 臼 (下 臼)	A.推定径(28.0)、高さ9.4。B.削り出し。C.上・下・側面研磨。D.安山岩。F.1/4。G.上面は良く擦れて播目は磨滅している。芯棒穴は貫通している。一部被熱により赤色化。H.覆土中。



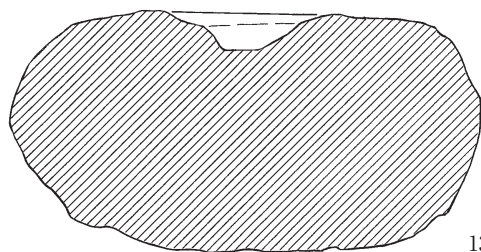
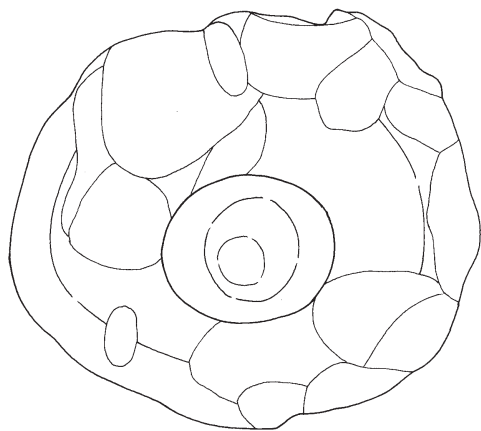
第13图 第20号井戸跡出土遺物（1）



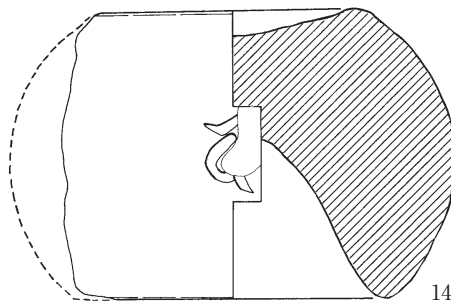
11



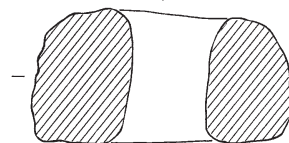
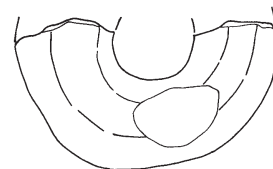
12



13



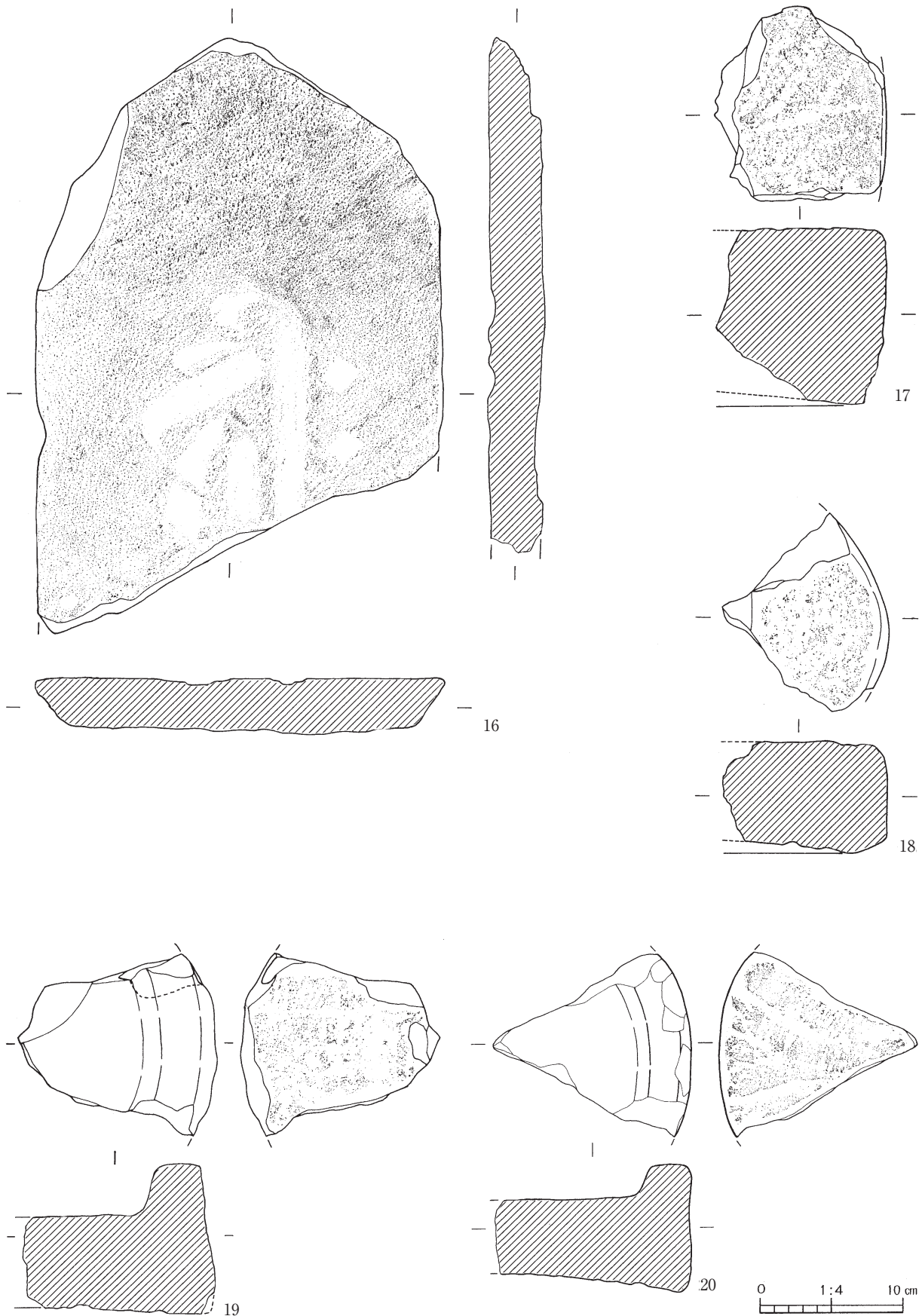
14



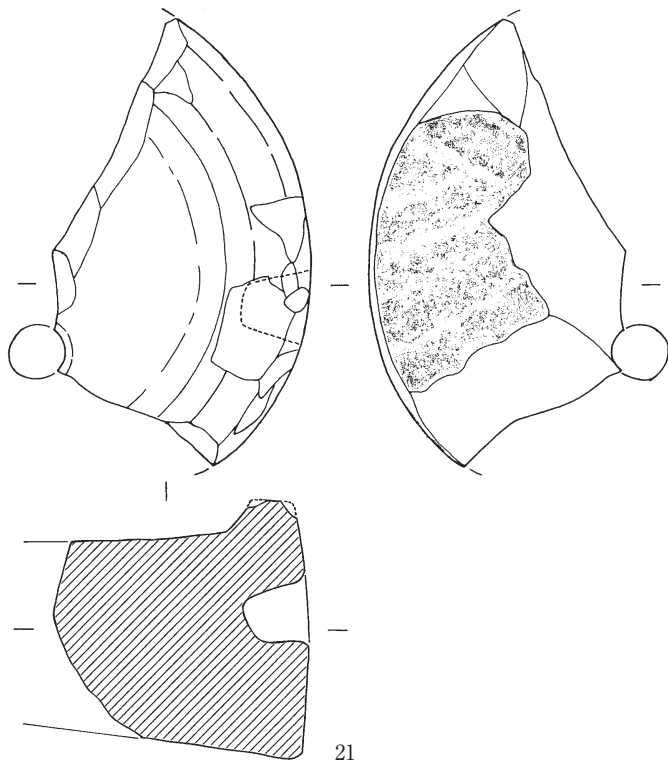
15

0 1:4 10 cm

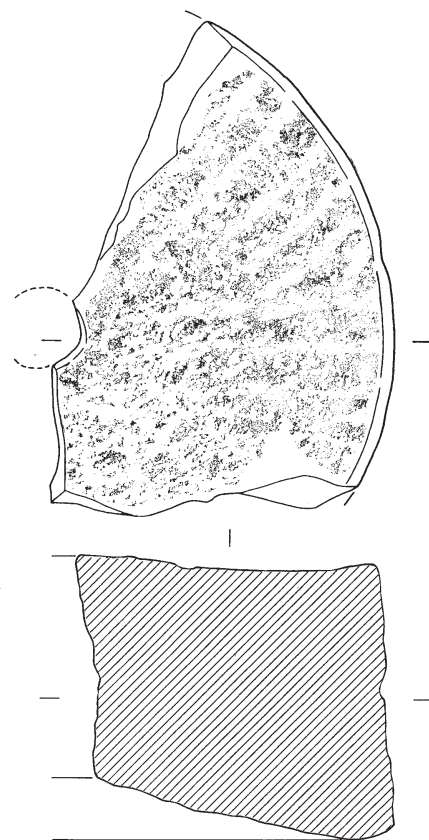
第14图 第20号井戸跡出土遺物（2）



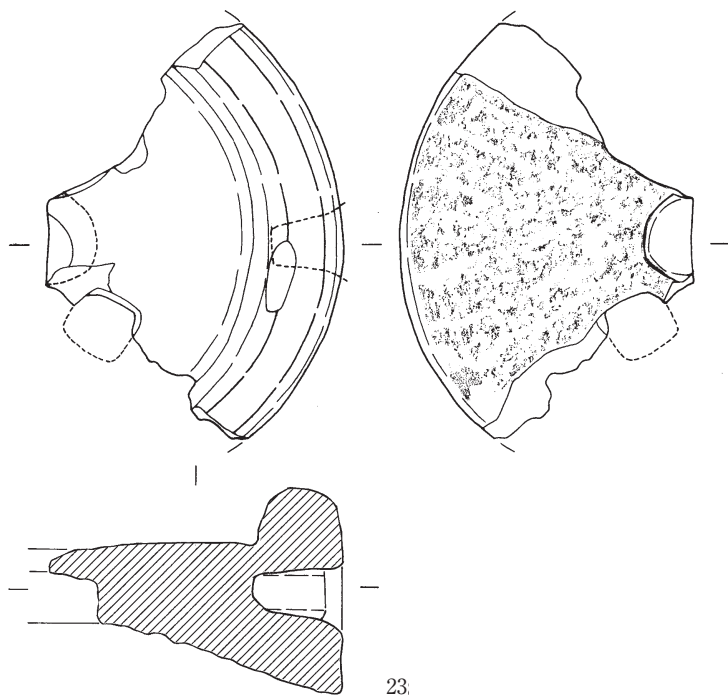
第15図 第20号井戸跡出土遺物（3）



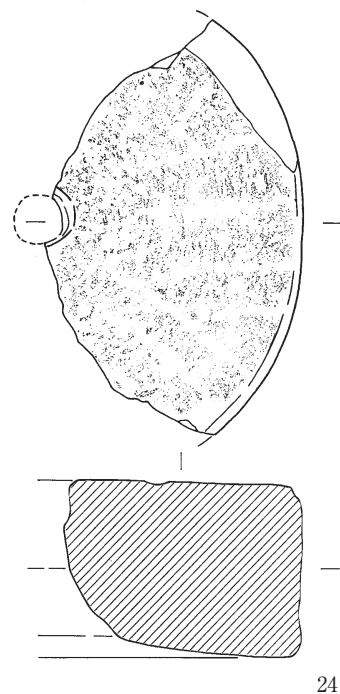
21



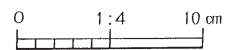
22



23



24

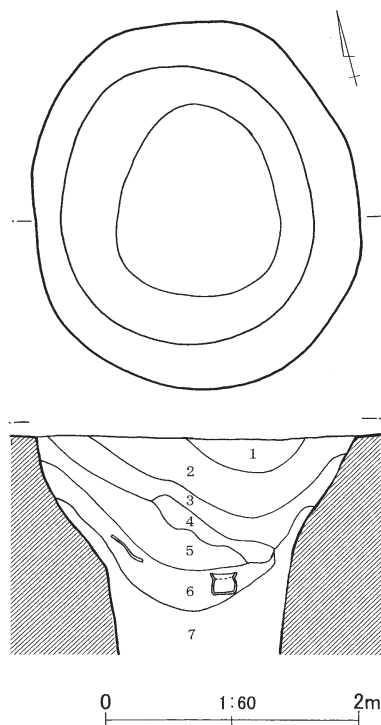


第16図 第20号井戸跡出土遺物（4）

第21号井戸跡（第17図、図版3）

調査区中央部の東側寄りに位置し、北側には第22号井戸跡、西側には第27号溝跡が近接している。井戸掘り方の平面形は、南北方向に若干長い楕円形ぎみの形態を呈している。規模は、南北方向が2.96m、東西方向が2.58mを測る。壁は、上半部が内湾ぎみに緩やかに傾斜して落ち込み、中位から1.50m×1.30mの楕円形を呈する筒状になって垂直ぎみに深くなっている。湧水が激しく、井戸底面まで調査できなかったが、確認面からの深さは2m以上あるものと思われる。覆土の土層観察では、覆土の堆積は自然堆積を示しているが、西側からの土砂の流入が顕著である。井戸掘り方内には、石組や木枠等の井筒構造物の痕跡は見られなかった。

出土遺物は、瀬戸窯の花瓶(No4)や瓶子(No5)の破片や、在地産の内耳鍋(No1～3)、片口鉢(No8・9)、かわらけ(No6・7)などの破片が覆土中から出土している(第18図)。この他には、古墳時代中期～平安時代の土師器や須恵器の破片(No10・11)も覆土中から少量出土している。本井戸跡の時期は、覆土の状態や出土遺物の様相から、15世紀末頃～16世紀初頭頃の中世後期と考えられる。



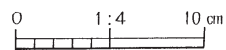
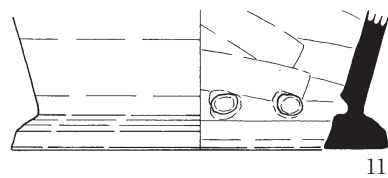
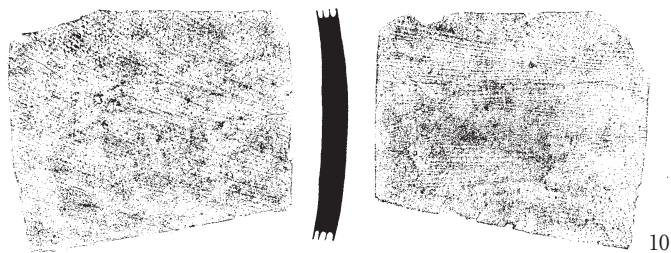
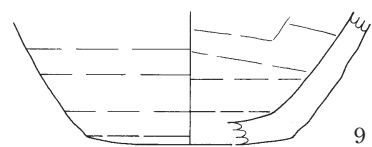
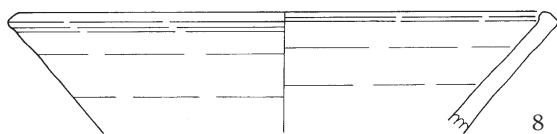
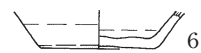
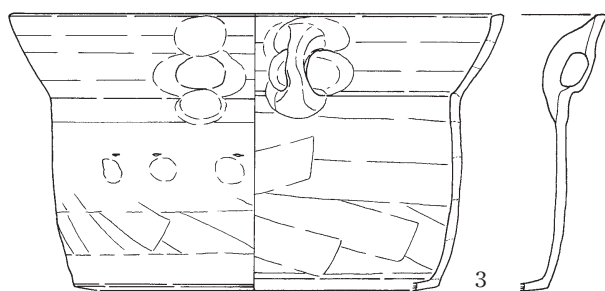
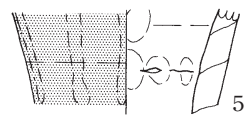
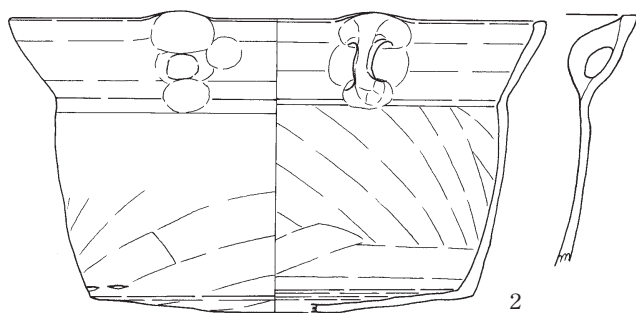
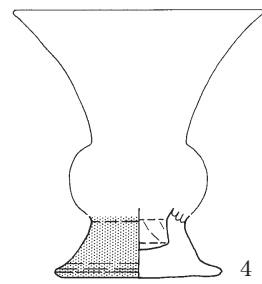
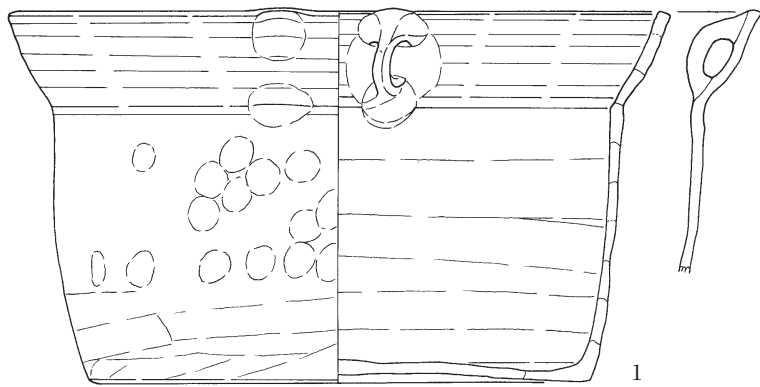
第17図 第21号井戸跡

第21号井戸跡土層説明

- 第1層：黄褐色砂質土層（径1cmの礫、径3cmの第2層塊、酸化鉄を底に帯状に少量、ローム粒、焼土粒、径3cmの礫、白色粒を微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第2層：暗褐色土層（粘土を帯状に多量、径5cmのローム塊、ローム粒、炭化物、焼土粒、径3cmの礫、径3cmの砂塊を微量、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第3層：暗褐色土層（径1cmのローム塊、ローム粒を少量、炭化物、焼土粒を微量、酸化鉄を斑状に少量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第4層：暗褐色土層（径3cmのローム塊、ローム粒、ロームを多量、径5mmの炭化物、焼土粒を微量、酸化鉄を斑状に少量含む。粘性強く、しまりなし。）
- 第5層：黒褐色土層（径1cmのローム塊を少量、径3cmのローム塊、ローム粒、炭化物、焼土粒を微量、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性、しまり共に強い。）
- 第6層：暗褐色粘質土層（径1cm、径3cmのローム塊、ローム粒、炭化物、焼土粒、径3cmの礫、径1cmの粘質土塊、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性強く、しまりなし。）
- 第7層：黄褐色粘質土層（ローム粒を多量に含み、径3cmのローム塊、径1cmの礫を少量、炭化物、焼土粒、径5cmの礫を微量、酸化鉄を斑状に微量含む。暗褐色粘質土と交互に堆積している。粘性、しまり共に強い。）

第21号井戸跡出土遺物観察表

1	内耳鍋	A. 口縁部径35.0、器高19.6、底部径26.6。B. 粘土紐積み上げ。内耳貼り付け。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半ナデ、下半匏ナデ。胴部内面匏ナデ。底部内面回転ナデ。底部外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 体部内外-灰色、底部外-淡橙褐色。F. 3/4破片。G. 外面煤付着顕著。底部外面に板状の圧痕あり。H. 覆土中。
---	-----	---

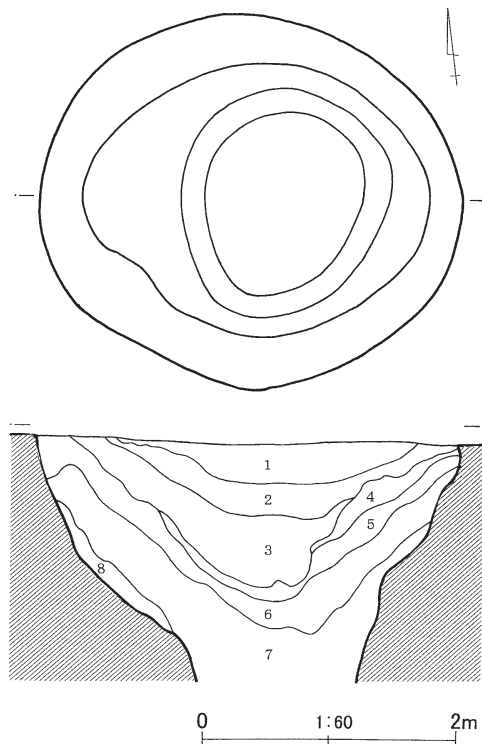


第18图 第21号井戸跡出土遺物

2	内 耳 鍋	A. 口縁部径 28.4、器高 15.9、底部径 20.2。B. 粘土紐積み上げ。内耳貼り付け。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。底部外面ナデ、内面回転ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 体部内外-暗灰褐色、底部外面-淡橙褐色。F. 4/5。G. 外面煤付着顕著。底部外面に板状の圧痕あり。H. 覆土中。
3	内 耳 鍋	A. 口縁部径 26.0、器高 14.6、底部径 (19.2)。B. 粘土紐積み上げ。内耳貼り付け。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。底部外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-黒褐色、内-暗茶褐色。F. 3/4。G. 外面煤付着顕著。H. 覆土中。
4	瀬戸窯系 花 瓶	A. 底部径 8.8。B. 粘土紐積み上げ後ロクロ整形。C. 内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 白色粒。E. 外-淡緑色、内-淡灰白色。F. 底部のみ。G. 外面に淡緑色釉を施す。H. 覆土中。
5	瀬戸窯系 瓶 子	B. 粘土紐積み上げ後ロクロ整形。C. 胴部内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 外-淡緑灰色、内-淡灰色。F. 胴下半部 1/4。G. 外面に淡緑色釉を施す。H. 覆土中。
6	かわらけ	A. 底部径 6.0。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 底部のみ。H. 覆土中。
7	かわらけ	A. 底部径 5.8。B. ロクロ成形。C. 底部外面回転糸切り、内面回転ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 底部のみ。H. 覆土中。
8	片 口 鉢	A. 口縁部径 (29.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡灰色、肉-淡褐色。F. 口縁部 1/8 破片。G. 在地産。内外面とも斑点状剥落顕著。H. 覆土中。
9	片 口 鉢	A. 底部径 (11.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 体部外面ナデ、内面笠ナデ。底部外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. 底部 1/4 破片。G. 在地産。H. 覆土中。
10	須 恵 器 甕	B. 粘土紐積み上げ後叩き。C. 胴部外面平行叩き目の後ハケ、内面ハケ。D. 白色粒。E. 外-黒灰色、内-暗灰色、肉-暗茶褐色。F. 胴部破片。H. 覆土中。
11	須 恵 器 大 形 甕	A. 底部径 (20.0)。B. 粘土紐積み上げ後ロクロ成形。C. 外面回転ナデ、内面笠ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外-灰色。F. 底部 1/6 破片。G. 底部内側に未貫通の差し込み穴が 2 か所ある。H. 覆土中。

第22号井戸跡 (第19図、図版4)

調査区中央部の東側寄りに位置し、南側には第21号井戸跡、西側には第27号溝跡が近接している。井戸掘り方の平面形は、東西方向に長い楕円形ぎみの形態を呈している。規模は、東西方向が3.37m、南北方向が2.95mを測る。壁は、上半部が内湾ぎみに緩やかに傾斜して



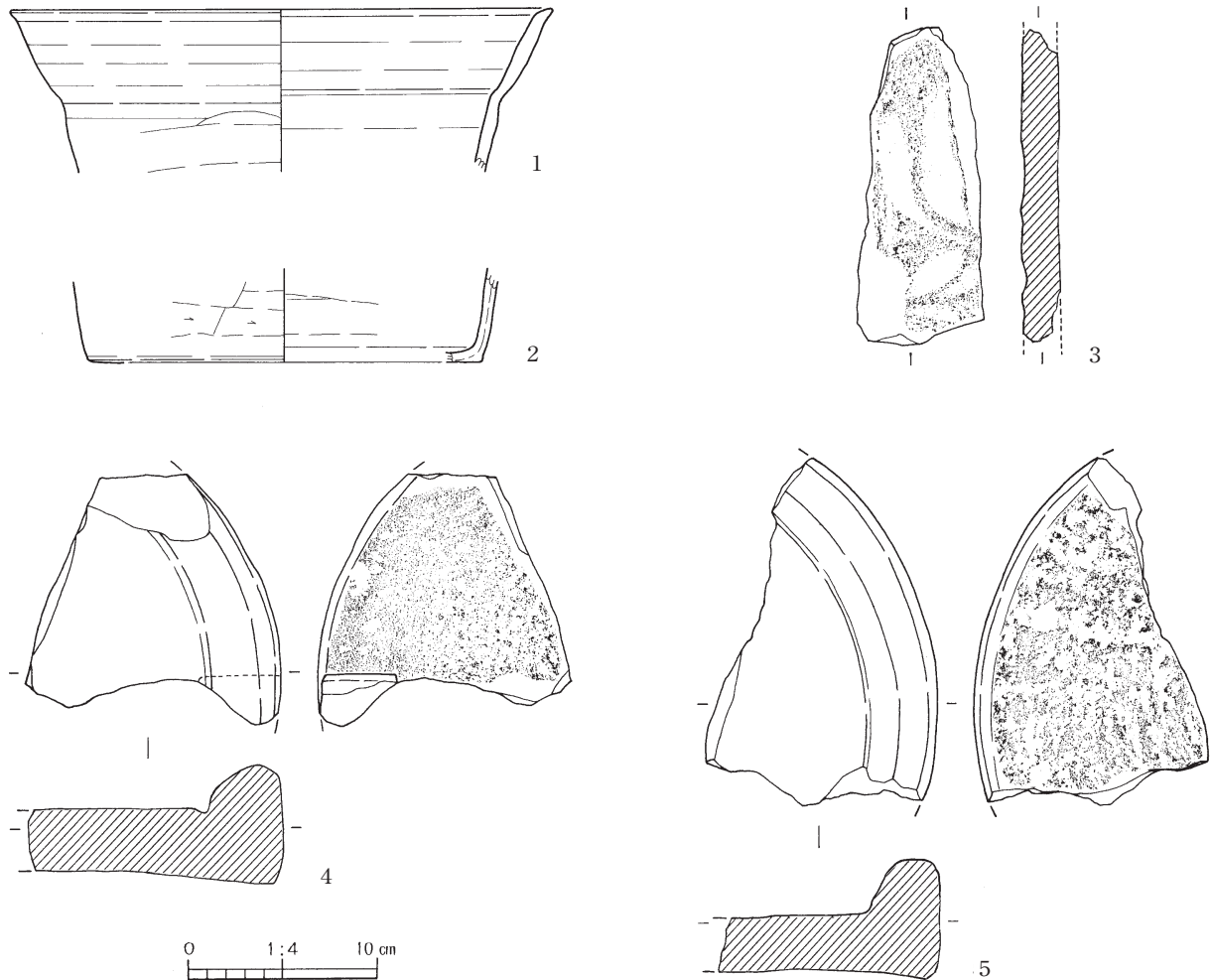
第19図 第22号井戸跡

第22号井戸跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層 (ローム粒、炭化物、焼土粒、白色粒、径3cm~5cmの礫を微量に含み、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性なし、しまり強い。)
- 第2層：暗褐色土層 (ローム粒、白色粒を少量含み、径1cmのローム塊、径1cm、3cmの礫を微量、酸化鉄を斑状に微量含む。)
- 第3層：暗褐色土層 (径3cmの礫を多量に含み、ローム粒、焼土粒、拳大の礫を少量、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性、しまり共になし。)
- 第4層：黄褐色土層 (ローム粒を多量に含み、径3cmのローム塊、焼土粒を微量、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性強く、しまりなし。)
- 第5層：黄褐色土層 (ローム粒を多量に含み、径1cmのローム、径5cmの礫を微量含む。粘性、しまり共になし。)
- 第6層：暗褐色土層 (径3cmのローム塊、ローム粒を少量含み、径15cmのローム塊、径5mmの炭化物、焼土粒を微量含む。粘性強く、しまりなし。)
- 第7層：明褐色粘質土層 (ローム粒を多量に含み、径10cmローム塊を少量、鈍い黄褐色砂、暗褐色粘質土を带状に少量含む。粘性、しまり共強い。)
- 第8層：黄褐色シルト質砂層 (地山ブロック、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性なし、しまり強い。)

落ち込み、中位から1.80m×1.70mの円形を呈する筒状になって垂直ぎみに深くなっている。湧水が激しく、井戸底面まで調査できなかったが、確認面からの深さは2m以上あるものと思われる。覆土の土層観察では、覆土の堆積は自然堆積を示している。井戸掘り方内には、石組や木柵等の痕跡は認められなかった。

出土遺物は、覆土中から在地産の内耳鍋(No 1・2)、板碑(No 3)、粉挽き白の上白(No 4・5)の破片が出土している(第20図)。本井戸跡の時期は、覆土の状態や出土遺物から、15世紀後半～16世紀初頭頃の中世後期と考えられる。



第20図 第22号井戸跡出土遺物

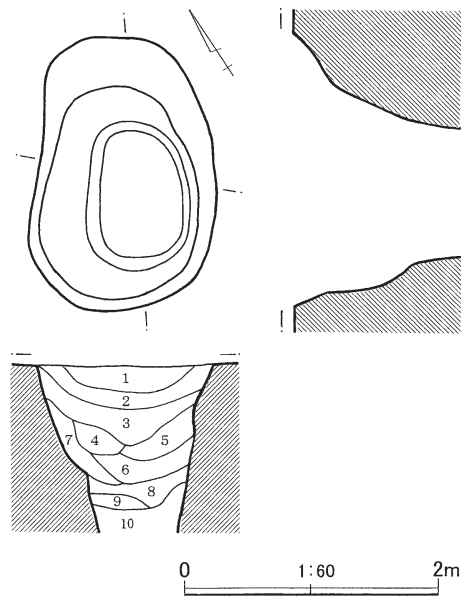
第22号井戸跡出土遺物観察表

1	内 耳 鍋	A. 口縁部径 (29.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面匏ナデ。底部外面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-暗灰褐色、肉-淡茶褐色。F. 口縁部 1/6 破片。G. 外面煤附着顕著。H. 覆土中。
2	内 耳 鍋	A. 底部径 (21.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ナデ、内面匏ナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗灰色。F. 底部破片。G. 外面煤附着顕著。H. 覆土中。
3	板 碑	A. 残存長 16.8、残存幅 6.8、厚さ 2.1。B. 表面研磨。裏面不明。D. 緑泥片岩。F. 破片。G. 表面に蓮座の陰刻。H. 覆土中。
4	粉 挽 き 白 (上 白)	A. 残存長 13.5、高さ 6.4。B. 削り出し。C. 上・下・側面研磨。D. 安山岩。F. 1/8。G. 下面は良く擦れて播目は磨滅している。下面に長方形の窪みあり。H. 覆土中。
5	粉 挽 き 白 (上 白)	A. 残存長 12.5、高さ 6.3。B. 削り出し。C. 上・下・側面研磨。D. 安山岩。F. 1/6。G. 下面は良く擦れて播目は磨滅している。H. 覆土中。

第23号井戸跡（第21図、図版4）

調査区北側の第27号溝跡によって圍繞された中世の区画地内に位置する。周辺には多数の土坑が密集しているが、本井戸跡とは直接重複していない。井戸掘り方の平面形は、北東～南西方向に長い楕円形ぎみの形態を呈している。規模は、北東～南西方向が2.20m、北西～南東方向が1.50mを測る。壁は、上半部が内湾ぎみに緩やかに傾斜して落ち込み、中位から120cm×90cmの楕円形を呈する筒状になって垂直ぎみに深くなっている。湧水が激しく、井戸底面まで調査できなかったが、確認面からの深さは1.5m以上あるものと思われる。覆土の土層観察では、覆土の堆積は自然堆積を示している。覆土上層の第1層と第2層中には、浅間山系A軽石が見られるが、これらは本井戸跡の埋没時期を示すものではなく、後世の攪乱等によって二次的に混入したものと思われる。井戸掘り方内には、石組や木柵等の痕跡は認められなかった。

出土遺物は、比較的少ないが、覆土中から常滑窯系の甕(No 3・4)、在地産の播鉢(No 1)や片口鉢(No 2)の破片などが出土している(第22図)。この他には、古墳時代中期～平安時代の土師器や須恵器の破片が、覆土中に混入して少量出土している。本井戸跡の時期は、覆土の状態や出土遺物から、中世後期の15世紀後半頃と考えられ、おそらく第27号溝跡によって圍繞された区画地と関係する可能性が高い井戸と思われる。



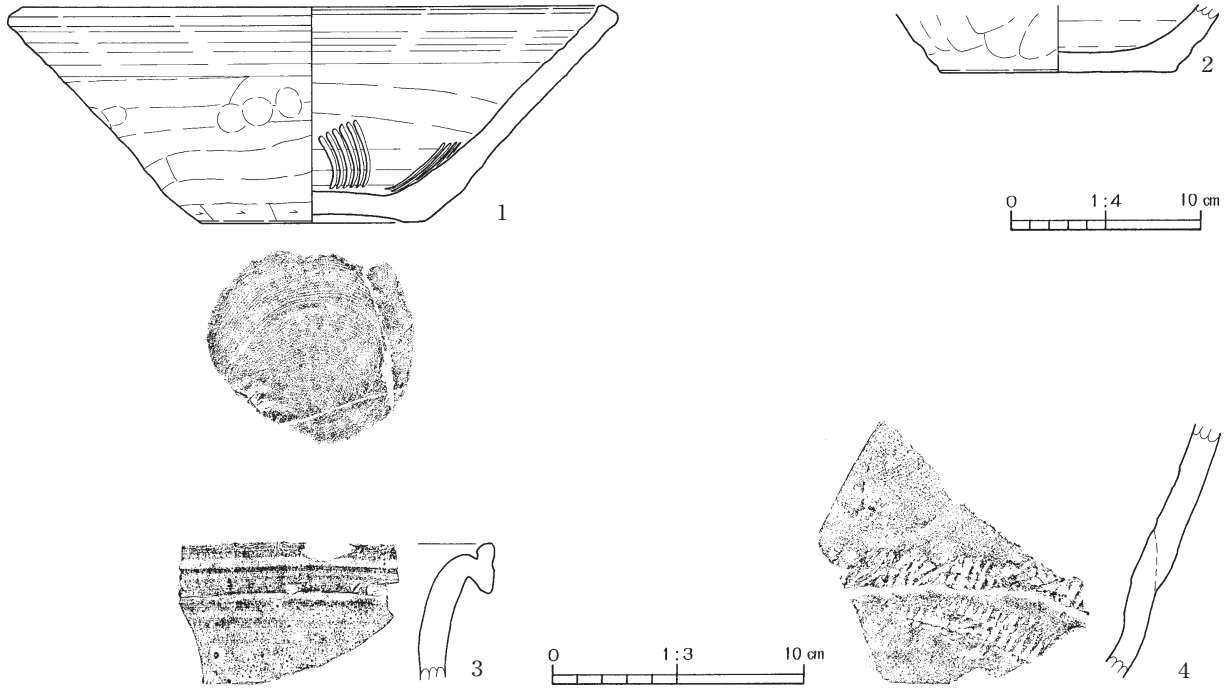
第21図 第23号井戸跡

第23号井戸跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（浅間山系A軽石、鉄斑を均一に、淡黄白粘土ブロック、小石を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（浅間山系A軽石、鉄斑を均一に、淡黄白色粘土ブロック、焼土粒、炭化粒、礫を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、鉄斑、炭化粒、礫を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第4層：暗黄褐色土層（ロームブロック、淡黄白色粘土ブロックを多量に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第5層：暗灰褐色土層（ローム粒、鉄斑、炭化粒、礫を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第6層：暗灰褐色土層（鉄斑、ロームブロック、礫を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第7層：暗黄褐色土層（淡黄白色粘土ブロックを多量に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第8層：暗灰色土層（ローム粒、小石、礫を少量含む。粘性、しまり共になし。）
- 第9層：暗黄褐色土層（ローム粒、ロームブロックを多量に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第10層：暗灰褐色土層（小石を均一に、ローム粒、鉄斑、礫を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第23号井戸跡出土遺物観察表

1	播鉢	A. 口縁部径(32.3)、器高11.4、底部径(12.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面鏡ナデ。体部外面下端ケズリ。底部外面回転糸切り。D. 白色粒、小石。E. 内外-暗灰色。F. 1/3。G. 掘り目は6本歯。還元焰焼成。在地産。H. 覆土中。
2	片口鉢	A. 底部径(12.6)。B. 粘土紐積み上げ。C. 体部内外面ナデ。底部外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡灰色、肉-淡褐色。F. 底部1/3。G. 内面は良く擦れている。在地産。H. 覆土中。
3	常滑窯系甕	B. 粘土紐積み上げ後叩き。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外-黒灰色、肉-暗灰色。F. 口縁部破片。G. 内外面に自然釉がかかる。H. 覆土中。
4	常滑窯系甕	B. 粘土紐積み上げ後叩き。C. 胴部内外面ナデ。D. 白色粒、小石。E. 内外-黒灰色、肉-暗灰色。F. 胴部破片。G. 外面に押印文を施す。H. 覆土中。

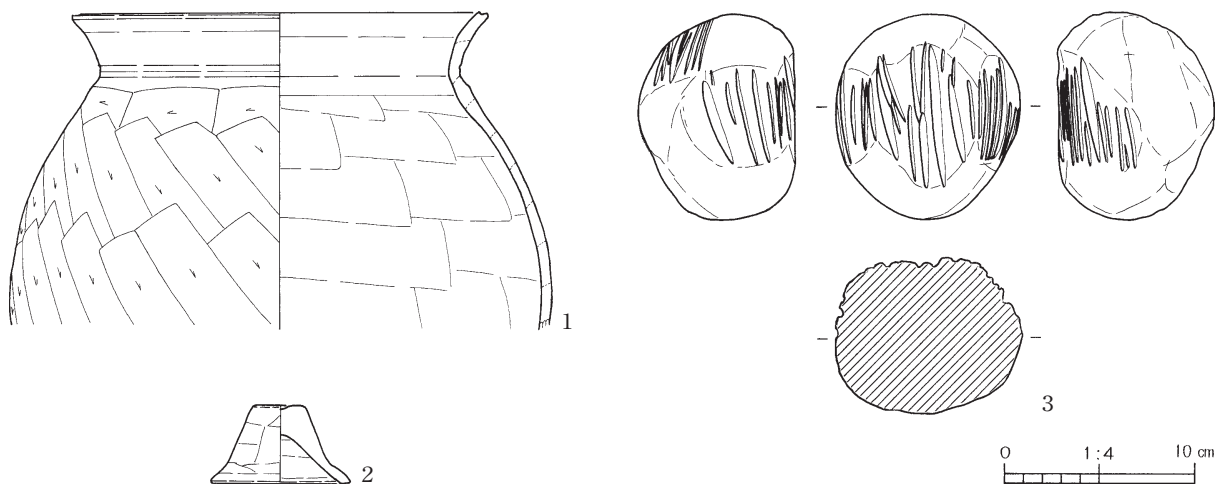


第22図 第23号井戸跡出土遺物

3. 土 坑

第381号土坑（第25図、図版4）

調査区の東端に位置し、南側には第382号土坑が、西側には第383・384号土坑が近接している。平面形は、不正円形を呈している。規模は、東西方向が2.77m、南北方向は2.40mまで測れる。壁は、上半が緩やかに傾斜し、下半は直線的に急角度で立ち上がっている。底面は、広く平坦である。掘り込みは深く、確認面からの深さは84cmあり、ローム層下の淡白褐色粘土層を掘り込んでいる。出土遺物は、覆土中より土師器甕の大形破片(No 1)や支脚か器台と思われる小形の土器(No 2)と、上面と側面に刃物等による線条痕が多数見られる自然石



第23図 第381号土坑出土遺物

を利用した砥石(No3)が出土している(第23図)。本土坑の時期は、覆土の状態や出土遺物の様相から、6世紀の古墳時代後期と考えられる。

第381号土坑出土遺物観察表

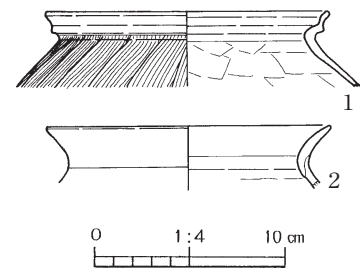
1	甕	A.口縁部径 22.0。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-淡茶褐色。F.上半部 1/2。H.覆土中。
2	支脚 (器台)	A.上端部径 2.6、器高 4.1、下端部径 7.4。B.不明。C.体部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外-淡茶褐色、内-明茶褐色。F.ほぼ完形。G.外面に黒斑あり。H.覆土中。
3	砥石	A.長さ 10.8、幅 9.7、厚さ 8.2。D.角閃石安山岩。F.完形。G.自然石を利用。上面と両側面に刃物等による線条痕が多数見られる。H.覆土中。

第382号土坑 (第25図、図版 4)

調査区の東端に位置し、北側には第381号土坑が近接している。南側の一部を第22号溝跡に切られている。平面形は、コーナー部が丸みを帯びるやや不整の隅丸長方形ぎみの形態を呈している。規模は、北西～南東方向が2.68m、北東～南西方向が最大で1.60mを測る。壁は緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは15cm程度ある。底面は、広く平坦である。遺物は、何も出土しなかった。本土坑の時期は、不明である。

第383号土坑 (第25図、図版 4)

調査区の東側に位置し、重複する第384号土坑を切っている。東側には第381号土坑が、南側には第385号土坑が近接している。平面形は、南北方向に長い楕円形ぎみの形態を呈している。規模は、南北方向が1.21m、東西方向が68cmある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高40cmある。底面は、比較的狭く北側に向かって深くなっている。遺物は、古墳時代前期から後期の土師器と須恵器の破片が、覆土中から少量出土している。本土坑の時期は、不明である。



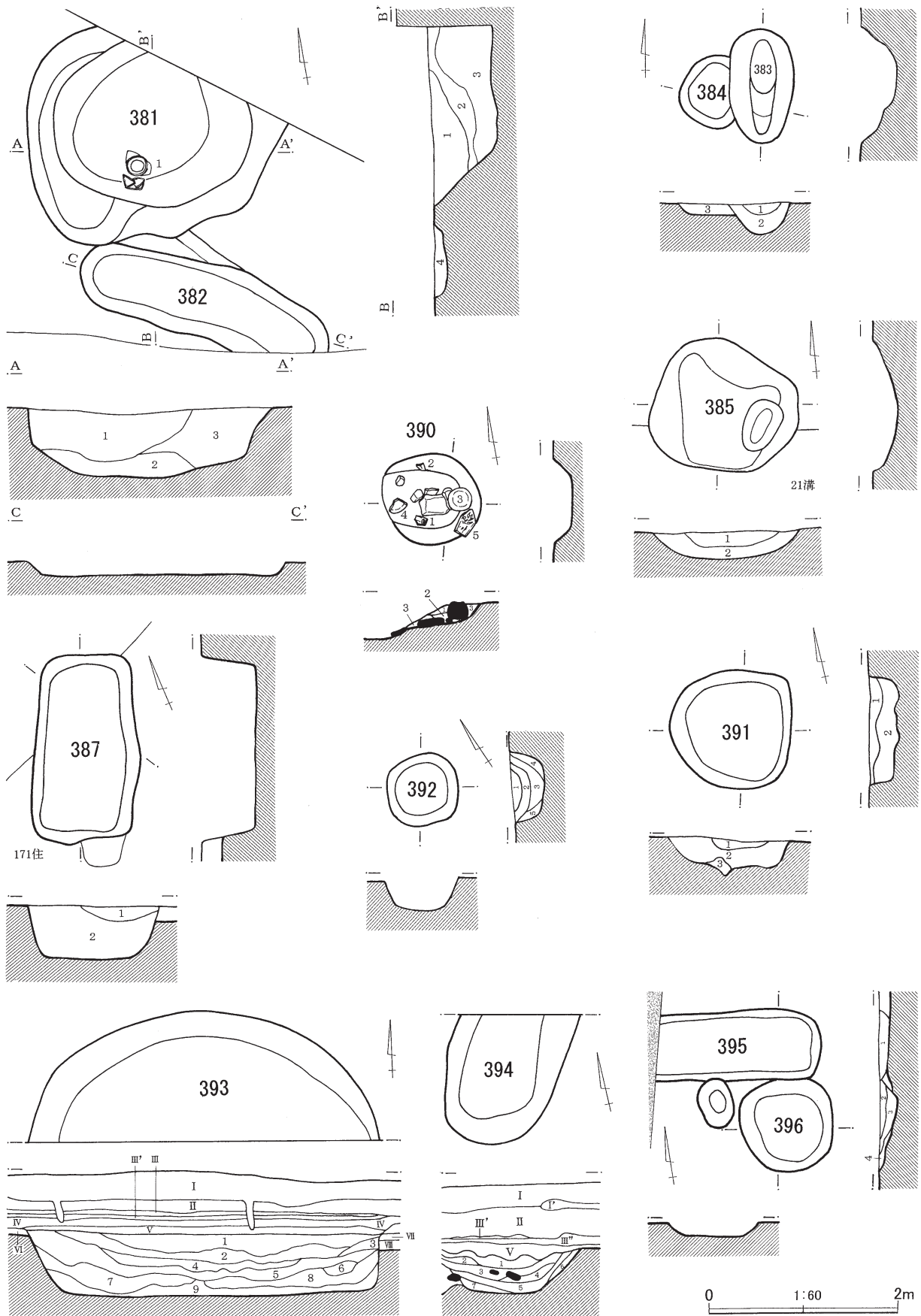
第24図 第383号土坑
出土遺物

第383号土坑出土遺物観察表

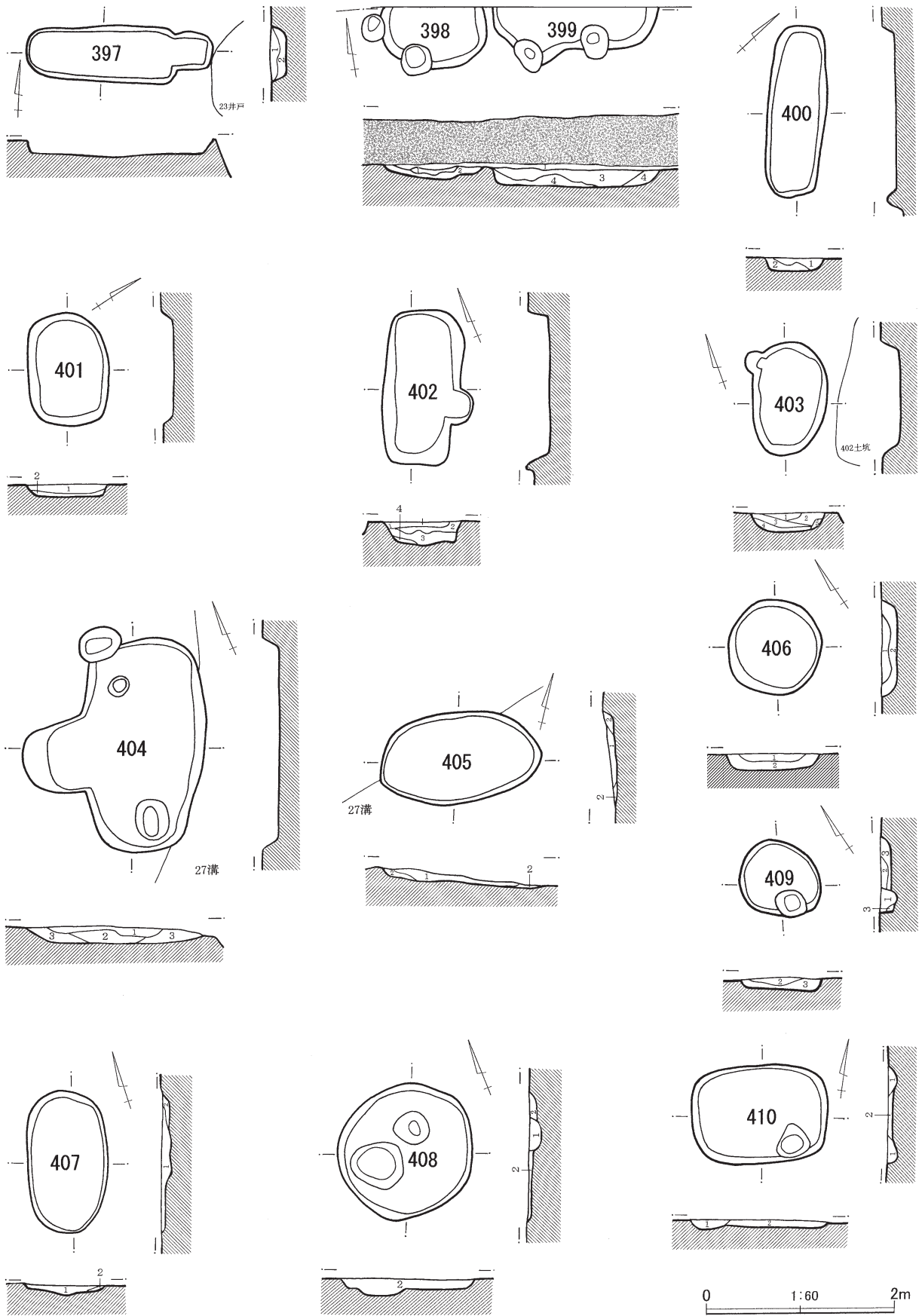
1	S字状口縁 台付甕	A.口縁部径 (15.0)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面篋ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外-暗褐色、内-明褐色。F.口縁部 1/6 破片。H.覆土中。
2	甕	A.口縁部径 (15.0)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-明橙褐色。F.口縁部 1/5 破片。H.覆土中。

第384号土坑 (第25図、図版 4)

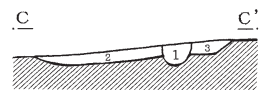
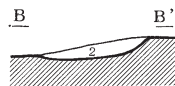
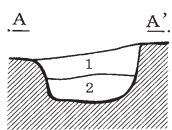
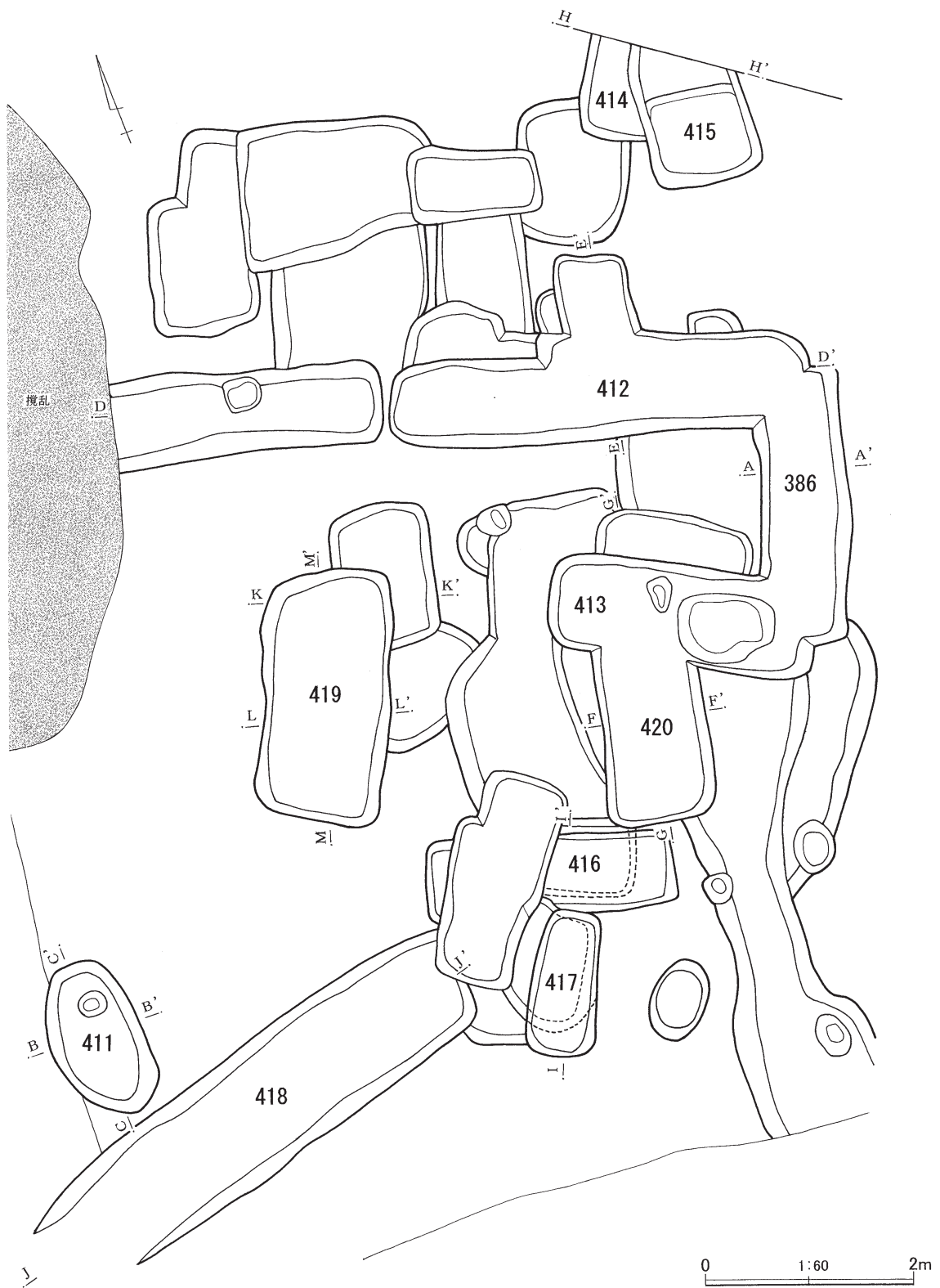
調査区の東側に位置し、重複する第383号土坑に切られている。東側には第381号土坑が、南側には第385号土坑が近接している。平面形は、円形ぎみの形態を呈している。規模は、北東～南西方向が77cm、北西～南東方向が68cmある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは12cm程度ある。底面は、広く平坦である。遺物は、覆土中より古墳時代前期の土器の小片が、2片出土しただけである。本土坑の時期は、不明である。



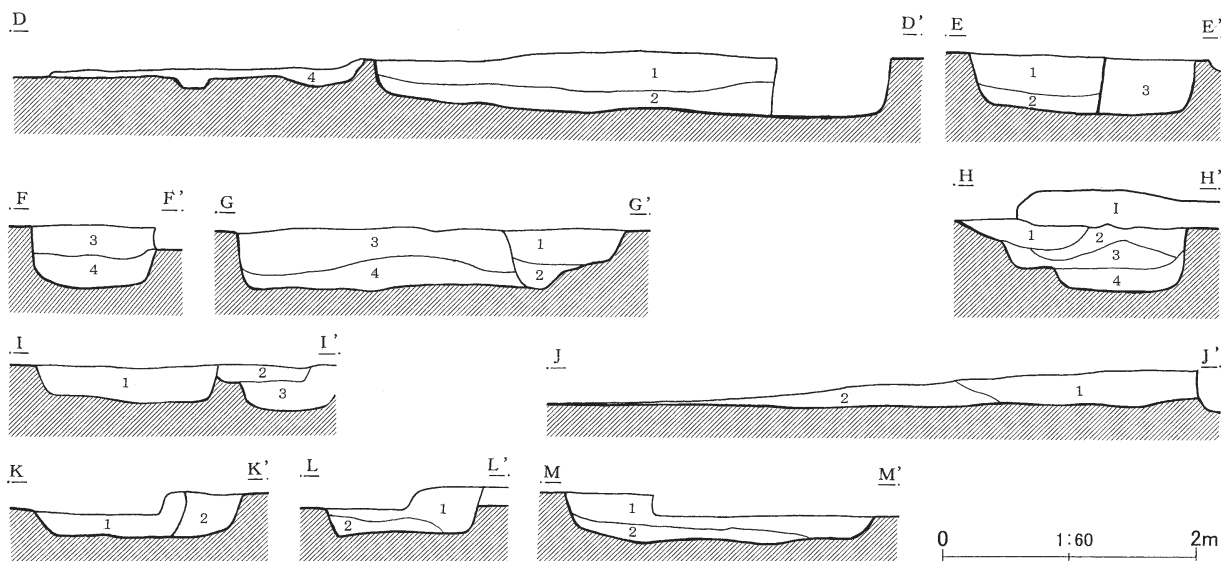
第25图 土 坑 (1)



第26图 土坑(2)



第27图 土坑(3)



第28図 土 坑 (4)

第381・382号土坑土層説明

<第381号土坑>

第1層：暗褐色土層（大型の土器、径2～5cmの礫、砥石を含み、径0.3～1cmのローム粒、径1cmの炭化物粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）

第2層：暗褐色土層（径1～2cmのロームブロックを多量含む。粘性、しまり共にあり。）

第3層：暗褐色土層（径10～20cm、径3～5cmのロームブロックを多量含む。粘性、しまり共にあり。）

<第382号土坑>

第4層：暗褐色土層（土器小片を少量含む、径0.3cmのローム粒を含む。粘性なし、しまりあり。）

第383・384号土坑土層説明

<第383号土坑>

第1層：暗褐色土層（土器片を含み、径0.3～0.5cmのローム粒、径0.3cmの炭化物粒を少量含む。）

第2層：暗褐色土層（径0.5cm～1cmのローム粒を含む。）

<第384号土坑>

第3層：黒褐色土層（径0.5cmのローム粒を含む。）

第385号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径1cmの礫、浅間山系B軽石？を少量含む。粘性、しまり共にあり。）

第2層：暗褐色土層（径5～7cmの礫、浅間山系B軽石？を少量含む、部分的に砂ブロックを少量含む。粘性なし、しまりあり。）

第386号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（角の残る径0.3～1cmのローム粒を多量含む。粘性、しまり共になし。）

第2層：黄褐色土層（黒色土を少量含む。）

第387号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.5cmのローム粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）

第2層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロックを多量含む。粘性、しまり共にあり。）

第390号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（鉄斑を均一に、ローム粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗茶褐色土層（鉄斑、ローム粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗茶褐色土層（淡黄白色粘土ブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第391号土坑土層説明

第1層：暗茶褐色土層（ローム粒を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗黄色褐色土層（ローム粒を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第392号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒、焼土粒、径3cmの礫を微量、白色粒を極微量含む。粘性なし、しまり強い。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒、径1cmのローム塊、炭化物、白色粒、焼土粒、礫を微量含む。粘性なし、しまり強い。）

- 第3層：暗褐色土層（ローム粒、白色粒を少量含み、径3cmのローム塊、焼土粒、礫を微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第4層：暗褐色土層（ローム粒、径1cmのローム塊、焼土粒、白色粒を微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第5層：暗褐色土層（ローム粒を少量含み、炭化物、白色粒を微量含む。粘性なし、しまり強い。）

第393号土坑土層説明

- 第Ⅰ層：暗黄褐色土層（浅間山系A軽石、径5cmの礫を少量、径1cmのローム塊を微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第Ⅱ層：鈍い黄褐色土層（ローム粒、浅間山系A軽石、径1cmの礫を微量含む。粘性、しまり共になし。）
- 第Ⅲ層：暗褐色シルト質砂層（ローム粒を多量に、ローム粒を少量、径1cmのローム塊、白色粒を微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第Ⅳ層：暗褐色シルト質砂層（径1cmのローム塊、白色粒を微量含む。粘性強く、しまりなし。）
- 第Ⅴ層：黒色砂質シルト層（ローム粒、焼土粒を微量含む。粘性強く、しまりなし。）
- 第Ⅵ層：黒褐色シルト層（ローム粒、炭化物、焼土粒を微量、径3cmの礫を少量含む。粘性強く、しまりなし。）
- 第Ⅶ層：黄褐色シルト質砂層（ローム粒を微量、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第Ⅷ層：黒褐色シルト質砂層（酸化鉄を斑状に微量含む。粘性、しまり共になし。）
- 第Ⅷ層：黒色砂質シルト層（焼土粒、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第1層：黒褐色シルト質砂層（酸化鉄を斑状に少量、ローム粒、径3cmのローム塊、焼土粒、径3cmの礫を微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第2層：黒褐色砂質シルト層（ローム粒、径3cmのローム塊、炭化物、焼土粒、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第3層：黒褐色シルト質砂層（ローム粒を少量含み、焼土粒を微量、黄色味の強い酸化鉄を斑状に少量含む。粘性、しまり共に強い。）
- 第4層：黒褐色砂質シルト層（焼土粒、径3cmのLⅧ塊を微量、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性強く、しまりなし。）
- 第5層：灰黄褐色シルト層（ローム粒、径3cmのローム塊を少量、酸化鉄を斑状に微量含む。径10cmの礫が見られる。粘性強く、しまりなし。）
- 第6層：黒褐色砂質シルト層（ローム粒、LⅧ粒を微量に含み、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第7層：黒褐色シルト層（ローム粒を少量含み、径5cmの礫、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性強く、しまりなし。）
- 第8層：黒褐色シルト質砂層（ローム粒を少量、径1cmのローム塊、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性、しまり共に強い。）
- 第9層：褐色砂層（酸化鉄を带状に少量含み、径3cmの礫を少量含む。粘性、しまり共になし。）

第394号土坑土層説明

- 第Ⅰ層：黄褐色土層（盛土。径3cmのローム塊、ローム粒、径3～5cmの礫を多量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第Ⅰ'層：暗褐色土層（盛土。浅間山系A軽石を多量に含み、径3～5cmの礫を少量、焼土粒を微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第Ⅱ層：暗灰黄褐色砂質層（盛土。浅間山系A軽石、径3～5cmの礫を多量に、酸化鉄を斑状に極微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第Ⅲ層：鈍い黄褐色砂質層（盛土。浅間山系A軽石を多量に、ローム粒、炭化物、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第Ⅲ'層：暗褐色砂質層（盛土。浅間山系A軽石、径1cmの礫を少量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第Ⅴ層：黒褐色土層（焼土粒、暗褐色シルト粒を少量含み、径1cmのローム塊、炭化物、径3cmの暗褐色シルト塊、白色粒を微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第1層：暗褐色砂質シルト層（焼土粒を少量含み、径1cmのローム塊、径1cmの礫を微量に、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第2層：暗褐色シルト層（ローム粒、焼土粒を微量含み、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性、しまり共に強い。）
- 第3層：暗褐色土層（焼土粒を少量含み、径1cmのローム塊、ローム粒、炭化物、拳大の礫を微量含む。粘性強く、しまりなし。）
- 第4層：暗褐色土層（焼土粒を少量含み、径3cmのローム塊、ローム粒、炭化物を微量に、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第5層：鈍い黄褐色砂質シルト層（径5mmのローム塊、ローム粒を少量、酸化鉄を斑状に少量含み、焼土粒を微量含む。粘性、しまり共に強い。）
- 第6層：褐色砂質シルト層（鈍い黄褐色粘土粒を多量に含み、酸化鉄を斑状に多量含む。粘性、しまり共に強い。）
- 第7層：褐色砂質シルト層（酸化鉄を斑状に多量に含み、鈍い黄褐色粘土粒を少量、径1cmの炭化物を微量含む。粘性なし、しまり強い。）

第395・396号土坑土層説明

<第395号土坑>

- 第1層：灰黄褐色砂質シルト層（径5mmのローム塊、炭化物を微量含み、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性なし、しまり強い。）

<第396号土坑>

- 第2層：鈍い黄褐色砂質シルト層（ローム粒、焼土粒、白色粒を微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第3層：暗褐色砂質シルト層（黄褐色粘質シルト粒を多量、焼土粒、酸化鉄、黄褐色粘質シルト塊を微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第4層：黄褐色砂質シルト層（酸化鉄を斑状に少量含む。粘性なし、しまり強い。）

第397号土坑土層説明

- 第1層：黄褐色砂質シルト層（焼土粒、白色粒、酸化鉄を微量含む。粘性なし、しまり強い。）
第2層：暗褐色砂質シルト層（白色粒を少量、焼土粒、酸化鉄を微量含む。粘性なし、しまり強い。）

第398号土坑土層説明

- 第1層：旧耕作土（浅間山系A軽石を混入する。）

<第398号土坑>

- 第1層：暗褐色砂質シルト層（ローム粒を少量含む、焼土粒、白色粒を微量含む。粘性なし、しまり強い。）
第2層：褐色砂質シルト層（ローム粒を多量に含む、径1cmのローム塊、炭化物、径5mmの焼土塊を微量含む。粘性なし、しまり強い。）

<第399号土坑>

- 第3層：暗茶褐色土層（淡黄白色粘土ブロックを均一に、浅間山系A軽石、焼土粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第4層：暗褐色土層（淡黄白色粘土粒子、鉄斑を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第400号土坑土層説明

- 第1層：黄褐色砂質シルト層（炭化物粒、焼土粒、白色粒、酸化鉄を微量含む。粘性なし、しまり強い。）
第2層：褐色砂質シルト層（炭化物、酸化鉄を微量含む。粘性なし、しまり強い。）

第401号土坑土層説明

- 第1層：褐色砂質シルト層（白色粒子を少量、径1cmの炭化物、炭化物粒、焼土粒を微量に、酸化鉄を斑状に少量含む。粘性なし、しまり強い。）
第2層：暗褐色砂質シルト層（炭化物、白色粒を微量含む、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性なし、しまり強い。）

第402号土坑土層説明

- 第1層：黄褐色砂質土層（ローム粒、焼土粒を少量、白色粒を微量含む。粘性なし、しまり強い。）
第2層：褐色砂質シルト層（径1cmのローム塊を少量、ローム粒、焼土粒を微量含む。粘性なし、しまり強い。）
第3層：褐色砂質シルト層（ローム粒、焼土粒を少量、径3cmのローム塊、炭化物を微量含む。粘性なし、しまり強い。）
第4層：褐色砂質シルト層（酸化鉄を斑状に微量含む。粘性なし、しまり強い。）

第403号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色砂質シルト層（焼土粒、白色粒を少量、ローム粒、径5mmの炭化物を微量含む。粘性なし、しまり強い。）
第2層：鈍い黄褐色砂質シルト層（焼土粒、白色粒、径1cmのローム塊を微量、酸化鉄を斑状に少量含む。粘性なし、しまり強い。）
第3層：暗褐色砂質シルト層（径3cmのローム塊、焼土粒、白色粒、炭化物粒を微量含む、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性なし、しまり強い。）
第4層：黄褐色砂質シルト層（焼土粒を微量、酸化鉄を斑状に少量含む。粘性なし、しまり強い。）
第5層：暗褐色砂質シルト層（焼土粒を少量、ローム粒、炭化物微量含む。粘性なし、しまり強い。）

第404号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土層（ローム粒、浅間山系A軽石、鉄斑を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第2層：暗灰褐色土層（ローム粒、鉄斑を均一に、浅間山系B軽石、炭化粒、焼土粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第3層：暗褐色土層（浅間山系B軽石、ローム粒、鉄斑を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第405号土坑土層説明

- 第1層：暗灰褐色土層（ローム粒、鉄斑を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第2層：暗茶褐色土層（ローム粒、鉄斑、焼土粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第406号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（淡黄白色粘土粒、鉄斑を均一に、炭化粒、焼土粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第2層：暗茶褐色土層（淡黄白色粘土粒を均一に、鉄斑、焼土粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第407号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（淡黄白色粘土粒を均一に、焼土粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第2層：暗黄白色土層（淡黄白色粘土ブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第408号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（鉄斑を均一に、淡黄白色粘土粒、焼土粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第2層：暗茶褐色土層（鉄斑、淡黄白色粘土粒を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第409号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（淡黄白色粘土粒、焼土粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第2層：暗褐色土層（鉄斑を均一に、淡黄白色粘土粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第3層：暗茶褐色土層（淡黄白色粘土ブロック、鉄斑、焼土粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第410号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（淡黄白色粘土粒、焼土粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第2層：暗褐色土層（ローム粒、淡黄白色粘土粒、焼土粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第411号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
第2層：暗茶褐色土層（ロームブロック、ローム粒、焼土粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第412号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.5～1cmのローム粒を含む。粘性、しまり共にあり。）
第2層：暗褐色土層（径1～3cmのロームブロックを多量に含み、径0.5cmの褐色土塊を含む。粘性、しまり共にあり。）
第3層：暗褐色土層（径1～2cmのロームブロックを含む。粘性、しまり共にあり。）
第4層：暗褐色土層（径1cmのローム粒を含む。粘性、しまり共にあり。）

S K - 414・415土層説明

<第414号土坑>

第1層：暗褐色土層（浅間山系A軽石を多量に、径0.8～1.5cmのロームブロックを含む。粘性なし、しまりあり。）

<第415号土坑>

第2層：暗褐色土層（径0.5cmのローム粒を多量に、径3～7cmのロームブロックを含む。粘性なし、しまりあり。）
第3層：暗褐色土層（径0.5～1cmのローム粒を多量含む。粘性、しまり共にあり。）
第4層：暗褐色土層（やや黄色味が強い。径0.5～1cmのローム粒を多量含む。粘性あり、しまりなし。）

第416・417号土坑土層説明

<第417号土坑>

第1層：暗褐色土層（径0.5cmのローム粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。）

<第416号土坑>

第2層：暗褐色土層（径0.5cmのローム粒を含む。粘性なし、しまりあり。）
第3層：暗褐色土層（径0.5～1cmのローム粒を均一に多量含む。粘性なし、しまりあり。）

第418号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径1～1.5cmのロームブロックを均一に含む。粘性、しまり共にあり。）
第2層：暗黄褐色土層（径1～3cmのロームブロック、ローム粒を多量含む。粘性、しまり共にあり。）

第419号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径1～1.5cmのロームブロックを多量に、径2～3cmのロームブロックを少量含む。粘性なし、しまりあり。）
第2層：暗褐色土層（径1～4cmのロームブロックを多量含む。粘性なし、しまりあり。）
第3層：暗褐色土層（径1～2cmのロームブロックを含む。粘性なし、しまりあり。）

第420号土坑土層説明

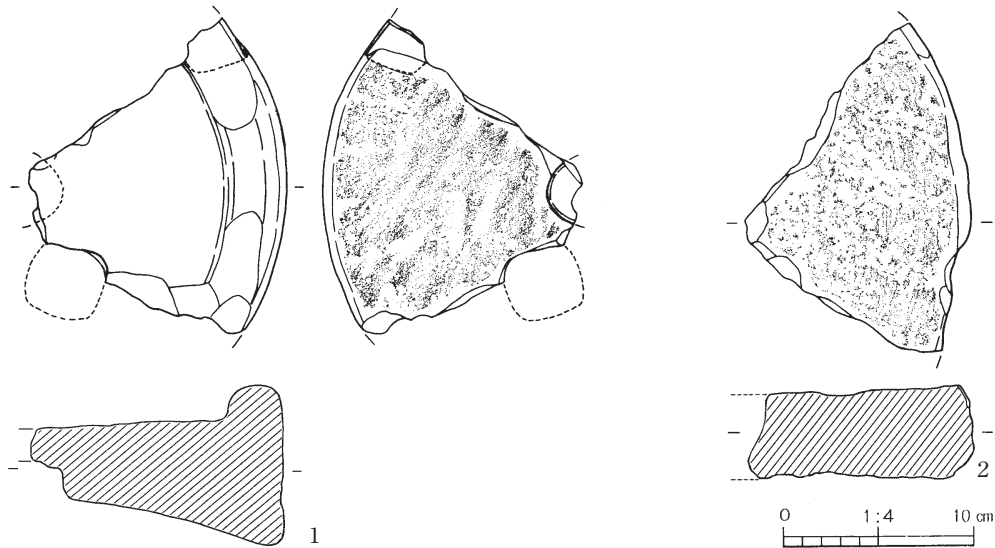
第1層：暗褐色土層（径0.5～1cmのローム粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）
第2層：黄褐色土層（径2～5cmのロームブロックを主体に、暗褐色土を含む。粘性、しまり共にあり。）
第3層：暗褐色土層（径0.5～1.5cmのロームブロックを多量含む。粘性、しまり共にあり。）
第4層：暗褐色土層（径1～4cmのロームブロックを多量含む。粘性、しまり共にあり。）

第385号土坑（第25図、図版4）

調査区の東側に位置し、土坑の南側半分を重複する第22号溝跡に切られている。平面形は、残存する部分から推測すると、隅丸方形か不整円形のような形態を呈するものと思われる。規模は、東西方向が1.55m、南北方向は1.40mまで測れる。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは最高で40cmある。底面は、広く平坦で、南側がやや深くなっている。遺物は、覆土中より粉挽き白の上白と下白の破片と、古墳時代から平安時代の土師器と須恵器の破片が少量出土している。本土坑の時期は、覆土の状態や出土遺物から、中世と考えられる。

第385号土坑出土遺物観察表

1	粉挽き白 （上白）	A.推定径(27.0)、高さ8.5。B.削り出し。C.上下側面研磨。D.安山岩。F.1/5。G.挿目は磨滅している。芯棒受穴は貫通せず、挽き木穴と供給口は四角ばい形状。H.覆土中。
2	粉挽き白 （下白）	A.残存長11.8、高さ5.0。B.削り出し。C.下面と側面は雑な研磨。D.安山岩。F.1/5。G.挿目は磨滅している。H.覆土中。



第29図 第385号土坑出土遺物

第386号土坑（第27図）

調査区の東側に位置し、土坑の北側を第412号土坑と南側を第413号土坑と重複している。平面形は、長方形を呈している。規模は、北東～南西方向が2.77m、北西～南東方向が86cmある。壁は、垂直ぎみで直線的に立ち上がり、確認面からの深さは43cmを測る。底面は、広く平坦である。遺物は、覆土中より古代の土師器や須恵器の破片と、中世の内耳鍋の破片などが少量出土している。本土坑は、その形態や覆土の状態から、いわゆる作物等を貯蔵する穴と思われ、その時期は近世以降と推測される。

第387号土坑（第27図）

調査区の東側に位置し、重複する第171号住居跡を切っている。平面形は、長方形を呈している。規模は、北東～南西方向が2.05m、北西～南東方向が1.10mある。壁は、垂直ぎみで直線的に立ち上がり、確認面からの深さは60cmを測る。底面は、広く平坦である。遺物は、覆土中より古墳時代の土器片が少量出土しただけである。本土坑は、その形態や覆土の状態から、いわゆる作物等を貯蔵する穴と思われ、その時期は近世以降と推測される。

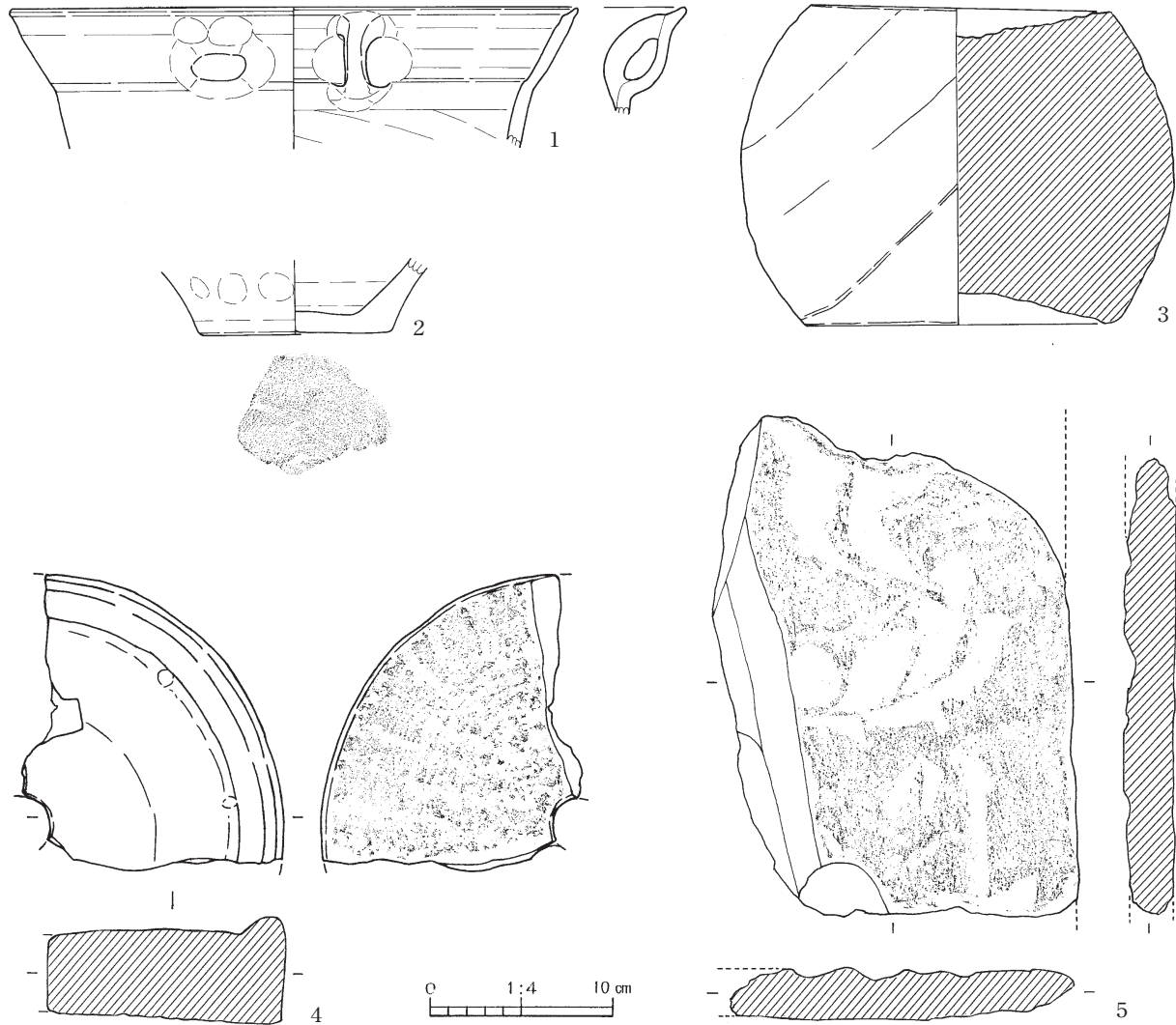
第388号土坑 D2地点。別途報告の予定。

第389号土坑 D2地点。別途報告の予定。

第390号土坑（第25図、図版5）

調査区の北西側に位置し、土坑の西側を重複する第27号溝跡に切られている。平面形は不

明であるが、東西方向に長軸を持つ形態のようである。規模は、南北方向が1.00m、東西方向は1.08mまで測れる。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは最高で40cmある。底面は、広く平坦であるが、西側に向かって緩やかに傾斜している。底面の中央部には、比較的大きな平坦面を持つ片岩系の自然石を中心に、その周囲に自然石をいくつか並べて配置



第30図 第390号土坑出土遺物

第390号土坑出土遺物観察表

1	内耳鍋	A. 口縁部径 (31.0)。B. 粘土紐積み上げ。内耳貼り付け。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-暗褐色、内-淡褐色、肉-灰褐色。F. 口縁部 1/6 破片。G. 外面煤付着顕著。H. 底面。
2	片口鉢	A. 底部径 (10.6)。B. 粘土紐積み上げ。C. 体部内外面ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-淡灰褐色、内-黒灰色。F. 底部 1/4 破片。G. 内面は非常に良く擦れている。H. 底面。
3	五輪塔 (水輪)	A. 最大径 23.6、高さ 17.5。B. 削り出し。C. 上下面打ち欠き。側面研磨。D. 砂岩。F. 完形。H. 底面。
4	粉挽き臼 (上臼)	A. 推定径 (29.0)、高さ 5.8。B. 削り出し。C. 上下側面研磨。D. 安山岩。F. 1/4。G. 搦目は磨滅している。芯棒受穴は貫通している。H. 底面。
5	板碑	A. 残存長 27.5、残存幅 20.0、厚さ 2.8。C. 表面研磨、裏面鑿による部分的なケズリ。側面両方向からの調整剥離。D. 緑泥片岩。F. 破片。G. 表面に圈線と梵字 (種子)・蓮座を陰刻。表裏面ともやや磨滅。H. 底面。

したような状況が見られる。遺物は、土坑の底面上から五輪塔の水輪(No 3)、粉挽き白の上白の破片(No 4)、内耳鍋の破片(No 1)、片口鉢の破片(No 2)、土坑の壁に貼り付いて板碑の破片(No 5)が出土している(第30図)。本土坑の時期は、覆土の状態や重複関係及び出土遺物から、中世後期の15世紀後半頃と考えられる。

本土坑は、東西方向に長軸を向けており、その西側5m延長上には地下式坑に類似した第389号土坑がほぼ軸を揃えて位置していることから、それと関係する施設である可能性も考えられる。

第391号土坑(第25図、図版5)

調査区の西側に位置し、東側に第26号溝跡が、西側に第32号溝跡が近接している。平面形は、西側壁が強く張る不整形な形態を呈している。規模は、東西方向が1.28m、南北方向が1.26mある。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは最高で32cmを測る。底面は、広く平坦である。遺物は、覆土中より古代の土師器や須恵器の破片が少量出土している。本土坑の時期は、不明である。

第392号土坑(第25図、図版5)

調査区の西端に位置し、東側に第25号溝跡が、西側に第24号溝跡が近接している。平面形は、円形な形態を呈している。規模は、東西・南北両方向とも75cmを測る。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは最高で35cmを測る。底面は、広く平坦である。遺物は、覆土中より古代の土師器の破片が1片出土しただけである。本土坑の時期は、不明である。

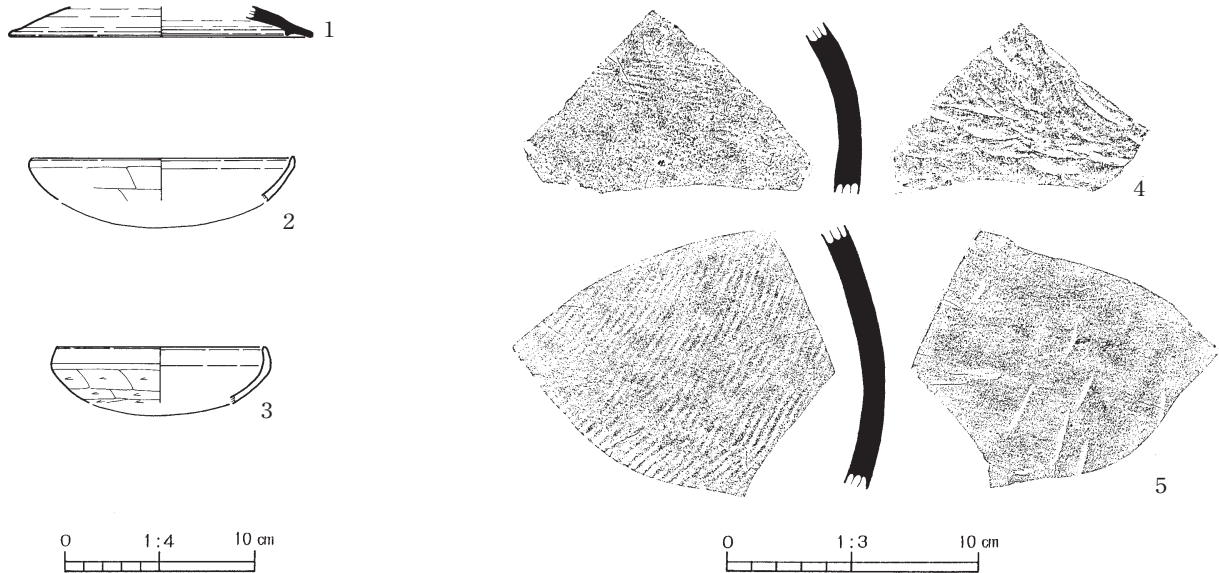
第393号土坑(第25図、図版5)

調査区の南端に位置し、北側には第34号溝跡と第35号溝跡がある。土坑の南側半分は調査区外に位置するため、遺構の全容は不明である。平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、円形な形態を呈するものと思われる。規模は、東西方向が3.76m、南北方向は1.40mまで測れる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で56cmある。底面は、広く平坦である。遺物は、覆土中より白鳳時代の7世紀後半頃を主体とする土師器や須恵器の破片が少量出土している(第31図)。本土坑の時期は、土層観察の結果や出土遺物から、白鳳時代の7世紀後半と考えられる。

第393号土坑出土遺物観察表

1	須恵器 蓋	A.口縁部径(16.0)。B.ロクロ成形。C.内外面回転ナデ。D.白色粒。E.内外-白色。F.口縁部1/8破片。H.覆土中。
2	坏	A.口縁部径(14.0)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-明橙褐色。F.口縁部1/8破片。H.覆土中。
3	坏	A.口縁部径(11.0)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外-淡茶褐色。F.口縁部1/6破片。G.体部外面に黒斑あり。H.覆土中。

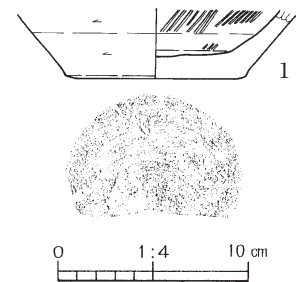
4	須恵器	B. 粘土紐積み上げ後叩き。C. 胴部外面平行叩き目の後ナデ、内面当道具痕を残す。D. 白色粒。 E. 外-黒灰色、内-暗灰色。F. 胴部破片。H. 覆土中。
5	須恵器	B. 粘土紐積み上げ後叩き。C. 胴部外面平行叩き目の後雑なナデ、内面窺ナデ。D. 白色粒、黒色粒。 E. 内外-淡灰色。F. 胴部破片。H. 覆土中。



第31図 第393号土坑出土遺物

第394号土坑（第25図、図版5）

調査区の北端に位置し、重複する第27号溝跡を切っている。土坑の北側半分は調査区外に位置するため、遺構の全容は不明である。平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、コーナー部の丸みが強い隅丸長方形ぎみの形態を呈するものと思われる。規模は、東西方向が1.28m、南北方向は1.38mまで測れる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で51cmある。底面は、広く平坦である。遺物は、覆土中より中世後期の播鉢(第32図No 1)や内耳鍋の破片が少量出土している。この他では、古墳時代の土師器や須恵器の破片が混入して少量出土している。本土坑の時期は、遺構の重複関係や出土遺物から、15世紀末～16世紀初頭頃の中世後期と考えられる。



第32図 第394号土坑
出土遺物

第394号土坑出土遺物観察表

1	播鉢	A. 底部径 9.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 体部外面回転窺ケズリ、内面回転ナデ。底部外面回転糸切り。 D. 赤色粒、白色粒。E. 外-黒灰褐色、内-淡茶褐色、肉-暗灰褐色。F. 底部 1/2。G. 播目は7本歯。 H. 覆土中。
---	----	---

第395号土坑（第25図）

調査区の中央部北側寄りに位置し、南側の一部が第396号土坑と接している。土坑の西側は、第1地点の第2トレンチ(増田1985)にあたるが未検出である。平面形は、隅丸長方形を

呈するものと思われる。規模は、南北方向が73cm、東西方向は1.75mまで測れる。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは10cm程度である。底面は、広く平坦である。遺物は、古墳時代の土師器の小破片が1片出土しただけである。本土坑の時期は、不明である。

第396号土坑（第25図）

調査区の中央部北側寄りに位置し、北側の一部が第395号土坑と接している。平面形は、円形ぎみの形態を呈している。規模は、東西・南北両方向とも1.00mを測る。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは20cm程度である。底面は、広く平坦である。遺物は、覆土中に混入して、古墳時代から白鳳時代の土師器や須恵器の破片が少量出土しただけである。本土坑の時期は、不明である。

第397号土坑（第26図）

調査区の中央部の北側寄りに位置し、東側には第23号井戸跡が近接している。土坑の東端部は、方形を呈するピットと重複している。平面形は、隅丸長方形を呈している。規模は、東西方向が1.60m、南北方向が62cmを測る。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは20cm程度である。底面は、広く平坦である。遺物は、覆土中に混入して、古代の土師器の小破片が3片出土しただけである。本土坑の時期は、不明である。

第398号土坑（第26図）

調査区の中央部の北端に位置し、東側には第399号土坑が、南側には第23号井戸跡が近接している。土坑の北側半分は調査区外に位置しているため、本土坑の全容は不明である。規模は、東西方向が1.12m、南北方向は67cmまで測れる。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは10cm程度である。底面は、広く平坦である。遺物は、何も出土しなかった。本土坑の時期は、不明である。

第399号土坑（第26図）

調査区の中央部の北端に位置し、西側には第398号土坑が近接している。土坑の北側は調査区外に位置しているため、本土坑の全容は不明である。規模は、東西方向が1.76m、南北方向は46cmまで測れる。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは20cm程度である。底面は、広く平坦である。遺物は、覆土中に混入して、古墳時代から白鳳時代の土師器の破片が少量出土しただけである。本土坑の時期は、不明である。

第400号土坑（第26図）

調査区の中央部の北端に位置し、西側には第399号土坑が、東側は第404号土坑と接してい

る。平面形は、隅丸長方形を呈している。規模は、北西～南東方向が1.84m、北東～南西方向が63cmを測る。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは10cm程度である。底面は、広く平坦である。遺物は、覆土中に混入して、古墳時代後期の土師器の小破片が1片出土しただけである。本土坑の時期は、不明である。

第401号土坑（第26図）

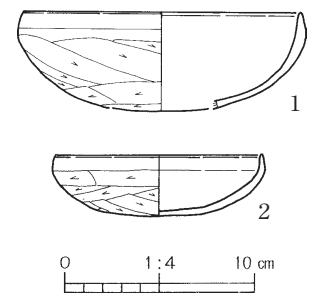
調査区の中央部の北側寄りに位置し、北側には第404号土坑が近接している。平面形は、隅丸長方形ぎみの形態を呈している。規模は、北西～南東方向が1.20m、北東～南西方向が87cmを測る。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは13cm程度である。底面は、広く平坦である。遺物は、覆土中に混入して、古墳時代から白鳳時代の土師器の破片が少量出土している。本土坑の時期は、不明である。

第402号土坑（第26図）

調査区の中央部の北側寄りに位置し、西側には第403号土坑が、南側には第408号土坑が近接している。平面形は、隅丸長方形の形態を呈している。規模は、北西～南東方向が82cm、北東～南西方向が1.66mを測る。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは24cm程度である。底面は、広く平坦である。遺物は、覆土中に混入して、古墳時代から白鳳時代の土師器の破片が少量出土している。本土坑の時期は、不明である。

第403号土坑（第26図）

調査区の中央部の北側寄りに位置し、東側には第402号土坑が、南側には第408号土坑が近接している。平面形は、楕円形ぎみの形態を呈している。規模は、北西～南東方向が78cm、北東～南西方向が1.23mを測る。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは20cm程度である。底面は、広く平坦である。遺物は、覆土中より7世紀後半の白鳳時代を主体とする土師器の破片が少量出土しただけである(第33図)。本土坑の時期は、覆土の状態や出土遺物から、7世紀後半の白鳳時代と考えられる。



第33図 第403号土坑
出土遺物

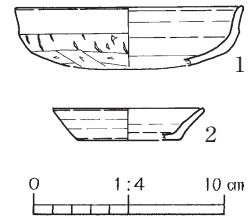
第403号土坑出土遺物観察表

1	坏	A. 口縁部径(14.8)、残存高5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗橙褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
2	坏	A. 口縁部径(11.0)、器高3.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-暗褐色、内-淡茶褐色。F. 1/3。H. 覆土中。

第404号土坑（第26図）

調査区の中央部の北端に位置し、北西側には第400号土坑が、南西側には第401号土坑が近

近接している。平面形は、2.30m×1.80mの隅丸長方形を基調とし、西側壁の中央に約75cm×75cmの方形ぎみの張り出し部をもつ。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは15cm程度である。底面は、広く平坦である。遺物は、覆土中から古代～中世の土器の破片が少量出土しただけである(第34図)。本土坑の時期は、出土した遺物から見て、15世紀後半以降の中世後期と考えられる。



第34図 第404号土坑出土遺物

第404号土坑出土遺物観察表

1	坏	A. 口縁部径(12.0)、残存高3.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 口縁部1/4破片。H. 覆土中。
2	かわらけ	A. 口縁部径(8.0)、器高1.7、底部径(5.4)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. 1/4。H. 覆土中。

第405号土坑(第26図)

調査区中央部の北側寄りに位置し、北側には第409号土坑が、西側には第406号土坑が近接している。本土坑は、土坑の東側半分の上を第27号溝跡に切られている。平面形は、楕円形を呈している。規模は、北東～南西方向が1.72m、北西～南東方向が97cmを測る。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは15cm程度である。底面は、広く平坦である。遺物は、覆土中に混入して、7世紀後半の白鳳時代を主体とする土師器の破片が少量出土している。本土坑の時期は、不明である。

第406号土坑(第26図)

調査区中央部の北側寄りに位置し、北側には第408号土坑と第409号土坑が近接している。平面形は、円形を呈している。規模は、南北方向が1.04m、東西方向が1.05mを測る。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは18cm程度ある。底面は、広く平坦である。遺物は、覆土中から白鳳時代から平安時代の土師器や須恵器の破片が少量出土している。本土坑の時期は、不明である。

第407号土坑(第26図)

調査区中央部の北側寄りに位置し、北側には第23号井戸跡が、東側には第403号土坑が近接している。平面形は、楕円形ぎみの形態を呈している。規模は、北西～南東方向が1.52m、北東～南西方向が86cmを測る。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは10cm程度である。底面は、広く平坦である。遺物は、覆土中より白鳳時代以降の古代の土師器の破片が少量出土している。本土坑の時期は、不明である。

第408号土坑(第26図)

調査区中央部の北側寄りに位置し、北側には第402号土坑と第403号土坑が、東側には第

409号土坑が近接している。平面形は、円形ぎみの形態を呈している。規模は、南北方向が1.40m、東西方向が1.47mを測る。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは10cm程度である。底面は、広く平坦である。遺物は、覆土中より古墳時代から白鳳時代の土師器の破片が少量出土している。本土坑の時期は、白鳳時代の7世紀後半頃と考えられる。

第409号土坑（第26図）

調査区中央部の北側寄りに位置し、西側には第408号土坑が、南側には第405号土坑と第406号土坑が近接している。平面形は、楕円形ぎみの形態を呈している。規模は、北西～南東方向が92cm、北東～南西方向が78cmを測る。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは10cm程度である。底面は、広く平坦である。遺物は、覆土中より古代の土師器の破片が少量出土している。本土坑の時期は、不明である。

第410号土坑（第26図、図版5）

調査区中央部の東側寄りに位置する。平面形は、隅丸長方形を呈している。規模は、東西方向が1.45m、南北方向が1.03mを測る。壁は、直線的で垂直ぎみに立ち上がり、確認面からの深さは5cm程度ある。底面は、広く平坦であるが、壁際が周溝状に若干深くなっている。遺物は、覆土中より古代の土師器や須恵器の破片が少量出土している。本土坑の時期は、不明である。

第411号土坑（第27図、図版5）

調査区の東側に位置し、南側には第418号土坑が近接している。平面形は、楕円形ぎみの形態を呈している。規模は、南北方向が1.58m、東西方向が92cmを測る。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは14cmある。底面は、広く平坦である。遺物は、覆土中に混入して、古代の土師器の破片が少量出土している。本土坑の時期は、不明である。

第412～420号土坑（第27図、図版4）

調査区の東側に位置し、平面形が比較的整った長方形を基調とする多くの土坑が密集して重複している。これらの土坑は、長軸方向を東西方向に向けるものと、南北方向に向けるものの二者があり、規模は、最長で5m以上のもの(第418号土坑)も見られる。形態は、壁が直線的で垂直ぎみに立ち上がり、底面は広く平坦なものが多く、確認面からの深さは最高で40cm前後を測るものもある。遺物は、覆土中より古代の土師器の破片が少量混入して出土しているだけである。

これらの土坑は、その形態や覆土の状態から、近接する第386号土坑や第387号土坑と同じく、いわゆる作物等を貯蔵する穴と思われ、その時期は近世以降と推測される。

4. 溝 跡

第21号溝跡（第4図、図版6）

調査区東側の南端に位置し、重複する第22号溝跡を切っている。形態は、東西方向に向かって直線的な流路を取っており、西側に行くほど徐々に浅くなっている。規模は、溝の上幅が2 m前後の比較的均一な幅で、確認面からの深さは西側で30cm、東側で40cm程度ある。壁は、緩やかに傾斜し、底面は平坦で比較的広くなっている。覆土中には、浅間山系A軽石を均一に含んでおり、溝跡西側の攪乱となっている部分では、コンクリート製の管が埋設されていた。遺物は、古代の土師器や須恵器、近世の陶器などの破片が、覆土中から少量出土しただけである。本溝跡の時期は、覆土の状態や出土遺物の様相から、近現代の所産と考えられ、おそらく昭和40年頃の北泉中部土地改良事業直前の現況測量図に載る水路と同一のものであろう。

第22号溝跡（第4図、図版6）

調査区東側の南端に位置し、重複する第21号溝跡に切られている。形態は、東西方向に向いてやや蛇行した流路を取っており、おそらく調査区中央部から西側で東西方向に流路を取っている第29号溝跡と関係するものと思われる。規模は、溝の上幅が調査区内で3 m以上あり、確認面からの深さは最高1.20mある。壁は、北側壁だけが検出されており緩やかに傾斜している。底面は、中央部が幅1 m前後の均一な幅で一段深くなっている。覆土中には、浅間山系A軽石を均一に含んでいる。遺物は、古代の土師器、近世の陶器、近代の瓦などの破片が、覆土中から少量出土しただけである。本溝跡の時期は、覆土の状態や出土遺物の様相から、近世以降の所産と考えられ、おそらく第29号溝跡と関連するものと思われる。

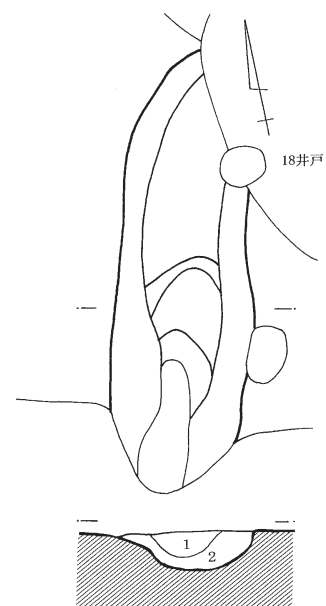
第23号溝跡（第35図、図版6）

調査区の東側に位置し、南側を第21号溝跡に切られている。溝の北端は、中世後期の第18号井戸跡と重複している。形態は、ほぼ南北方向に直線的な流路を取っており、北端は途切れるようである。規模は、溝の上幅が1.00m～1.10m前後の比較的均一な幅である。確認面からの深さは、北端で10cm、南端で48cmあり、南に向かって段々に深くなっている。壁は、緩やかに傾斜し、底面比較的広くやや丸みを帯びている。

第23号溝跡土層説明

第1層：暗褐色土層（径1.5cmの礫を多量に、径0.1cmのローム粒子を少量含む。粘性なし、しまりあり。）

第2層：暗褐色土層（径1～1.5cmのロームブロック、径1cmの礫を少量含む。粘性なし、しまりあり。）



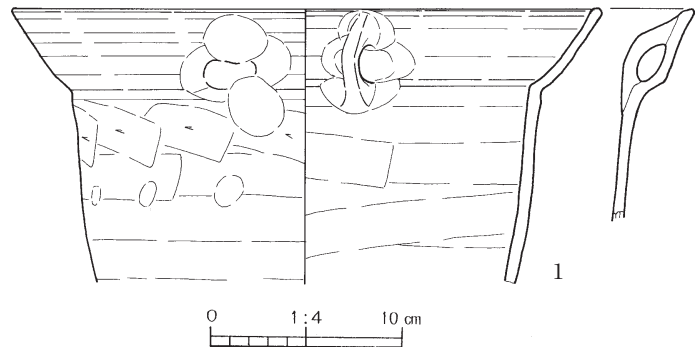
第35図 第23号溝跡

出土遺物は、古墳時代前期～白鳳時代の土師器の破片や、中世後期の15世紀後半以降の内耳鍋の破片が、覆土中から少量出土しただけである。本溝跡の時期は、覆土の状態や出土遺物から、15世紀後半以降の中世後期と考えられ、あるいは溝北端に位置する第18号井戸跡から南側低地の水田部に延びる灌漑用の溝であった可能性もあろう。

第24号溝跡（第37図、図版6）

調査区の西端に位置し、東側には第25号溝跡が並走している。溝跡の南端は、すでに削平されている。形態は、南西から北東方向に向いて直線的な流路を取っており、その延長部分は北側の久下前遺跡D 2地点やさらに道路北側の久下東遺跡B地点で検出されている。規模は、北側のD 2地点で検出された部分を見ると、溝の上幅が1.20m前後の比較的均一な幅のようで、確認面からの深さは35cmある。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、底面は広く平坦である。覆土中には、浅間山系A軽石を均一に含んでいる。

出土遺物は、覆土中から中世後期の内耳鍋の大形破片（第36図No 1）が出土しただけである。本溝跡の時期は、覆土の状態から近世後半以降と考えられ、ほ場整備実施以前までであった道の側溝的性格の溝と思われる。



第36図 第24号溝跡出土遺物

第24号溝跡出土遺物観察表

1	内 耳 鍋	A. 口縁部径 (31.2)、残存高 14.5。B. 粘土紐積み上げ。内耳貼り付け。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面雑なケズリの後ナデ、内面篋ナデ。D. 白色粒。E. 内外-黒灰色、肉-淡褐色。F. 上半 1/2 弱。H. 覆土中。
---	-------	--

第25号溝跡（第37図、図版6）

調査区の西端に位置し、西側には第24号溝跡が、東側には第32号溝跡が並走している。溝跡の南端は、すでに削平されている。形態は、南西から北東方向に向いて直線的な流路を取っており、その延長部分は北側の久下前遺跡D 2地点やさらに道路北側の久下東遺跡B 3地点で検出されている。規模は、溝の上幅が1 m前後の比較的均一な幅で、確認面からの深さは14cm程度ある。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、底面は広く平坦である。覆土中には、浅間山系A軽石を均一に含んでいる。

出土遺物は、覆土中から古代の土師器や須恵器の小破片が数片出土しただけである。本溝跡の時期は、覆土の状態から近世後半以降と考えられる。おそらく、第24号溝跡と関連する道の側溝的性格の溝と思われるが、北側の久下東遺跡B地点では第24号溝跡延長部分のさらに西側にも並走する同様の溝跡が検出されていることから、第24号溝跡と同時に存在していたものかは不明である。



第26号溝跡土層説明

- 第1層：暗灰褐色土層（浅間山系A軽石、ローム粒を均一に、炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第2層：暗灰褐色土層（浅間山系A軽石を均一に、ローム粒を微量含む。粘性、しまり共になし。）
- 第3層：暗黄褐色土層（淡黄白色粘土ブロックを均一に、ローム粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第4層：淡灰褐色土層（浅間山系A軽石、ローム粒を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第5層：暗黄褐色土層（淡黄白色粘土ブロックを多量に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第6層：暗灰褐色土層（鉄斑を均一に、ローム粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第7層：淡灰褐色土層（鉄斑、細砂を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第24・25・32号溝跡土層説明

＜第24号溝跡＞

- 第1層：淡褐色土層（浅間山系A軽石、ロームブロック、小石を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第2層：暗褐色土層（浅間山系A軽石を均一に、ローム粒、炭化粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

＜第25号溝跡＞

- 第3層：暗褐色土層（浅間山系A軽石、ローム粒を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

＜第32号溝跡＞

- 第4層：黒褐色土層（ローム粒を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第37図 第24～26・32号溝跡

第26号溝跡（第37図、図版6）

調査区の西側に位置し、調査区中央部の旧水田部と西側旧宅地の地境の段に沿っている。形態は、南西から北東方向に向いて、段に沿って直線的な流路を取っており、道路北側の久下東遺跡B3地点でその延長部分は北東方向から南東方向のほぼ直角に向きを変えている。本溝跡は、掘り返されており、南側で若干流路が異なって重複する部分が見られる。規模は、溝の上幅が北側で80cm、南側で1m前後あり、北側に向かって徐々に細くなっている。確認面からの深さは北側で42cm、南側で46cmある。溝断面の形態は、北側は上半が緩やかに傾斜して中位から直線的に急傾斜して落ち込む小規模な葉研堀状で、南側は断面逆台形の箱堀状である。覆土中には、浅間山系A軽石を均一に含んでいる。

出土遺物は、覆土中から近世以降の陶磁器や瓦の破片が比較的多く出土している。本溝跡の時期は、覆土の状態や出土遺物の様相から、近世後半以降と考えられる。

第27号溝跡（第38図、図版6・7）

調査区の中央部に位置し、重複する第394号土坑と第28号溝跡に切られ、第390号土坑を切っている。本溝跡は、本地点の北側の道路を挟んで隣接する久下東遺跡B地点(松本・大熊他2009)で検出された第1号溝跡と同一の溝である。形態は、調査区内で四角に巡っているが、東側の溝は直線ではなく北側が弓状に張り出している。規模は、溝の上幅が3m前後の比較的均一な幅であるが、遺構上面はローム層下の粘土層まで削平されているため、本来は北側隣接地の久下東遺跡B地点の第1号溝跡と同じく5m以上はあったものと考えられる。確認面からの深さは、西側溝の北端で最高1.10m、南側溝で60cm、西側溝で77cmを測るが、本来は1.50m以上あったものと思われる。壁は、直線的ではあるが、緩やかな傾斜で立ち上がり、底面は狭く平坦である。覆土は、上半が削平されているため明確ではないが、上半部に大形のロームブロックの混入が顕著に見られる。

出土遺物は、常滑窯系の甕(No1・2)と片口鉢I類(No4)の破片、瀬戸窯系の瓶子(No3)、在地産の内耳鍋(No5～13)、片口鉢(No15・19・20)、播鉢(No14・16～18)、かわらけ(No21～25)の破片や、柱状砥石(No30)と茶臼の下臼(No31)の破片、五輪塔の地輪(No32)と火輪(No33)などが出土している(第41～43図)。本溝跡の時期は、No5の内耳鍋やNo25のかわらけなど、16世紀以降の遺物が少量混入しているが、主体となる遺物の様相からは、概ね中世後期の15世紀後半と考えられる。

第27号溝跡土層説明 <A-A'>

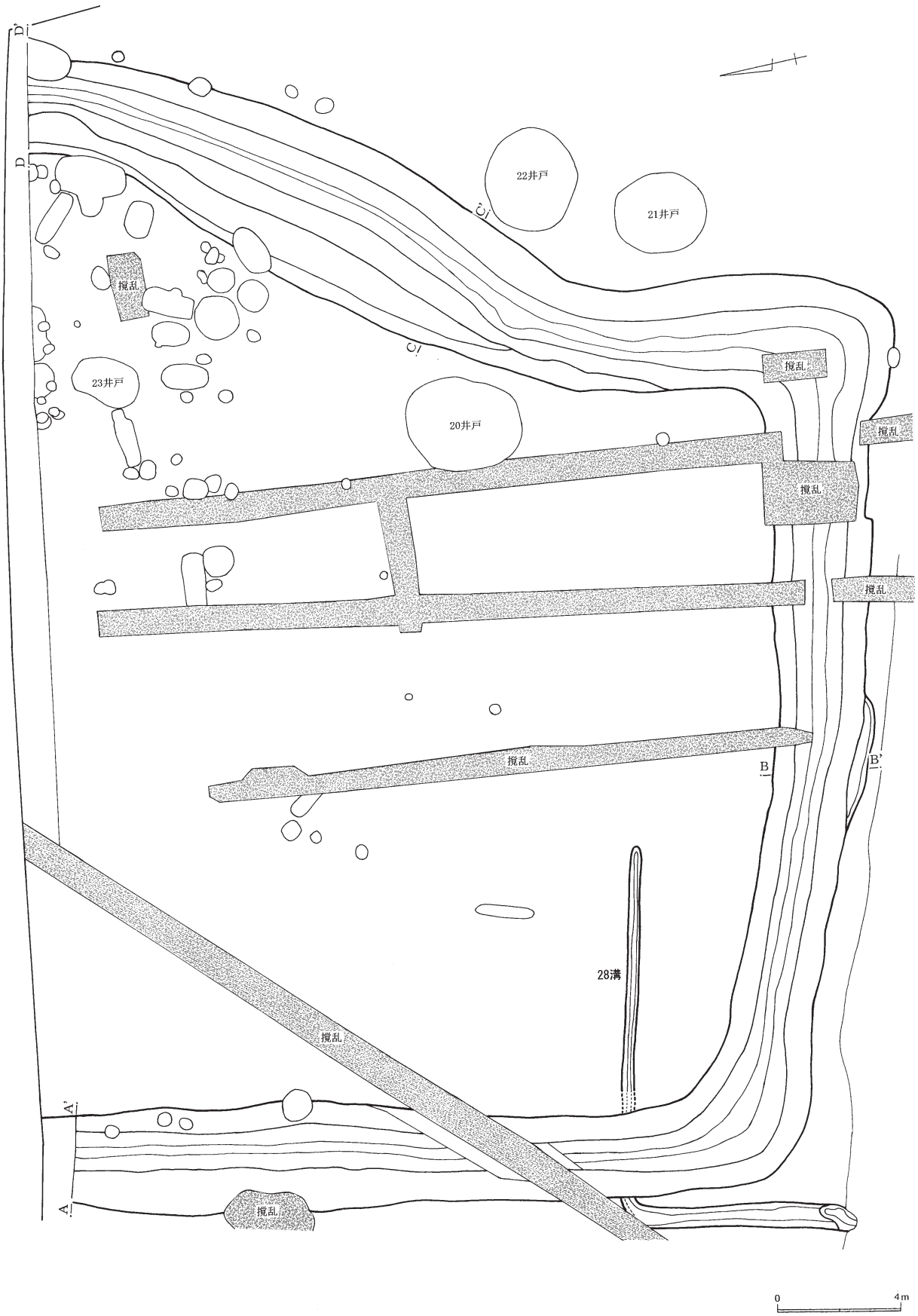
第1層：暗褐色土層（鉄斑を均一に、ローム粒、焼土粒、炭化物粒、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗茶褐色土層（ローム粒、ロームブロックを均一に、焼土粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

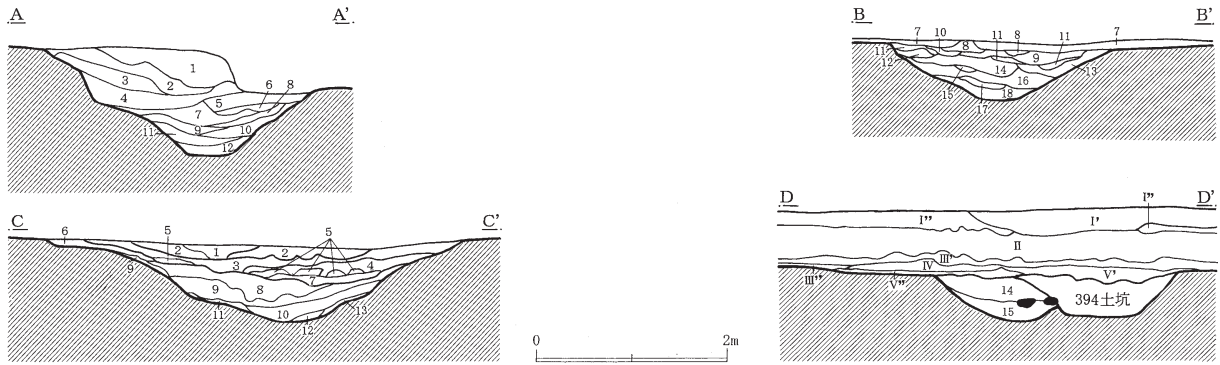
第3層：暗黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：暗茶褐色土層（ローム粒を均一に、白色粘土粒、白色粘土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第5層：暗灰褐色土層（鉄斑を均一に、ローム粒、白色粘土粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）



第38図 第27号溝跡



第39図 第27号溝跡土層断面図

- 第6層：暗褐色土層（鉄斑を均一に、白色粘土粒、白色粘土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第7層：暗灰褐色土層（ローム粒、白色粘土ブロックを均一に、鉄斑を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第8層：淡黄灰色土層（淡黄白色粘土を主体にマンガン塊、ローム粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第9層：暗灰色土層（鉄斑、ローム粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第10層：淡灰色土層（鉄斑、黄白色粘土粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第11層：淡灰色土層（細砂、黄白色粘土ブロック、白色粘土粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第12層：淡灰色土層（細砂、黄白色粘土粒を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<B-B'>

- 第7層：暗褐色土層（浅間山系A軽石、鉄斑を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第8層：暗黄灰色土層（ロームブロック、マンガン塊を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第9層：暗灰色土層（ローム粒、淡黄白色粘土ブロック、マンガン塊を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第10層：淡灰褐色土層（ローム粒を均一に、マンガン塊を微粒含む。粘性に富み、しまりを有する。）
 第11層：淡黄灰色土層（淡黄白色粘土ブロックを主体とする。粘性に富み、しまりを有する。）
 第12層：淡灰褐色土層（ローム粒を均一に、淡黄白色粘土ブロック、マンガン塊を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

- 第13層：淡灰褐色土層（鉄斑を均一に、ローム粒、マンガン塊を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

- 第14層：淡灰褐色土層（鉄斑、ローム粒を均一に、淡黄白色粘土ブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

- 第15層：暗灰褐色土層（細砂、鉄斑を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

- 第16層：淡灰褐色土層（細砂、ローム粒、鉄斑を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

- 第17層：淡黄灰色土層（淡黄灰粘土ブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

- 第18層：淡灰褐色土層（ローム粒、鉄斑、炭化粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

<C-C'>

- 第1層：黒褐色土層（鈍い黄褐色土粒を少量、炭化物、焼土粒、径3cmの礫を微量含む。粘性、しまり共になし。）

- 第2層：暗褐色土層（径1cmのローム塊、径3cmの礫を少量、ローム粒、炭化物、焼土粒、径5cmの礫を微量含む。粘性なし、しまり強い。）

- 第3層：暗褐色シルト質砂層（ローム粒を少量、炭化物、焼土粒、径1cmのローム塊、径1cmの礫を微量含む。粘性なし、しまり強い。）

- 第4層：暗褐色砂質シルト層（径1cmのローム塊、ローム粒、炭化物、焼土粒、径1cmの礫を微量含む、酸化鉄、鈍い黄褐色砂を斑状に少量含む。粘性なし、しまり強い。）

- 第5層：鈍い黄褐色砂層（酸化鉄を斑状に多量含む。粘性なし、しまり強い。）

- 第6層：暗褐色砂質シルト層（ローム粒、炭化物粒、焼土粒、鈍い黄褐色砂粒を微量含む。粘性なし、しまり強い。）

- 第7層：暗褐色砂質シルト層（径1cmのローム塊、ローム粒、焼土粒、鈍い黄褐色砂粒を微量含む、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性なし、しまり強い。）

- 第8層：黒褐色シルト層（径5mmの酸化鉄を少量含む、径10cmの礫、鈍い黄褐色砂粒を微量、酸化鉄、径1cmの褐色砂塊を斑状に少量含む。粘性、しまり共に強い。）

- 第9層：鈍い黄褐色シルト層（ローム粒、径5mmの炭化物を微量含む、酸化鉄を斑状に微量、褐色砂を斑状に多量含む。粘性、しまり共に強い。）

- 第10層：鈍い黄褐色シルト層（焼土粒、径1cmの礫を微量、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性、しまり共に強い。）

- 第11層：褐色砂層（鈍い黄褐色砂を斑状に多量含む。粘性、しまり共に強い。）

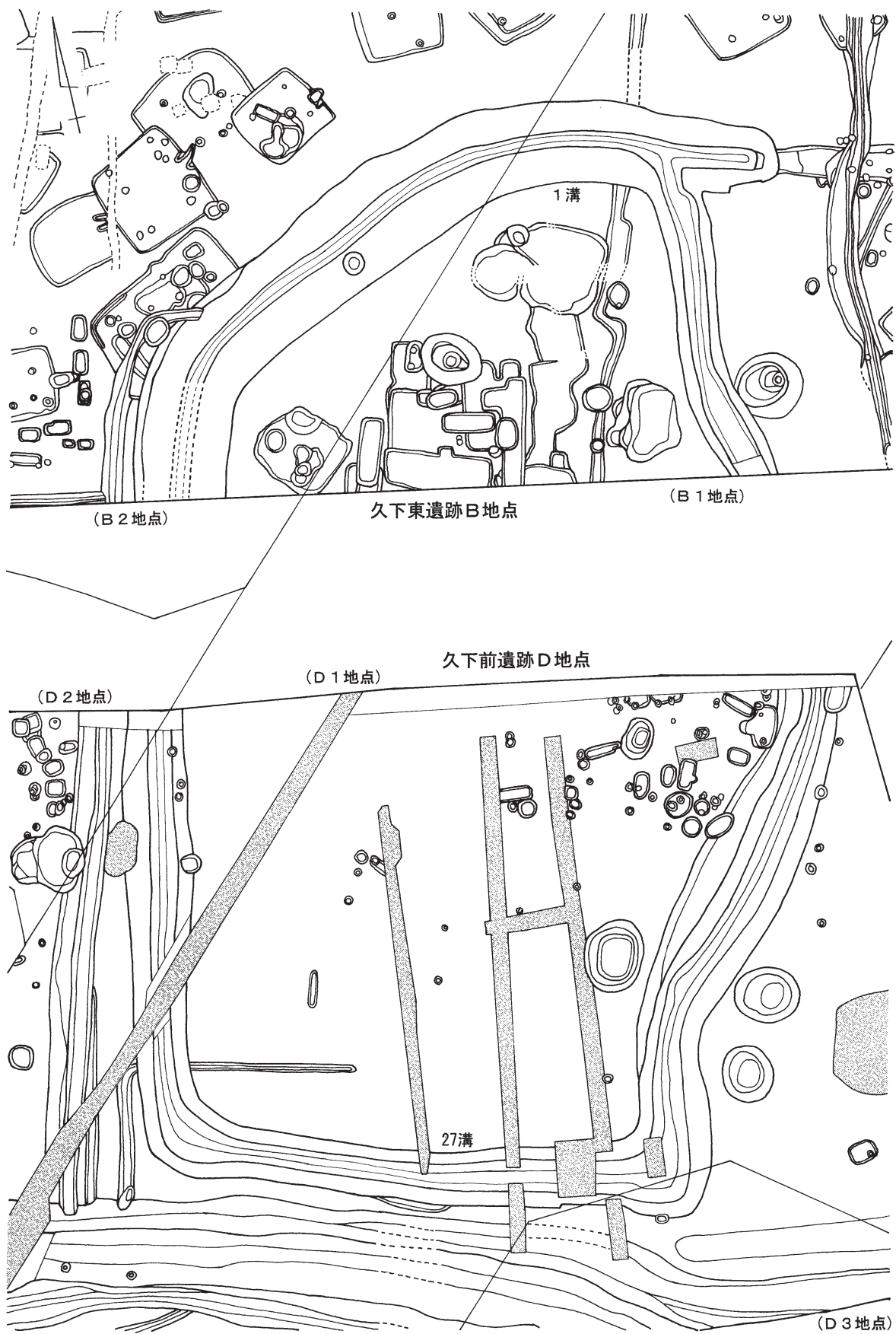
- 第12層：鈍い黄褐色砂質シルト層（酸化鉄を斑状に微量、鈍い黄褐色砂を斑状に多量含む。粘性強く、しまりなし。）

- 第13層：鈍い黄褐色シルト質砂層（黄褐色シルト、径1cmの礫を少量含む、炭化物を微量、酸化鉄を上層に带状に少量含む。粘性なし、しまり強い。）

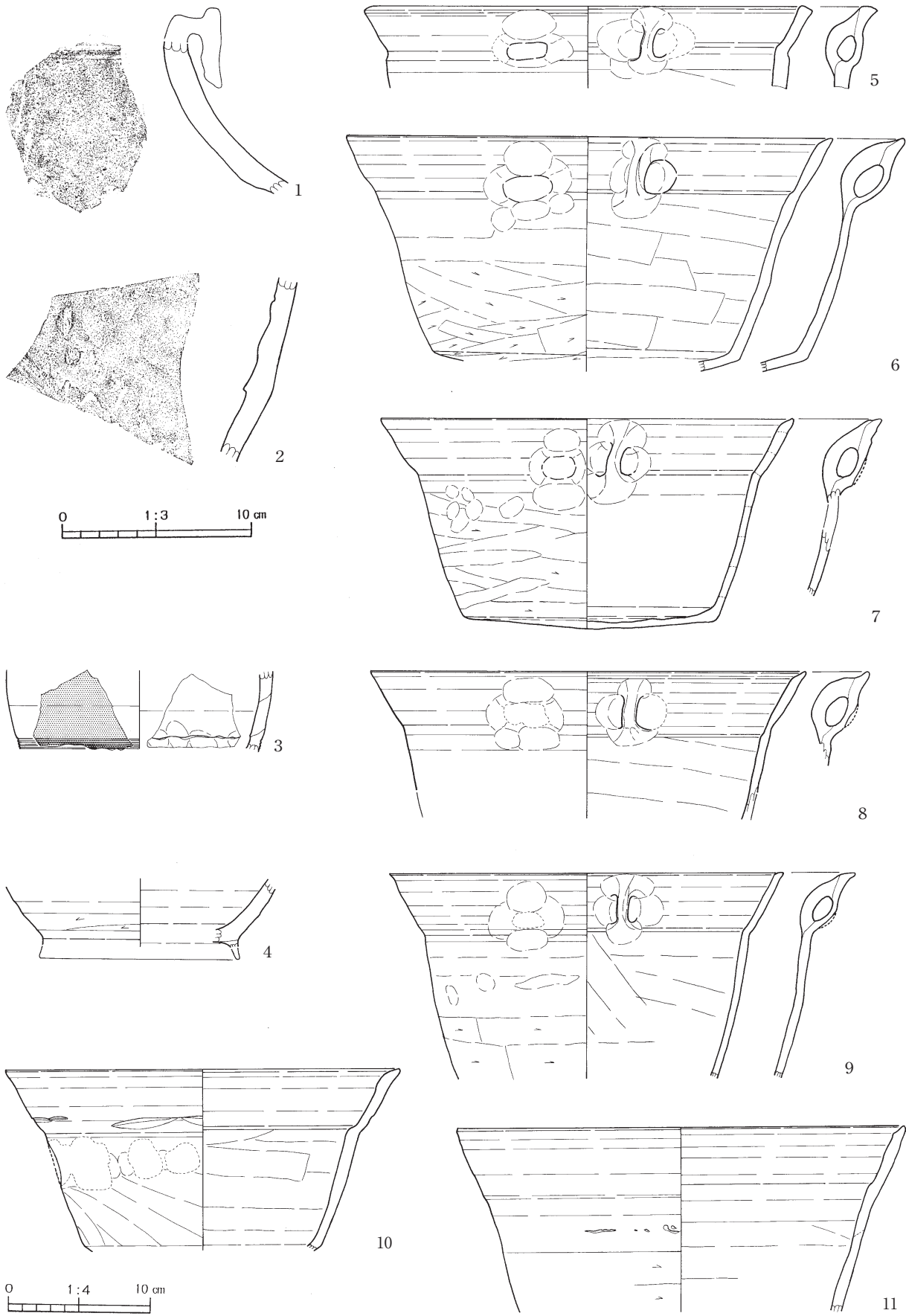
<D-D'>

- 第14層：黄褐色シルト質砂層（炭化物、焼土粒、径5cmの礫を微量含む、酸化鉄を斑状に微量、暗褐色土粒を斑状に多量含む。粘性なし、しまり強い。）

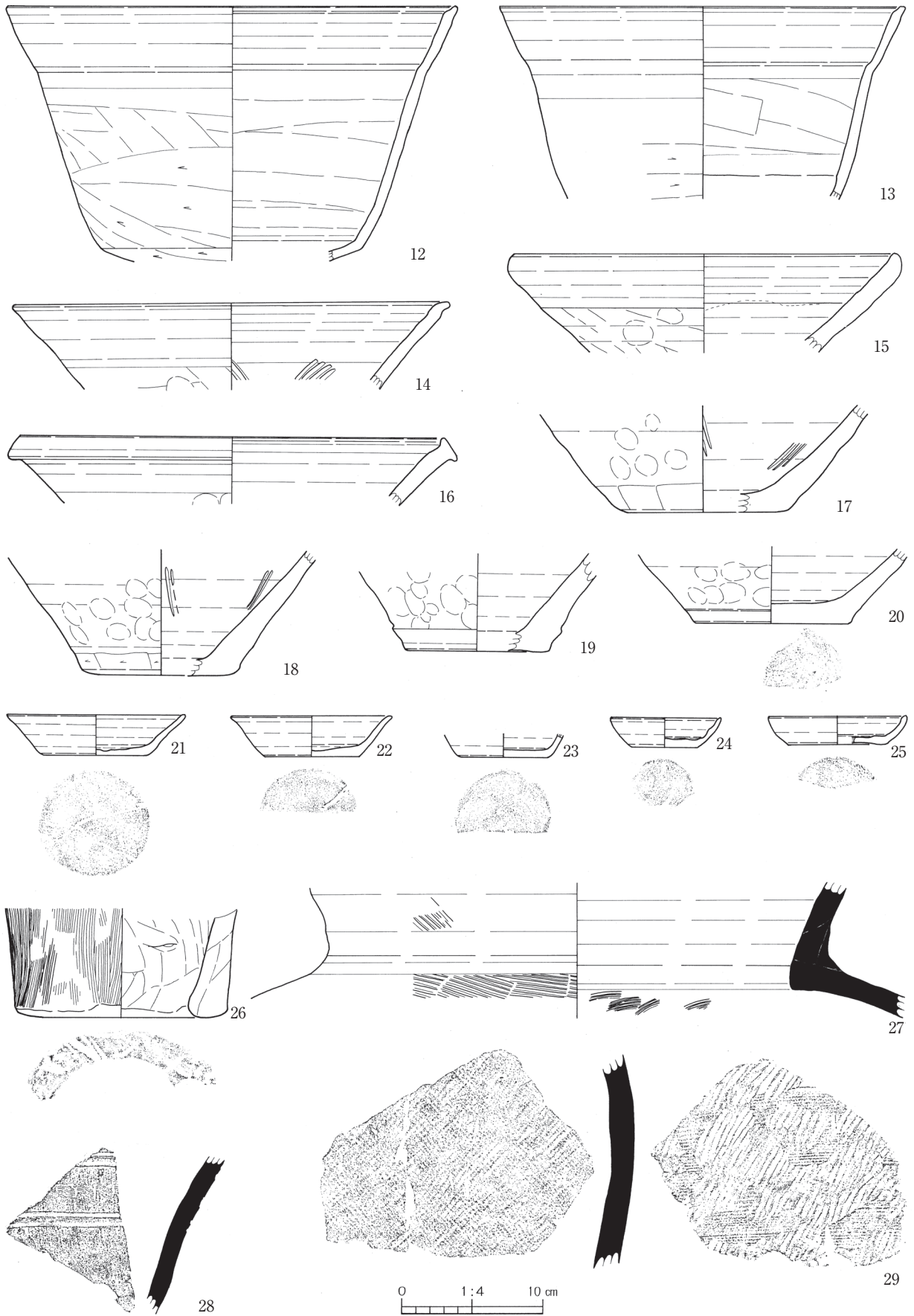
- 第15層：灰黄褐色砂質シルト層（ローム粒を少量含む、径5mmの炭化物、焼土粒、礫を微量、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性、しまり共に強い。）



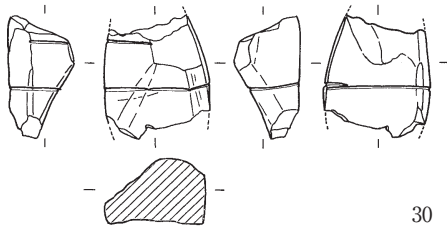
第40図 久下東遺跡B地点第1号溝跡・久下前遺跡D地点第27号溝跡全体図



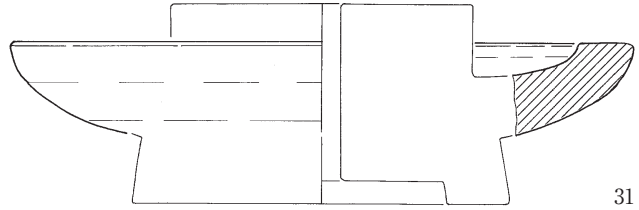
第41图 第27号沟迹出土遗物 (1)



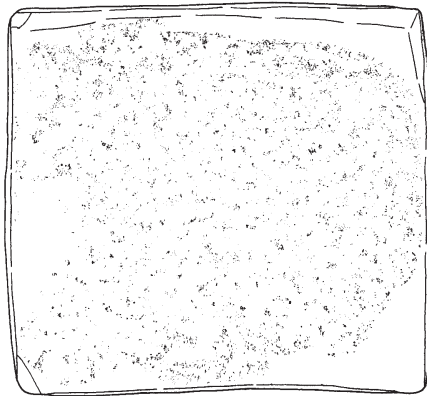
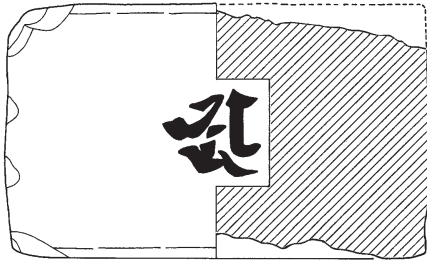
第42图 第27号沟迹出土遗物 (2)



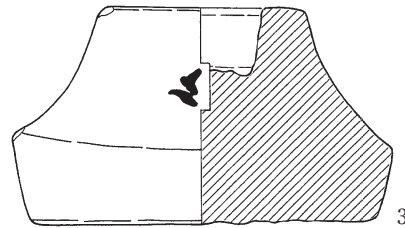
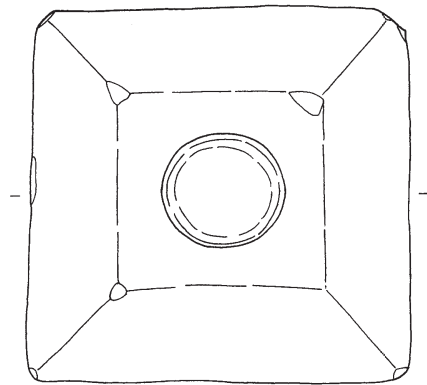
30



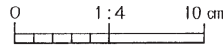
31



32



33



第43図 第27号溝跡出土遺物（3）

第27号溝跡出土遺物観察表

1	常滑窯系甕	B. 粘土紐積み上げ後叩き。C. 頸部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面甕ナデ。D. 淡橙褐色粒、白色粒。E. 内外-暗褐色。F. 破片。H. 覆土中。
2	常滑窯系甕	B. 粘土紐積み上げ後叩き。C. 胴部内外面ナデ。D. 淡橙褐色粒、白色粒。E. 外-明茶褐色、内-暗褐色。F. 破片。H. 覆土中。
3	瀬戸窯系瓶子	A. 胴部最大径(18.8)。B. 粘土紐積み上げ後ロクロ整形。C. 胴部内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 外-淡褐色、内-淡灰褐色。F. 胴部破片。G. 外面に淡緑色釉を施す。H. 覆土中。
4	常滑窯系片口鉢	A. 底部径(13.8)。B. 粘土紐積み上げ後ロクロ整形。高台部貼り付け。C. 体部外面回転ナデの後下端ケズリ、内面回転ナデ。高台部内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-淡灰色。F. 体部下半1/4。G. 内面は良く擦れている。H. 覆土中。
5	内耳鍋	A. 口縁部径(32.0)。B. 粘土紐積み上げ。内耳貼り付け。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒、雲母粒。E. 外-暗褐色、内-淡灰褐色、肉-灰色。F. 口縁部1/6。G. 外面煤付着。H. 覆土中。
6	内耳鍋	A. 口縁部径34.4、残存高16.6、底部径21.8。B. 粘土紐積み上げ。内耳貼り付け。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面甕ナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒。E. 外-暗褐色、内-淡褐色。F. 1/2。G. 片口鉢I類。外面煤付着。口縁部に補修孔と思われる径6mmの穿孔あり。H. 覆土中。
7	内耳鍋	A. 口縁部径29.4、器高14.9、底部径(18.0)。B. 粘土紐積み上げ。内耳貼り付け。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面雑なケズリの後指ナデ、内面丁寧なナデ。底部内外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-黒褐色、底部外面-暗褐色、肉-明茶褐色。F. 2/3。G. 外面煤付着顕著。H. 覆土中。
8	内耳鍋	A. 口縁部径(31.0)。B. 粘土紐積み上げ。内耳貼り付け。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面甕ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-暗褐色、内-淡灰褐色。F. 口縁部1/4強。G. 外面煤付着顕著。H. 覆土中。

9	内 耳 鍋	A. 口縁部径 (28.0)、残存高 14.5。B. 粘土紐積み上げ。内耳貼り付け。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面窺ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗灰色、肉-淡灰褐色。F. 口縁部 1/4 強。G. 外面煤付着顕著。H. 覆土中。
10	内 耳 鍋	A. 口縁部径 (28.0)、残存高 12.9、底部径 (16.8)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面窺ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外-暗茶褐色、内-淡褐色、肉-淡灰色。F. 1/2 弱。G. 外面煤付着顕著。外面胴部上半に大きな斑点状剥落が並ぶ。H. 底面付近。
11	内 耳 鍋	A. 口縁部径 (32.0)、残存高 13.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窺ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-淡茶褐色、内-淡褐色。F. 口縁部 1/5。G. 外面煤付着。H. 覆土中。
12	内 耳 鍋	A. 口縁部径 (32.0)、残存高 18.0、底部径 (18.6)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面窺ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-黒褐色、内-淡灰褐色。F. 口縁部 1/4。G. 外面煤付着顕著。H. 覆土中。
13	内 耳 鍋	A. 口縁部径 (29.0)、残存高 13.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面窺ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-黒褐色、内-暗灰褐色、肉-暗灰色。F. 口縁部 1/4。G. 外面煤付着顕著。H. 覆土中。
14	播 鉢	A. 口縁部径 (31.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗灰色。F. 口縁部 1/8 破片。G. 内面に播目を施す。H. 覆土中。
15	片 口 鉢	A. 口縁部径 (27.8)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗灰色。F. 口縁部 1/6 破片。G. 内面は良く擦れている。H. 覆土中。
16	播 鉢	A. 口縁部径 (31.8)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明橙褐色。F. 口縁部 1/8 破片。H. 覆土中。
17	播 鉢	A. 底部径 (12.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 体部外面ナデの後下端ケズリ、内面ナデ。底部外面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外-明茶褐色、内-暗灰褐色。F. 底部 1/4 破片。G. 内面に播目を施す。H. 覆土中。
18	播 鉢	A. 底部径 (11.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 体部外面ナデの後下端ケズリ、内面ナデ。底部外面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗灰色。F. 底部 1/4 破片。G. 内面に播目を施す。H. 覆土中。
19	片 口 鉢	A. 底部径 (10.2)。B. 粘土紐積み上げ。C. 体部内外面ナデ。底部外面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗灰色。F. 底部 1/6 破片。G. 内面は良く擦れている。H. 覆土中。
20	片 口 鉢	A. 底部径 (11.2)。B. 粘土紐積み上げ。C. 体部内外面ナデ。底部外面回転糸切り。D. 白色粒。E. 内外-暗灰色。F. 底部 1/6 破片。G. 内面は良く擦れている。H. 覆土中。
21	かわらけ	A. 口縁部径 12.6、器高 2.9、底部径 7.7。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒、雲母粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 3/4。H. 覆土中。
22	かわらけ	A. 口縁部径 (11.4)、器高 2.9、底部径 6.8。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
23	かわらけ	A. 残存高 1.6、底部径 6.2。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 底部 1/2。H. 覆土中。
24	かわらけ	A. 口縁部径 (7.8)、器高 2.1、底部径 (4.6)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
25	かわらけ	A. 口縁部径 (9.8)、器高 2.0、底部径 (6.8)。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
26	埴 輪	A. 底部径 (15.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ハケ、内面指ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 底部 1/3 破片。H. 覆土中。
27	須 恵 器	B. 粘土紐積み上げ後叩き。C. 頸部内外面ヨコナデ。胴部外面平行叩目、内面当道具痕 (青海波文) を残す。D. 白色粒。E. 内外-暗灰色。F. 頸部 1/6 破片。H. 覆土中。
28	須 恵 器	B. 粘土紐積み上げ後叩き。C. 頸部外面ヨコナデの後 7 本歯の櫛描波状文、内面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 頸部破片。H. 覆土中。
29	須 恵 器	B. 粘土紐積み上げ後叩き。C. 胴部外面平行叩目、内面ハケ。D. 白色粒。E. 外-暗灰色、内-灰色。F. 胴部破片。H. 覆土中。
30	砥 石	A. 残存長 6.1、最大幅 5.6、厚さ 3.5。C. 表面の各平坦面は良く擦れている。D. 砂岩。F. 破片。G. 線刻は 2 条見られ、1 条は裏側の剥離面にも施されて一周している。各面には鉄分が付着して茶色化している。H. 覆土中。
31	茶 白 (下 白)	A. 受皿径 (33.0)。B. 削り出し。C. 表面は丁寧な研磨。D. 安山岩。F. 受皿部 1/8 破片。H. 覆土中。
32	五 輪 塔 (地 輪)	A. 長さ 20.5、幅 22.5、高さ 13.5。B. 削り。C. 側面は研磨。D. 角閃石安山岩。F. ほぼ完形。G. 梵字は線刻内に墨入れ。H. 覆土中。
33	五 輪 塔 (火 輪)	A. 最大幅 20.0、高さ 11.5。B. 削り出し。C. 下面以外は各面とも研磨。D. 砂岩。F. 完形。G. 梵字は簡略化し、線刻内に墨入れ。上面に窪み穴を持つ。H. 底面。

第28号溝跡 (第38図)

調査区中央部の西側寄りに位置し、重複する第27号溝跡を切っている。本溝跡は、調査前の建物等に伴う排水溝で、現代のものである。

第29号溝跡（第44図、図版8）

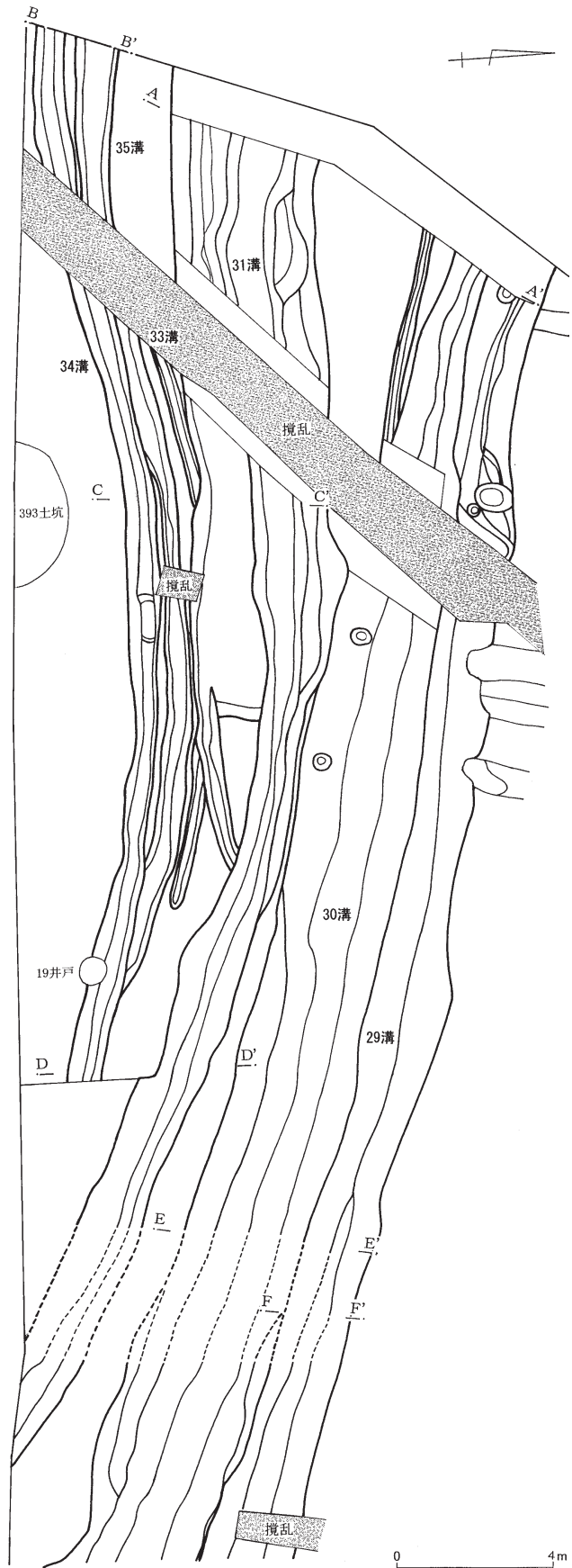
調査区南側の微高地のローム土と低地の黒色土の境界付近に位置し、重複する第30号溝跡を切っている。形態は、東西方向に向いて緩やかに湾曲した流路をとっており、おそらく調査区東側の第22号溝跡と関係するものと思われる。規模は、溝の上幅が西側で2m、東側で4m程度あり、確認面からの深さは東側で80cmある。壁は緩やかに傾斜し、底面は平坦である。覆土中には、浅間山系A軽石を均一に含んでいる。

出土遺物は、覆土中から近世以降の陶磁器の破片が少量出土している。本溝跡の時期は、覆土の状態や出土遺物から、近世以降の所産と考えられる。

第30号溝跡（第44図、図版8）

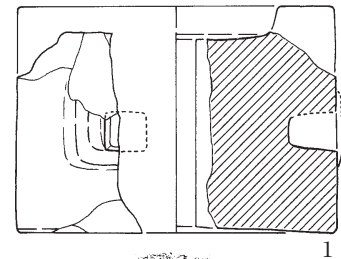
調査区南側の微高地のローム土と低地の黒色土の境界に位置し、重複する近世以降の第29号溝跡に切られ、古墳時代の河川跡を切っている。形態は、調査区内では東西方向に向いて直線的な流路をとっているが、溝の西端部では幅が狭くなり、深さも徐々に浅くなっている。規模は、溝の西端で上幅1.10m・確認面からの深さ16cm、東側で上幅3.50m・確認面からの深さ65cmある。土層断面の観察では、徐々に埋没しながらも、何度か浅く掘り返された形跡が認められることから、掘削当初は第24号溝跡や第25号溝跡の南側延長付近で本溝跡の西端部は途切れていた可能性もある。

出土遺物は、覆土中から古代の土師器



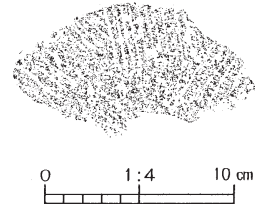
第44図 第29～35号溝跡

や須恵器の破片とともに、15世紀後半以降の内耳鍋の破片や茶臼の上臼の破片(第45図No 1)が出土しただけである。本溝跡の時期は、出土遺物の様相から中世後期の15世紀後半頃と考えられ、北側に隣接して一部並走する第27号溝跡と同時に存在していた可能性が高いと思われる。

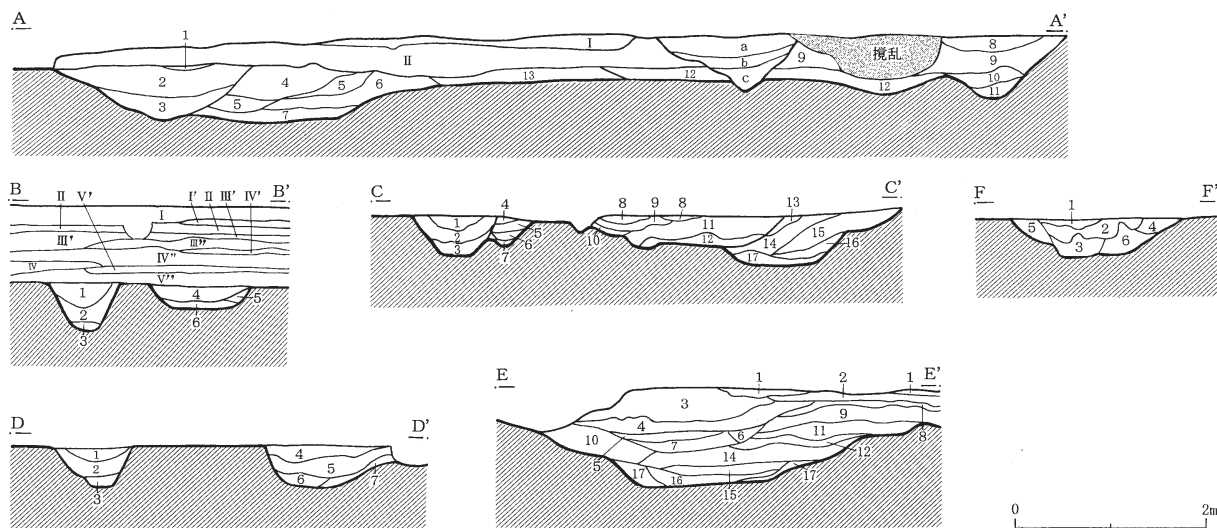


第30号溝跡出土遺物観察表

1	茶臼 (上臼)	A.直径(17.0)、残存高10.6。B.削り出し。C.上面・側面丁寧な研磨。D.安山岩。F.1/3破片。G.挽き木穴は四角形ぎみの形態で、周辺は若干盛りあがっている。H.覆土中。
---	------------	--



第45図 第30号溝跡出土遺物



第46図 第29~35号溝跡土層断面図

第29~35号溝跡土層説明

< A - A' >

第I層：浅間山系A軽石を多量含む。

第II層：淡灰褐色粘土層

第a層：淡灰褐色土層（鉄斑を均一に、ローム粒、小礫を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第b層：淡灰褐色土層（鉄斑、小石を均一に、小礫を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第c層：淡灰褐色土層（細砂を主体に、小石、小礫を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第1層：黒褐色土層（細砂を均一に、ローム粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：淡灰褐色土層（鉄斑を均一に、小石、炭化粒、ローム粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：淡灰褐色土層（細砂を主体に鉄斑、小石を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：暗灰褐色土層（鉄斑、細砂を均一に、小石、ローム粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第5層：暗灰褐色土層（細砂を主体に小石を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第6層：淡灰色土層（細砂を主体に小石、小礫を微量含む。粘性、しまり共になし。）

第7層：暗灰色土層（細砂、小石、小礫を均一に含む。粘性、しまり共になし。）

第8層：淡褐色土層（浅間山系A軽石、小石を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第9層：淡褐色土層（小石を均一に、浅間山系A軽石、ローム粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第10層：暗灰色土層（鉄斑、ロームブロック、炭化粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第11層：暗灰色土層（細砂、小石を主体に小礫を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第12層：暗灰色土層（細砂、小礫を多量含む。粘性、しまり共になし。）

第13層：暗灰色土層（細砂を多量に、小石を微量含む。粘性、しまり共になし。）

< B - B' >

第I層：暗褐色砂質土層（径3cmの礫を多量に含み、浅間山系A軽石を微量含む。粘性なし、しまり強い。）

第I'層：暗褐色砂質土層（ローム粒を多量に、径3cmのローム塊、径1cmの礫を少量含む。粘性なし、しまり強い。）

- 第Ⅱ層：暗褐色砂質土層（ローム粒を多量に、焼土粒を少量、径3cmのローム塊、径1cmの礫、浅間山系A軽石を微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第Ⅲ層：鈍い黄褐色シルト質砂層（径1cmのローム塊、浅間山系A軽石を少量含む、径5cmのローム塊、酸化鉄、径1cmの礫を微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第Ⅲ'層：鈍い黄褐色シルト質砂層（浅間山系A軽石を少量、径1cmのローム塊、焼土粒を微量含む、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第Ⅳ層：灰黄褐色シルト層（酸化鉄を少量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第Ⅳ'層：灰黄褐色シルト質砂層（浅間山系A軽石を多量に、酸化鉄を斑状に多量含む、径1cmの礫を少量、径1cmのローム塊、径3cmの礫を微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第Ⅳ3層：灰黄褐色砂質シルト層（浅間山系A軽石を微量含む、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第Ⅴ層：鈍い黄褐色シルト層（黄色味の強い黄褐色土粒を多量に含む、炭化物、焼土粒、浅間山系A軽石を微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第Ⅴ'層：鈍い黄褐色砂質シルト層（黄色味の強い黄褐色土粒を多量に含む、径1cmのローム塊、浅間山系A軽石を少量、径1cmの焼土塊を微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第Ⅵ層：黒褐色シルト質砂層（径1cmのローム塊、炭化物、焼土粒、径1cmの礫を微量含む、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第Ⅵ'層：黒褐色砂質シルト層（ローム粒を微量、径5cmの礫を極微量含む。粘性、しまり共になし。）
- 第Ⅶ層：黒色砂質シルト層（ローム粒、焼土粒を微量含む。粘性強く、しまりなし。）

（第34号溝跡）

- 第1層：黒褐色シルト質砂層（酸化鉄を斑状に少量含む、炭化物、径1cmの焼土塊を微量含む。粘性、しまり共になし。）
- 第2層：黒褐色砂質シルト層（径1cmの焼土塊、焼土粒、径3cmの礫を微量含む、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第3層：黒褐色シルト質砂層（径1cmの礫を少量、焼土粒を微量含む、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性、しまり共になし。）

（第35号溝跡）

- 第4層：黒褐色シルト質砂層（酸化鉄を斑状に少量含む。粘性強く、しまりなし。）
- 第5層：黒褐色砂質シルト層（炭化物、焼土粒を微量含む、酸化鉄を斑状に含む。粘性、しまり共に強い。）
- 第6層：黒褐色シルト質砂層（径5mmの炭化物、径3cmの焼土塊、径1cmの礫を微量含む、酸化鉄を斑状に微量含む。しまり強く、粘性なし。）
- 第7層：黒褐色砂質シルト層（径3cmの礫を多量に含む、焼土粒を微量、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性、しまり共に強い。）

<C-C'>

（第34号溝跡）

- 第1層：黒褐色シルト質砂層（酸化鉄を斑状に少量含む、炭化物、径1cmの焼土塊を微量含む。粘性、しまり共になし。）
- 第2層：黒褐色砂質シルト層（径1cmの焼土塊、焼土粒、径3cmの礫を微量含む、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第3層：黒褐色シルト質砂層（径1cmの礫を少量、焼土粒を微量含む、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性、しまり共になし。）

（第35号溝跡）

- 第4層：黒褐色シルト質砂層（酸化鉄を斑状に少量含む。粘性強く、しまりなし。）
- 第5層：黒褐色砂質シルト層（炭化物、焼土粒を微量含む、酸化鉄を斑状に含む。粘性、しまり共に強い。）
- 第6層：黒褐色シルト質砂層（径5mmの炭化物、径3cmの焼土塊、径1cmの礫を微量含む、酸化鉄を斑状に微量含む。しまり強く、粘性なし。）
- 第7層：黒褐色砂質シルト層（径3cmの礫を多量に含む、焼土粒を微量、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性、しまり共に強い。）

（第31号溝跡）

- 第8層：黒褐色シルト層（径1cmのローム塊、炭化物を微量含む、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性、しまり共に強い。）
- 第9層：黒褐色砂質シルト層（酸化鉄を斑状に少量含む、径1cmのLVI塊、径1cmの礫を微量含む。粘性、しまり共になし。）
- 第10層：黒褐色砂質シルト層（酸化鉄を斑状に微量含む。粘性、しまり共に強い。）
- 第11層：黒褐色シルト質砂層（酸化鉄を斑状に少量含む、炭化物、径1cmの礫を微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第12層：黒褐色砂層（炭化物、焼土粒を微量含む。粘性、しまり共になし。）
- 第13層：黒褐色シルト質砂層（酸化鉄を斑状に少量含む、ローム粒、炭化物粒を微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第14層：黒褐色砂質シルト層（焼土粒を微量含む、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第15層：暗褐色シルト質砂層（焼土粒を微量含む、酸化鉄を斑状に微量、径10cmの黒褐色シルト塊を含む。粘性強く、しまりなし。）
- 第16層：黒褐色質砂シルト層（ローム粒、焼土粒を微量含む。径5mmの炭化物を含む。粘性、しまり共に強い。）
- 第17層：黒褐色シルト層（径3cmのローム塊、ローム粒、炭化物、焼土粒を微量含む、酸化鉄を斑状に少量含む。粘性強く、しまりなし。）

<D-D'>

（第34号溝跡）

- 第1層：黒褐色シルト質砂層（酸化鉄を斑状に少量含む、炭化物、径1cmの焼土塊を微量含む。粘性、しまり共になし。）

- 第2層：黒褐色砂質シルト層（径1cmの焼土塊、焼土粒、径3cmの礫を微量含み、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第3層：黒褐色シルト質砂層（径1cmの礫を少量、焼土粒を微量含み、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性、しまり共になし。）
- 第4層：黒褐色シルト質砂層（酸化鉄を斑状に少量含み、ローム粒、炭化物粒を微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第5層：黒褐色砂質シルト層（焼土粒を微量含み、酸化鉄を斑状に微量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第6層：黒褐色砂質シルト層（ローム粒・焼土粒・酸化鉄を微量含む。粘性あり、しまりなし。）
- 第7層：黒褐色砂質シルト層（ローム粒、焼土粒を微量含む。径5mmの炭化物を含む。粘性、しまり共に強い。）
- <E-E'>
- 第1層：淡灰色土層（浅間山系A軽石を多量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第2層：暗灰褐色土層（鉄斑を均一に、浅間山系A軽石、ローム粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第3層：淡黄褐色土層（淡黄褐色粘土ブロックを主体とする。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第4層：暗灰褐色土層（鉄斑を均一に、白色粒、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第5層：暗灰色土層（鉄斑、ローム粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第6層：暗灰色土層（白色粒、ローム粒、小石を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第7層：暗灰褐色土層（鉄斑、細砂を均一に、ローム粒、礫を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第8層：暗黄褐色土層（淡黄褐色粘土ブロック、小礫を均一に、ローム粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第9層：暗灰褐色土層（鉄斑を均一に、ローム粒、細砂を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第10層：暗灰色土層（鉄斑、ローム粒を均一に、炭化粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第11層：暗灰色土層（鉄斑、ローム粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第12層：暗灰褐色土層（鉄斑を均一に、ローム粒、小石を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第13層：暗灰褐色土層（黄褐色粘土ブロックを均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第14層：暗灰色土層（鉄斑、細砂、炭化粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第15層：暗灰色土層（鉄斑を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第16層：暗灰色土層（鉄斑を多量に、炭化粒、黄褐色粘質土を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第17層：暗灰色土層（黄褐色粘土粒、炭化粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- <F-F'>
- 第1層：暗灰褐色土層（浅間山系A軽石、鉄斑を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第2層：暗緑灰色土層（浅間山系A軽石を均一に、緑色粘土粒、鉄斑を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第3層：暗灰褐色土層（細砂を多量に、小石、鉄斑を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第4層：暗灰色土層（浅間山系A軽石を均一に、淡黄白色ローム粘土粒、鉄斑を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第5層：暗灰褐色土層（淡黄白色ローム粘土粒を均一に、鉄斑を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）
- 第6層：暗灰褐色土層（細砂、淡黄白色ロームブロック、炭化粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

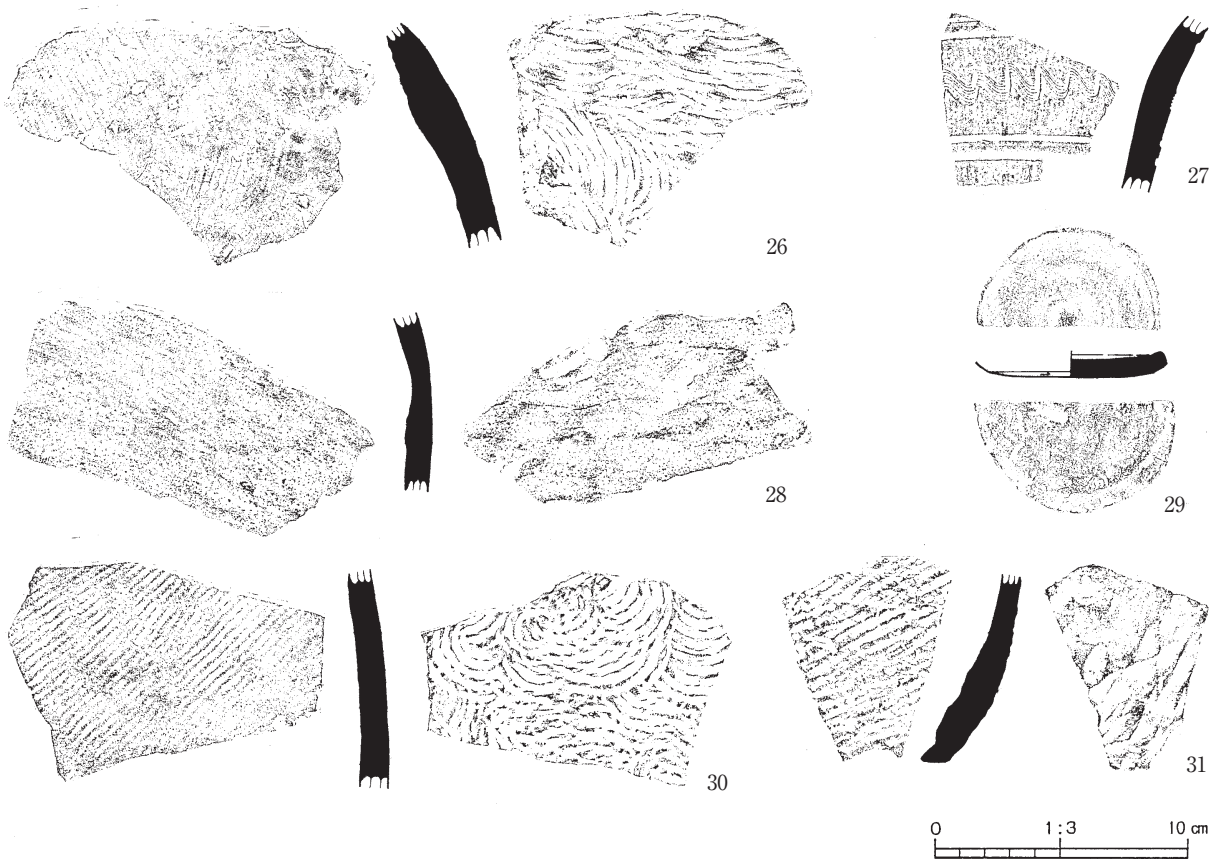
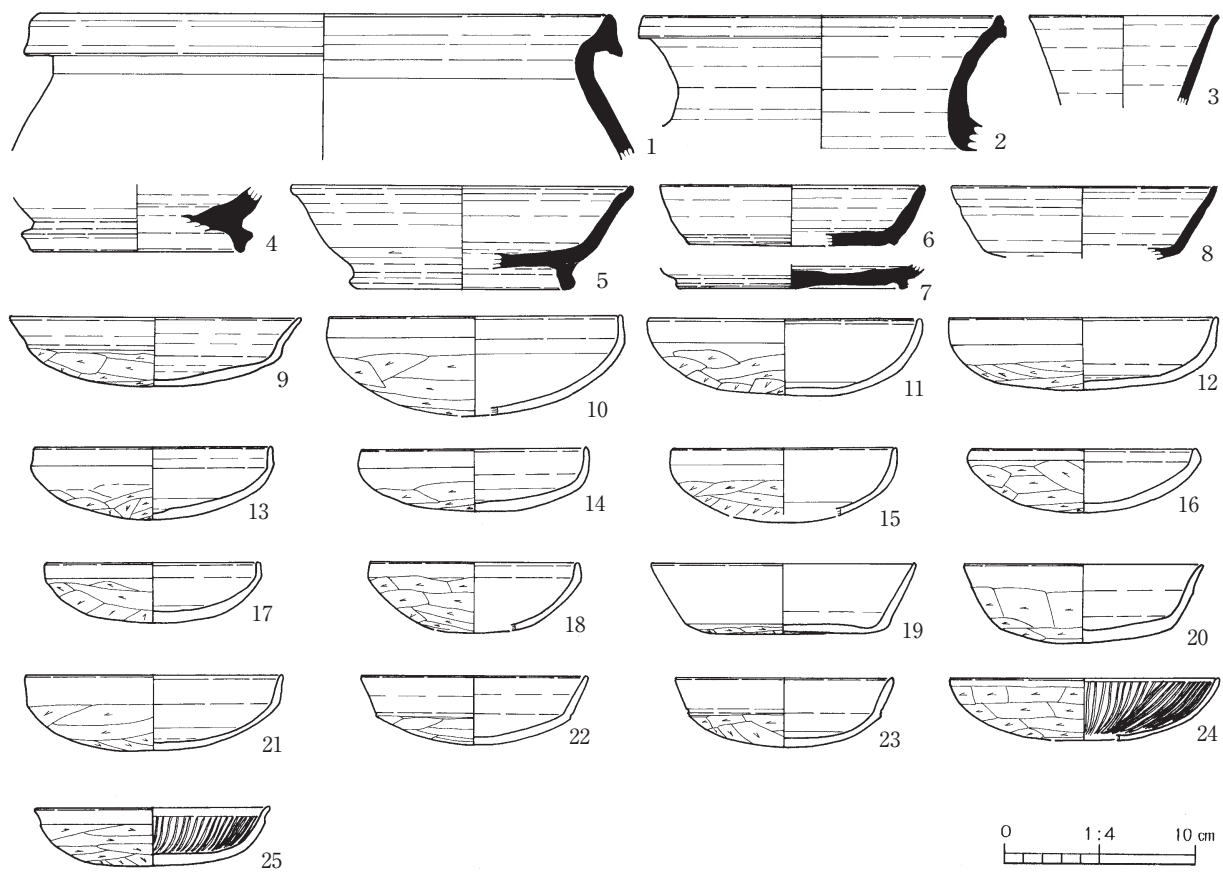
第31号溝跡（第44図、図版8）

調査区南西側の低地の黒色土中に位置し、北側の一部を第30号溝跡に切られている。形態は、東西方向に向いて緩やかに湾曲した流路をとっており、溝の西側では2～3度の掘り返しが認められる。規模は、溝の上幅が1.50m前後の比較的均一な幅で、確認面からの深さは50cm～60cmあり、東に向かって徐々に深くなっている。断面の形態は、逆台形を呈している。

出土遺物は、7世紀後半の白鳳時代から8世紀前半頃の奈良時代までの土師器や須恵器の破片が比較的多く出土している（第47図）。本溝跡の時期は、出土遺物の様相から、7世紀後半の白鳳時代から8世紀前半の奈良時代前半頃の間機能していたと考えられる。

第31号溝跡出土遺物観察表

1	須恵器 甕	A. 口縁部径(31.6)。B. 粘土紐積み上げ後ロクロ整形。C. 口縁部内外面回転ナデ。胴部内外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗灰色、肉-淡茶褐色。F. 口縁部1/8。H. 覆土中。
2	須恵器 甕	A. 口縁部径(19.4)。B. 粘土紐積み上げ後ロクロ整形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 外-暗灰色、内-灰白色、肉-暗茶褐色。F. 口縁部1/4。G. 児玉窯製品に類似。H. 覆土中。
3	須恵器 長頸壺	A. 口縁部径(10.0)。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗灰色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。
4	須恵器 高台付壺	A. 高台部径(12.0)。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗灰色、肉-灰白色。F. 高台部1/3。H. 覆土中。
5	須恵器 高台付坏	A. 口縁部径(18.2)、器高5.5、高台部径(12.0)。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 体部内外面回転ナデ。体部外面下端回転篋ケズリ。底部外面回転篋ケズリ、内面回転ナデ。D. 白色粒、黒色粒。E. 内外-灰色。F. 1/4。H. 覆土中。



第47图 第31号沟迹出土遗物

6	須恵器 高台付坏	A. 口縁部径 (14.0)、器高 3.2、高台部径 (11.2)。B. ロクロ成形。高台部摘み出し。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面篋ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-暗灰色、内-灰色。F. 口縁部 1/4。H. 覆土中。
7	須恵器 高台付坏	A. 高台部径 (12.4)。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 底部外面回転篋ケズリ、内面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-白灰色。F. 高台部 1/4。H. 覆土中。
8	須恵器 坏	A. 口縁部径 (14.0)、残存高 3.8。B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転篋ケズリ。D. 白色粒。E. 内外-黒灰色。F. 口縁部 1/6。H. 覆土中。
9	皿	A. 口縁部径 15.4、器高 3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-淡茶褐色、内-明茶褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
10	坏	A. 口縁部径 (15.6)、器高 5.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明橙褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
11	坏	A. 口縁部径 14.6、器高 4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
12	坏	A. 口縁部径 14.2、器高 3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 完形。H. 覆土中。
13	坏	A. 口縁部径 12.4、器高 3.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
14	坏	A. 口縁部径 12.0、器高 3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
15	坏	A. 口縁部径 (12.0)、残存高 3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 口縁部 1/2。H. 覆土中。
16	坏	A. 口縁部径 (12.0)、器高 3.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-明橙褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
17	坏	A. 口縁部径 11.4、器高 3.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外-暗橙褐色、内-淡褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
18	坏	A. 口縁部径 (11.2)、残存高 3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明橙褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
19	坏	A. 口縁部径 14.0、器高 3.7、底部径 10.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
20	坏	A. 口縁部径 12.6、器高 4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明橙褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
21	坏	A. 口縁部径 13.6、器高 4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 完形。G. 体部外面に黒斑あり。H. 覆土中。
22	坏	A. 口縁部径 12.0、器高 3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
23	坏	A. 口縁部径 11.6、器高 3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 完形。G. 外面に黒斑あり。H. 覆土中。
24	暗文付坏	A. 口縁部径 (14.2)、器高 3.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデの後放射状暗文を施す。D. 白色粒。E. 内外-明橙褐色。F. 口縁部 1/6。H. 覆土中。
25	暗文付坏	A. 口縁部径 (12.4)、器高 3.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデの後放射状暗文を施す。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗橙褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
26	須恵器 甕	B. 粘土紐積み上げ後叩き。C. 胴部外面叩き (平行叩き目) の後ナデ、内面当道具痕 (青海波文) を残す。D. 白色粒、小石。E. 内外-暗灰色。F. 破片。H. 覆土中。
27	須恵器 甕	B. 粘土紐積み上げ後ロクロ成形。C. 頸部外面ハケの後回転ナデ、内面回転ナデ。外面 2 条沈線間に櫛描波状文を施す。D. 白色粒。E. 外-灰褐色、内-茶褐色、肉-淡橙褐色。F. 破片。H. 覆土中。
28	須恵器 甕	B. 粘土紐積み上げ後叩き。C. 胴部外面叩き (平行叩き目) の後ナデ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-黒灰色。F. 破片。H. 覆土中。
29	須恵器 坏	A. 底部径 6.5。B. ロクロ成形。C. 底部外面手持ち篋ケズリ、内面回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外-灰色。F. 底部 1/2。G. 底部外周の断面は擦れて丸くなっている。H. 覆土中。
30	須恵器 甕	B. 粘土紐積み上げ後叩き。C. 胴部外面叩き (平行叩き目)、内面当道具痕 (青海波文) を残す。D. 白色粒、小石。E. 外-暗灰色、内-灰色。F. 破片。H. 覆土中。
31	須恵器 甕	B. 粘土紐積み上げ後叩き。C. 胴部外面叩き (平行叩き目) の後ナデ、内面ナデ (当道具痕を残す)。D. 白色粒。E. 内外-暗灰色。F. 破片。H. 覆土中。

第32号溝跡 (第37図、図版 8)

調査区の西端に位置する。形態は、ほぼ南北方向に直線的な流路をとっている。規模は、

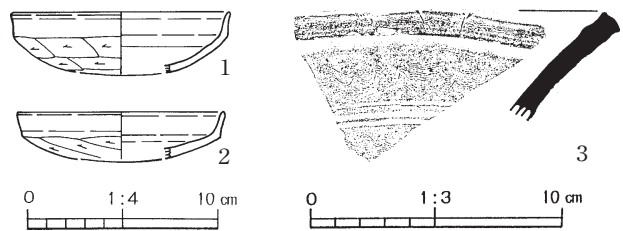
溝の上幅が60cm、確認面からの深さは10cm程度ある。覆土は、ローム粒子を均一に含む黒褐色土を主体にしている。遺物は、覆土中から古代の土器の小破片が3片出土しただけである。

本溝跡は、西側に並走する第25号溝跡と関連する溝と思われるが、覆土は黒褐色土を主体としており、第24号溝跡や第25号溝跡よりも古い近世前半以前の溝である。

第33号溝跡（第44図、図版8）

調査区南西側の低地の黒色土中に位置し、第31号溝跡に切られている。形態は、東西方向に向いて緩やかに湾曲した流路をとり、東端は削平されている。規模は、溝の上幅が33cm、確認面からの深さが10cm程度ある。

出土遺物は、覆土中からは古代の土師器や須恵器の破片が少量出土しただけである（第48図）。本溝跡の時期は、覆土の状態や出土土器の様相から、7世紀後半の白鳳時代と考えられる。本溝跡は、北側に近接する第31号溝跡や南側に近接する第35号溝跡と並走した流路をとっていることから、それらと関連した溝と思われる。



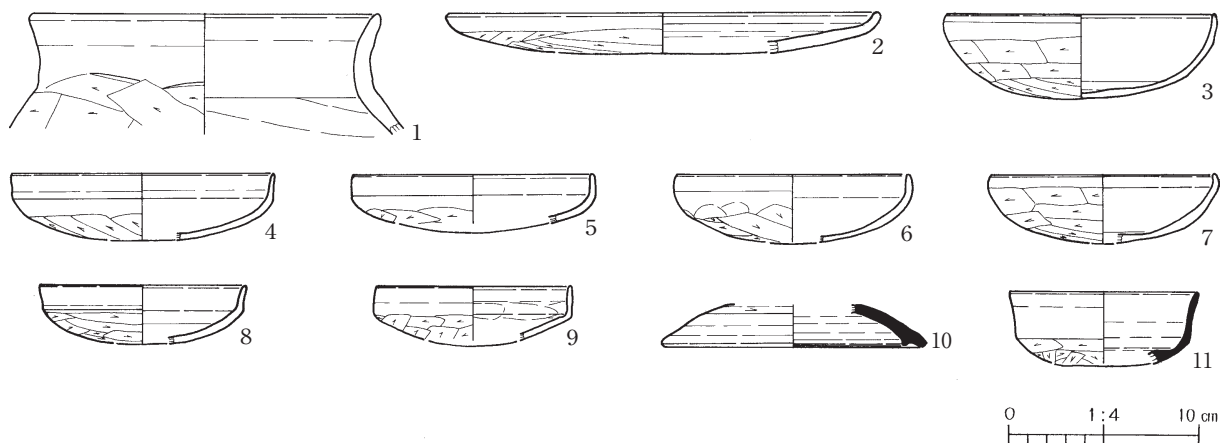
第48図 第33号溝跡出土遺物

第33号溝跡出土遺物観察表

1	坏	A. 口縁部径 (11.6)、残存高 3.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗橙褐色。F. 口縁部 1/6 破片。H. 覆土中。
2	坏	A. 口縁部径 (11.0)、残存高 2.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗橙褐色。F. 口縁部 1/6 破片。H. 覆土中。
3	須恵器	B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 口縁部破片。G. 口縁部外面と口唇部に櫛描波状文を施す。H. 覆土中。

第34号溝跡（第44図、図版8）

調査区南西側の低地の黒色土中に位置し、重複する第35号溝跡を切り、第19号井戸跡に切られている。形態は、東西方向に向いて緩やかに湾曲した流路をとり、北側の第31号溝跡や



第49図 第34号溝跡出土遺物

第33号溝跡と並走している。規模は、溝の上幅が90cm前後の比較的均一な幅で、確認面からの深さは最高50cmある。断面の形態は、底面がやや狭い逆台形を呈している。

出土遺物は、覆土中から古代の土師器や須恵器の破片が比較的多く出土している(第49図)。本溝跡の時期は、覆土の状態や出土遺物の様相から、7世紀後半の白鳳時代から8世紀の奈良時代前半頃の間機能していたと考えられる。本溝跡は、北側に近接して並走する第35号溝跡の掘り返された溝の可能性もある。

第34号溝跡出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径(18.6)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外-淡橙褐色、内-淡灰褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
2	皿	A.口縁部径(23.0)、残存高2.1。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-淡茶褐色。F.口縁部1/6。H.覆土中。
3	坏	A.口縁部径14.2、器高4.5。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-明橙褐色。F.1/2。H.覆土中。
4	坏	A.口縁部径(14.0)、残存高3.5。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外-明橙褐色。F.1/2弱。H.覆土中。
5	坏	A.口縁部径(12.8)、残存高2.6。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外-明橙褐色。F.口縁部1/3。H.覆土中。
6	坏	A.口縁部径(12.4)、残存高3.6。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外-淡茶褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
7	坏	A.口縁部径(12.0)、残存高3.6。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-淡茶褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
8	坏	A.口縁部径(11.0)、残存高3.1。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外-明橙褐色。F.口縁部1/3。H.覆土中。
9	坏	A.口縁部径(10.4)、残存高2.9。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外-明茶褐色。F.口縁部1/3。H.覆土中。
10	須恵器 蓋	A.口縁部径(14.0)、残存高2.2。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。天井部外面回転ケズリ、内面回転ナデ。D.白色粒。E.内外-暗灰色、肉-暗茶褐色。F.口縁部1/8。G.児玉窯製品に類似。H.覆土中。
11	須恵器 坏	A.口縁部径(10.0)、残存高3.8。B.ロクロ成形。C.口縁部内外面回転ナデ。体部外面手持ちケズリ、内面回転ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-淡灰色。F.口縁部1/4。H.覆土中。

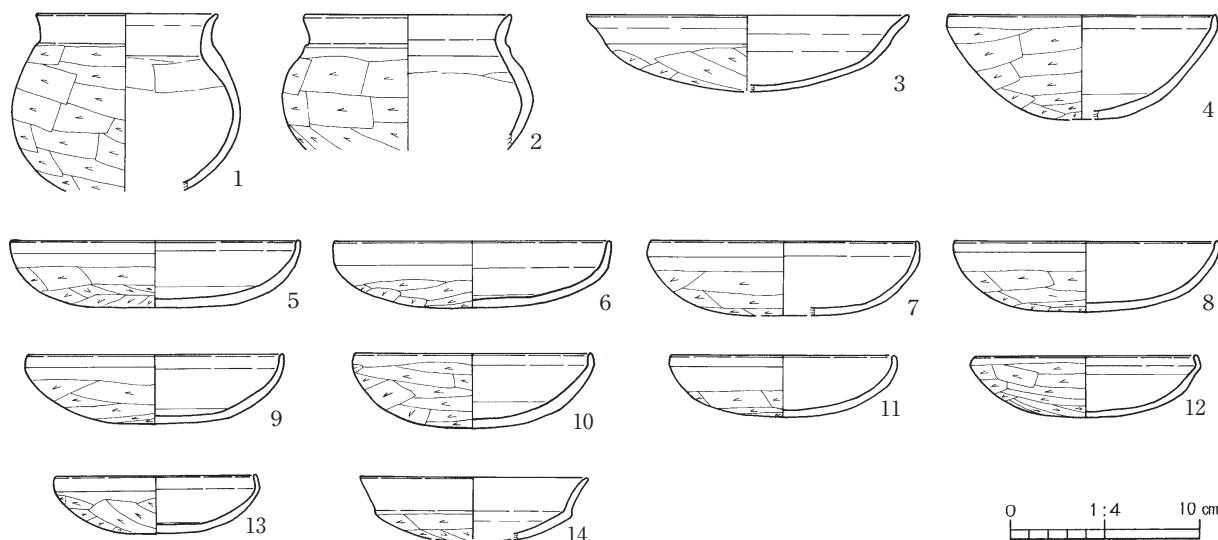
第35号溝跡(第44図、図版8)

調査区南西側の低地の黒色土中に位置し、重複する第34号溝跡に切られている。形態は、東西方向に向いて緩やかに湾曲した流路をとり、北側の第31号溝跡や第33号溝跡と並走している。規模は、溝の上幅が西側で90cm、中央部で40cm、東側で70cmあり、確認面からの深さが西端で25cm、中央部で30cmある。断面の形態は、逆台形を呈している。

出土遺物は、覆土中から古代の土師器の破片が比較的多く出土している(第50図)。本溝跡の時期は、覆土の状態や出土土器の様相から、7世紀後半の白鳳時代から8世紀の奈良時代前半頃の間機能していたと考えられる。

第35号溝跡出土遺物観察表

1	小形鉢	A.口縁部径9.6、残存高9.4。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外-淡茶褐色。F.1/2。G.外面に黒斑あり。H.覆土中。
2	小形鉢	A.口縁部径(11.0)、残存高7.2。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-明橙褐色。F.口縁部1/2弱。G.外面に黒斑あり。H.覆土中。

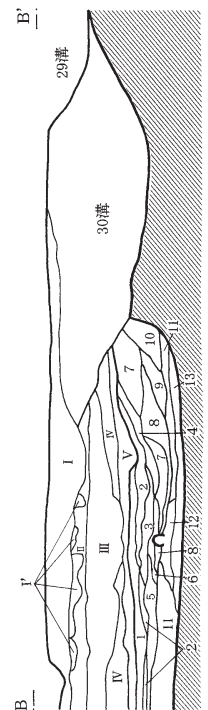
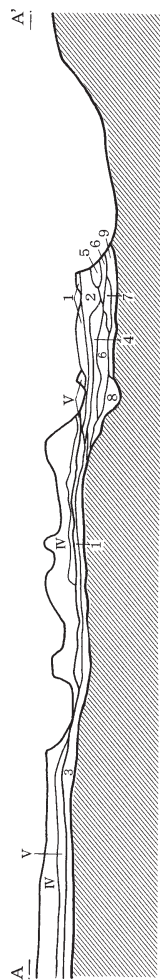
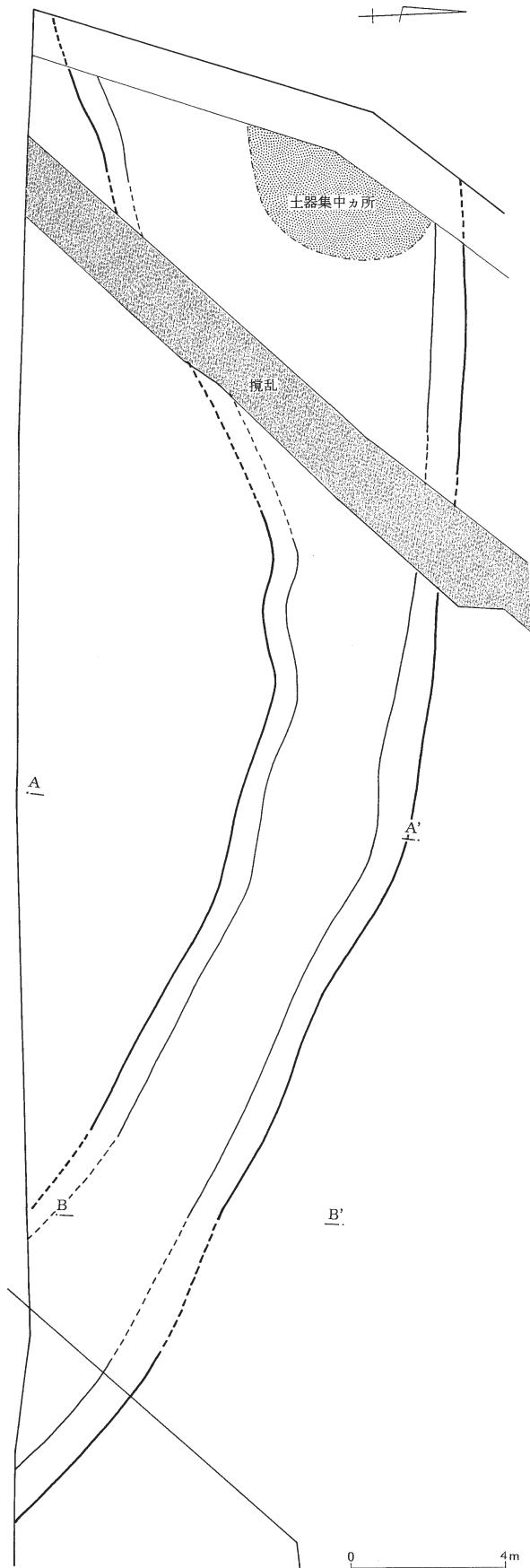


第50図 第35号溝跡出土遺物

3	皿	A. 口縁部径 (17.0)、器高 4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-淡茶褐色、内-淡橙褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
4	坏	A. 口縁部径 (14.2)、器高 5.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明橙褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
5	坏	A. 口縁部径 (15.2)、器高 3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
6	坏	A. 口縁部径 14.6、器高 3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 完形。H. 覆土中。
7	坏	A. 口縁部径 (14.2)、器高 4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 外-淡褐色、内-茶褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
8	坏	A. 口縁部径 14.0、器高 3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明橙褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
9	坏	A. 口縁部径 (13.4)、器高 3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
10	坏	A. 口縁部径 (12.4)、器高 3.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 3/4。G. 器形はやや歪んでいる。H. 覆土中。
11	坏	A. 口縁部径 11.8、器高 3.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
12	坏	A. 口縁部径 11.8、器高 3.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-淡橙褐色、内-淡茶褐色。F. 3/4。G. 体部外面に黒斑あり。H. 覆土中。
13	坏	A. 口縁部径 10.6、器高 3.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. 3/4。G. 体部外面に黒斑あり。H. 覆土中。
14	坏	A. 口縁部径 (12.0)、残存高 3.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-明橙褐色、内-淡褐色。F. 口縁部 1/4 強。H. 覆土中。

5. 河川跡 (第51図、図版9)

調査区南西側の北側微高地のローム層と南側低地の暗灰褐色粘土層の境界に位置する。河川跡の上面には、黒色土が堆積した後に中世の第30号溝跡や古代の第31号溝跡が同じ方向に向いて掘削されている。形態は、調査区内では東西方向に向いて弓状に湾曲した流路をとっており、地形的に見て西から東に向かって流れていたものと思われる。規模は、西側で上幅



河川跡土層説明

<A-A'>

第Ⅳ層：河川跡上層

第Ⅴ層：河川跡上層

第1層：暗灰色土層（細砂、炭化物粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗灰褐色土層（細砂、鉄斑を均一に、炭化粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：暗灰色土層（細砂を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：黒灰色土層（細砂塊を均一に、炭化粒、ローム粒、鉄斑を微量含む。）

第5層：暗灰褐色土層（細砂を主体に、ローム粒を微量含む。粘性、しまり共になし。）

第6層：暗灰色土層（細砂、鉄斑、炭化粒を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第7層：淡灰褐色土層（細砂、小石を均一に含む。粘性、しまり共になし。）

第8層：暗灰色土層（ローム粘土ブロック、炭化粒を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第9層：淡灰褐色細砂層（細砂を主体に小礫、ローム粒を微量含む。粘性、しまり共になし。）

第51図 河川跡

<B-B'>

第I層：旧耕作土

第I'層：黒灰褐色粘土層（浅間山系A軽石を多量に含む。）

第II層：黒灰色粘土層（細砂、鉄斑を均一に含む。）

第III層：暗茶灰色粘土層（鉄斑を多量に含む。）

第IV層：黒色土層（細砂、ローム粒を微量含む。（河川跡上層））

第V層：暗灰褐色粘土層（ロームブロック、ローム粒、鉄斑を均一に含む。（河川跡上層））

第1層：暗灰色土層（ローム粒、鉄斑を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第2層：暗黄灰色土層（ロームブロック、鉄斑を均一に、細砂を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第3層：黒灰色土層（細砂を均一に、ローム粒、炭化粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第4層：黒褐色土層（細砂、鉄斑を均一に、ローム粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第5層：黒色土層（細砂を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第6層：暗灰色土層（細砂を多量に、ローム粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第7層：暗灰褐色土層（細砂、鉄斑を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第8層：黒灰色土層（ローム粒、鉄斑、炭化粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第9層：暗灰褐色土層（ローム粒を均一に、炭化粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第10層：暗茶褐色土層（ローム粒を均一に、焼土粒、炭化粒、ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第11層：暗灰色土層（細砂、炭化粒を微量含む。粘性に富み、しまりを有する。）

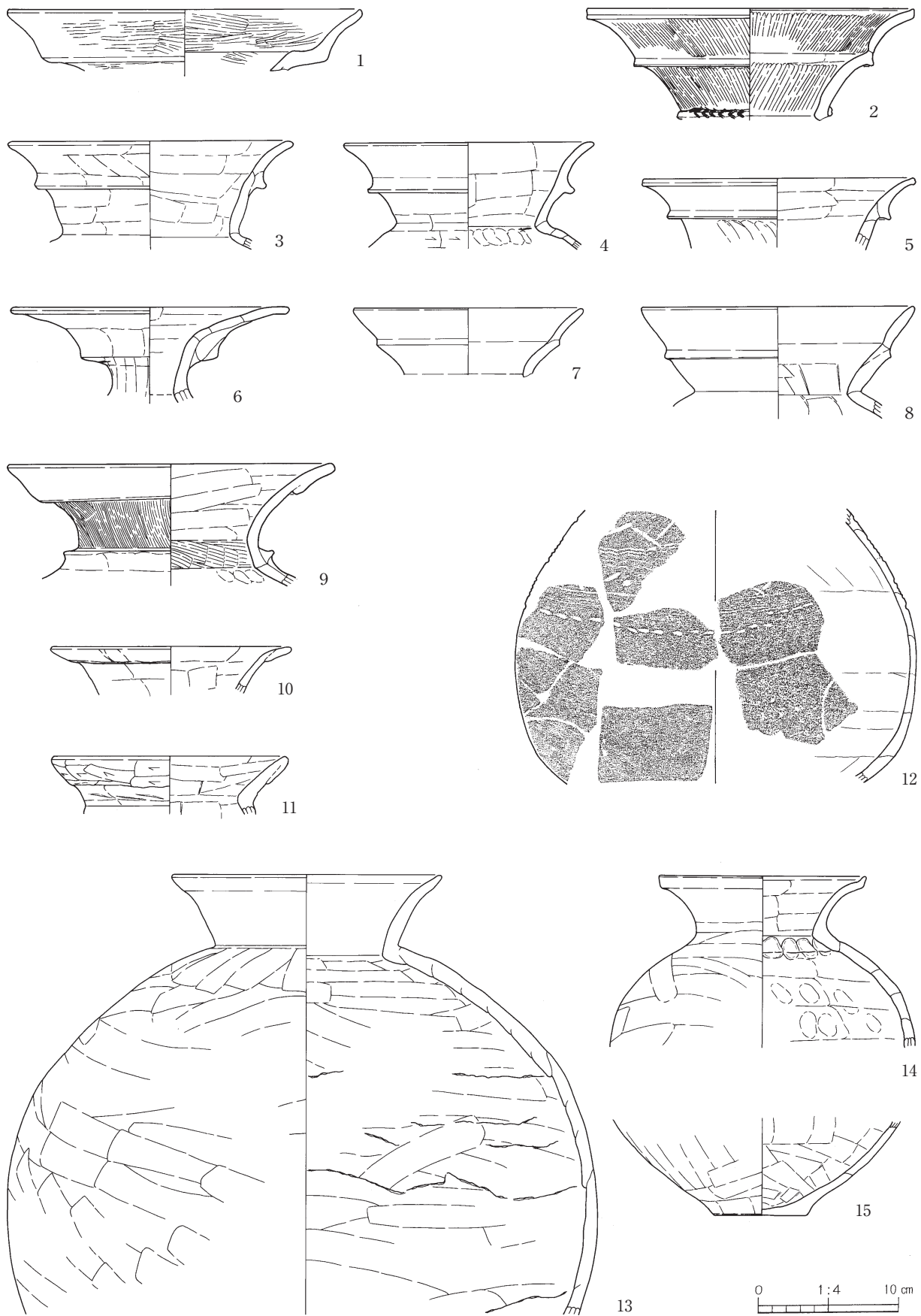
第12層：暗灰色土層（砂礫、黄白色粘土ブロック、炭化粒を均一に含む。粘性に富み、しまりを有する。）

第13層：淡灰褐色砂礫層（細砂、礫を多量に含む。粘性、しまり共になし。）

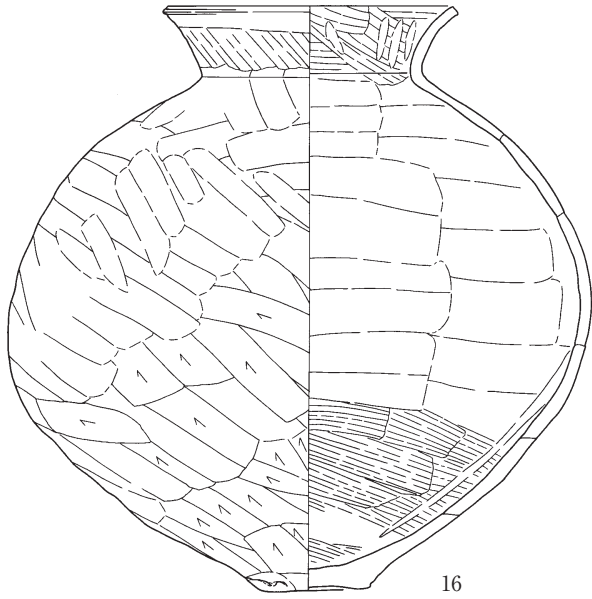
17.50m、東側で上幅8.30mを測り、東側に比べて西側がかなり広がっている。確認面からの深さは、北側壁で最高68cmある。壁は、緩やかに傾斜しているが、北側ローム層及びローム層下の白色粘土の壁に比べて南側暗灰褐色粘土層の壁の方が緩やかに立ち上がっている。底面は、広く平坦で、粘土層下の砂礫層に達している。覆土は、比較的薄い細かい帯状の層に多く分かれ、下半には細砂や小礫を含む層が多く見られ、ある程度の流水があったことが窺われる。

出土遺物は、古墳時代前期～中期前半頃を主体とする土器が出土している（第52～61図）。覆土中から出土した土器は、量的には少ないものの、覆土下半は前期の土器が主体で、上半のIV・V層は、中期前半以降の土器が主体である。河川跡西端の北側寄りの溝底面付近からは、中期前半の土器がまとまって多数出土している。これらの土器群は、壺・甕・高坏・坏・小形直口壺・小形手捏土器などの器種があるが、主体を占めるのは小形直口壺である。いずれも、溝底面に密集して折り重なった状態で出土しており、覆土中から出土した土器に比べて、器形の全容が分かるような土器が多く見られる。これらの近くからは、有孔円盤や刀子形の石製模造品も3点出土しており（第61図No214～216）、土器が集中して出土した河川内の場所か、あるいはその近くの河川縁辺部で行われた水辺の祭祀に関係した遺物と考えられる。その他では、細長い円筒状に固まった漆が1点覆土中から出土している（第61図No217）。これは、藤根久氏の御教示によると、先端部の突起状の形状が竹の節の下側の部分に類似していることから、竹筒の容器に入れて保管もしくは運搬していた漆が、竹筒の中でそのまま固形化したものと考えられる。ちなみに、同様の棒状の漆で、外側に木質の付着物が見られるものが、本地点の南東側約50mに位置する久下前遺跡A 2地点（平成22年度調査）の河川跡でも1点出土している。

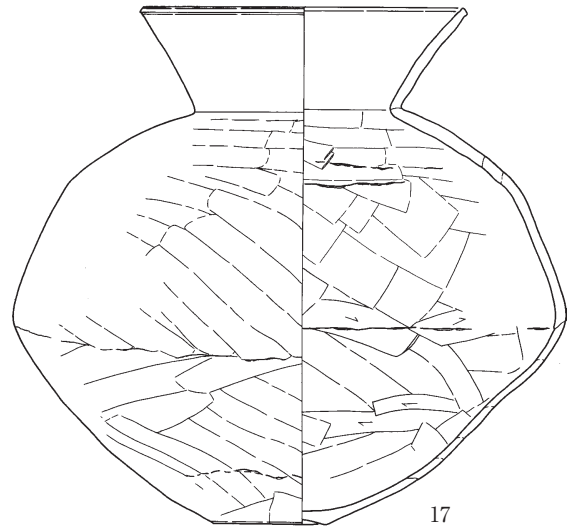
本河川跡の時期は、覆土の状態や出土遺物の様相から、古墳時代前期～中期前半の期間に機能していたと考えられる。



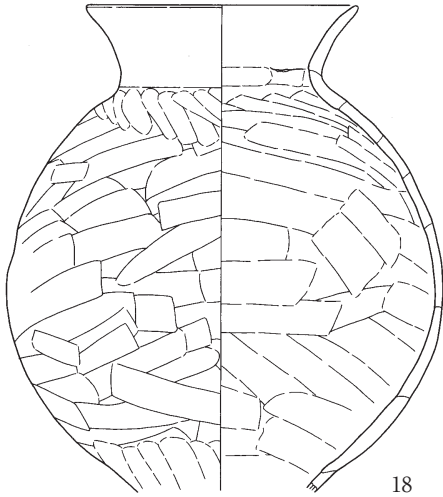
第52図 河川跡出土遺物（1）



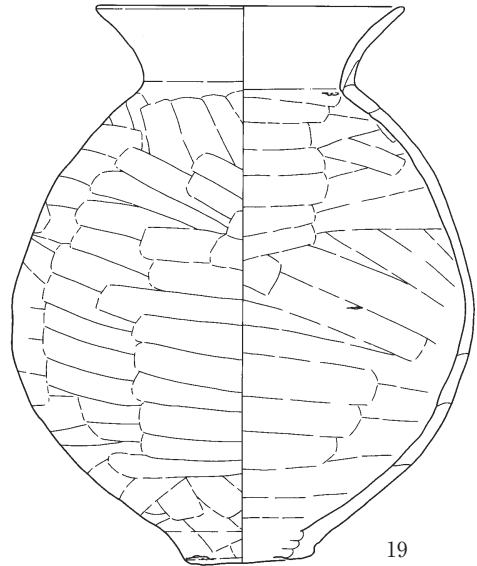
16



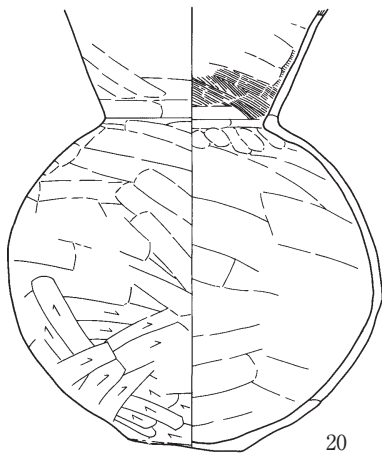
17



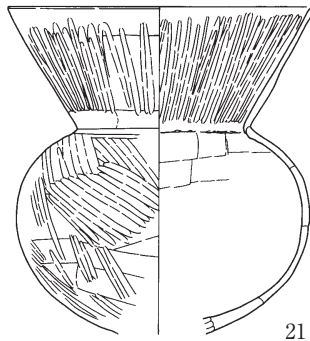
18



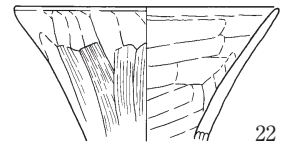
19



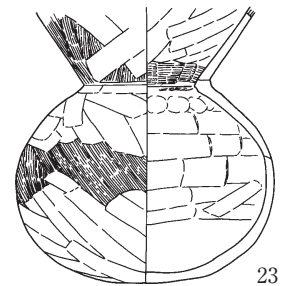
20



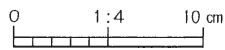
21



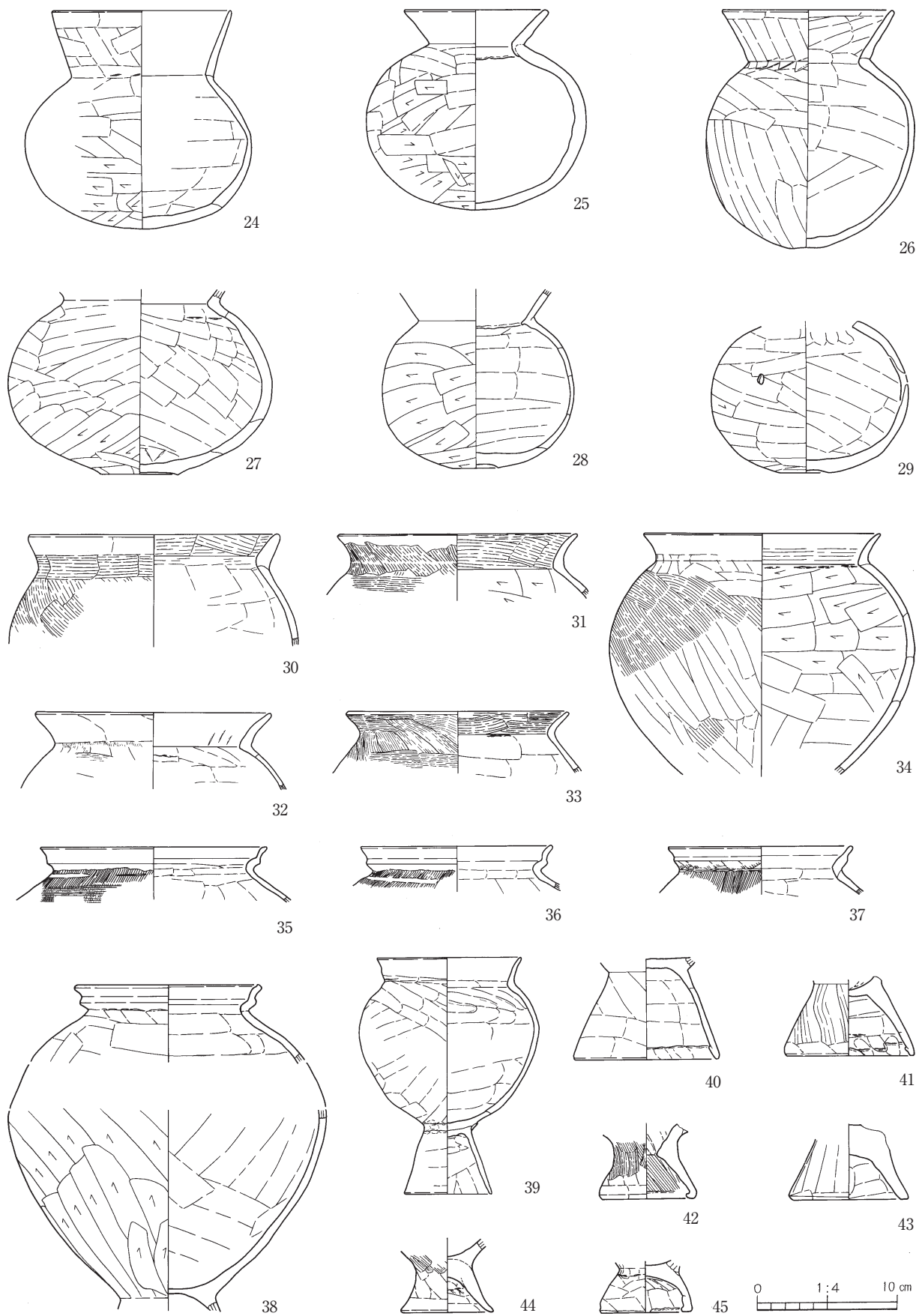
22



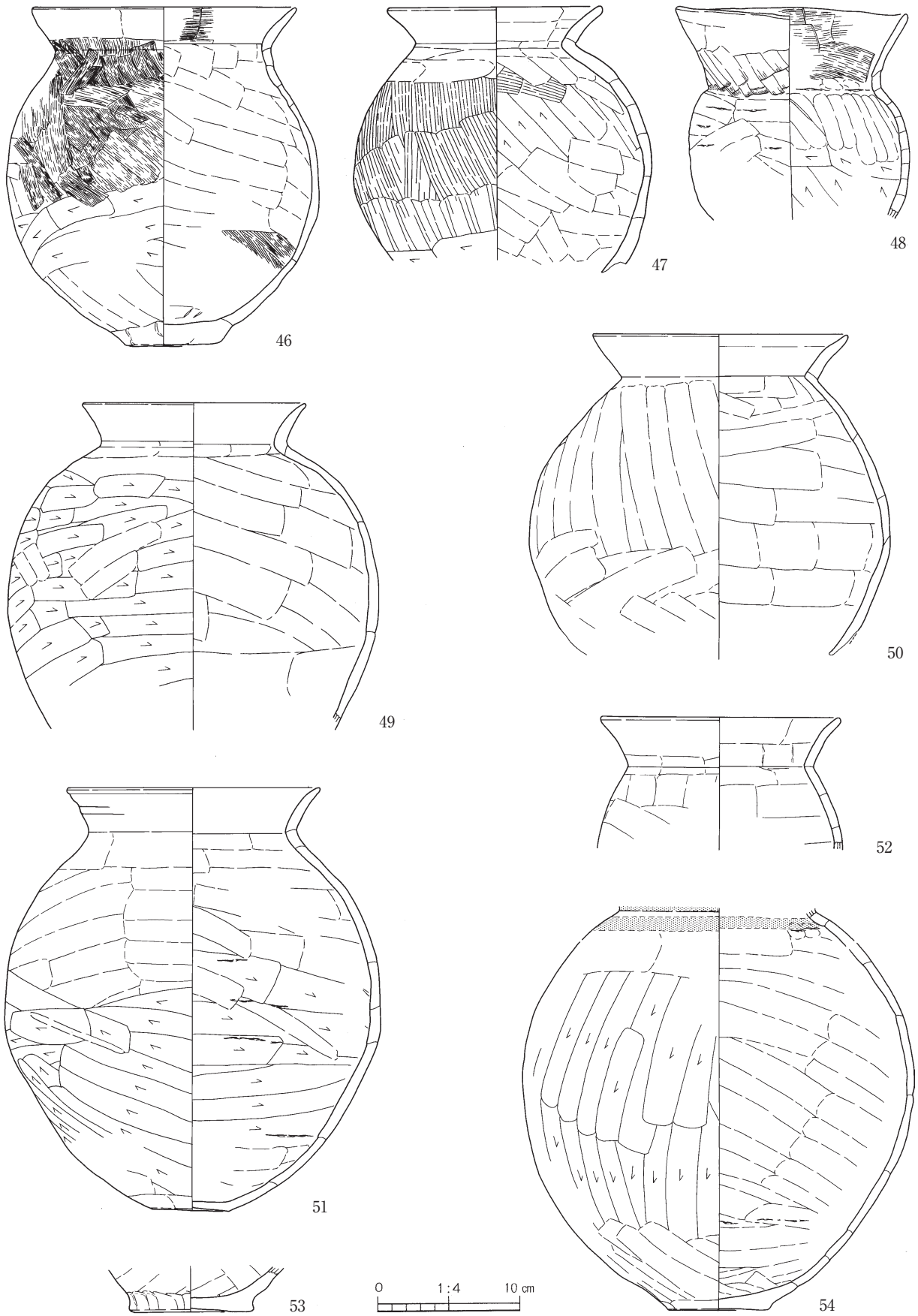
23



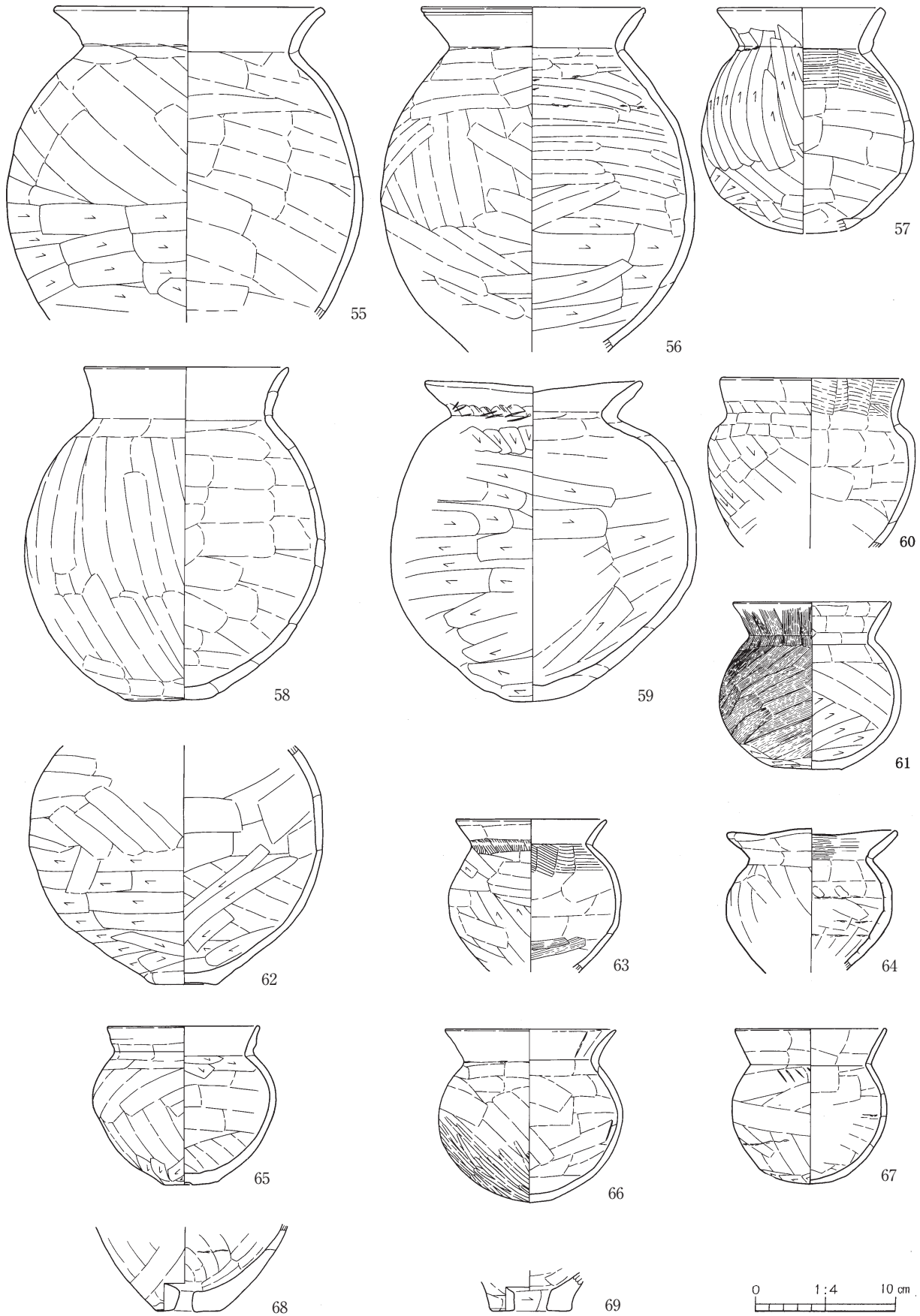
第53図 河川跡出土遺物 (2)



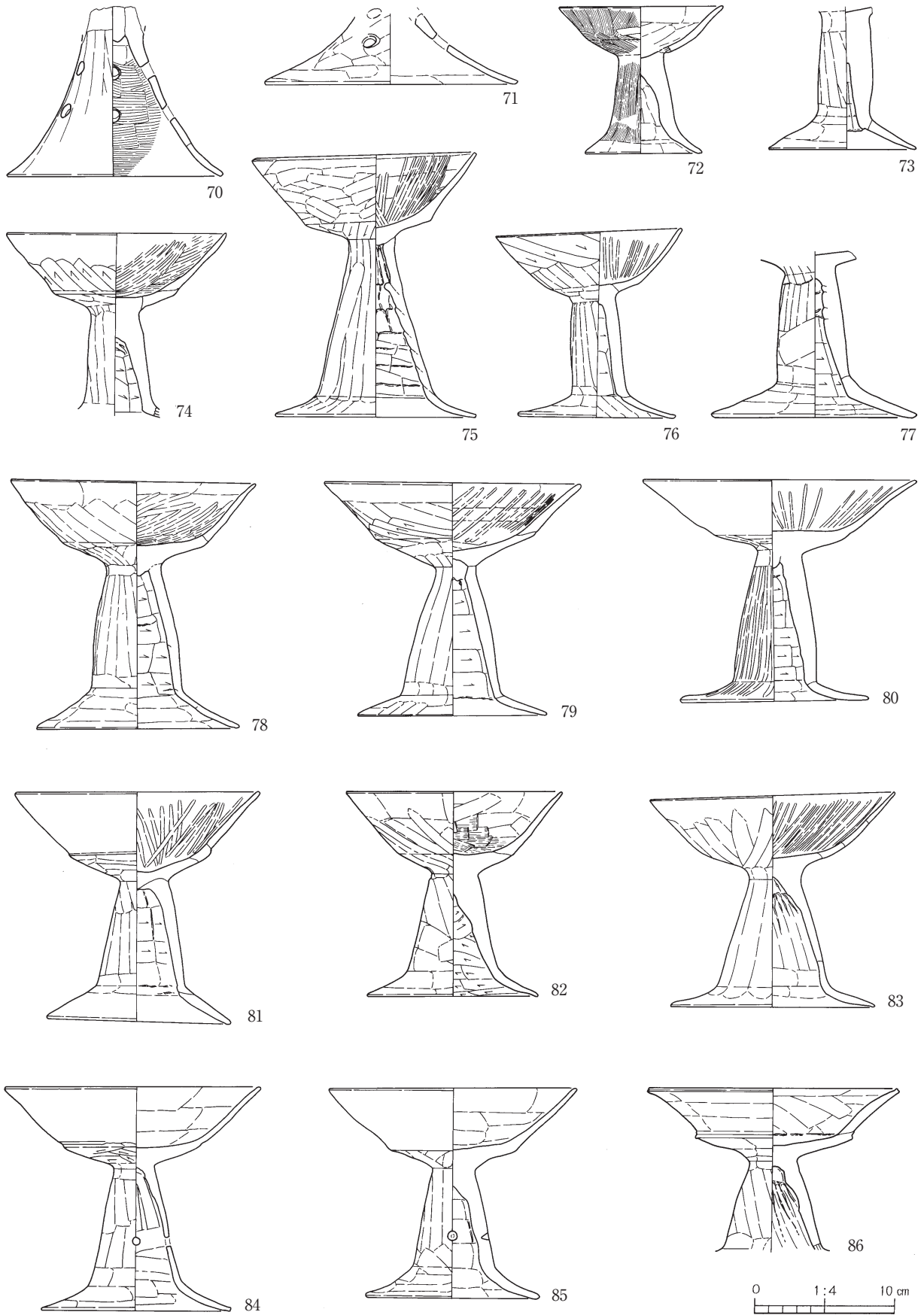
第54図 河川跡出土遺物（3）



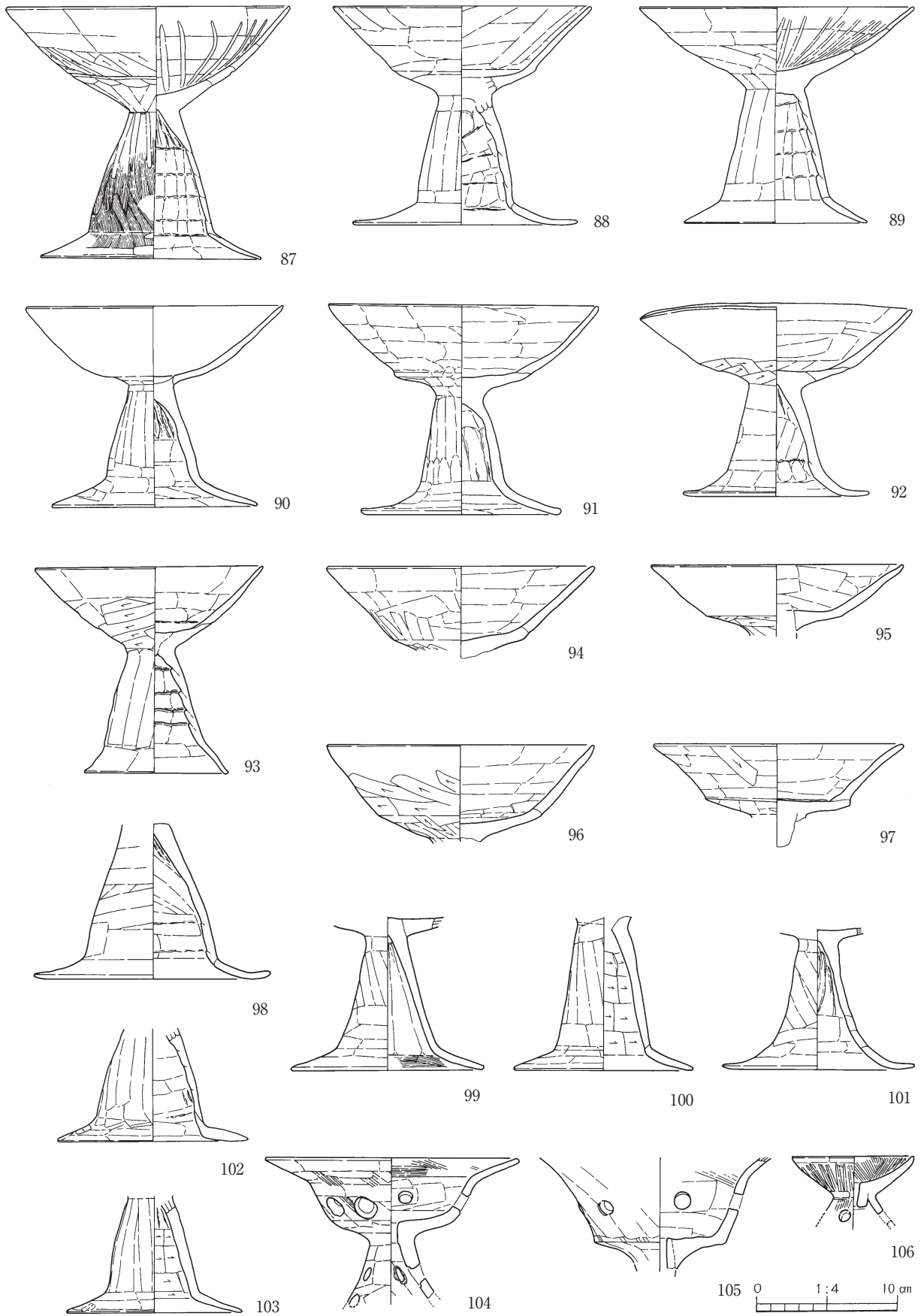
第55図 河川跡出土遺物(4)



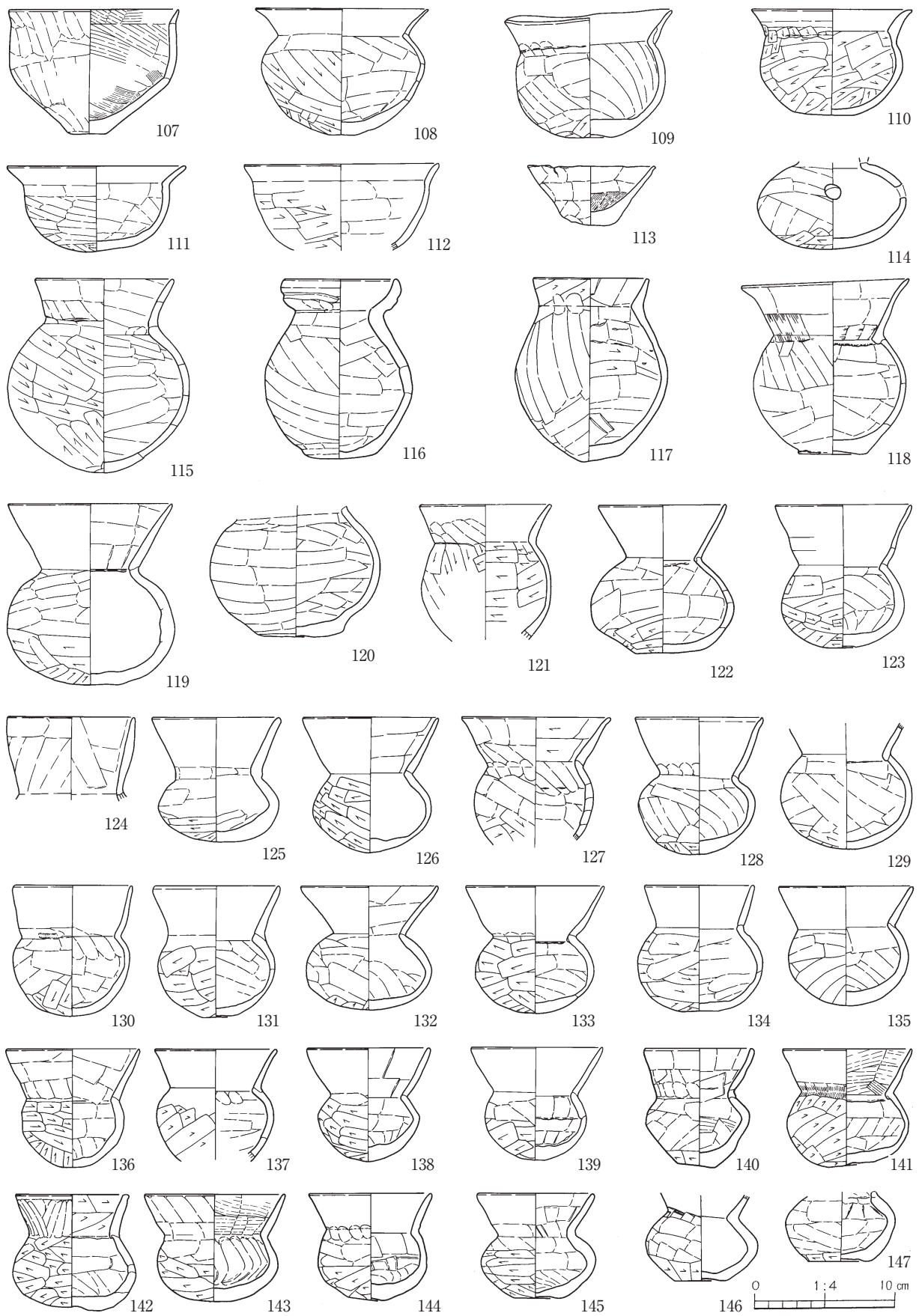
第56図 河川跡出土遺物（5）



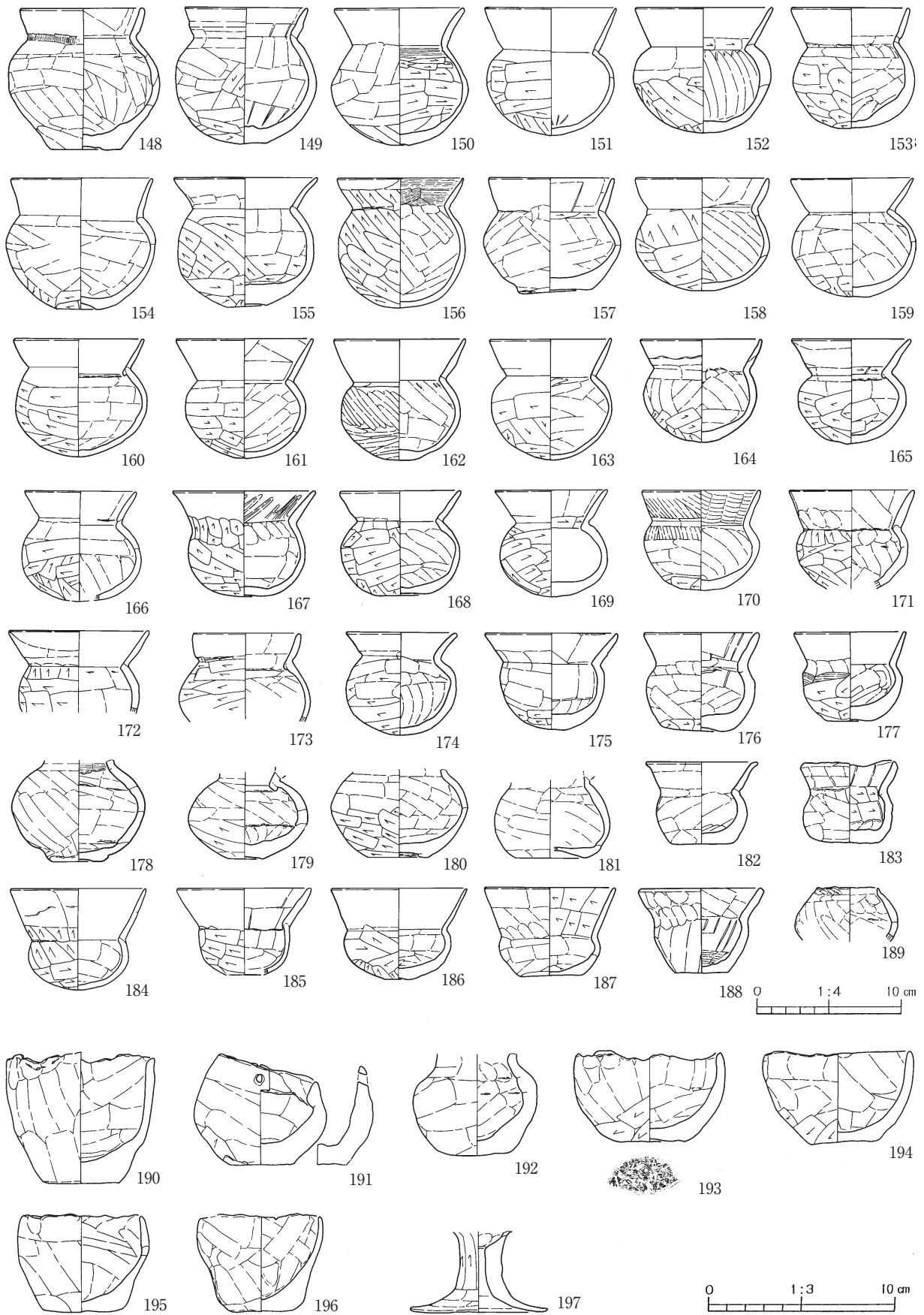
第57図 河川跡出土遺物(6)



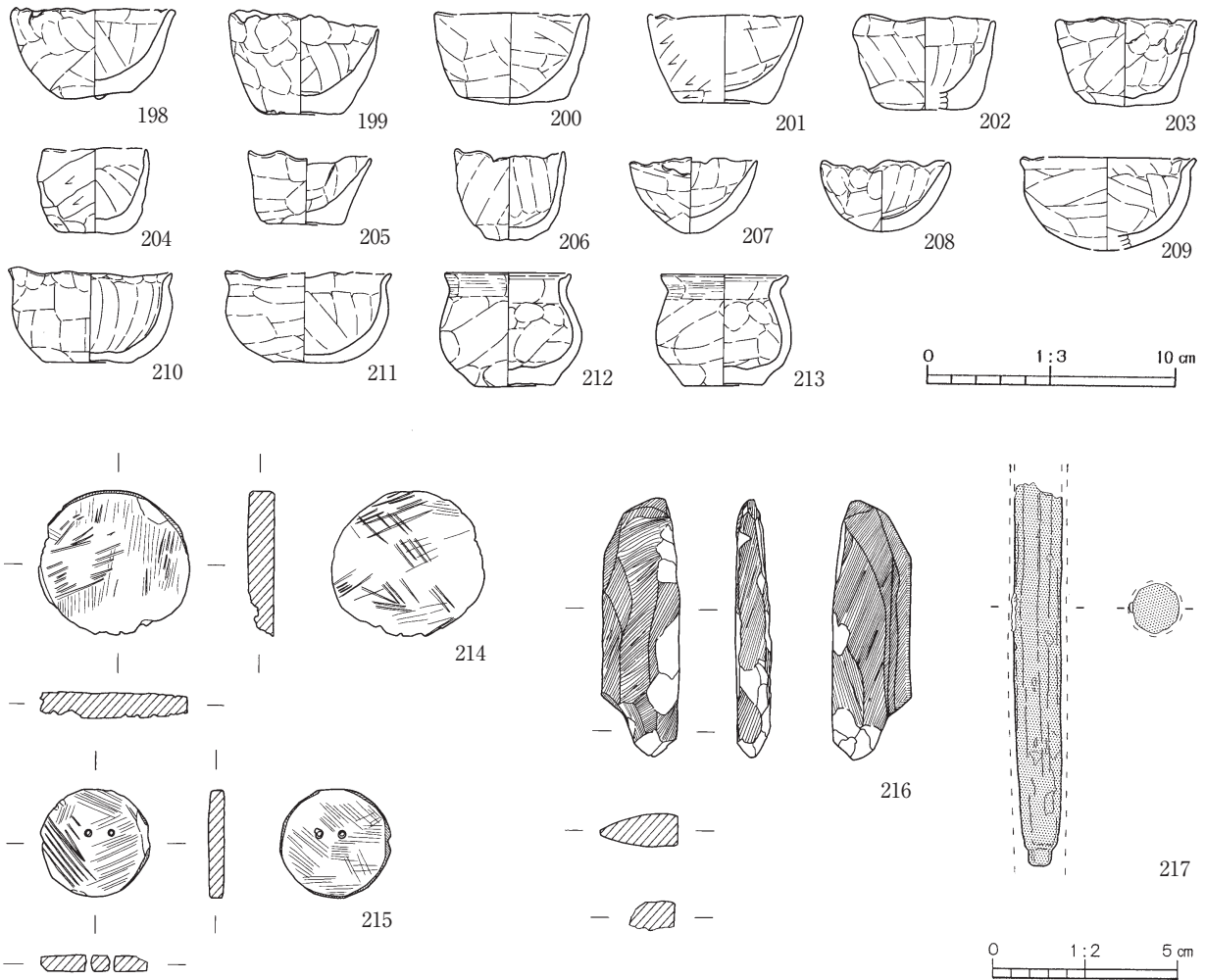
第58図 河川跡出土遺物（7）



第59図 河川跡出土遺物（8）



第60图 河川跡出土遺物(9)



第61図 河川跡出土遺物 (10)

河川跡出土遺物観察表

1	二重口縁壺	A. 口縁部径 (25.0)、残存高 4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデの後ミガキ。頸部内外面ケズリの後ミガキ。D. 角閃石、白色粒。E. 内-にぶい黄橙色、外-橙色。F. 口縁部破片。G. 内面に黒斑あり。H. 覆土中。
2	二重口縁壺	A. 口縁部径 23.1、残存高 7.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデの後丁寧なミガキ。頸部外面にハケ状工具による刺突文を持つ貼付突帯。D. 石英、角閃石。E. 内外-橙色。F. 口縁部 3/4。H. 覆土下層。
3	二重口縁壺	A. 口縁部径 (20.0)、残存高 7.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 石英、角閃石、白色粒。E. 内外-橙色。F. 口縁部 1/4。H. 覆土下層。
4	二重口縁壺	A. 口縁部径 17.5、残存高 7.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面指押え。D. 角閃石、石英、片岩、白色粒。E. 内-にぶい黄橙色、外-橙色。F. 口縁部~頸部ほぼ完形。G. 外面に黒斑あり。H. 覆土下層。
5	二重口縁壺	A. 口縁部径 19.1、残存高 5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。頸部外面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-橙色。F. 口縁部 3/4。G. 胎土良質。H. 覆土中。
6	二重口縁壺	A. 口縁部径 (19.6)、残存高 6.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。頸部外面ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外-橙色。F. 口縁部~頸部 1/2。H. 覆土下層。
7	二重口縁壺	A. 口縁部径 (16.3)、残存高 4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 角閃石、白色粒、石英。E. 内外-明赤褐色。F. 口縁部破片。H. 覆土中。
8	二重口縁壺	A. 口縁部径 (19.3)、残存高 7.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面窺ナデ。D. 石英、片岩、白色粒。E. 内-にぶい橙色、外-橙色。F. 口縁部 1/2。G. 内面に黒斑あり。H. 覆土中。
9	複合口縁壺	A. 口縁部径 23.9、残存高 8.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。頸部外面タテハケ、内面ヨコハケ。胴部外面ナデ、内面指押え。D. 片岩、角閃石、白色粒。E. 内-にぶい黄橙色、外-橙色。F. 口縁部~頸部 4/5。H. 覆土上層。
10	複合口縁壺	A. 口縁部径 (16.8)、残存高 3.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面指押えの後ナデ、内面ヨコナデ。頸部内外面ヨコナデ。D. 石英、角閃石。E. 内-明赤褐色、外-橙色。F. 口縁部破片。H. 覆土中。

11	複合口縁壺	A.口縁部径(16.7)、残存高4.1。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ケズリ、内面ヨコナデ。頸部内外面匱ナデ。D.角閃石、片岩。E.内外-にぶい褐色。F.口縁部破片。H.覆土中。
12	パレス文様壺	A.残存高19.2。B.粘土紐積み上げ。C.胴部外面ナデの後、上から匱描鋸歯文・櫛描波状文・匱描鋸歯文・櫛描横線文・匱描刺突文を施す。内面匱ナデ。F.破片。G.器形は図上復元。H.覆土下層。
13	単純口縁壺	A.口縁部径(19.0)、残存高31.0。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面匱ナデ。D.角閃石、白色粒。E.内外-にぶい橙色。F.口縁部~胴部3/4。H.覆土上層。
14	単純口縁壺	A.口縁部径(14.6)、残存高12.0。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面ナデの後部分的に指押え。D.角閃石、白色粒。E.内-にぶい黄橙色、外-にぶい褐色。F.口縁部~胴部上半2/3。H.覆土中。
15	壺	A.底部径6.6、残存高6.7。B.粘土紐積み上げ。C.胴部外面ナデ、内面匱ナデ。底部外面ケズリ、内面ヨコナデ。D.石英、角閃石・白色粒。E.内外-橙色。F.胴部下位~底部3/4。H.覆土下層。
16	単純口縁壺	A.口縁部径15.5、器高31.0、底部径5.9。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ハケの後ヨコナデ、内面ハケの後部分的にナデ。胴部外面ケズリの後上半ナデ、内面ハケの後匱ナデ。底部外面ケズリ。D.片岩、石英、角閃石、白色粒。E.内外-明赤褐色。F.3/4。G.胴部外面に黒斑あり。H.覆土下層。
17	単純口縁壺	A.口縁部径17.5、器高27.4、底部径(6.0)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。底部外面ケズリ。D.角閃石、白色粒、赤色粒。E.内外-にぶい赤褐色。F.4/5。G.胴部外面に黒斑あり。H.覆土上層。
18	単純口縁壺	A.口縁部径(14.3)。残存高25.7。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。D.雲母、白色粒。E.内外-橙色。F.1/2。G.胴部外面に黒色付着物。H.覆土上層。
19	単純口縁壺	A.口縁部径(16.3)、器高29.5、底部径6.6。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。底部外面ナデ。D.白色粒、角閃石。E.内-にぶい赤褐色。外-にぶい褐色。F.1/2。G.胴部外面に筋状に黒色付着物、及び黒斑あり。H.覆土中。
20	大形直口壺	A.残存高23.2、底部径(6.0)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ、内面ハケの後ナデ。胴部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデの後上位指押え。底部外面ケズリ。D.角閃石、白色粒。E.内-にぶい褐色。外-にぶい赤褐色。F.2/3。G.胴部内面にヨゴレ。H.覆土下層。
21	中形直口壺	A.口縁部径16.2、残存高17.3。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデの後ミガキ。胴部外面ナデの後ミガキ、内面匱ナデ。D.片岩、石英、白色粒、角閃石。E.内外-赤褐色。F.3/4。G.胴部外面に黒斑あり。H.覆土下層。
22	中形直口壺	A.口縁部径(14.0)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ナデの後ハケ、内面ハケの後ナデ。D.石英、角閃石。E.内外-橙色。F.口縁部破片。H.覆土上層。
23	中形直口壺	A.残存高14.7。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ハケの後ナデ。胴部外面ハケの後ナデ、内面匱ナデの後上位指押え。D.石英、角閃石。E.内-にぶい黄橙色、外-明赤褐色。F.1/2。G.胴部外面に黒斑あり。H.覆土下層。
24	中形直口壺	A.口縁部径(12.7)、器高15.5。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面匱ナデ。D.石英、角閃石、白色粒。E.内外-にぶい橙色。F.1/2。G.内外面に黒斑あり。H.覆土中。
25	中形直口壺	A.口縁部径10.2、器高14.1。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、角閃石。E.内外-橙色。F.4/5。G.胴部外面に黒斑あり。H.覆土下層。
26	中形直口壺	A.口縁部径12.1、器高16.8。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ナデの後ヨコナデ、内面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。D.石英、角閃石、白色粒。E.内外-にぶい黄橙色。F.4/5。G.胴部外面に黒斑あり。H.覆土下層。
27	中形直口壺	A.残存高13.0、底部径5.6。B.粘土紐積み上げ。C.胴部内外面ナデ。底部外面ケズリ。D.角閃石、白色粒。E.内外-橙色。F.胴部1/3。G.外面に黒斑あり。H.覆土中。
28	中形直口壺	A.残存高12.4、底部径3.0。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D.石英、片岩、角閃石。E.内外-褐色。F.胴部4/5。G.外面胴部黒斑あり。H.覆土中。
29	中形直口壺	A.残存高10.7、底部径3.5。B.粘土紐積み上げ。C.胴部外面ナデ、内面ナデ。D.石英、角閃石。E.内外-褐色。F.胴部4/5。G.胴部中に焼成後穿孔あり。H.覆土中。
30	甕	A.口縁部径(17.0)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ハケの後ヨコナデ、内面ハケ。胴部外面ハケ、内面匱ナデ。D.角閃石、赤色粒。E.内-にぶい黄橙色、外-褐色。F.口縁部1/4。G.内外面に黒斑あり。H.覆土下層。
31	甕	A.口縁部径(17.0)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ヨコナデの後ハケ、内面ハケ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D.石英、角閃石。E.内外-褐色。F.口縁部破片。G.口縁部内外面に黒斑あり。H.覆土中。
32	甕	A.口縁部径(16.7)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。D.角閃石、白色粒。E.内外-褐色。F.口縁部1/5。H.覆土下層。
33	甕	A.口縁部径(15.8)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ハケ。胴部外面ハケ、内面匱ナデ。D.白色粒、石英、角閃石。E.内外-褐色。F.口縁部1/5。G.内外面二次被熱か。H.覆土下層。

34	甕	A.口縁部径(16.6)、残存高17.0。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ、内面ハケの後ヨコナデ。外面胴部ナデの後ハケ、内面ケズリの後窺ナデ。D.石英、片岩。E.内-灰黄褐色、外-橙色。F.口縁部~胴部下位1/5。G.胴部内面にヨゴレ。器面の荒れ著しい。H.覆土下層。
35	S字状口縁甕	A.口縁部径(15.9)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D.白色粒、雲母。E.内外-にぶい黄橙色。F.口縁部破片。H.覆土中。
36	S字状口縁甕	A.口縁部径(13.7)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケの後部分的にナデ、内面ナデ。D.白色粒、石英、雲母。E.内外-にぶい黄橙色。F.口縁部破片。H.覆土下層。
37	S字状口縁甕	A.口縁部径(13.0)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D.角閃石、片岩。E.内-淡褐色、外-明赤褐色。F.口縁部破片。H.覆土下層。
38	S字状口縁台付甕	A.口縁部径(13.1)、残存高(23.0)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上位ナデ・下半ケズリ、内面ナデ。D.角閃石、赤色粒。E.内外-にぶい黄橙色。F.口縁部1/3、胴部下半4/5。G.器形は図上復元。胴部外面にスス附着、内面に帯状にヨゴレ。H.覆土中。
39	台付甕	A.口縁部径(10.3)、器高16.7、台端部径6.2。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。台部内外面ナデ。D.角閃石、白色粒。E.内-にぶい黄褐色、外-にぶい黄橙色。F.2/3。G.胴部外面に黒斑あり。H.覆土下層。
40	S字状口縁台付甕	A.残存高7.2、底部径10.3。B.粘土紐積み上げ。C.台部内外面ナデ。台端部内面指押え。D.石英、片岩、白色粒、角閃石。E.内-にぶい褐色、外-にぶい黄褐色。F.台部3/4。G.底部内外面に砂附着。H.覆土中。
41	S字状口縁台付甕	A.底部径9.1、残存高5.3。B.粘土紐積み上げ。C.台部内外面ナデ。台端部外面ナデ、内面指押え。D.角閃石、白色粒、石英。E.内-明赤褐色、外-にぶい黄橙色。F.台部3/4。H.覆土下層。
42	台付甕	A.底部径6.9、残存高5.3。B.粘土紐積み上げ。C.台部内外面ハケ。台端部内外面ヨコナデ。D.白色粒、角閃石。E.内外-橙色。F.台部1/2。H.覆土下層。
43	台付甕	A.底部径8.5、残存高5.3。B.粘土紐積み上げ。C.台部内外面ナデ。台端部内外面ナデ。D.角閃石、石英、白色粒。E.内外-橙色。F.台部ほぼ完形。H.覆土中。
44	台付甕	A.底部径8.5、残存高5.2。B.粘土紐積み上げ。C.台部外面ナデとハケ、内面ナデ。台端部内外面ナデ。D.角閃石、白色粒。E.内外-橙色。F.台部3/4。H.覆土中。
45	台付甕	A.底部径6.5。残存高3.6。B.粘土紐積み上げ。C.台部内外面ナデ。D.角閃石、白色粒。E.内外-橙色。F.台部のみ完形。H.覆土上層。
46	平底甕	A.口縁部径18.6、器高23.9、底部径6.4。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデとケズリの後上半板目状工具のナデ、内面ハケの後ナデ。底部外面ナデ。D.角閃石、片岩、白色粒。E.内外-明赤褐色。F.ほぼ完形。G.胴部外面に黒斑あり。H.覆土下層。
47	甕	A.口縁部径15.1、残存高18.0。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面粗いハケの後ナデとケズリ。内面ケズリの後ナデ。D.石英、白色粒、角閃石。E.内外-橙色。F.口縁部~胴部上半4/5。G.胴部外面に黒斑あり。H.覆土上層。
48	小形甕	A.口縁部径16.3、残存高15.0。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ナデ、内面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面ケズリの後指ナデ。D.石英、角閃石、白色粒。E.内外-橙色。F.口縁部~胴部上半2/3。G.内外面に黒斑あり。H.覆土下層。
49	甕	A.口縁部径(15.8)、残存高23.0。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窺ナデ。D.石英、片岩、角閃石、白色粒。E.内外-橙色。F.口縁部~胴部下位1/3。G.胴部外面に黒斑あり。H.覆土中。
50	甕	A.口縁部径18.0、残存高22.6。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面窺ナデ。D.白色粒、石英、角閃石。E.内-にぶい赤褐色、外-にぶい橙色。F.口縁部~胴部中位2/3。H.覆土下層。
51	平底甕	A.口縁部径(17.8)、器高29.8、底部径5.5。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデの後下半ケズリ。底部外面ケズリ。D.白色粒、雲母。E.内外-にぶい黄褐色。F.4/5。G.胴下半部内面にヨゴレ、外面にスス附着。H.覆土上層。
52	甕	A.口縁部径(17.7)、残存高7.8。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面指押えの後ヨコナデ、内面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。D.石英、白色粒、角閃石。E.内外-橙色。F.口縁部~胴部上位1/5。H.覆土中。
53	甕	A.底部径8.7。B.粘土紐積み上げ。C.胴部内外面ナデ、底部外面ケズリとナデ。D.石英、白色粒。E.内外-橙色。F.底部ほぼ完形。H.覆土中。
54	壺	A.残存高28.3、底部径7.2。B.粘土紐積み上げ。C.外面、胴部タテケズリ→上位・下位ナデ。内面、頸部ヨコナデ・指押え。胴部ナデ。D.石英、白色粒、赤色粒・角閃石。E.内外-にぶい黄橙色。F.胴部1/2。G.外面胴部に黒斑、頸部内外面に赤彩。H.覆土上層。
55	甕	A.口縁部径19.0、残存高22.0。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後下半ケズリ、内面窺ナデ。D.白色粒、角閃石、石英、赤色粒。E.内外-橙色。F.口縁部~胴部上半1/2。G.胴部外面に黒斑あり。内外面に黒色付着物。H.覆土上層。
56	甕	A.口縁部径15.8、残存高24.3。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面ケズリの後上半ナデ。D.石英、雲母、白色粒。E.内-にぶい黄橙色、外-にぶい黄褐色。F.口縁部~胴部下位4/5。G.胴部下半外面にスス附着。H.覆土中。

57	小形甕	A. 口縁部径 12.0、器高 16.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面窺ナデの後ハケ。D. 石英、片岩、白色粒、角閃石。E. 内外- 橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土下層。
58	平底甕	A. 口縁部径 (14.4)、器高 23.4、底部径 6.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面窺ナデ。底部外面ケズリ。D. 片岩、石英、白色粒。E. 内- にぶい黄橙色、外- 橙色。F. 3/4。G. 胴部外面、被熱による赤化及びスス附着。H. 覆土中。
59	平底甕	A. 口縁部径 (15.4)、器高 22.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデの後、頸部ナデ。内面ナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデとケズリ。底部外面ケズリ。D. 石英、片岩、角閃石。E. 内外- 橙色。F. 2/3。G. 胴部外面に黒斑あり。器形の歪み著しい。H. 覆土中。
60	小形甕	A. 口縁部径 (12.9)、残存高 11.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面ハケ。胴部外面ナデとケズリ、内面窺ナデ。D. 片岩、石英。E. 内- にぶい赤褐色、外- にぶい褐色。F. 口縁部~胴部下位 1/5。G. 胴部外面に黒斑あり。H. 覆土下層。
61	小形壺	A. 口縁部径 11.1、器高 12.8、底部径 5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデの後ハケ、内面ヨコナデ。胴部外面ハケの後下位ケズリ、内面ケズリの後ナデ。底部外面ケズリ。D. 片岩、角閃石、石英。E. 内外- 橙色。F. 完形。G. 胴部外面に黒斑あり。H. 覆土下層。
62	平底甕	A. 残存高 16.8、底部径 4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ケズリの後上半ナデ、内面窺ナデの後部分的にケズリ。底部外面ケズリ。D. 石英、角閃石、片岩。E. 内外- にぶい黄橙色。F. 胴部 1/3。G. 胴部外面に黒斑あり。H. 覆土下層。
63	小形甕	A. 口縁部径 10.7、残存高 10.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。頸部内外面ハケ。胴部外面ケズリとナデ、内面ナデとハケ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外- 橙色。F. 口縁部~胴部下位 4/5。G. 内外面に黒斑あり。H. 覆土上層。
64	小形甕	A. 口縁部径 12.0、残存高 7.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面ナデと指押え。D. 石英、角閃石。E. 内外- 橙色。F. 1/4。H. 覆土中。
65	小形甕	A. 口縁部径 (10.7)、器高 11.2、底部径 3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ケズリとナデ。底部外面ケズリ。D. 石英、角閃石。E. 内外- 橙色。F. 3/4。H. 覆土中。
66	小形甕	A. 口縁部径 12.1、器高 12.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後下半雑なミガキ、内面窺ナデ。D. 石英、片岩、角閃石。E. 内外- にぶい橙色。F. ほぼ完形。G. 胴部外面に黒斑あり。H. 覆土下層。
67	小形甕	A. 口縁部径 10.5、器高 10.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面窺ナデとケズリ、内面窺ナデ。D. 片岩、角閃石、石英。E. 内外- 橙色。F. 3/4。H. 覆土中。
68	小形甗	A. 残存高 6.0、底部径 (4.7)。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ナデ、内面ハケの後ナデ。D. 角閃石。E. 内- 明赤褐色、外- にぶい黄橙色。F. 胴部下位~底部 3/4。G. 外面に黒斑あり。内面に黒色附着物。H. 覆土下層。
69	小形甗	A. 残存高 2.5、底部径 5.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面胴部下位ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 内- 明赤褐色、外- 橙色。F. 底部のみ。G. 外面に黒斑あり。H. 覆土中。
70	高坏	A. 残存高 12.0、脚端部径 (15.1)。B. 粘土紐積み上げ。C. 脚部外面ナデ、内面ナデの後ハケ。D. 石英、白色粒。E. 内- 明赤褐色、外- 橙色。F. 脚部 1/3。G. 脚部穿孔は縦 2 個 1 組 3 ヶ所。H. 覆土上層。
71	高坏	A. 残存高 5.0、脚端部径 17.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 脚部内外面ナデ。D. 石英、白色粒、角閃石。E. 内外- 淡橙色。F. 脚部 4/5。G. 脚部穿孔は縦 2 個 1 組 3 ヶ所。H. 覆土上層。
72	高坏	A. 口縁部径 (11.6)、器高 (15.4)、脚端部径 (8.2)。B. 粘土紐積み上げ。C. 坏部外面ナデの後ハケ、内面ナデ。脚部外面ハケ、内面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 片岩、角閃石、白色粒。E. 内- 灰黄褐色、外- 黒褐色。F. 坏部破片、脚部 3/4。G. 器形は図上復元。H. 覆土中。
73	高坏	A. 残存高 9.9、底部径 (10.4)。B. 粘土紐積み上げ。C. 脚柱部外面ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外- 明赤褐色。F. 脚部 2/3。H. 覆土上層。
74	高坏	A. 口縁部径 15.5、残存高 13.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ナデの後ケズリ、内面ナデの後ミガキ。坏部外面ナデ。脚柱部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。D. 角閃石、片岩、黒色粒。E. 内- 淡黄橙色、外- 浅黄橙色。F. 口縁部~脚部上半 4/5。H. 覆土下層。
75	高坏	A. 口縁部径 15.4、器高 18.7、脚端部径 14.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ナデ、内面ヨコナデの後粗いミガキ。坏部外面ケズリ。脚柱部外面ナデ、内面ナデ。脚端部外面ナデ、内面ヨコナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内- 橙色、外- 赤褐色。F. 4/5。G. 外面黒斑あり。H. 覆土下層。
76	高坏	A. 口縁部径 13.1、器高 13.1、脚端部径 11.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデの後粗いミガキ。坏部外面ナデ。脚柱部外面ナデ、内面ケズリ、脚端部内外面ヨコナデ。D. 石英、白色粒。E. 内外- 橙色。F. 3/4。H. 覆土上層。
77	高坏	A. 残存高 11.7、脚端部径 14.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 脚柱部外面ナデ、内面ナデの後ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内- にぶい黄橙色、外- にぶい赤褐色。F. 脚部 4/5。H. 覆土下層。
78	高坏	A. 口縁部径 17.2、器高 17.6、脚端部径 14.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデの後ナデ、内面ヨコナデの後ミガキ。坏部外面ナデ。脚柱部外面ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外- 橙色。F. ほぼ完形。G. 口縁部外面に黒斑あり。H. 覆土下層。

79	高	坏	A. 口縁部径 18.1、器高 16.5、脚端部径 13.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ケズリの後ヨコナデ、内面ヨコナデの後粗いミガキ。坏部外面ナデ。脚柱部外面ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内-橙色、外-赤褐色。F. 4/5。G. 脚部内外面に黒斑あり。H. 覆土下層。
80	高	坏	A. 口縁部径 19.2、器高 15.7、脚端部径 13.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデの後粗いミガキ。坏部外面ケズリの後ナデ。脚柱部外面ナデの後ミガキ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 石英、角閃石、白色粒。E. 内外-橙色。F. 4/5。H. 覆土下層。
81	高	坏	A. 口縁部径 17.2、器高 16.4、脚端部径 12.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデの後粗いミガキ。坏部外面ナデ。脚柱部外面ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 片岩、白色粒、角閃石。E. 内外-橙色。F. 4/5。H. 覆土下層。
82	高	坏	A. 口縁部径 15.2、器高 14.4、脚端部径 12.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ナデ。脚柱部外面ナデ、内面ケズリ。脚端部外面ヨコナデ、内面ケズリ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 完形。G. 内外面に黒斑あり。H. 覆土下層
83	高	坏	A. 口縁部径 17.2、器高 15.2、脚端部径 14.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデの後ナデ、内面ヨコナデの後粗いミガキ。脚柱部外面ナデ、内面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土上層
84	高	坏	A. 口縁部径 18.0、器高 15.8、脚端部径 13.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ケズリ。脚柱部内外面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 石英、片岩、角閃石。E. 内外-橙色。F. 4/5。G. 脚柱部穿孔は1ヶ所。内外面に黒斑あり。H. 覆土下層。
85	高	坏	A. 口縁部径 17.5、器高 14.8、脚端部径 12.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ナデ。脚柱部内外面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 石英、角閃石、白色粒。E. 内外-橙色。F. 4/5。G. 脚柱部に未貫通の焼成前穿孔痕1ヶ所あり。H. 覆土下層。
86	有段高	坏	A. 口縁部径 17.7、残存高 11.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ヨコナデ。脚柱部外面ナデ、内面ナデ。D. 白色粒、角閃石、石英。E. 内-橙色、外-明赤褐色。F. 口縁部~胴部上半 4/5。H. 覆土上層。
87	高	坏	A. 口縁部径 (19.9)、器高 17.9、脚端部径 (15.4)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ケズリの後ヨコナデ、内面ヨコナデの後粗いミガキ。坏部外面ナデ。脚柱部外面ハケの後ナデ、内面ナデ。脚端部外面ハケの後ヨコナデ、内部ヨコナデ。D. 雲母、白色粒。E. 内外-赤褐色。F. 3/4。G. 内外面に黒斑あり。H. 覆土下層。
88	高	坏	A. 口縁部径 18.2、器高 15.5、脚端部径 (15.8)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。脚柱部外面ナデ、内面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外-橙色。F. 3/4。G. 口縁部内外面に黒斑あり。H. 覆土中。
89	高	坏	A. 口縁部径 (19.3)、器高 15.3、脚端部径 (13.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデの後粗いミガキ。脚柱部外面ナデ、内面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 角閃石、石英、白色粒。E. 内外-橙色。F. 2/3。H. 覆土中。
90	高	坏	A. 口縁部径 (18.0)、器高 14.2、脚端部径 (14.5)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。脚柱部外面ナデ、内面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 石英、白色粒。E. 内外-橙色。F. 3/4。H. 覆土下層。
91	高	坏	A. 口縁部径 19.1、器高 14.8、脚端部径 14.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ナデ。脚柱部内外面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 石英、角閃石、白色粒。E. 内外-橙色。F. 完形。G. 内外面に黒斑あり。脚部内面に黒色付着物あり。H. 覆土上層。
92	高	坏	A. 口縁部径 19.2、器高 13.6、脚端部径 13.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ケズリ。脚柱部外面ナデ、内面ナデ。脚端部ヨコナデ。D. 角閃石、石英、片岩。E. 内外-橙色。F. 4/5。G. 外面口縁部に黒斑あり。H. 覆土上層。
93	高	坏	A. 口縁部径 16.0、器高 14.6、脚端部径 (10.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ケズリ。脚柱部外面ナデ、内面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 石英・角閃石・片岩。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 4/5。H. 覆土下層。
94	高	坏	A. 口縁部径 18.9、残存高 6.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ケズリ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 坏部のみ。H. 覆土下層。
95	高	坏	A. 口縁部径 17.6、残存高 5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ケズリ。D. 白色粒。E. 内外-橙色。F. 坏部のみ。H. 覆土中。
96	高	坏	A. 口縁部径 (18.8)、残存高 6.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。坏部外面ケズリとナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内-黒褐色、外-にぶい赤褐色。F. 坏部 1/2。G. 内外面に黒斑あり。H. 覆土中下層。
97	高	坏	A. 口縁部径 (17.5)、残存高 7.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内-にぶい赤褐色、外-明赤褐色。F. 坏部 1/2。G. 内面に黒斑あり。H. 覆土中。
98	高	坏	A. 残存高 10.8、脚端部径 16.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 脚柱部外面ナデ、内面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 石英、角閃石、白色粒。E. 内-明赤褐色、外-橙色。F. 脚部のみ。G. 内外面に黒斑あり。H. 覆土下層。
99	高	坏	A. 残存高 10.7、脚端部径 (13.6)。B. 粘土紐積み上げ。C. 脚柱部内外面ナデ。脚端部外面ヨコナデ、内面ハケの後ヨコナデ。D. 角閃石、石英、片岩。E. 内外-赤褐色。F. 脚部 1/3。H. 覆土中。
100	高	坏	A. 残存高 10.7、脚端部径 (12.6)。B. 粘土紐積み上げ。C. 脚柱部外面ナデ、内面ケズリ。脚端部ヨコナデ。D. 角閃石、石英、片岩。E. 内-赤褐色、外-明赤褐色。F. 脚部 3/4。H. 覆土中。
101	高	坏	A. 残存高 9.8、底部径 (13.5)。B. 粘土紐積み上げ。C. 脚部外面ナデ、内面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 角閃石、石英、片岩。E. 内-にぶい褐色、外-にぶい赤褐色。F. 脚部 3/4。H. 覆土中。
102	高	坏	A. 残存高 8.0、脚端部径 13.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 脚柱部外面ナデ、内面篋ナデ。脚端部内外面ケズリの後ヨコナデ。D. 白色粒、雲母。E. 内外-にぶい褐色。F. 脚部のみ。H. 覆土中。

103	高 坏	A. 残存高 8.2、脚端部径 12.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 脚柱部外面ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外-にぶい橙色。F. 脚部 4/5。H. 覆土中。
104	特殊器台	A. 口縁部径 (17.9)、残存高 10.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ハケの後ヨコナデ、内面ヨコナデの後ミガキ。体部外面ハケの後ナデ、内面ヨコナデ。脚部内外面ナデ。D. 白色粒、雲母。E. 内外-橙色。F. 口縁部~脚部上位 1/3。G. 器受部穿孔横 2 個 1 組 3 ヲ所。脚部穿孔縦 2 個 1 組 3 ヲ所。H. 覆土中。
105	特殊器台	A. 残存高 7.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 器受部外面ハケの後ナデ、内面ナデの後ハケ。D. 石英、角閃石。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 器受部 1/3。G. 器受部穿孔は横 2 個 1 組 3 ヲ所。H. 覆土下層。
106	器 台	A. 口縁部径 (8.6)、残存高 4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 器受部内外面ヨコナデの後ミガキ。脚部外面ナデの後ミガキ、内面ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外-橙色。F. 器受部 3/4。G. 器受部外面に黒斑あり。H. 覆土中。
107	小 形 鉢	A. 口縁部径 12.0、器高 8.8、底部径 2.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面指ナデ、内面ハケ。胴部外面指ナデ、内面ハケとナデ。底部外面ナデ。D. 雲母、白色粒。E. 内外-橙色。F. 1/2。H. 覆土中。
108	小 形 鉢	A. 口縁部径 12.2、器高 8.9、底部径 1.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 石英、角閃石、雲母。E. 内-にぶい橙色、外-にぶい黄橙色。F. 4/5。G. 胴部外面に黒斑あり。H. 覆土下層。
109	小 形 鉢	A. 口縁部径 11.9、器高 9.1、底部径 3.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面指ナデ。底部外面ケズリ。D. 雲母、白色粒。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。G. 内外面に黒斑あり。H. 覆土下層。
110	小 形 鉢	A. 口縁部径 11.3、器高 7.4、底部径 4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ケズリ。底部外面ケズリ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。G. 胴部外面に黒斑あり。H. 覆土下層。
111	坏	A. 口縁部径 12.6、器高 6.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外-橙色。F. 2/3。G. 胴部上位内面に黒色付着物あり。H. 覆土中。
112	坏	A. 口縁部径 (13.8)、残存高 6.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、雲母。E. 内-にぶい赤褐色、外-にぶい褐色。F. 口縁部~体部 1/5。G. 外面に黒斑あり。H. 覆土中。
113	坏	A. 口縁部径 (9.1)、器高 4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ、内面ハケ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外-橙色。F. 3/4。H. 覆土下層。
114	甗	A. 残存高 6.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ナデの後ケズリ、内面観察不可。D. 角閃石、石英、白色粒。E. 内外-橙色。F. 胴部のみ。G. 胴部穿孔は焼成前。胴部外面に黒斑あり。H. 覆土上層。
115	小 形 壺	A. 口縁部径 9.8、器高 13.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 石英、片岩、白色粒。E. 内-黒色、外-にぶい赤褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
116	小 形 壺	A. 口縁部径 8.0、器高 12.7、底部径 5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。底部外面ケズリ。D. 雲母、白色粒。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。G. 外面に黒斑あり。H. 覆土中上層。
117	小 形 壺	A. 口縁部径 (8.2)、器高 13.0、底部径 2.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ケズリの後指押え、内面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面窺ナデとケズリ。底部外面ナデ。D. 石英、角閃石、白色粒。E. 内-橙色、外-にぶい橙色。F. 1/2。G. 胴部下位外面に黒斑あり。H. 覆土中。
118	小 形 壺	A. 口縁部径 11.8、器高 12.4、底部径 4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ。内面窺ナデ。D. 片岩、石英、角閃石。E. 内外-にぶい褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
119	小形直口壺	A. 口縁部径 (11.6)、器高 12.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ケズリの後ヨコナデ、内面ヨコナデ。胴部外面ヨコナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外-にぶい橙色。F. 3/4。G. 胴部外面に黒斑あり。H. 覆土中。
120	小形直口壺	A. 残存高 9.3、底部径 6.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部内外面ナデ。底部ケズリの後ナデ。D. 片岩、角閃石、白色粒。E. 内外-橙色。F. 胴部のみ。H. 覆土上層。
121	小形直口壺	A. 口縁部径 (9.4)、残存高 9.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデの後ナデ、内面ヨコナデ。胴部内外面ケズリ。D. 石英、角閃石、白色粒。E. 内外-橙色。F. 2/3。H. 覆土中。
122	小形直口壺	A. 口縁部径 (9.0)、器高 10.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 角閃石、片岩、白色粒。E. 内外-橙色。F. 3/4。G. 胴部中位外面に黒斑あり。H. 覆土下層。
123	小形直口壺	A. 口縁部径 (9.6)、器高 10.1、底部径 1.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 石英、角閃石。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 3/4。G. 胴部内外面に黒斑あり。H. 覆土中。
124	小形直口壺	A. 口縁部径 9.1、残存高 6.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ナデ。D. 石英、角閃石、白色粒。E. 内外-橙色。F. 口縁部のみ。H. 覆土中。
125	小形直口壺	A. 口縁部径 9.2、器高 8.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外-橙色。F. 4/5。G. 胴部外面に黒斑あり。H. 覆土上層。

126	小形直口壺	A.口縁部径(9.6)、器高9.6。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.片岩、石英、角閃石。E.内外-橙色。F.3/4。H.覆土下層。
127	小形直口壺	A.口縁部径10.6、残存高8.6。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ナデ、内面ケズリ。胴部外面ケズリの後指押えとナデ、内面指ナデ。D.石英、片岩、角閃石。E.内-にぶい褐色、外-橙色。F.1/2。G.内外面に黒斑あり。H.覆土中。
128	小形直口壺	A.口縁部径9.1、器高9.6。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ヨコナデの後指押え、内面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、指ナデ。D.白色粒、角閃石。E.内外-橙色。F.4/5。G.胴部外面に黒斑あり。H.覆土下層。
129	小形直口壺	A.残存高9.8。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D.角閃石、白色粒。E.内外-橙色。F.1/3。H.覆土中。
130	小形直口壺	A.口縁部径(8.4)、器高9.2。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデの後指ナデ。D.角閃石、片岩、石英、白色粒。E.内外-橙色。F.1/2。G.底部外面に黒斑あり。H.覆土中。
131	小形直口壺	A.口縁部径8.9、器高9.2。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.石英、片岩、角閃石、白色粒。E.内外-にぶい橙色。F.1/3。H.覆土上層。
132	小形直口壺	A.口縁部径9.8、器高8.8。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面指ナデ。D.角閃石、白色粒。E.内外-橙色。F.ほぼ完形。G.胴部外面に黒斑あり。H.覆土上層。
133	小形直口壺	A.口縁部径(9.9)、器高9.1。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.石英、白色粒、片岩。E.内外-橙色。F.1/2。G.胴部外面に黒斑あり。H.覆土中。
134	小形直口壺	A.口縁部径7.8、器高8.9。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面指ナデ。D.石英、角閃石、白色粒。E.内外-橙色。F.4/5。G.外面に黒斑あり。H.覆土下層。
135	小形直口壺	A.口縁部径9.4、器高8.5。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。D.角閃石、白色粒。E.内外-橙色。F.ほぼ完形。H.覆土中。
136	小形直口壺	A.口縁部径9.4、器高8.4。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.石英、角閃石、白色粒。E.内外-橙色。F.4/5。G.胴部外面に黒斑あり。H.覆土中。
137	小形直口壺	A.口縁部径(8.6)、残存高7.8。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.片岩、角閃石、白色粒。E.内外-橙色。F.1/2。G.内外面に黒斑あり。H.覆土中。
138	小形直口壺	A.口縁部径8.7、器高8.0。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.片岩、石英、白色粒、角閃石。E.内外-橙色。F.ほぼ完形。H.覆土中。
139	小形直口壺	A.口縁部径9.3、器高8.0。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面指ナデ。D.白色粒、石英、角閃石。E.内外-橙色。F.完形。H.覆土下層。
140	小形直口壺	A.口縁部径7.8、器高8.4、底部径2.7。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ハケとナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、角閃石。E.内外-橙色。F.4/5。H.覆土下層。
141	小形直口壺	A.口縁部径(9.1)、器高8.3、底部径3.2。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ハケの後ヨコナデ、内面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D.角閃石、白色粒。E.内外-橙色。F.3/4。H.覆土中。
142	小形直口壺	A.口縁部径8.0、器高8.2。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ヨコナデの後指ナデ、内面ケズリ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内-橙色、外-にぶい橙色。F.3/4。G.胴部外面に黒斑あり。H.覆土中。
143	小形直口壺	A.口縁部径10.0、器高7.5。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ナデ、内面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面指ナデ。D.白色粒、角閃石。E.内外-橙色。F.4/5。H.覆土下層。
144	小形直口壺	A.口縁部径8.7、器高7.5、底部径2.4。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。頸部外面指押え。胴部外面ナデの後ケズリ、内面指ナデの後ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒子、角閃石。E.内外-橙色。F.完形。H.覆土下層。
145	小形直口壺	A.口縁部径7.4、器高7.4、底部径2.8。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面指押えの後ヨコナデ、内面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。底部外面ナデ。D.角閃石、白色粒。E.内-にぶい褐色、外-橙色。F.完形。G.外面に黒斑あり。H.覆土上層。
146	小形直口壺	A.残存高6.1、底部径3.7。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ナデ。胴部外面ナデ、内面ナデ。D.白色粒、角閃石。E.内外-橙色。F.口縁部下位以下ほぼ完形。G.胴部外面に黒斑あり。H.覆土中。
147	小形直口壺	A.残存高4.9、底部径4.6。B.粘土紐積み上げ。C.胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。底部ナデ。D.石英、角閃石、白色粒。E.内外-橙色。F.胴部のみ。H.覆土下層。
148	小形壺	A.口縁部径8.6、器高10.0、底部径5.0。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ハケの後ナデ、内面ナデ。底部外面ナデ。D.石英、角閃石。E.内外-にぶい黄橙色。F.ほぼ完形。H.覆土中。
149	小形壺	A.口縁部径8.7、器高9.5。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ナデとケズリ、内面窺ナデ。D.石英、片岩、角閃石、白色粒。E.内外-橙色。F.ほぼ完形。H.覆土中。

150	小形直口壺	A.口縁部径(9.2)、器高9.6。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ナデ、内面ハケの後ケズリとナデ。D.白色粒、角閃石、石英。E.内外-橙色。F.1/2。H.覆土下層。
151	小形直口壺	A.口縁部径9.3、器高9.0。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面篋ナデ。D.石英、白色粒、角閃石。E.内外-橙色。F.4/5。H.覆土下層。
152	小形直口壺	A.口縁部径(9.7)、器高8.9。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。頸部内面ケズリ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面指ナデ。D.石英、片岩、角閃石。E.内外-橙色。F.3/4。H.覆土中。
153	小形直口壺	A.口縁部径8.6、器高8.5。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.石英、角閃石、白色粒。E.内外-橙色。F.4/5。G.胴部下半に黒斑あり。H.覆土中。
154	小形直口壺	A.口縁部径(11.0)、器高9.2、底部径2.1。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。底部ナデ。D.角閃石、白色粒。E.内外-にぶい橙色。F.2/3。G.内外面に黒斑あり。H.河川跡。
155	小形直口壺	A.口縁部径10.1、器高9.1、底部径2.7。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ケズリの後篋ナデ。底部ケズリ。D.石英、雲母。E.内外-橙色。F.ほぼ完形。H.覆土下層。
156	小形直口壺	A.口縁部径(9.0)、器高9.2。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ケズリの後ヨコナデ、内面ヨコハケ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.角閃石、白色粒。E.内外-橙色。F.3/4。G.胴部外面に黒斑あり。H.覆土中。
157	小形直口壺	A.口縁部径8.9、底部径5.2、器高8.1。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ナデ。頸部内面ケズリ。胴部内外面ナデ。底部ナデ。D.石英、角閃石、白色粒。E.内-にぶい赤褐色、外-橙色。F.2/3。H.覆土中。
158	小形直口壺	A.口縁部径(9.4)、器高8.0。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面指ナデ。D.石英、角閃石、赤色粒。E.内-にぶい黄橙色、外-にぶい橙色。F.1/3。H.覆土中。
159	小形直口壺	A.口縁部径8.6、器高8.5。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面指ナデ。D.石英、雲母、白色粒。E.内外-橙色。F.ほぼ完形。H.覆土中。
160	小形直口壺	A.口縁部径9.2、器高8.3。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部ナデの後ケズリ、内面篋ナデ。D.白色粒、片岩、石英。E.内外-橙色。F.4/5。G.胴部外面に黒斑あり。H.覆土中。
161	小形直口壺	A.口縁部径9.6、器高8.4。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.雲母、白色粒。E.内外-橙色。F.4/5。H.覆土中。
162	小形直口壺	A.口縁部径9.2、器高8.5。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ミガキ、内面ナデ。D.角閃石、石英、片岩、白色粒。E.内外-橙色。F.4/5。H.覆土中。
163	小形直口壺	A.口縁部径8.6、器高8.5。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.石英、角閃石、白色粒。E.内外-橙色。F.4/5。H.覆土下層。
164	小形直口壺	A.口縁部径(8.5)、器高7.2。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.石英、角閃石、白色粒。E.内外-橙色。F.4/5。H.河川跡下層。
165	小形直口壺	A.口縁部径8.3、器高7.5。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。頸部内面ケズリ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.石英、片岩、白色粒。E.内外-橙色。F.完形。G.底部内外面に黒斑あり。H.河川跡下層。
166	小形直口壺	A.口縁部径7.8、残存高7.6。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面指ナデの後ナデ。D.片岩、白色粒、角閃石。E.内外-にぶい橙色。F.2/3。H.覆土中。
167	小形直口壺	A.口縁部径10.0、器高7.4、底部径1.8。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデの後ミガキ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ナデ。D.白色粒、石英、角閃石。E.内外-橙色。F.完形。G.胴部内面に黒斑あり。H.覆土下層。
168	小形直口壺	A.口縁部径(8.6)、残存高7.4。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ。内面ナデ。D.角閃石、白色粒。E.内外-橙色。F.3/4。G.底部外面に黒斑あり。H.覆土中。
169	小形直口壺	A.口縁部径8.0、器高7.6。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。頸部内面ケズリ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.片岩、石英、角閃石。E.内外-橙色。F.完形。H.覆土下層。
170	小形直口壺	A.口縁部径8.4、器高7.1。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ハケ。胴部外面ハケの後ナデ。内面指ナデ。底部外面ケズリ。D.角閃石、白色粒。E.内外-橙色。F.完形。H.覆土下層。
171	小形直口壺	A.口縁部径(8.8)、残存高7.0。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ヨコナデの後指抑え、内面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面指ナデと指抑え。D.白色粒、角閃石。E.内外-にぶい褐色。F.1/3。G.内外面に黒斑あり。H.覆土中。
172	小形直口壺	A.口縁部径(9.8)、残存高5.8。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.角閃石、白色粒。E.内外-にぶい褐色。F.1/4。H.覆土中。
173	小形直口壺	A.口縁部径7.6、残存高8.2。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.石英、角閃石、白色粒。E.内外-明赤褐色。F.口縁部~胴部上半3/4。H.覆土下層。

174	小形直口壺	A. 口縁部径 7.8、器高 7.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面指ナデの後ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外-明赤褐色。F. 4/5。H. 覆土下層。
175	小形直口壺	A. 口縁部径 9.4、器高 6.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面指ナデの後窺ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外-橙色。F. 完形。H. 覆土下層。
176	小形直口壺	A. 口縁部径 8.0、器高 6.9、底部径 4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面指ナデの後窺ナデ。底部外面ケズリ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外-にぶい橙色。F. 完形。G. 胴部外面に黒斑あり。H. 覆土下層。
177	小形直口壺	A. 口縁部径 7.8、器高 6.2、底部径 3.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面指ナデ。底部外面ケズリ。D. 石英、角閃石、白色粒。E. 内外-橙色。F. 完形。H. 覆土下層。
178	小形直口壺	A. 残存高 7.1、底部径 3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 頸部外面ナデ、内面ハケ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。底部外面ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内-明赤褐色。外-橙色。F. 胴部 2/3。H. 覆土中。
179	小形直口壺	A. 残存高 5.9、底部径 2.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ケズリの後ナデ、内面指ナデ。底部外面ケズリ。D. 石英、角閃石。E. 内外-明赤褐色。F. 胴部 4/5。G. 胴部外面に黒斑あり。H. 覆土中。
180	小形直口壺	A. 残存高 6.2、底部径 4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。底部外面ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外-橙色。F. 胴部 2/3。G. 胴部外面に黒斑あり。H. 覆土下層。
181	小形直口壺	A. 残存高 5.6、底部径 5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部内外面ナデ。底部外面ナデ。D. 石英、角閃石、片岩。E. 内-にぶい褐色、外-橙色。F. 胴部 3/4。G. 胴部外面に黒斑あり。H. 覆土下層。
182	小形直口壺	A. 口縁部径 (7.8)、器高 5.7、底部径 4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部ヨコナデ。胴部内外面ナデ。D. 石英、角閃石。E. 内外-橙色。F. 4/5。H. 覆土下層。
183	小形直口壺	A. 口縁部径 6.9、器高 5.9、底部径 3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面ケズリと指ナデ。底部ナデ。D. 片岩、石英、角閃石。E. 内外-明赤褐色。F. 完形。G. 内外面に黒斑あり。H. 覆土下層。
184	小形直口壺	A. 口縁部径 (9.5)、器高 7.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ケズリの後ヨコナデ、内面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩、石英、角閃石、白色粒。E. 内外-にぶい橙色。F. 1/4。H. 覆土中。
185	小形直口壺	A. 口縁部径 (9.5)、残存高 6.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面指ナデ。D. 石英、角閃石、白色粒。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
186	小形直口壺	A. 口縁部径 (9.6)、器高 6.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩、石英、角閃石、白色粒。E. 内外-にぶい褐色。F. 3/4。H. 覆土下層。
187	小形直口壺	A. 口縁部径 9.2、器高 6.2、底部径 4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面ケズリ。胴部内外面ナデ。底部外面ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外-橙色。F. 4/5。G. 内外面に黒斑あり。H. 覆土中。
188	小形直口壺	A. 口縁部径 (8.8)、器高 5.6、底部径 (3.7)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面指押え、内面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面窺ナデとハケ。底部外面ケズリ。D. 白色粒、角閃石。E. 内-にぶい褐色、外-にぶい橙色。F. 1/3。H. 覆土中。
189	小形無頸壺	A. 口縁部径 4.3、残存高 3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面指ナデと指押え。胴部内外面ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外-橙色。F. 胴部上半 3/4。H. 覆土中。
190	ミニチュア	A. 口縁部径 (7.8)、器高 7.0、底部径 (4.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面指押え、内面ナデ。体部内外面ナデ。底部外面ナデ。D. 石英、白色粒、角閃石。E. 内-灰黄褐色、外-にぶい赤褐色。F. 1/5。H. 覆土下層。
191	ミニチュア	A. 口縁部径 5.0、器高 6.0、底部径 3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面指押え。胴部ナデの後部分的にケズリ、内面ナデ、底部外面ケズリの後ナデ。D. 角閃石、白色粒、石英。E. 内-にぶい橙色、外-明褐色。F. 完形。G. 口縁部に焼成前穿孔対極に 2ヶ所あり。H. 覆土上層。
192	ミニチュア	A. 残存高 5.4、底部径 3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 頸部外面ヨコナデ、内面指押え。胴部内外面ナデ。底部外面ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 内-にぶい黄褐色、外-にぶい黄橙色。F. 胴部のみ。G. 胴部内外面に黒斑あり。H. 覆土下層。
193	ミニチュア	A. 口縁部径 7.6、器高 4.9、底部径 3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面指押え、内面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内-明赤褐色。外-にぶい赤褐色。F. 1/3。G. 底部木葉痕。H. 覆土下層。
194	ミニチュア	A. 口縁部径 7.8、器高 5.0、底部径 3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面窺ナデ。底部外面ナデ。D. 白色粒、角閃石、片岩。E. 内外-橙色。F. 完形。H. 覆土下層。
195	ミニチュア	A. 口縁部径 6.3、器高 5.2、底部径 4.0。B. 手捏ね。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ。体部内外面ナデ。底部外面ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 完形。H. 覆土中。
196	ミニチュア	A. 口縁部径 6.5、器高 5.2、底部径 3.3。B. 手捏ね。C. 口縁部から胴部内外面ナデ。底部外面ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 内-褐灰色、外-にぶい赤褐色。F. ほぼ完形。G. 内外面に黒斑あり。H. 覆土下層。

197	ミニチュア	A. 残存高 4.4、脚端部径 (7.4)。B. 粘土紐積み上げ。C. 脚柱部外面ケズリ、内面ナデ、脚端部内外面ヨコナデ。D. 角閃石、片岩、白色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 脚部 2/3。H. 覆土下層。
198	ミニチュア	A. 口縁部径 6.7、器高 3.7、底部径 2.9。B. 手捏ね。C. 口縁部外面指押え、内面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。底部外面ナデ。D. 白色粒、角閃石、石英。E. 内-にぶい褐色、外-にぶい赤褐色。F. ほぼ完形。G. 外面底部に黒斑あり。H. 覆土下層。
199	ミニチュア	A. 口縁部径 6.2、器高 4.2、底部径 3.1。B. 手捏ね。C. 外面体部ヨコナデ→口縁部指押え。底部外面ナデ。内面体部タテナデ→口縁部ヨコナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 内-明赤褐色。外-橙色。F. 完形。G. 内外面に黒斑あり。H. 覆土下層。
200	ミニチュア	A. 口縁部径 (6.3)、器高 3.7、底部径 4.2。B. 手捏ね。C. 口縁部から体部内外面ヨコナデ。底部外面ケズリの後ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外-にぶい褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
201	ミニチュア	A. 口縁部径 (6.4)、器高 3.6、底部径 3.6。B. 手捏ね。C. 口縁部から胴部外面ケズリ、内面ナデの後ヨコナデ。底部外面ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 1/3。H. 覆土下層。
202	ミニチュア	A. 口縁部径 (5.8)、器高 3.9、底部径 (3.4)。B. 手捏ね。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部ナデ、底部外面ナデ。D. 白色粒、角閃石、石英。E. 内外-にぶい褐色。F. 1/2。H. 覆土下層。
203	ミニチュア	A. 口縁部径 5.8、器高 3.6、底部径 3.7。B. 手捏ね。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面指押え。胴部ナデ。底部外面ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外-明赤褐色。F. 完形。G. 外面底部に黒斑あり。H. 覆土下層。
204	ミニチュア	A. 口縁部径 4.4、器高 3.5、底部径 2.7。B. 手捏ね。C. 外面ケズリとナデ、内面指ナデ。D. 片岩、角閃石、石英、白色粒。E. 内外-橙色。F. 3/4。G. 底部外面に黒斑あり。H. 覆土下層。
205	ミニチュア	A. 口縁部径 5.0、器高 3.0、底部径 3.2。B. 手捏ね。C. 内外面指ナデ。底部ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外-にぶい黄褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土下層。
206	ミニチュア	A. 口縁部径 (4.5)、器高 3.7、底部径 1.7。B. 手捏ね。C. 内外面ナデ。D. 石英、角閃石、片岩、白色粒。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 4/5。G. 内外面に黒斑あり。H. 覆土下層。
207	ミニチュア	A. 口縁部径 5.2、器高 3.1。B. 手捏ね。C. 内外面ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外-橙色。F. 完形。G. 外面に黒斑あり。H. 覆土下層。
208	ミニチュア	A. 口縁部径 5.4、器高 2.9。B. 手捏ね。C. 内外面指ナデと指押え。D. 白色粒、角閃石。E. 内外-にぶい褐色。F. 完形。G. 外面に黒斑あり。H. 覆土下層。
209	ミニチュア	A. 口縁部径 (7.2)、器高 (3.8)。B. 手捏ね。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面指押え。体部内外面ナデ。D. 石英、片岩、白色粒。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 1/5。H. 覆土下層。
210	ミニチュア	A. 口縁部径 6.7、器高 3.8、底部径 3.6。B. 手捏ね。C. 口縁部内外面指押え。体部外面ナデ、内面指ナデ。底部外面ナデ。D. 片岩、石英、白色粒、角閃石。E. 内-赤褐色。外-にぶい褐色。F. 完形。G. 底部外面に黒斑あり。H. 覆土下層。
211	ミニチュア	A. 口縁部径 (6.8)、器高 3.7、底部径 2.7。B. 手捏ね。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。底部ナデ。D. 片岩、石英、白色粒。E. 内-にぶい褐色、外-にぶい黄褐色。F. 1/2。G. 外面胴部下位に黒斑あり。H. 覆土下層。
212	ミニチュア	A. 口縁部径 5.2、器高 4.7、底部径 3.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面指ナデ。底部外面ナデ。D. 角閃石、白色粒、石英。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 完形。H. 覆土下層。
213	ミニチュア	A. 口縁部径 5.2、器高 4.6、底部径 3.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデ、内面指ナデ。底部ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 完形。G. 胴部内外面に黒斑あり。H. 覆土下層。
214	石製模造品 (円盤)	A. 長径 4.1、短径 3.8、厚さ 0.7、重さ 15.94。C. 両面及び側面研磨。D. 滑石。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
215	石製模造品 (有孔円盤)	A. 直径 2.9、厚さ 0.45、重さ 7.09。C. 両面及び側面研磨。D. 滑石。F. ほぼ完形。G. 穿孔は 2ヶ所。H. 覆土中。
216	石製模造品 (刀子)	A. 長さ 7.0、幅 2.1、厚さ 1.0、重さ 20.89。C. 両面とも研磨。D. 滑石。F. ほぼ完形。刀身と柄の一部が欠損。H. 覆土中。
217	漆	A. 残存長 (10.4)、最大径 1.38。B. 直径 1.45cm 程度の竹筒に入れていたものが固化。D. 漆。F. 不明。G. 一部に木質附着。H. 覆土中。

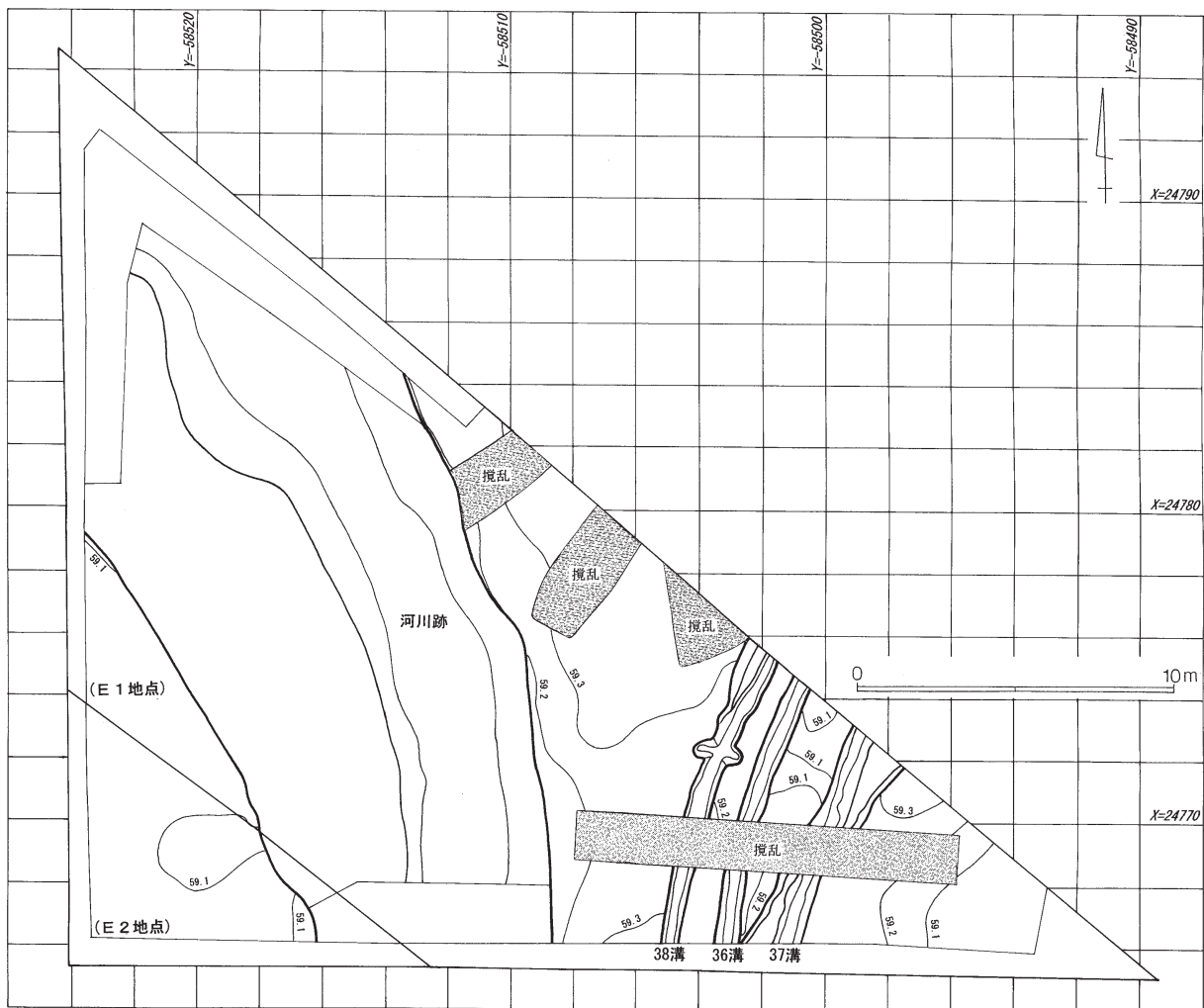
第IV章 久下前遺跡E1地点の調査

第1節 E1地点の概要

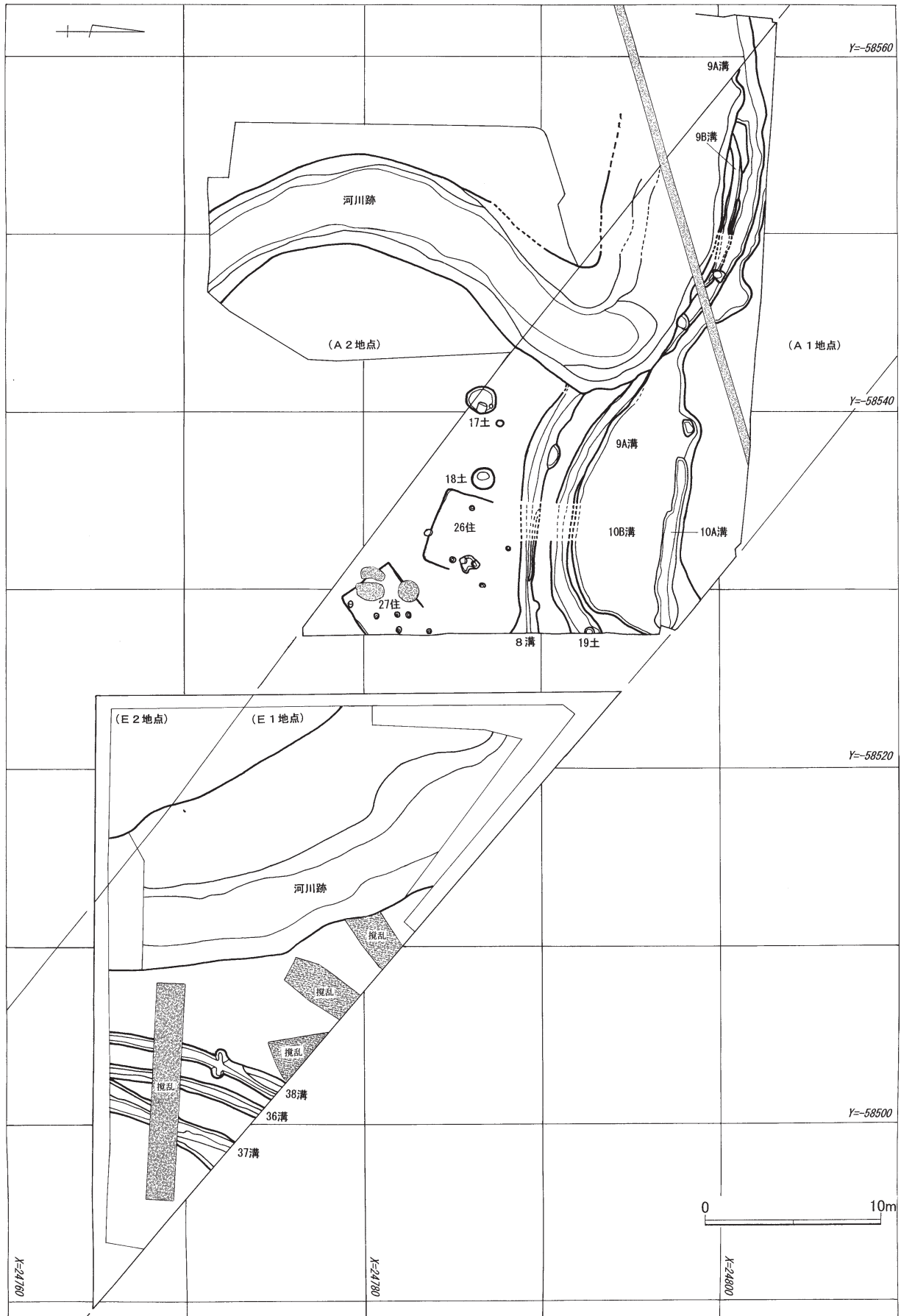
E1地点は、本遺跡が立地する女堀川下流域の女堀川と男堀川に挟まれた東西方向に長い微高地の、南側緩斜面下の男堀川低地部と接する所に位置し、平成20年に調査したA1地点(恋河内・的野2010)の東側に隣接している(第63図)。調査前は、本庄ガスのガスタンクが設置されていた場所で、その建設による造成と基礎工事等による攪乱が著しい。

調査区の表土層は、近世以降における水田や畑地等の開墾による耕作土ではなく、おそらく他の場所から運び込まれた盛土で、その後の攪乱も顕著に見られるものである。そのため、この調査区内の表土層に混入して出土した近世墓地の様相が窺える遺物(第64図)は、残念ながらE1地点周辺の土地利用の変遷を示すものではない。

調査区内からは、白鳳時代の7世紀後半頃と推測される溝跡3条(第36~38溝)と古墳時代前期から中期の河川跡が1条検出されている。溝跡は、いずれも調査区内では南北方向に流



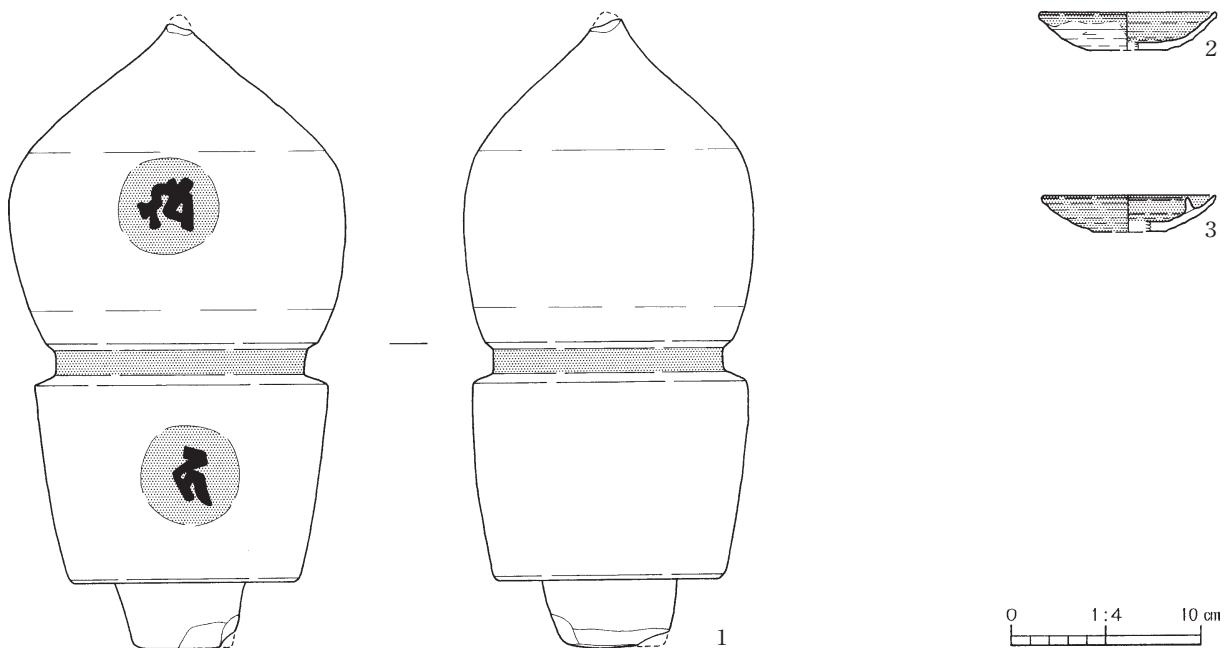
第62図 久下前遺跡E1地点全体図



第63図 久下前遺跡A地点・E地点全体図

路をとっており、隣接する同時期の第36号溝跡と第38号溝跡は1.5m～2mの間隔で並走している。このような同時期に一定の間隔で近接して並走する溝は、道の側溝の可能性も考えられるものであるが、同様の溝群は西側のD1地点でも検出されており、北側微高地の集落域と南側低地部の生産域との境界付近における土地利用の状況を知る上で、注目される遺構であろう。

河川跡は、微高地の南側縁辺に沿って流れており、微高地側の壁が比較的急であるのに対して、低地部側の壁がかなり緩やかに傾斜する形態的な特徴を持っている。類似した河川跡は、西側約70mのD1地点や、東側約70mのC4地点、東側約110mのB1地点(恋河内・的野2010)でも検出されており、いずれも古墳時代前期に機能し中期前半頃には埋没した、同一もしくは関連する河川跡と考えられる。E1地点の西側に隣接するA1地点(恋河内・的野2010)でも同時期の河川跡が検出されているが、本地点の河川跡とは流路が異なる可能性もあり、流路の変更や複数の流路が存在することも考えられよう。



第64図 久下前遺跡E地点表土層出土遺物

久下前遺跡E地点表土層出土遺物観察表

1	五輪塔 (空風輪)	A.全長32.8、最大幅17.5、厚さ15.2。B.削り出し。C.表面は非常によく研磨されている。梵字は「空」「風」の陰刻線内に墨入れし、梵字の円形後背と首部も墨によって黒く塗りつぶしている。D.角閃石安山岩。F.ほぼ完形。G.梵字はかなり形骸化している。H.表土層。
2	瀬戸美濃産 灯明皿	A.口縁部径(9.4)、器高2.0、底部径(4.2)。B.ロクロ成形。C.口縁部外面・体部内面回転ナデ。体部・底部外面回転篋ケズリ。D.白色粒。E.外・肉-淡灰色、内-茶褐色。F.1/3。G.内面と外面の一部に鉄釉を施す。H.表土層。
3	瀬戸美濃産 灯明受皿	A.口縁部径(9.2)、器高1.9、底部径(3.8)。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転篋ケズリ。D.白色粒。E.内外-茶褐色、肉-淡灰色。F.1/4。G.内面と外面の一部に鉄釉を施す。H.表土層。

第2節 検出された遺構と遺物

1. 溝 跡

第36号溝跡（第65図、図版11）

調査区の東側に位置し、本溝跡の東側には第37号溝跡が、西側には第38号溝跡が近接している。調査区内では、いずれの溝跡も南北方向に向いて若干湾曲した流路をとって並走しており、覆土の状態から、西側の第38号溝跡と同時に機能していたものと考えられる。

規模は、溝の上幅が70cm前後のほぼ均一な幅で、確認面からの深さは10cm～16cmある。断面の形態は、壁は緩やかに立ち上がり、底面は広く平坦であるが若干細かな凹凸が見られる。調査区内での溝底面の比高差は、北側に比べて南側の方が15cm程度深くなっている。覆土は、砂もしくは砂を多く含む粘質土が充満しており、遺存状態が悪いため明確ではないが、氾濫等の泥水により一気に埋まったような感じである。

出土遺物は、古墳時代前期～白鳳時代頃までの土師器の小破片が、覆土中から少量出土している。これらの破片は、いずれも磨滅して器表面が荒れており、本溝跡に直接伴うものではなく、多くは周辺から流れ込んだものと思われる。本溝跡の時期は、明確ではないが、覆土の状態が第37号溝跡とも似ていることから、その時期に比較的近いのではないと思われる。

第37号溝跡（第65図、図版11）

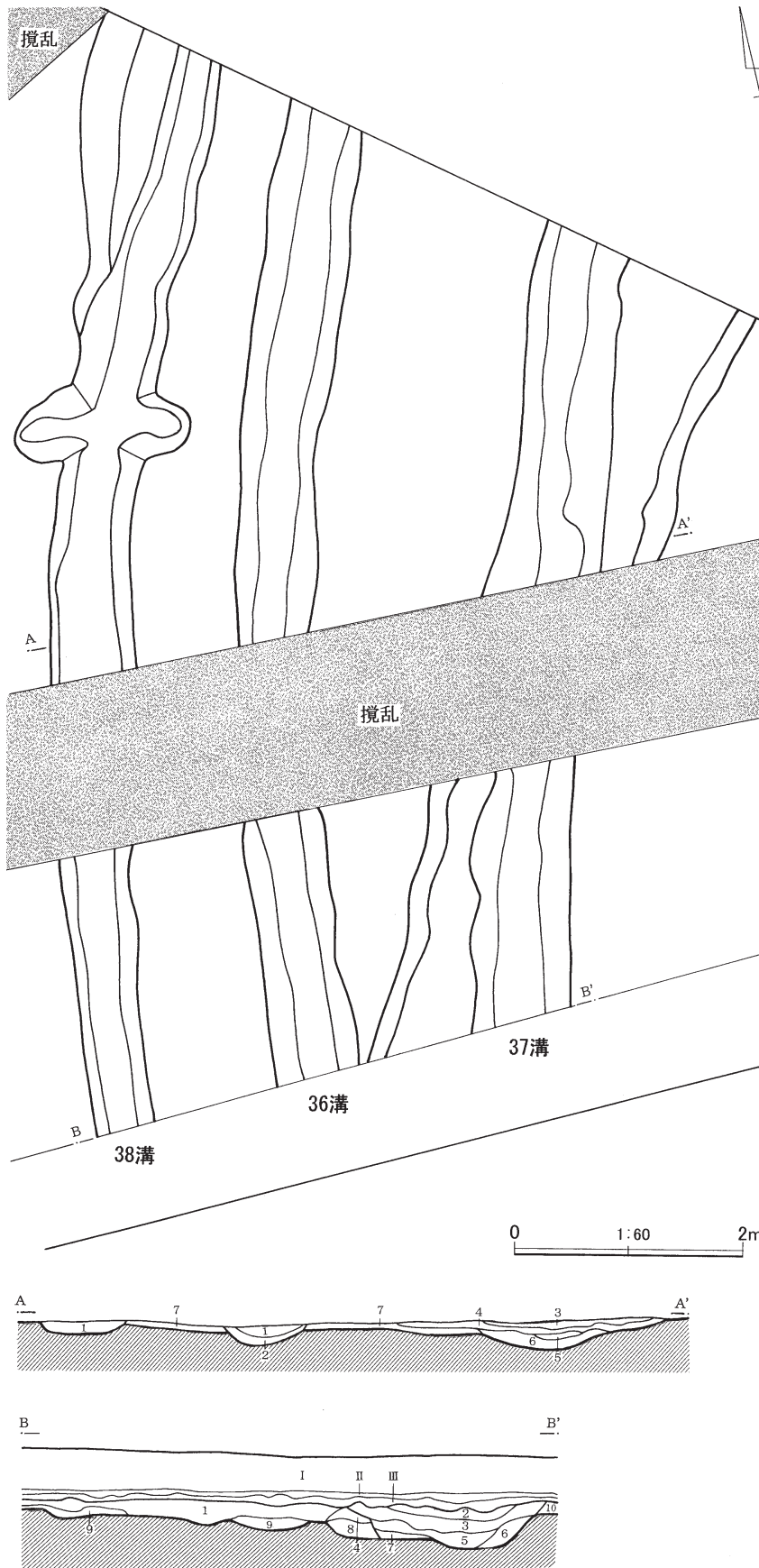
調査区の東側に位置し、本溝跡の西側には第36号溝跡と第38号溝跡が近接して並走している。調査区内では、南北方向に向いて直線的な流路をとっている。北西方向から南東方向に向くやや幅広い溝状の遺構と重複しているように見えるが、A-A'とB-B'の土層断面の観察では、重複関係が整合しないようである。

規模は、溝の上幅が80cm～90cmの比較的均一な幅で、確認面からの深さは16cm～25cmある。断面の形態は、壁は緩やかに立ち上がり、底面は広く平坦であるが細かな凹凸が顕著に見られる。調査区内での溝底面の比高差は、ほとんど見られない。覆土は、第36号溝跡や第38号溝跡と同じく、砂もしくは砂を多く含む粘質土が主体であり、氾濫等の泥水により一気に埋まったような感じである。

出土遺物は、古墳時代前期～白鳳時代頃までの土師器の小破片が、覆土中から比較的多く出土している。本溝跡の時期は、覆土の状態や出土遺物の様相から、7世紀後半頃の白鳳時代と考えられる。

第38号溝跡（第65図、図版11）

調査区の東側に位置する。本溝跡の東側には第36号溝跡と第37号溝跡が近接して並走している。流路は、第36号溝跡と同じく、南北方向に向いて若干湾曲した流路をとっており、覆土の状態から、第36号溝跡と同時に機能していたものと考えられる。



第36・37・38号溝跡土層説明

<A-A'>

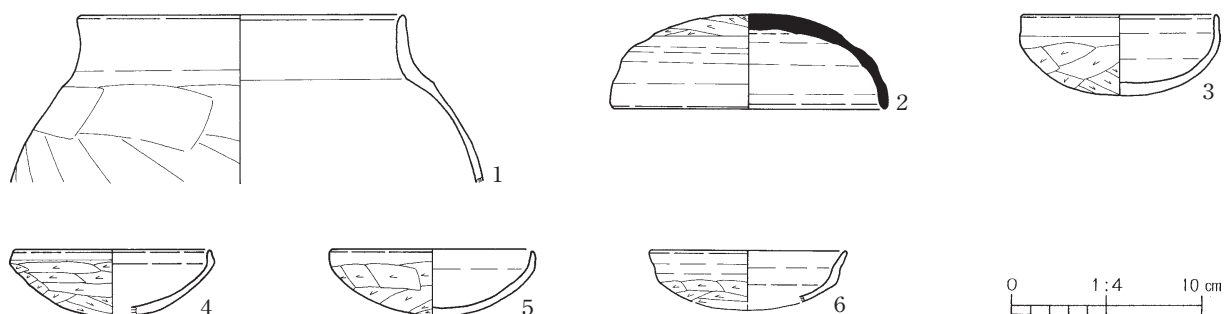
- 第1層：黒褐色シルト質砂層(白色粒、褐灰色砂を微量含む。しまり強く、粘性なし。)
- 第2層：褐灰色砂層(黒褐色シルト質砂を微量含む。しまり、粘性なし。)
- 第3層：暗灰黄色砂層(白色粒を微量含む。しまり強く、粘性なし。)
- 第4層：黒褐色シルト質砂層(炭化物、白色粒、酸化鉄を微量含む。しまり強く、粘性なし。)
- 第5層：暗灰黄色細砂層(径1cmの緑色シルト塊を微量含む。しまり、粘性共になし。)
- 第6層：黄灰色砂層(炭化物を微量含み、径1cmの緑色シルト塊、木質遺物を少量含む。しまり強く、粘性なし。)
- 第7層：黄褐色砂層(白色粒、酸化鉄を微量含む。しまり強く、粘性なし。)

<B-B'>

- 第I層：灰黄褐色土層(盛土。)
- 第II層：黒褐色シルト質砂層(白色粒を少量、径1cmのⅢ層ブロック塊を微量含む。しまり強く、粘性なし。)
- 第III層：暗褐色シルト層(白色粒を微量、酸化鉄を少量含む。しまり強く、粘性なし。)
- 第1層：黒褐色砂質シルト層(白色粒、黄色砂粒、黄褐色土粒を微量、酸化鉄を少量含む。しまり強く、粘性なし。)
- 第2層：灰黄褐色砂質シルト層(白色粒、径1cmの黄褐色シルト塊を微量、酸化鉄を多量含む。しまり強く、粘性なし。)
- 第3層：黒褐色シルト層(炭化物、焼土粒、白色粒、黄褐色砂質シルト粒を微量、酸化鉄を少量含む。しまり強く、粘性なし。)
- 第4層：暗灰黄色砂層(炭化物、黄褐色土粒を微量含む。しまり強く、粘性なし。)
- 第5層：褐灰色細砂層(焼土粒、黄褐色土粒を微量含む。しまり強く、粘性なし。)
- 第6層：黒褐色砂質シルト層(酸化鉄、径1cmの黄褐色砂質シルト塊を微量含む。)

第65図 第36・37・38号溝跡

- 第7層：褐灰色砂層（酸化鉄、黄褐色土粒を微量含む。しまり、粘性共になし。）
 第8層：鈍い黄色砂層（木質遺物あり。しまり、粘性共になし。）
 第9層：鈍い黄色砂層（焼土粒を微量含む、酸化鉄を多量含む。しまり強く、粘性なし。）
 第10層：黄褐色砂質シルト層（炭化物を微量含む、酸化鉄を少量含む。しまり強く、粘性なし。）



第66図 第36・37号溝跡出土遺物

第36・37号溝跡出土遺物観察表

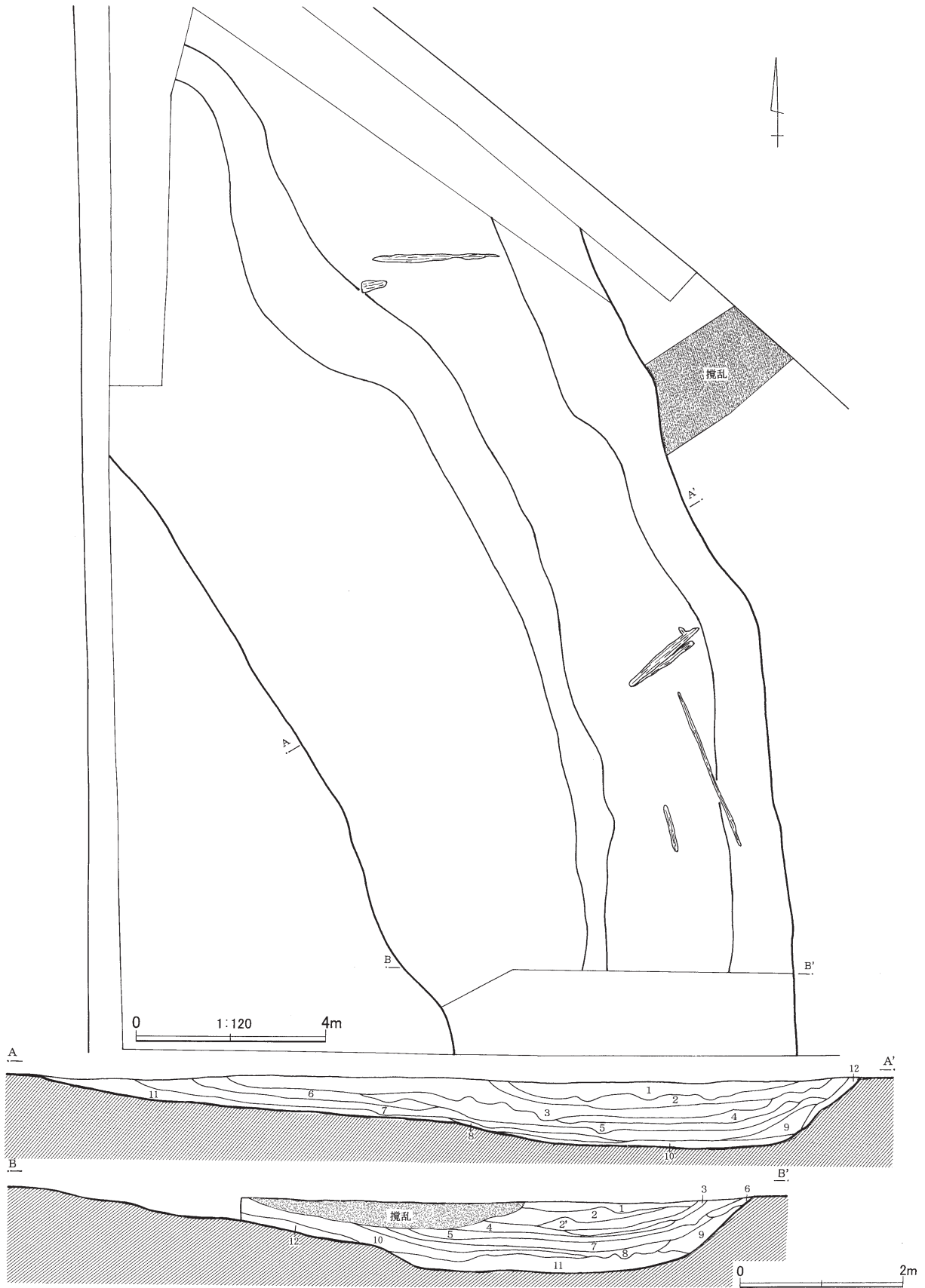
1	甕	A.口縁部径 17.4。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面窺ケズリ、内面窺ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.外-淡褐色、内-明茶褐色。F.胴部上半のみ。G.器表面は荒れている。H.37溝底面。
2	須恵器 環蓋	A.口縁部径 14.6、器高 5.0。B.ロクロ成形。C.体部内外面回転ナデ。天井部外面手持ち窺ケズリ。D.白色粒、小石。E.内外-暗灰色。F.1/2。G.末野産。H.36・37溝覆土中。
3	坏	A.口縁部径 (10.4)、器高 4.3。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.片岩粒、白色粒。E.内外-橙褐色。F.2/3。H.36・37溝覆土中。
4	坏	A.口縁部径 10.4、器高 (3.5)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外-赤橙褐色、内-淡茶褐色。F.2/3。G.外面に黒斑あり。H.36・37溝覆土中。
5	坏	A.口縁部径 10.7、器高 3.5。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-淡橙褐色。F.ほぼ完形。H.37溝覆土中。
6	坏	A.口縁部径 (10.4)、器高 2.7。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外-淡茶褐色。F.1/3。H.36・37溝覆土中。

規模は、溝の上幅が50cm～70cm前後のほぼ均一な幅で、溝の中ほどの両側に幅60cm～70cmの張り出しが見られる。確認面からの深さは、10cm前後ある。断面の形態は、壁は緩やかに立ち上がり、底面は広く平坦であるが若干細かな凹凸が見られる。調査区内での溝底面の比高差は、北側に比べて南側の方が20cm程度深くなっている。覆土は、砂もしくは砂を多く含む粘質土が充満しており、遺存状態が悪いため明確ではないが、他の溝跡と同じように、氾濫等の泥水により一気に埋まったような感じである。

出土遺物は、土師器の小破片が、覆土中から数片出土しただけである。本溝跡の時期は、第36号溝跡と同時期と考えられ、覆土の状態が第37号溝跡とも似ていることから、第36号溝跡と同様に第37号溝跡の時期に比較的近いのではないかとと思われる。

2. 河川跡 (第67図、図版11)

調査区の西側に位置する。調査区内では、集落が立地する微高地の南側縁辺部に沿って、北西から南にやや弧状に湾曲した流路をとっている。河道底面の比高差は調査区内ではほとんど見られないため、どちらに向かって流れていたかは不明であるが、地形的には北から南



第67図 河川跡

河川跡土層説明

<A-A'>

- 第1層：黒褐色砂質シルト層（炭化物、径1cmの暗褐色シルト塊を微量含む。しまり強く、粘性なし。）
第2層：黒褐色砂質シルト層（径1cmのローム塊、径1cmの暗褐色シルト塊を微量含む。しまり強く、粘性なし。）
第3層：暗褐色砂質シルト層（炭化物、径1cmの灰黄褐色シルト塊を微量含む、黒色砂を斑状に少量含む。しまり、粘性共に強い。）
第4層：黒色砂質シルト層（黒色砂、径1cmの灰黄褐色シルト塊を微量含む。しまり、粘性共になし。）
第5層：黒褐色シルト層（径1cmのローム塊、径3cmの暗褐色シルト塊を微量含む、黒色砂を少量含む。しまりなく、粘性強い。）
第6層：黒色砂質シルト層（黒色砂、径1cmの暗褐色シルト塊を微量含む。しまり、粘性共になし。）
第7層：褐灰色シルト層（黄灰褐色砂、酸化鉄、径3cmの褐色シルト塊を少量含む。しまりなし、粘性強い。）
第8層：黒褐色砂質シルト層（径1cmの暗褐色シルト塊、褐色シルト粒を微量含む。しまり、粘性共になし。）
第9層：灰黄褐色シルト質砂層（炭化物、径1cmの褐色シルト塊、褐色シルト粒を微量含む。しまり強く、粘性なし。）
第10層：黒褐色砂質シルト層（褐色シルト粒、酸化鉄を微量、炭化物を少量含む、植物遺存体を多量含む。しまり強く、粘性なし。）
第11層：暗灰黄色砂質シルト層（地山。酸化鉄を少量含む。）
第12層：鈍い黄褐色シルト質砂層（地山。炭化物、酸化鉄を微量含む、褐色シルト粒を少量含む。しまり強く、粘性なし。）

<B-B'>

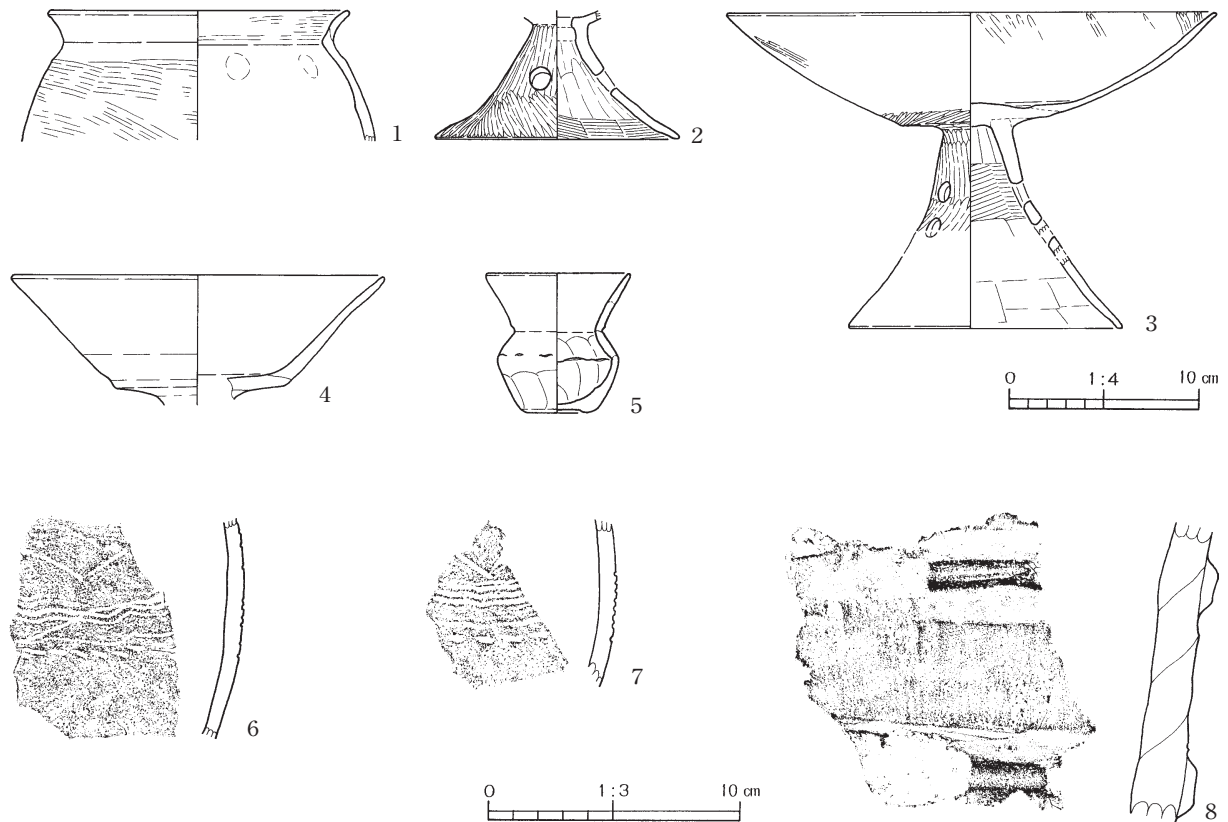
- 第1層：黒色シルト層（炭化物、酸化鉄、黄灰色シルト粒、径3cmの黒褐色シルト塊を微量含む。しまり、粘性共になし。）
第2層：黒褐色シルト層（炭化物、酸化鉄、黄灰色シルト粒、径1cmの黄灰色シルト塊を微量含む。しまり、粘性共になし。）
第2'層：黒褐色シルト層（黄灰シルト粒を微量含む、径1cmの黄灰色シルト塊を多量含む。しまり、粘性共になし。）
第3層：黒褐色シルト質砂層（炭化物、黄灰色シルト粒を微量含む、黒褐色砂を带状に多量含む。しまり強く、粘性なし。）
第4層：黒色シルト層（炭化物、酸化鉄、黒褐色砂を微量含む。しまりなく、粘性強い。）
第5層：黒褐色シルト層（炭化物、径3cmの黒褐色砂を斑状に微量に、酸化鉄を少量含む、径1cmの黄灰色シルト塊を带状に少量含む。しまりなく、粘性強い。）
第6層：暗黄灰色砂層（酸化鉄を微量含む。しまり、粘性共になし。）
第7層：褐灰色シルト層（炭化物を微量含む、径3cmの酸化鉄を少量含む。間に黒色シルト質砂を带状に含む。しまり強く、粘性なし。）
第8層：黒色シルト層（酸化鉄を微量含む、黒褐色砂を少量含む。しまり、粘性共になし。）
第9層：褐灰色シルト質砂層（径1cmの炭化物を微量に、酸化鉄を少量含む、径3cmの黒褐色砂を斑状に少量含む。しまり、粘性共になし。）
第10層：褐灰色シルト層（灰色粒を微量含む、酸化鉄、径1cmの炭化物粒を少量含む。しまりなく、粘性強い。）
第11層：灰色砂層（地山ブロック、炭化物、酸化鉄を微量含む、植物遺存体を多量含む。しまり、粘性共になし。）
第12層：暗灰黄色砂質シルト層（地山。炭化物を微量に含む、酸化鉄を少量含む。しまりなく、粘性強い。）

に向かって流れていたものと思われる。

規模は、上幅が南側で9m、北側で11mを測り、確認面からの深さは80cm～90cmある。河道の中心は東側に寄っており、4.5m～5mの比較的均一な幅で一段深くなっている。断面の形態は、逆台形ぎみであるが、微高地の東側壁に対して低地の西側壁の上半はかなり緩やかになっている。土層断面の観察では、幅広の上半部と東側の一段低い下半部は、時期が異なる可能性もある。覆土は、シルト層が主体で砂層や砂利層は顕著でなく、水が恒常的に流れていたような形跡は見られない。

出土遺物は、比較的少量ながら、覆土中から古墳時代前期～中期の土器片が出土している（第68図）。主体は前期の土器片で、中期の土器片は覆土上層や確認面からの出土が多い。土器以外では、覆土中から長さ2.2cm～2.6cmのモモの種子や、長さ1cm前後のエゴノキの種子などが少量と、河道底面から細い自然木が6本出土している。これらの自然木は、河川跡と同時期のものではなく、河道底面下の淡緑色砂礫層中に多く含まれる自然木が、洗い出されて流れてきたものと推測される。

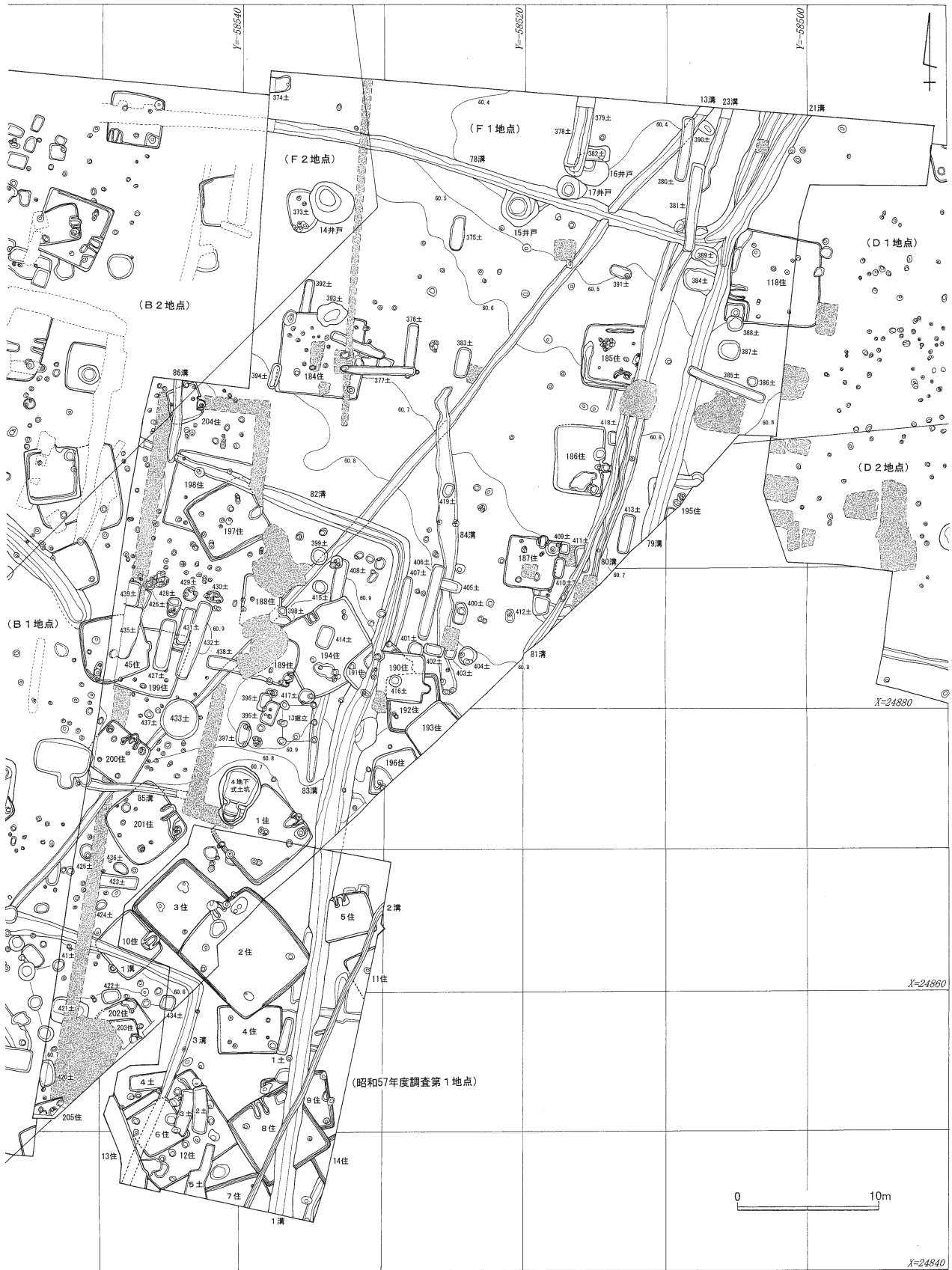
本河川跡の時期は、覆土の状態や出土遺物から、古墳時代前期～中期の期間に機能していたと考えられる。



第68図 河川跡出土遺物

河川跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径 (16.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ハケの後ヨコナデ。胴部外面ハケ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 口縁部 1/4 破片。G. 外面に黒斑あり。H. 覆土中。
2	器台	A. 残存高 6.8、脚端部径 12.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 脚部外面ミガキ、内面ナデの後下半ハケ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 外-淡橙褐色、内-明茶褐色。F. 脚部のみ。G. 脚部穿孔は3カ所。H. 覆土中。
3	高坏	A. 口縁部径 26.0、推定高 (16.6)。B. 粘土紐積み上げ。C. 坏部内外面ミガキ。脚部外面ミガキ、内面ハケの後縦ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 2/3。G. 脚部穿孔は縦2個1組で3カ所。H. 覆土中。
4	高坏	A. 口縁部径 (19.8)。B. 粘土紐積み上げ。C. 坏部内外面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-暗橙褐色。F. 坏部 2/3。G. 器表面は荒れている。H. 覆土上層。
5	小形直口壺	A. 口縁部径 (7.6)、器高 7.4、底部径 4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ナデ。胴部外面ナデ、内面指ナデ。底部外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 口縁部 4/5 欠損。H. 覆土上層。
6	パレス壺	B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ナデの後、上から櫛描横線文・鋸歯文・櫛描波状文・列点文を施す。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 破片。G. No 7 と同一個体。H. 覆土中。
7	パレス壺	B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ナデの後、上から鋸歯文・櫛描波状文・列点文を施す。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-明茶褐色、内-淡褐色。F. 破片。G. No 6 と同一個体。H. 覆土中。
8	円筒埴輪	B. 粘土紐積み上げ。凸帯貼り付け。C. 外面縦方向のナデ、内面縦ナデ。D. 小石、白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. 破片。H. 遺構確認面。



第69図 久下東遺跡 F 1 地点全体図

第V章 久下東遺跡F1地点の調査

第1節 F1地点の概要

久下東遺跡のF1地点は、女堀川下流域のほぼ東西方向に流路をとる北側の女堀川と南側の男堀川に挟まれた帯状に延びる微高地の標高61mを測る平坦部に立地している。微地形的には、調査区の中央部が高く、北側と南側に向かって緩やかに傾斜している。本遺跡の西側には北堀久下塚北遺跡(松本・大熊他2009、恋河内・的野2010)、東側には北堀新田遺跡(松本・的野2010、佐々木2010)と北堀新田前遺跡(恋河内・松本2008)、南側には久下前遺跡(恋河内・的野2010、松本・的野2010)があるが、これらは、遺構の分布が連続する同一遺跡と考えられ、女堀川下流域を代表する古代から中世の大規模遺跡として捉えられる。

F1地点の西側は平成19年度に調査したB地点(松本・大熊他2009)が、北側は平成20年度に調査したC地点(恋河内・的野2010)が、東側には昭和57年度に調査した第1地点(増田1985)と、平成20年度に調査したD地点(恋河内・的野2010)が隣接し、南側の道路を挟んで本報告の久下前遺跡D1地点が近接している。

F1地点で検出された遺構は、竪穴式住居跡26軒、掘立柱建物跡1棟、井戸跡3基、地下式坑1基、土坑66基、溝跡11条で、これらは古墳時代前期から近世後期以降の時期にわたるものである。

古代の遺構は、主に竪穴式住居跡と掘立柱建物跡がある。竪穴式住居跡は、古墳時代前期後半から平安時代中期前半頃までのものがあり、古墳時代前期1軒・中期1軒・後期14軒、白鳳時代7軒、平安時代3軒である。調査区内では奈良時代の住居跡が欠落しているが、隣接する他の調査地点には存在している。これらの住居跡は、時代・時期毎に分布や構造に特徴が見られるが、概して調査区の北側に行くほど分布密度が薄くなる。この中で特に古墳時代中期の第204号住居跡は、当地方のカマド出現期にあたるもので、残存状態が悪いながら、カマドの構造等が注目される。掘立柱建物跡は、1間×2間の比較的小規模な側柱式の建物であり、建物の長軸方向を同じ向きにとり、平安時代の住居跡群に伴うものと思われる。第13号溝跡は、古墳時代前期のもので、同時期の第433号土坑に切られている。西側のB1地点から北側のC1地点まで、微高地を横断するように、北東方向に向いて直線的な流路をとっているが、その性格は不明である。

中世の遺構は、遺物が少なく厳密な時期を特定できないものが大半ではあるが、井戸跡3基・地下式坑1基・土坑2基・溝跡8条である。井戸跡は、調査区の北側にかたまわって検出されている。周りに建物等の生活の痕跡が見られないことから、屋敷に伴うものか不明である。中世以降と考えられる溝跡は、現代の土地改良以前の旧地割りにその痕跡を留めないものが多い。この中で第1号溝跡と第82号溝跡は、直線的な形態でほぼ直角に曲がっており、おそらく屋敷の区画に関連する可能性が高いと考えられるものである。

第2節 検出された遺構と遺物

1. 竪穴式住居跡

第1号住居跡（第70図、図版13）

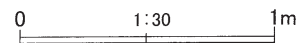
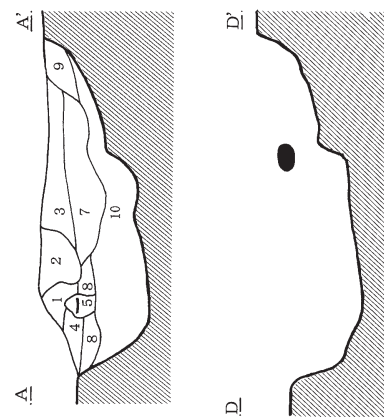
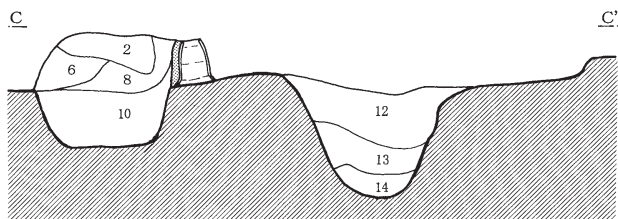
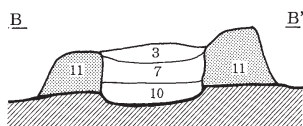
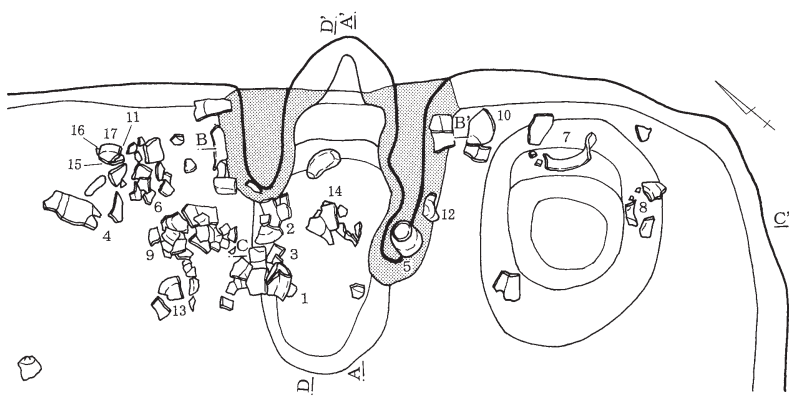
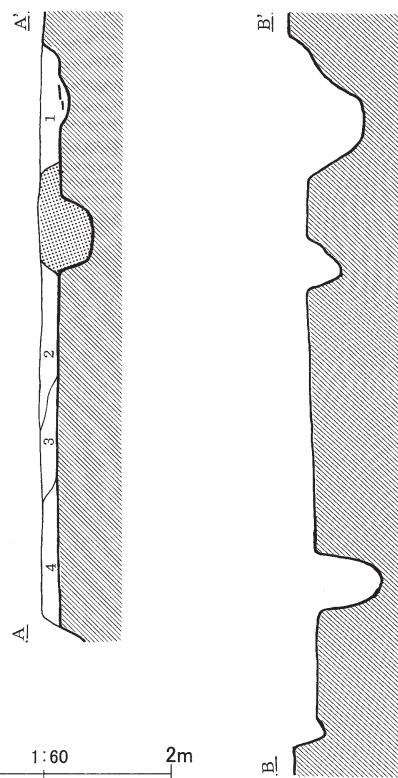
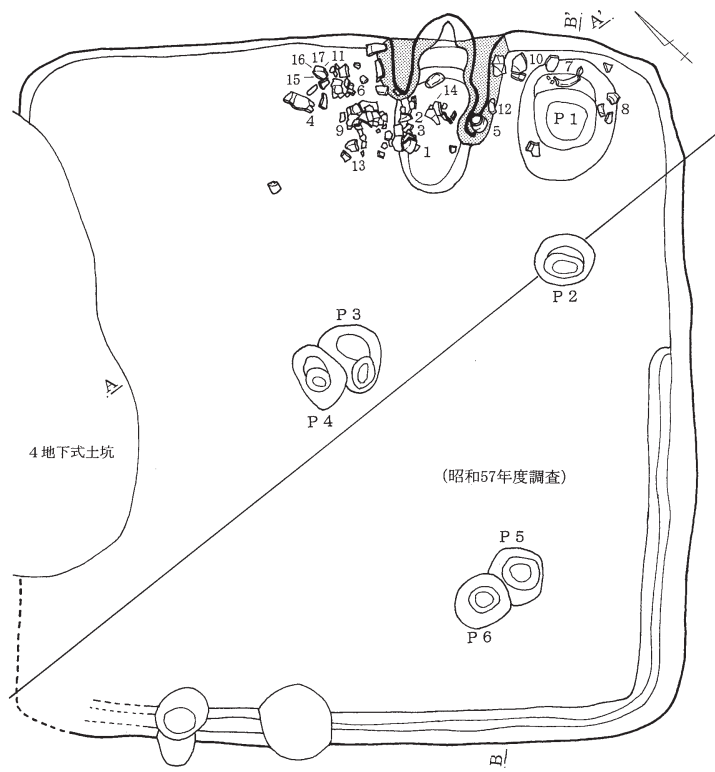
調査区の南側に位置し、住居北西側壁の大部分を中世の第4号地下式坑に切られている。本住居跡は、昭和57年度の調査で住居の南側半分が調査されている（増田1985）。

平面形は、コーナー部がやや丸みをもつ方形を呈している。規模は、北東～南西方向が5.68m、北西～南東方向は5.40m程度と推測される。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは各壁とも10cm程度ある。壁溝は、南西側壁下と南東側壁下の一部に見られる。床面は、ロームブロックを多量に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。ピットは、住居跡内からP1～P6の6カ所が検出されている。P1は、いわゆる貯蔵穴と考えられるもので、カマド右側の住居東側コーナー部に位置している。平面形は97cm×79cmの楕円形を呈し、床面からの深さは55cmある。P2とP5は、その位置から4本主柱穴の一部の可能性が考えられるが、他の2本の主柱穴は検出されていない。いずれも直径45cm程度円形を基調にしており、床面からの深さはP2が30cm、P5が50cmある。P3とP4は、住居中央に重複して位置している。いずれも長さ50cm程度の楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは30cmある。

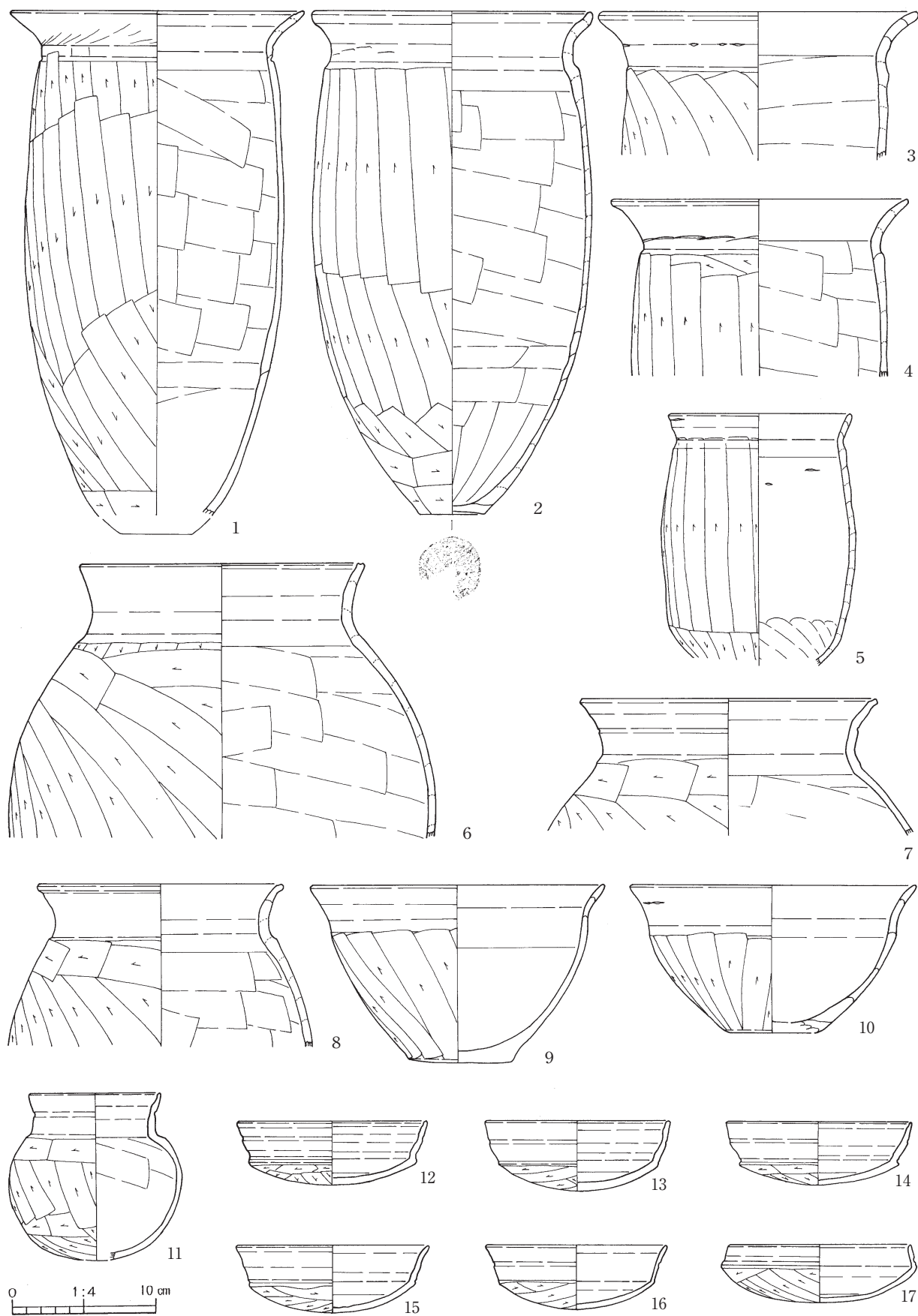
カマドは、住居北東壁の中央よりやや東側寄りの場所に、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長146cm、最大幅104cmを測る。燃烧部は、住居壁を若干掘り込んで緩やかに傾斜しながら煙道部に移行するようである。燃烧面（火床）は、第10層を埋め戻した上面の第7・8層付近と思われるが、あまり焼けていない。燃烧部のやや奥側の覆土中から、長さ20cm程度の楕円形を呈する角閃石安山岩が1個出土しているが、これは支脚ではなく補強に使われたものと思われる。袖は、灰白色粘土ブロックを住居壁に直接貼り付けて構築し、先端付近には土師器の甕を倒立させて補強している。

第1号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.3cmのローム粒を多量均一に含む。粘性あり、しまりなし。）
- 第2層：黒褐色土層（径0.8cmのローム粒を少量、径0.2cmの焼土粒を微量含む。粘性、しまり共になし。）
- 第3層：暗褐色土層（径0.2～1cmのローム粒を多量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第4層：暗褐色土層（第3層より暗い。径0.3～0.5cmのローム粒を多量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第1号住居跡カマド・貯蔵穴土層説明
- 第1層：黒褐色土層（径1～2cmの粘土ブロックを含み、径0.3cmの焼土粒を含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第2層：灰白色土層（ほぼ純粋な粘土層。中央付近にまばらに焼土を含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第3層：暗褐色土層（粘土を多量に含み、下部に焼土を含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第4層：暗褐色土層（第3層と似る。径1～5cmの粘土ブロックを含む。焼土は含まない。）
- 第5層：灰白色土層（崩落粘土塊と見られるが、中央に土器片を含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第6層：暗褐色土層（径1cmの粘土粒を多量に含み、径1cmのローム粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第7層：暗褐色土層（他の層より黒味が強い。径1cmのローム粒、径0.3～0.5cmの焼土粒を少量含み、径1cmの粘土粒を含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第8層：暗褐色土層（径0.5cmのローム粒を多量含む。焼土、粘土は含まない。粘性、しまり共にあり。）
- 第9層：暗褐色土層（径0.3cmの焼土粒を多量に含み、径0.2～0.5cmのローム粒を含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第10層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロックを多量含む。焼土、粘土は含まない。粘性、しまり共にあり。）
- 第11層：灰白色土層（灰白色粘土塊を多量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第12層：暗褐色土層（径0.5cmのローム粒を均一に含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第13層：暗褐色土層（径1～1.5cmのロームブロックを含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第14層：暗褐色土層（径1～3cmのロームブロックを多量含む。粘性、しまり共にあり。）

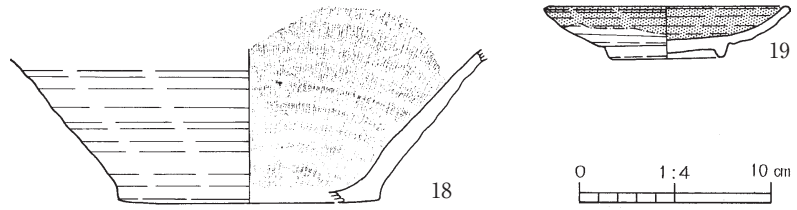


第70図 第1号住居跡



第71图 第1号住居跡出土遺物(1)

出土遺物は、カマドや貯蔵穴の周辺から、古墳時代後期の土器が比較的多く出土している(第71図)。この他では、昭和57年度に調査



第72図 第1号住居跡出土遺物(2)

した住居南側のP6西側付近から、石製紡錘車が1点出土したことが報告されており(増田1985)、覆土中から丹波産の播鉢や瀬戸美濃産の灰釉皿などの近世陶器が少量出土している(第72図)。本住居跡の時期は、住居の形態や出土土器の様相から、6世紀後半の古墳時代後期と考えられる。

第1号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径(20.6)、残存高35.7。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-明茶褐色。F.上半3/4。H.カマド内。
2	甕	A.口縁部径19.8、器高(35.5)、底部径4.6。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.片岩粒、白色粒。E.内外-淡茶褐色。F.上半1/2。G.底部外面に木葉痕を残す。H.カマド内。
3	甕	A.口縁部径22.4。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外-明橙褐色。F.口縁部2/3。H.カマド内。
4	甕	A.口縁部径20.8。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.片岩粒、白色粒。E.内外-明茶褐色。F.上半のみ。H.床面付近。
5	小形甕	A.口縁部径12.8、残存高17.8。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面丁寧なナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外-暗茶褐色。F.底部欠損。H.カマド袖補強。
6	甕	A.口縁部径(20.0)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外-暗褐色。F.上半1/3。H.覆土中。
7	甕	A.口縁部径(21.0)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-淡茶褐色。F.口縁部1/2弱。H.貯蔵穴(P1)上面。
8	甕	A.口縁部径17.2。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.片岩粒、白色粒。E.外-茶褐色、内-暗褐色。F.上半3/4。H.貯蔵穴(P1)上面。
9	大形鉢	A.口縁部径20.7、器高12.6、底部径7.4。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面丁寧なナデ。底部外面ケズリ。D.片岩粒、白色粒。E.外-暗茶褐色、内-淡茶褐色。F.3/4。G.胴部外面煤付着。底部外面二次焼成により赤色化。H.覆土中。
10	大形鉢	A.口縁部径(20.0)、器高10.5、底部径(6.8)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面丁寧なナデ。底部外面ナデ。D.片岩粒、白色粒。E.内外-暗褐色。F.口縁部1/5。G.胴部外面煤付着。H.覆土中。
11	小形壺	A.口縁部径9.2、器高11.8。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-暗褐色。F.3/4。G.口縁部内外面に斑点状田剥落顕著。H.床面付近。
12	坏	A.口縁部径13.4、器高4.5。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-暗褐色。F.ほぼ完形。G.口縁部外面黒斑あり。H.床面付近。
13	坏	A.口縁部径13.0、器高5.0。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-暗茶褐色。F.3/4。H.覆土中。
14	坏	A.口縁部径13.0、器高4.5。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-暗褐色。F.口縁部1/2。H.カマド内。
15	坏	A.口縁部径13.6、器高4.8。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外-淡橙褐色。F.ほぼ完形。H.覆土中。
16	坏	A.口縁部径12.8、器高4.6。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外-明橙褐色。F.ほぼ完形。H.覆土中。
17	坏	A.口縁部径12.8、器高4.1。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-暗褐色。F.3/4。H.覆土中。
18	丹波産 播鉢	A.底部径(14.0)。B.粘土紐積み上げ後ロクロ整形。C.体部内外面回転ナデの後、内面に播目。底部外面ナデ。D.小石、白色粒(長石)。E.内外-暗茶褐色、肉-淡橙褐色。F.底部1/4。G.内外面に薄く鉄釉を施す。H.覆土中。
19	瀬戸美濃産 灰釉皿	A.口縁部径13.0、器高2.8、高台部径6.1。B.ロクロ成形。高台部削り出し。C.体部内外面回転ナデ。D.白色粒。E.内外-淡灰色。F.1/2。G.内外面に淡緑色釉を施す。内面に重ね焼きの痕跡あり。H.覆土中。

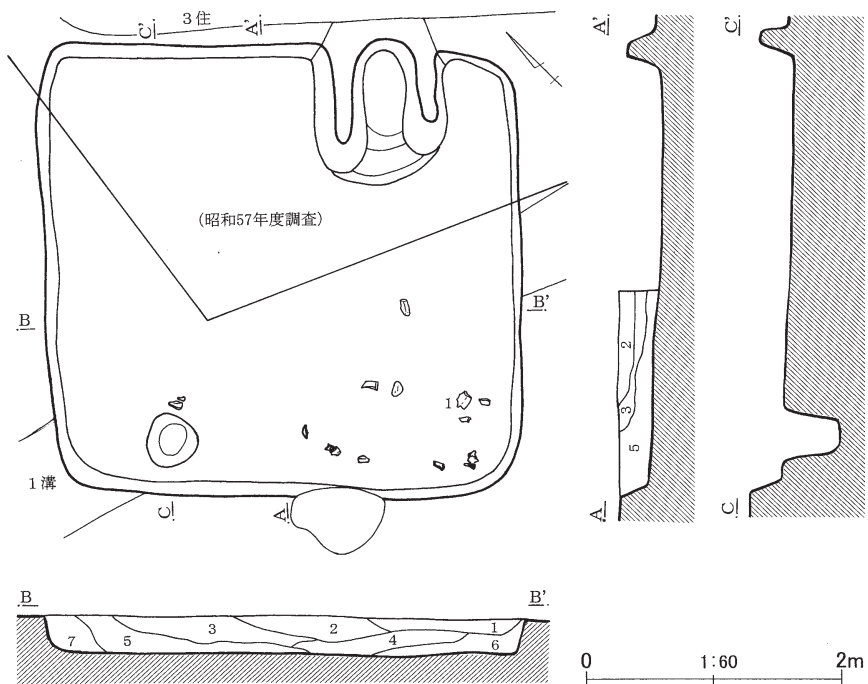
第10号住居跡（第73図、図版13）

調査区の南側に位置し、昭和57年度に調査された第1地点の第3号溝跡(増田1985)に切れ、第3号住居跡と重複している。本住居跡は、昭和57年度の調査で住居の北側半分が調査されている(増田1985)。

平面形は、コーナー部がやや丸みをもつ方形を呈している。規模は、北東～南西方向が3.55m、北西～南東方向は3.80mある。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは各壁とも30cm程度ある。床面は、ロームブロックを多量に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。ピットは、住居跡内から1カ所が検出されている。P1は、住居南西壁際の西側コーナー部寄りに位置する。長さ40cm程度の円形を基調とする形態で、床面からの深さは41cmある。

カマドは、昭和57年度に調査されている。それによると、住居北東側壁の東側コーナー部寄りの位置に、住居の壁を掘り込んでほぼ直角に付設されているようである。規模は、全長130cm・最大幅106cmを測る。

出土遺物は、覆土中から古墳時代前期から白鳳時代の土器の破片が少量出土しただけである(第74図)。本住居跡の時期は、住居跡の形態や出土土器の様相から、7世紀後半の白鳳時代と考えられる。



第73図 第10号住居跡

第10号住居跡土層説明

<第3号溝跡>

第1層：暗褐色土層（第1～5層よりやや暗い。浅間山系A軽石を少量含む、径0.3cmのローム粒を含む。）

第2層：暗褐色土層（径0.1～0.4cmのローム粒を含む。粘性なし、しまりあり。）

<第10号住居跡>

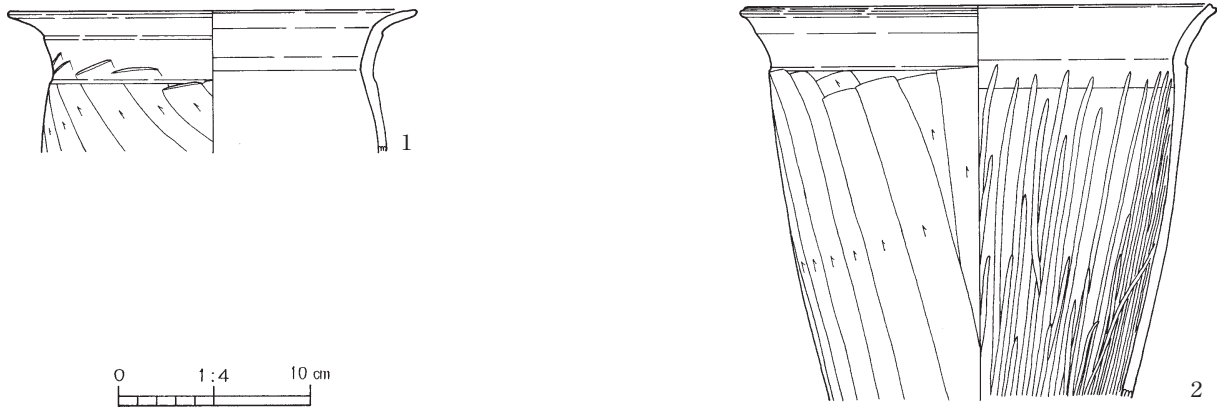
第3層：暗褐色土層（径0.5～1cmのローム粒を少量含む。粘性あり、しまりなし。）

第4層：暗褐色土層（径0.5～1cmのローム粒を含む。粘性、しまり共にあり。）

第5層：暗褐色土層（径1～3cmのロームブロックを多量含む。粘性あり、しまりなし。）

第6層：暗褐色土層（径0.3cmのローム粒を少量含む、全体にローム粒を多量含む。粘性、しまり共にあり。）

第7層：暗褐色土層（径0.3～0.5cmのローム粒を少量含む、全体にローム粒を多量含む。粘性、しまり共にあり。）



第74図 第10号住居跡出土遺物

第10号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径(11.6)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-淡橙褐色。F.口縁部1/2。H.覆土中。
2	大形甕	A.口縁部径(25.2)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデの後雑なミガキ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.内外-明茶褐色。F.口縁部1/4。H.昭和57年度調査区出土。

第45号住居跡（第75図、図版13）

調査区中央部の西端に位置し、重複する第435号土坑に切られ、第199号住居跡を切っている。本住居跡は、すでにB1地点で西側半分を調査しており(松本・大熊他2009)、今回調査したのは住居跡の東側半分である。

平面形は、コーナー部が丸みをもつやや不整の方形を呈している。規模は、東西方向が4.70m、南北方向が最高で4.76mを測る。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で38cmある。壁溝は、B1地点の住居西側では各壁下に巡っていたが、今回の住居東側では確認できなかった。床面は、ロームブロックを多量に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。ピットは、今回調査した住居東側では検出されていない。

カマドは、住居東側壁の中央からやや南側寄りに、住居の壁を若干掘り込んで付設されている。燃烧部の住居壁への掘り込みと煙道部の一部が残存しているだけであるため、規模や形態は不明である。

出土遺物は、覆土中から土器の破片が多く出土している(第76図)。本住居跡の時期は、出土遺物の様相から、7世紀後半の白鳳時代と考えられる。

第45号住居跡カマド土層説明

第1層：暗黄褐色土層（ロームブロック混合土。径0.5cmの焼土粒を少量含む。）

第2層：暗褐色土層（焼土粒、ローム粒を少量含む。）

第3層：（第45号住居跡の第18層に対応）

第4層：黄褐色土層（ローム主体土のブロック。しまりあり。）

第5層：暗黄褐色土層（ロームブロック混合土。粘性、しまり共にあり。）

第6層：暗褐色土層（ローム粒、焼土粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）

第7層：暗褐色土層（ローム粒、焼土粒を微量含む。）

第8層：黄褐色土層（ロームブロック混合土。）

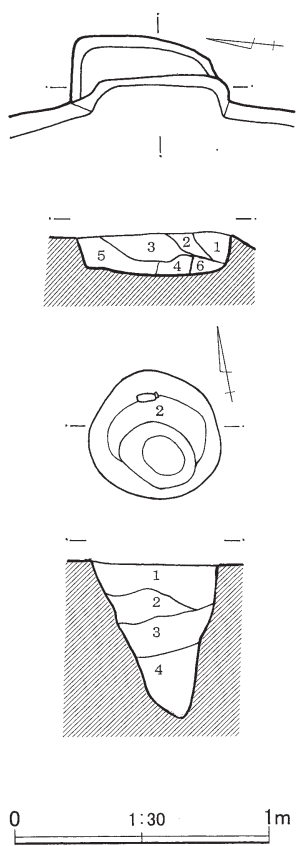
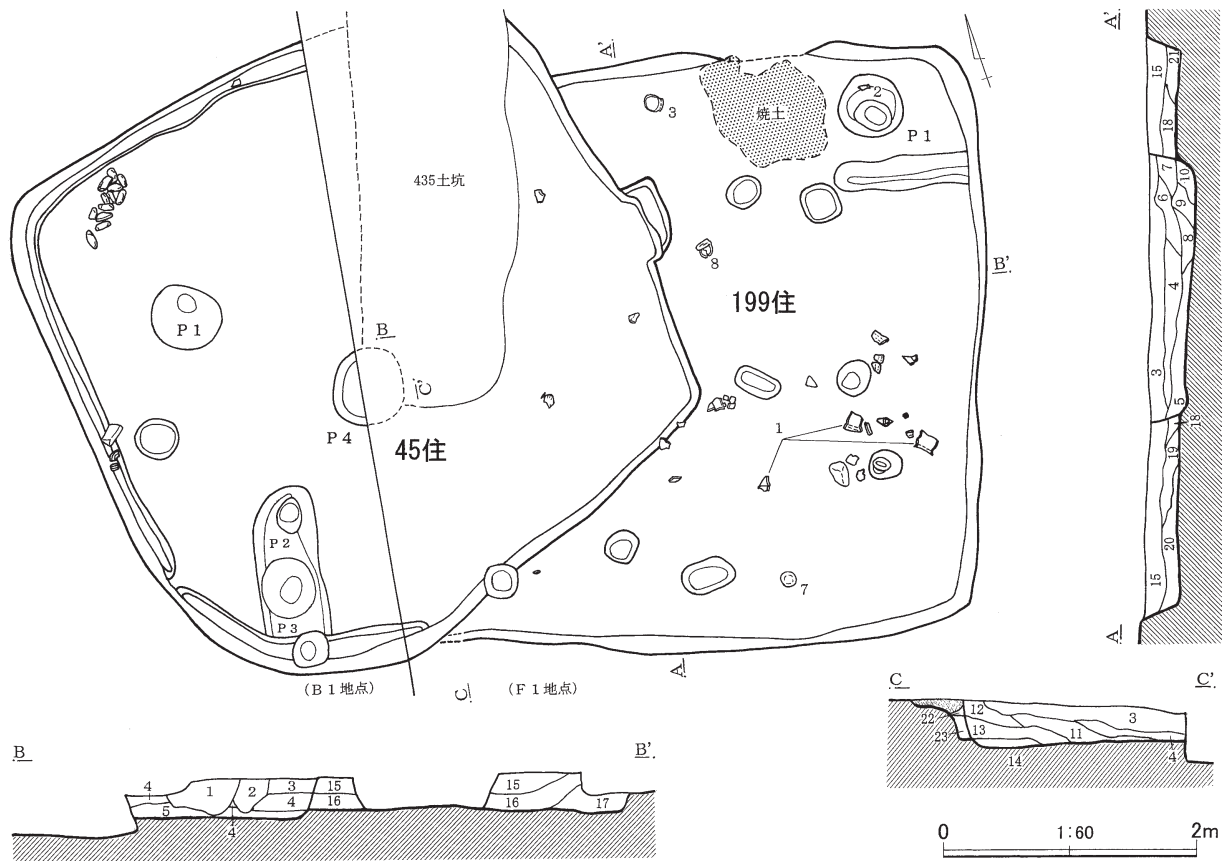
第199号住居跡P1（貯蔵穴）土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒を多量に、焼土粒を少量含む。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒、ロームをやや多く含む。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒を多量に、径1～3cmのロームブロックを少量、焼土粒を微量含む。粘性、しまり共にあり。）

第4層：暗褐色土層（ロームブロックを少量含む。粘性、しまり共にあり。）



第45・199号住居跡土層説明

<第45号住居跡>

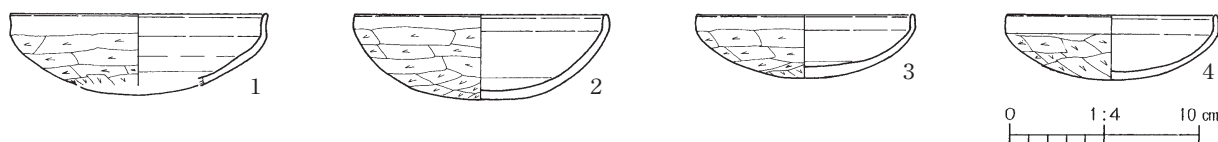
- 第1層：暗褐色土層（ローム粒、焼土粒を少量含む。砂質。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒、焼土粒を微量含む。砂質。）
- 第3層：暗褐色土層（ローム粒、焼土粒を少量含む。）
- 第4層：暗褐色土層（ローム粒をやや多く、径0.5cmのローム粒、焼土粒を少量含む。）
- 第5層：暗褐色土層（ロームブロック、焼土粒を少量含む、炭化物粒を微量含む。しまりあり。）

- 第6層：褐色土層（径1cm以下のローム粒をやや多く含む。粘性あり。）
- 第7層：暗褐色土層（ローム粒を少量含む、焼土粒を微量含む。粘性あり。）
- 第8層：暗褐色土層（ローム粒、焼土粒を微量含む。）
- 第9層：褐色土層（径1cm以下の焼土粒を多量に含む、炭化物粒を微量含む。粘性あり。）
- 第10層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。）
- 第11層：（第5層に似るが、焼土粒、焼土ブロックをやや多く含む。）
- 第12層：暗褐色土層（ローム粒をやや多く含む、焼土ブロックを少量含む。）
- 第13層：暗褐色土層（ロームブロックを少量含む、焼土ブロックを多量含む。粘性あり。）
- 第14層：暗褐色土層（ローム粒、焼土ブロックをやや多く含む。粘性あり。）

<第199号住居跡>

- 第15層：暗褐色土層（径0.5cmのローム粒を少量含む。）
- 第16層：暗褐色土層（径1cmにローム粒、ロームブロックをやや多く含む。）
- 第17層：黒褐色土層（ローム粒をやや多く、径1cm以下のローム粒をまばらに含む。）
- 第18層：暗褐色土層（第16層と同一層と考えられるが、ロームブロックは少なめ。）
- 第19層：暗褐色土層（ロームブロックをやや多く含む。）
- 第20層：黒褐色土層（ローム粒を多量、焼土粒、炭化物粒をやや多く含む。粘性あり。）
- 第21層：暗褐色土層（ローム粒をやや多く、焼土粒を微量含む。）
- 第22層：（第15層と同一層と考えられるが、焼土ブロックを少量含む。）
- 第23層：（第16層と同一層と考えられるが、ロームブロックが大きくまばらで、焼土ブロックを微量含む。）

第75図 第45・199号住居跡



第76図 第45号住居跡出土遺物

第45号住居跡出土遺物観察表

1	坏	A. 口縁部径 (13.6)、残存高 3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明橙褐色。F. 口縁部 1/2。H. 覆土中。
2	坏	A. 口縁部径 13.4、器高 4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
3	坏	A. 口縁部径 (11.6)、器高 3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
4	坏	A. 口縁部径 (11.2)、器高 3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. 1/2。H. 覆土中。

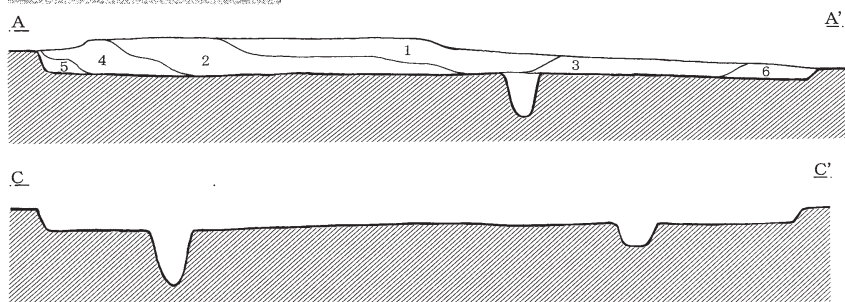
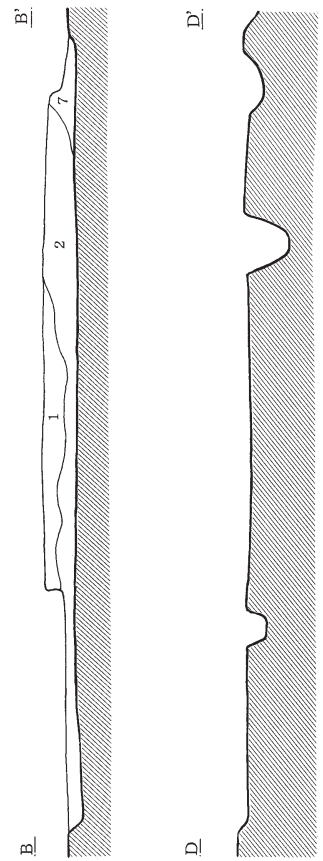
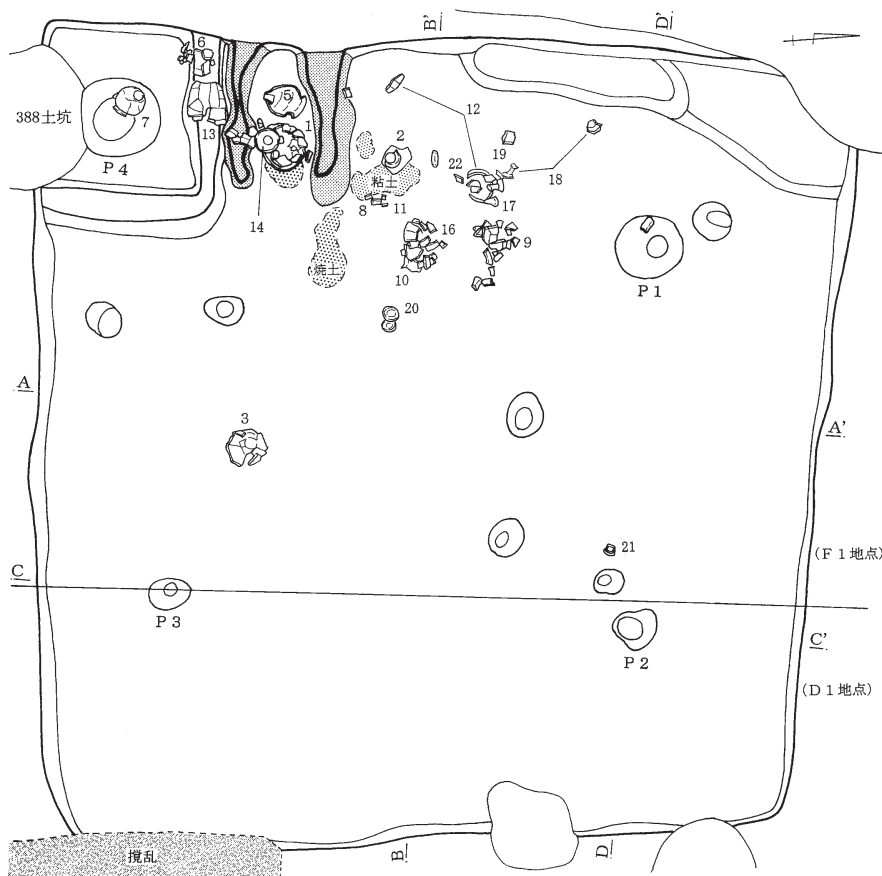
第118号住居跡 (第77図、図版13)

調査区の北側の東端に位置し、重複する第78号溝跡と第388号土坑に切られている。本住居跡は、すでにD 1地点の調査で住居の東側半分が調査されている(恋河内・的野2010)。

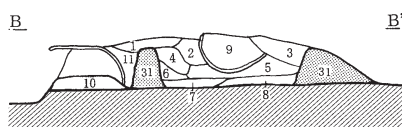
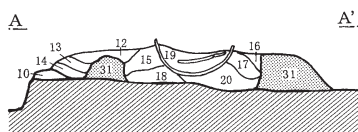
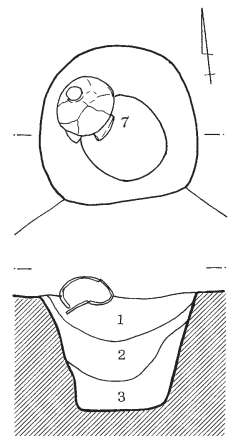
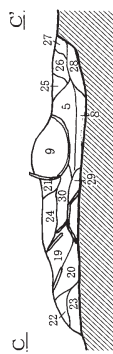
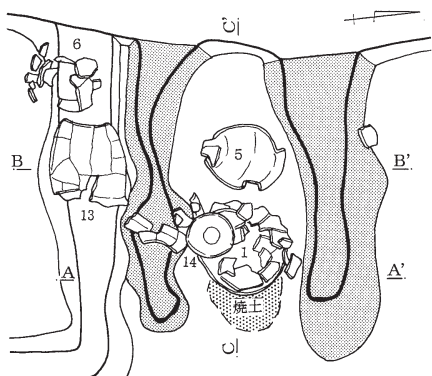
平面形は、方形を基調としているが、北側壁がやや開いている。規模は、東西方向が6.40 m、南北方向が6.56 mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高20 cmある。壁溝は明確ではないが、西側壁下の南側半分にそれらしき溝が見られる。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。ピットは、住居内から10カ所検出されているが、その性格が分かるものは少ない。P 1～P 3は、その配置から4本支柱穴の一部である可能性が考えられる。直径35 cm～55 cmの円形か楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは、それぞれ36 cm・17 cm。42 cmある。P 4は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれているもので、カマド左側の住居南西コーナー部に位置する。周囲には幅40 cm・高さ5 cm程度の土堤(第10層)がL字に巡っている。直径50 cmの円形を呈し、深さは48 cmある。

カマドは、西側壁の南側寄りに位置し、壁に対して直角に付設されている。規模は、全長130 cm、最大幅103 cmを測る。燃烧部は、壁を掘り込まず住居内にある。燃烧面(火床)は、住居の床面とほぼ同じ高さで、中央部のやや手前の位置に第79図No15の高坏を伏せて支脚にしている。袖は、灰白色粘土ブロックを住居の壁に直接貼り付けて構築している(第31層)。燃烧部内からは、No 1の二重口縁壺とNo 5の甕が2個体縦に並んで出土しており、その出土状態から見て、本カマドにおける土器の掛け方は、当地域では比較的珍しい2個縦置式であったと思われる。この2個縦置にカマドに掛けられた壺と甕は、手前の壺には高坏を転用した支脚があるが、奥側の甕には支脚は見られない。煙道部は、すでに掘平されているため不明である。

出土遺物は、カマドや貯蔵穴の内外から、土器が比較的多く出土している(第78・79図)。本住居跡の時期は、住居の形態や出土土器から、5世紀後半の古墳時代後期と考えられる。



0 1:60 2m



0 1:30 1m

第77图 第118号住居跡

第118号住居跡土層説明

- 第1層：黒褐色土層（径0.5cmのローム粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第2層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロックを含み、ローム粒を多量含む。やや赤みがかっている。粘性なし、しまりあり。）
- 第3層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック、ローム粒を多量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第4層：暗褐色土層（径0.1cmのローム粒を含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第5層：暗褐色土層（径1～3cmのロームブロックを多量含む。粘性、しまり共になし。）
- 第6層：暗褐色土層（径0.5cmのローム粒を含む。粘性、しまり共になし。）
- 第7層：暗褐色土層（径1～4cmのロームブロックを多量含む。粘性なし、しまりあり。）

第118号住居跡カマド土層説明

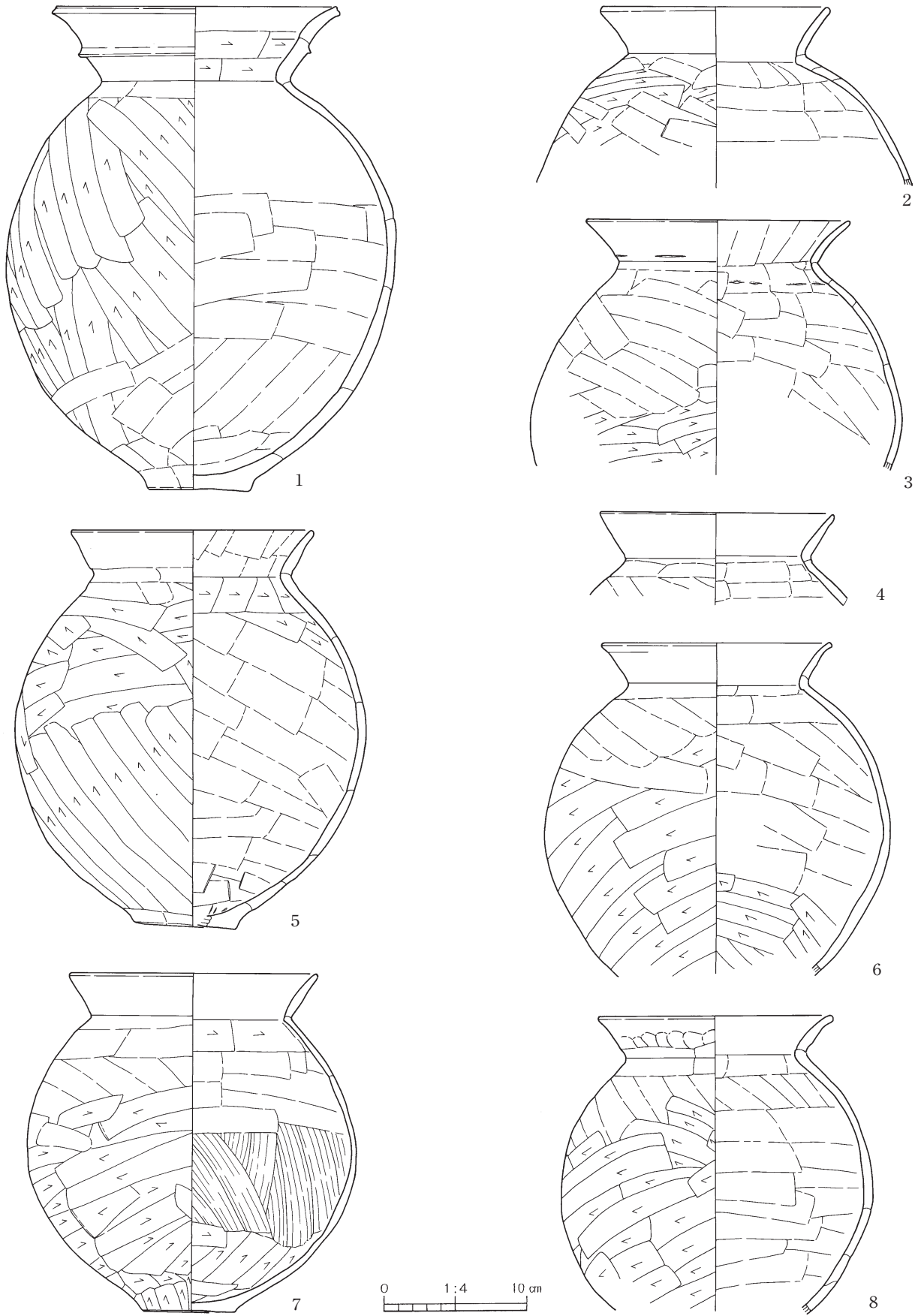
- 第1層：暗褐色土層（白色粘土ブロックを少量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第2層：黒褐色土層（白色粘土ブロックを少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第3層：暗褐色土層（径0.5cmのローム粒、径0.5cmの焼土粒、径0.3cmの炭化物粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第4層：灰白色粘土層（天井崩落か。粘性、しまり共にあり。）
- 第5層：黒褐色土層（炭化物粒を含み、粘土ブロックを少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第6層：暗褐色土層（径0.1cmの焼土粒を少量含む。粘性あり、しまりなし。）
- 第7層：黒褐色土層（炭化物粒を多量含む。粘性あり、しまりなし。）
- 第8層：暗褐色土層（炭化物粒を含み、径0.3cmの焼土粒を含む。粘性、しまり共になし。）
- 第9層：暗褐色土層（径0.3cmの焼土粒を含む。粘性あり、しまりなし。）
- 第10層：暗黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第11層：暗褐色土層（白色粘土ブロックを少量含む。粘性あり、しまりなし。）
- 第12層：暗褐色土層（径0.5～1cmの粘土粒を含む。粘性あり、しまりなし。）
- 第13層：灰白色粘土層（黒色土を含み、やや濁っている。粘性あり、しまりなし。）
- 第14層：暗褐色土層（径0.5～1cmのローム粒を少量含む。粘性、しまり共になし。）
- 第15層：黒褐色土層（径0.3cmの焼土粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第16層：黒褐色土層（混入物はない。粘性、しまり共になし。）
- 第17層：暗褐色土層（灰白色粘土ブロックと黒色土の混合。径0.5cmの焼土粒を少量含む。粘性あり、しまりなし。）
- 第18層：暗褐色土層（径0.3cm焼土粒を含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第19層：暗褐色土層（径1cmのローム粒を少量含む、径0.1cmの焼土粒を含む。粘性、しまり共になし。）
- 第20層：暗褐色土層（径0.1cmの焼土粒を少量含む。粘性、しまり共になし。）
- 第21層：暗褐色土層（径0.1cmのローム粒を含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第22層：暗褐色土層（径0.1～0.3cmのローム粒を含み、径0.1cmの焼土粒を少量含む。粘性、しまり共になし。）
- 第23層：暗褐色土層（径0.3～1.5cmのローム粒を含み、径0.1cmの焼土粒を含む。粘性、しまり共になし。）
- 第24層：暗褐色土層（土器片を多量含む、径0.1cmの焼土粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第25層：灰白色粘土ブロック層（天井崩落か。粘性、しまり共にあり。）
- 第26層：暗褐色土層（径0.5cmの焼土粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第27層：暗褐色土層（径1～2cmのロームブロックを多量含む。粘性、しまり共になし。）
- 第28層：暗褐色土層（径0.5～0.8cmのローム粒を含み、炭化物粒を多量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第29層：暗褐色土層（径0.5cmのローム粒を含み、炭化物粒を多量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第30層：暗褐色土層（径0.5～1cmのローム粒、径0.3cmの炭化物粒を多量含む、径0.1～0.3cmの焼土粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第31層：灰白色土層（灰白色粘土ブロックを多量含む。粘性、しまり共にあり。）

第118号住居跡貯蔵穴土層説明

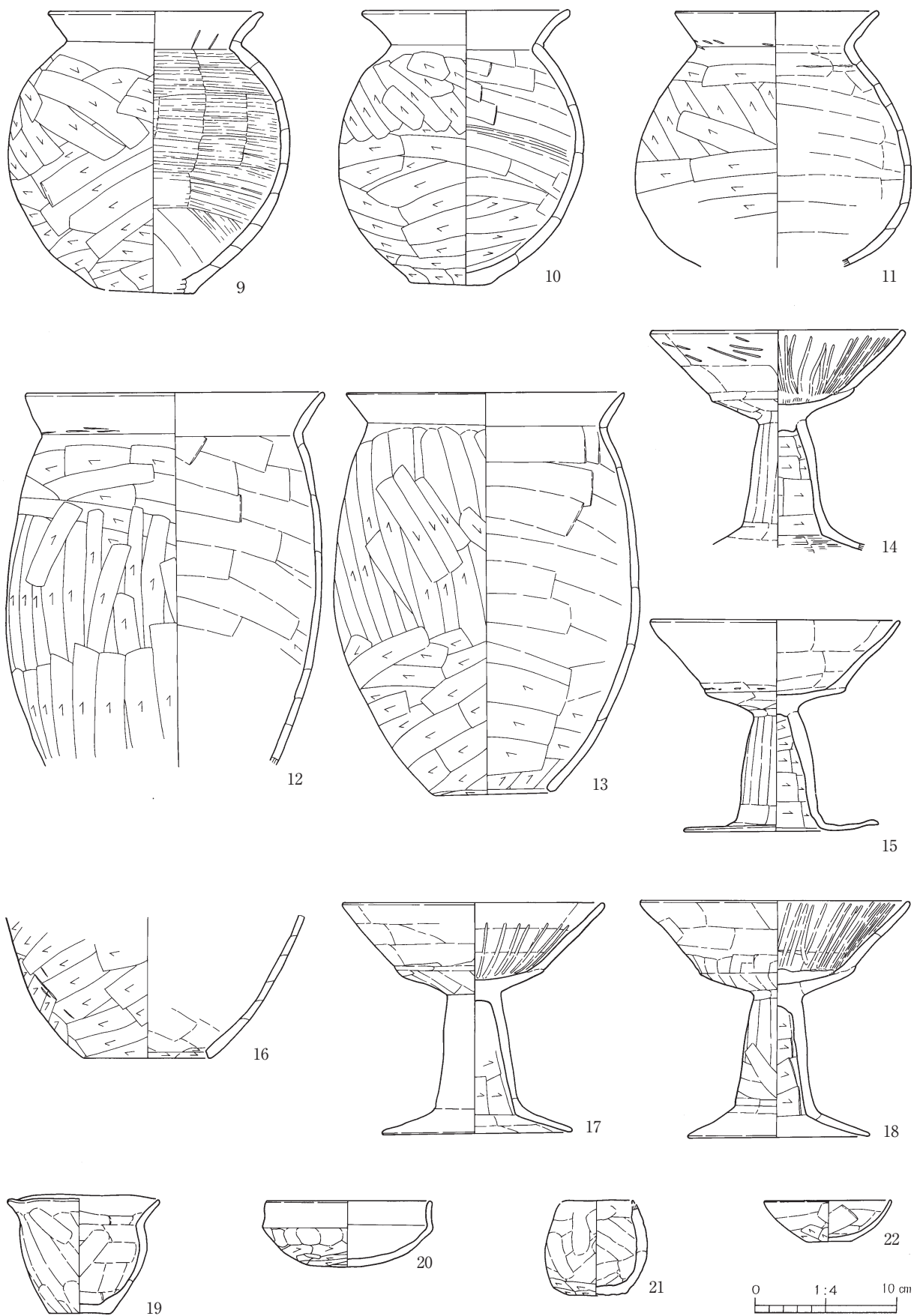
- 第1層：黒褐色土層（径0.5cmのローム粒を少量含む。粘性あり、しまりなし。）
- 第2層：黄褐色土層（ほぼロームの純層であり、黒色土を少量含む。遺物は検出されない。粘性、しまり共にあり。）
- 第3層：暗褐色土層（径0.5～1.5cmのロームブロックを含む。遺物は検出されない。）

第118号住居跡出土遺物観察表

1	二重口縁壺	A. 口縁部径 20.3、器高 34.1、底部径 7.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデと下半ケズリ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒、角閃石、片岩粒、石英。E. 内外- 橙色。F. ほぼ完形。G. 胴部外面に黒斑あり。H. カマド内。
2	壺	A. 口縁部径 16.3、残存高 12.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ、胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外- におい褐色。F. 口縁部～胴部上半 3/4。G. 胴部外面に黒斑あり。H. 床面直上。
3	甕	A. 口縁部径 18.5、残存高 17.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外- におい赤褐色。F. 口縁部～胴部中位 3/4。G. 胴部外面被熱。H. 床面直上。
4	甕	A. 口縁部径 16.5、残存高 6.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外- 灰褐色。F. 口縁部～胴部上位 3/4。G. 胴部外面被熱。H. 覆土中。
5	甕	A. 口縁部径 (17.0)、器高 28.0、底部径 (7.2)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデの後ケズリ。底部外面ナデとケズリ。D. 白色粒、石英、角閃石。E. 内外- 橙色。F. 1/2。G. 胴部外面煤付着。黒斑あり。H. カマド内。



第78图 第118号住居跡出土遺物（1）



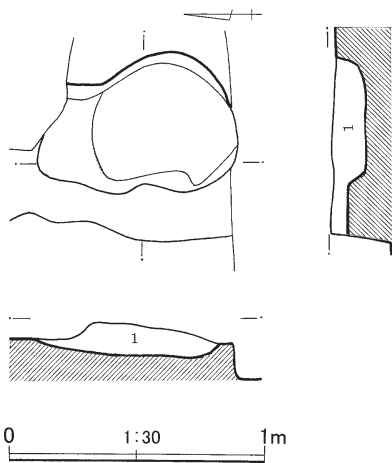
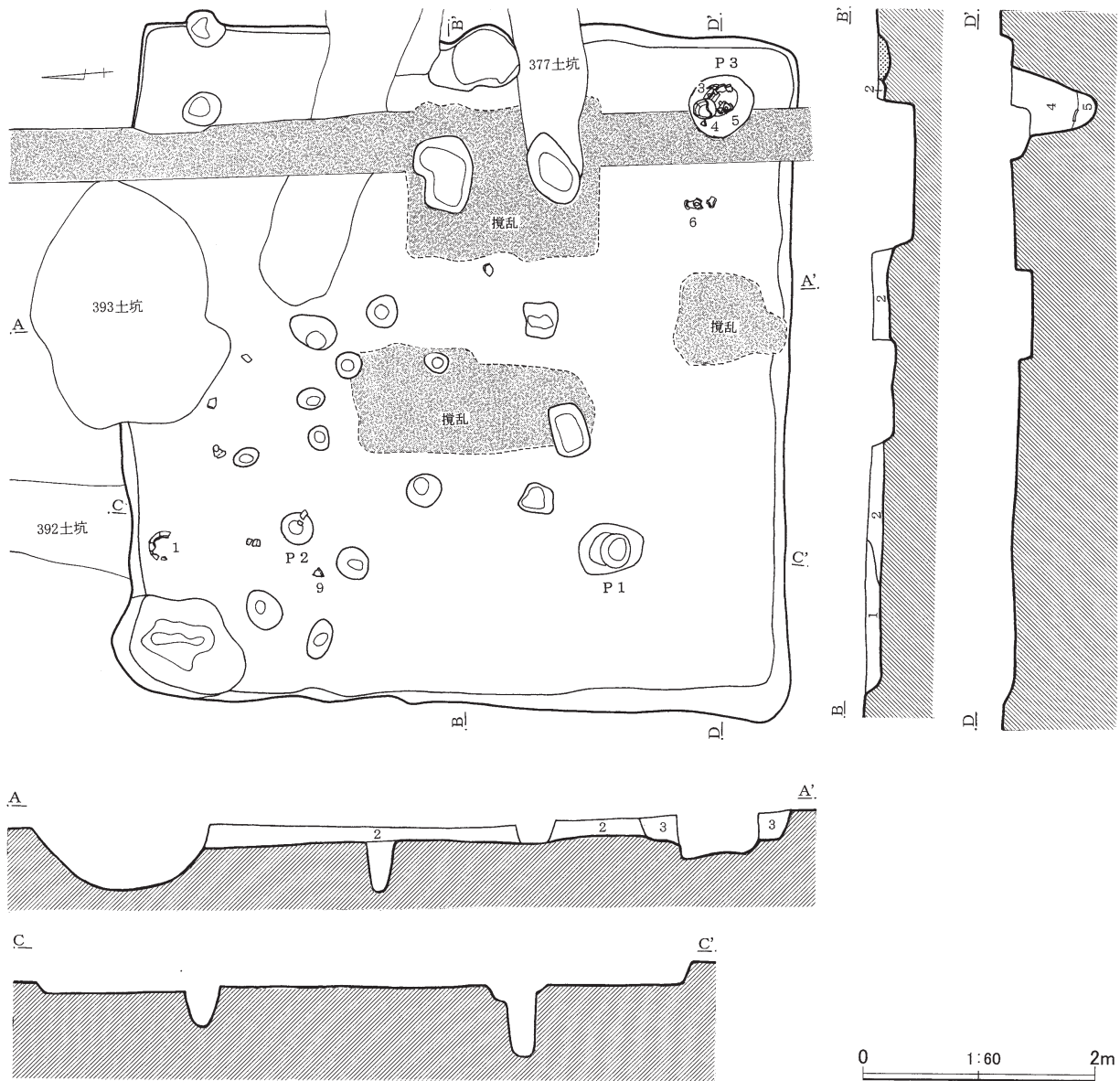
第79图 第118号住居跡出土遺物(2)

6	甕	A.口縁部径(16.2)、残存高23.3。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデの後ケズリ。D.白色粒、角閃石。E.内-明赤褐色、外-にぶい赤褐色。F.1/3。G.内外面に黒斑あり。H.床面付近。
7	甕	A.口縁部径17.4、器高23.9、底部径6.4。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面粗いハケの後ナデの後ケズリ。底部外面ケズリ。D.白色粒。E.内外-橙色。F.完形。G.胴部外面煤付着。H.貯蔵穴(P4)上面。
8	甕	A.口縁部径16.5、残存高21.0。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ナデの後指押え、内面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、角閃石。E.内外-橙色。F.口縁部~胴部下位4/5。H.床面直上。
9	甕	A.口縁部径15.1、器高20.0、底部径7.0。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ハケ状工具による強いナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、角閃石。E.内-橙色、外-明赤褐色。F.4/5。G.胴部内外面煤付着。H.床面直上。
10	甕	A.口縁部径14.8、器高19.5、底部径5.9。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ケズリの後篋ナデと一部に粗いハケ。D.白色粒。E.内外-橙色。F.ほぼ完形。G.胴部内外面煤付着。H.床面付近。
11	甕	A.口縁部径14.3、残存高18.0。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、角閃石、片岩粒。E.内外-橙色。F.口縁部~胴部下位1/2。G.胴部外面被熱、内面黒斑あり。H.床面直上。
12	大形甕	A.口縁部径21.0、残存高26.3。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.白色粒、角閃石。E.内外-明赤褐色。F.口縁部~胴部中位4/5。G.胴部外面に黒斑あり。H.床面付近。
13	大形甕	A.口縁部径19.6、器高28.4、底部径8.8。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデの後ケズリ。D.白色粒。E.内外-にぶい褐色。F.4/5。G.胴部外面に黒斑あり。H.床面直上。
14	高坏	A.口縁部径18.0、残存高15.7。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデの後放射状にミガキ。坏部外面ナデ。脚柱部外面ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D.白色粒、角閃石。E.内-橙色、外-明赤褐色。F.脚端部以外ほぼ完形。G.内外面に黒斑あり。H.カマド内。
15	高坏	A.口縁部径17.5、器高14.9、脚端部径(13.6)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ナデ。脚柱部外面ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D.白色粒、角閃石。E.内外-橙色。F.4/5。G.外面被熱。H.カマド支脚。
16	大形甕	A.残存高10.0、底部径8.9。B.粘土紐積み上げ。C.胴部下位外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内-にぶい褐色、外-にぶい黄褐色。F.胴部下位~底部のみ完形。G.外面に黒斑あり。H.床面付近。
17	高坏	A.口縁部径18.6、器高16.4、脚端部径13.4。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデの後放射状にミガキ。坏部外面ナデ。脚柱部外面ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D.白色粒、角閃石、石英。E.内外-明赤褐色。F.3/4。G.内外面に黒斑あり。H.床面付近。
18	高坏	A.口縁部径19.0、器高17.4、脚端部径(12.8)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデの後放射状にミガキ。坏部外面ナデ。脚柱部外面ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D.白色粒、角閃石、片岩粒。E.内-橙色、外-にぶい赤褐色。F.3/4。H.覆土中。
19	小形鉢	A.口縁部径10.7、器高8.4、底部径4.4。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ、胴部内外面ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、石英、角閃石。E.内外-橙色。F.ほぼ完形。G.胴部外面に黒斑あり。H.床面付近。
20	坏	A.口縁部径11.4、器高4.6。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ケズリの後指押え、内面ナデ。D.白色粒、片岩粒、角閃石。E.内外-橙色。F.完形。G.内外面に黒斑あり。H.床面付近。
21	小形土器	A.口縁部径(5.5)、器高6.5、底部径4.3。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面指ナデの後ケズリ、内面指ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、角閃石。E.内-にぶい褐色、外-橙色。F.口縁部欠損。胴部2/3。G.内外面に黒斑あり。H.床面付近。
22	坏	A.口縁部径(8.9)、器高2.9、底部径3.1。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ヨコナデの後ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、石英。E.内外-橙色。F.4/5。G.内外面に被熱。H.床面付近。

第184号住居跡（第80図、図版14）

調査区北側の西側寄りに位置し、重複する第392号土坑・第393号土坑・第377号土坑に切られている。住居跡内には多くの攪乱が見られ、遺構の遺存状態はあまり良好とは言えない。

平面形は、比較的整った方形を呈している。規模は、東西方向が6.00m、南北方向が5.80mある。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高12cmある。床面は、



第184号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.3cmのローム粒を少量含む。やや黒味が強い。粘性、しまり共にあり。）
- 第2層：暗褐色土層（径1～2cmのロームブロックを含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第3層：暗褐色土層（径0.5～1cmのローム粒を多量含む。粘性、しまり共になし。）
- 第4層：黒褐色土層（径2～3cmのロームブロックを多量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第5層：黒褐色土層（径0.5cmのローム粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）

第184号住居跡カマド土層説明

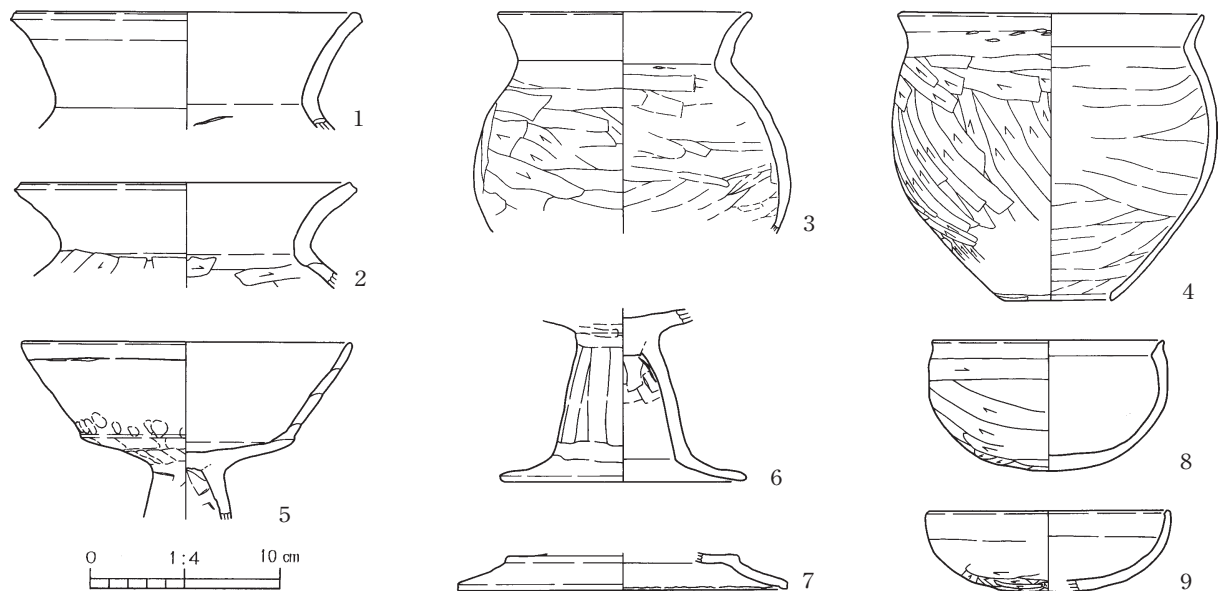
- 第1層：暗褐色土層（焼土粒を均一に、ローム粒を少量含む。粘性、しまり共になし。）

第80図 第184号住居跡

ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。ピットは、住居跡の中央部から小規模なものが多数検出されている。この中で、P1とP2はその位置から主柱穴の可能性が考えられる。形態は、P1が長さ57cmの楕円形、P2が直径28cmの円形を呈している。床面からの深さはそれぞれ64cmと32cmある。P3は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置している。直径55cmの円形を呈し、床面からの深さは56cmあり、中からは土器が多く出土している。

カマドは、住居東側壁のほぼ中央に、壁を若干掘り込んで付設されている。燃烧部の掘り込み部分しか残存していない。燃烧面(火床)は、住居床面より若干深くなっている。

出土遺物は、P3の貯蔵穴内や覆土中から、土器が出土している(第81図)。本住居跡の時期は、住居の形態や出土遺物の様相から、5世紀後半の古墳時代後期と考えられる。



第81図 第184号住居跡出土遺物

第184号住居跡出土遺物観察表

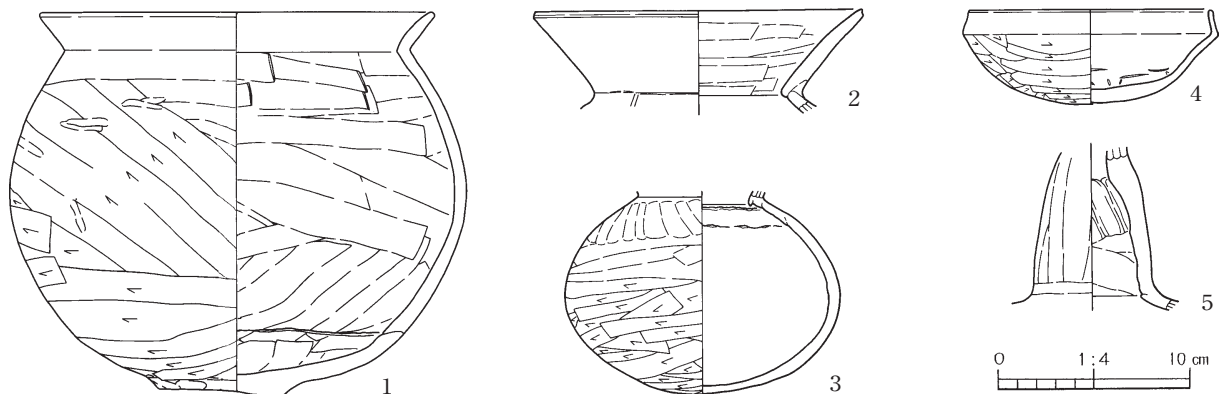
1	甕	A. 口縁部径(18.6)、残存高6.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 白色粒、片岩粒。E. 内-褐色、外-にぶい黄褐色。F. 口縁部1/3。H. 床面上。
2	甕	A. 口縁部径(18.0)、残存高5.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面ケズリとナデ。D. 白色粒、片岩粒、黑色粒。E. 内外-褐色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。
3	小形甕	A. 口縁部径(13.6)、残存高11.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリとナデ、内面ナデ。D. 白色粒、片岩粒、黑色粒。E. 内-にぶい黄褐色。外-橙色。F. 口縁部~胴部中位2/3。H. 貯蔵穴(P3)内。
4	小形甕	A. 口縁部径16.4、器高15.3、底部径5.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、片岩粒、黑色粒。E. 内外-明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 貯蔵穴(P3)上面。
5	高坏	A. 口縁部径(17.5)、残存高9.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデの後部分的に指押え、内面ヨコナデ。坏部外面ナデ。脚柱部内外面ナデ。D. 白色粒、片岩粒、黑色粒。E. 内外-褐色。F. 口縁部~脚柱部上位2/3。H. 貯蔵穴(P3)内。
6	高坏	A. 残存高9.2、脚端部径(13.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 脚柱部内外面ナデ、脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒、角閃石、片岩粒。E. 内外-明赤褐色。F. 脚部4/5。H. 覆土中。
7	有段高坏	A. 残存高1.9、脚端部径(17.4)。B. 粘土紐積み上げ。C. 脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒、片岩粒、赤色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 脚端部1/2。H. 覆土中。

8	坏	A.口縁部径(12.3)、器高6.9。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、片岩粒。E.内-赤褐色、外-明赤褐色。F.1/4。H.覆土中。
9	坏	A.口縁部径(13.0)、器高(4.2)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、片岩粒。E.内外-明赤褐色。F.1/3。H.覆土中。

第185号住居跡（第83図、図版14）

調査区の北側に位置し、重複する第80号溝跡と第81号溝跡に住居の東側壁とカマドの東側半分を切られている。

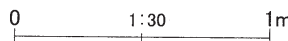
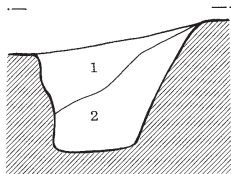
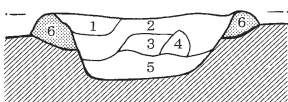
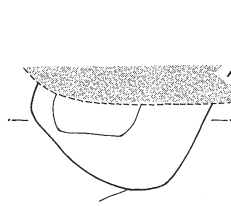
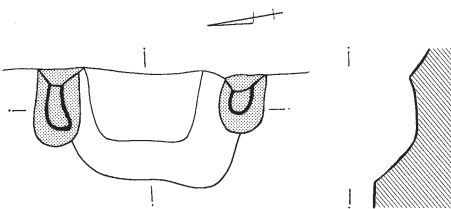
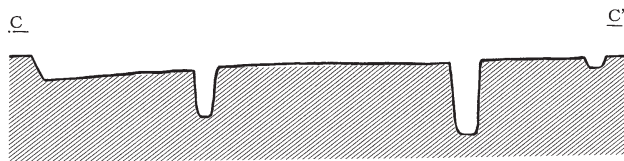
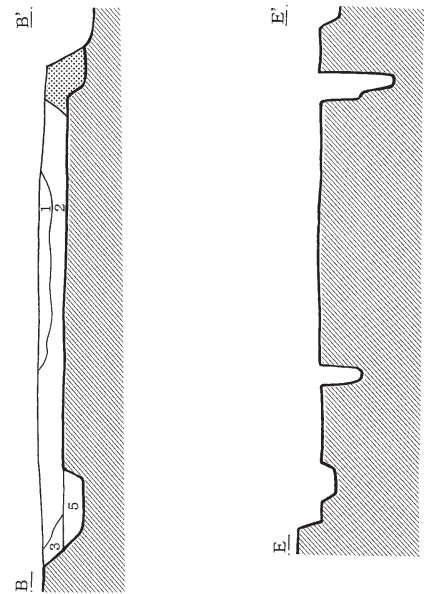
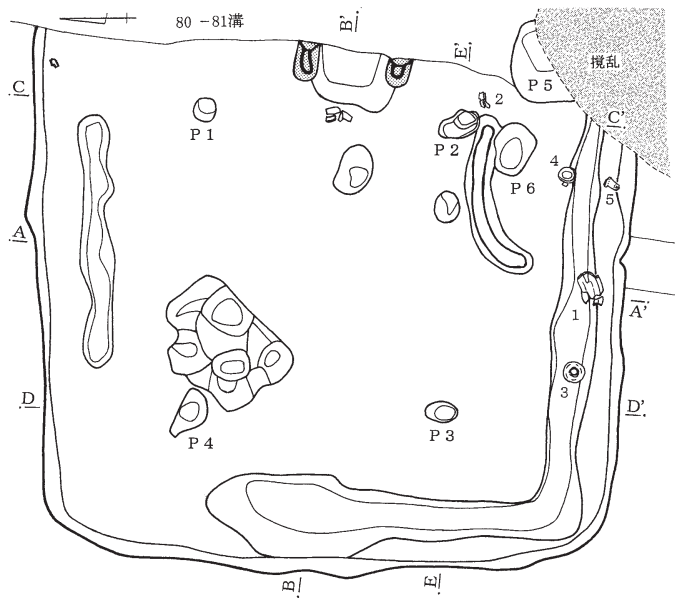
平面形は、コーナー部がやや丸みをもつ方形を呈していたと思われる。規模は、南北方向が4.78m、東西方向は4.20mまで測れる。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で20cmある。壁溝は、壁下から20cm～30cmほど内側に途切れて掘られており、おそらく壁の風化や崩落により、拡張して新たに壁を掘り出した結果によるものと思われる。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。住居南側壁際中央部には、幅20cm・高さ5cm程度の土堤がL字状に巡っている。入口部の施設に関するものと思われるが、本来は壁際の梯子穴を囲うようにコの字状に配するのが一般的である。ピットは、住居跡内から多数検出されている。P1～P4は、その配置から主柱穴と考えられる。小規模な円形を基調とするものが多く、床面からの深さは38cm～56cmある。P5は、カマド



第82図 第185号住居跡出土遺物

第185号住居跡出土遺物観察表

1	大形鉢	A.口縁部径(20.9)、器高20.2、底部径6.6。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリの後部分的に雑なミガキ、内面匏ナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、角閃石、片岩粒。E.内-淡赤褐色、外-明赤褐色。F.2/3。G.胴部外面に黒斑あり。H.床面付近。
2	甕	A.口縁部径(17.4)、残存高5.5。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部上位内外面ナデ。D.白色粒、片岩粒。E.内-にぶい褐色、外-にぶい黄褐色。F.口縁部1/4。H.床面付近。
3	中形直口壺	A.残存高10.7。B.粘土紐積み上げ。C.胴部外面ケズリの後指ナデ、内面ナデ。D.白色粒、角閃石、片岩粒。E.内外-明赤褐色。F.胴部のみ。G.胴部外面黒斑あり。H.床面付近。
4	坏	A.口縁部径12.8、器高4.9。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、片岩粒、石英、角閃石。E.内-赤褐色、外-明赤褐色。F.完形。H.床面付近。
5	高坏	A.残存高8.8。B.粘土紐積み上げ。C.脚柱部外面ナデ、内面ケズリの後ナデ。D.白色粒、角閃石、片岩粒。E.内外-にぶい赤褐色。F.脚柱部のみ。H.床面付近。



第185号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒を含む。粘性あり、しまりなし。）
- 第2層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロックを含む。粘性あり、しまりなし。）
- 第3層：暗褐色土層（径1～2cmのロームブロックを含む。粘性あり、しまりなし。）
- 第4層：暗褐色土層（径1～2cmのロームブロックを含む。粘性あり、しまりなし。）
- 第5層：黒褐色土層（径1.5cmのロームブロックを多量含む。粘性、しまり共にあり。）

第185号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5cmのローム粒を少量含み、焼土粒子を微量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第2層：暗褐色土層（径0.5～1.5cmのロームブロック、焼土粒、粘土粒を含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第3層：暗赤褐色土層（径3cmの焼土ブロック、径0.5cm以下の焼土粒を含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第4層：黄褐色土層（径1～3cmのブロックを多量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第5層：暗褐色土層（焼土粒を多量含み、炭化物粒、ロームブロックを含む。粘性あり、しまりなし。）
- 第6層：灰白色粘土層（黒色土を少量含む。粘性、しまり共にあり。）

第185号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロックを含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第2層：暗褐色土層（径0.8～3cmのロームブロックを含む。粘性なし、しまりあり。）

第83図 第185号住居跡

右側の住居南東側コーナー部に位置する。南側半分を攪乱によって切られているが、コーナー部の丸みが強い方形か長方形ぎみの形態であったようである。底面は比較的広く平坦で、床面からの深さは52cmある。他は、いずれも小規模な不整円形を呈し、床面からの深さは30cm～40cm程度のものである。

カマドは、住居東側壁に袖を直接貼り付けて付設されていたと思われる。残存しているのは、燃烧部の焚口付近と両袖の先端部だけである。規模は、最大幅が90cmあり、長さは42cmまで測れる。燃烧面(火床)は、床面よりも低く、袖は灰白色粘土ブロックを盛り上げて構築している。

出土遺物は、カマド周辺や住居南側の壁際から土器が出土している(第81図)。本住居跡の時期は、住居の形態や出土遺物の様相から、5世紀後半の古墳時代後期と考えられる。

第186号住居跡(第84図、図版14)

調査区中央部の東側に位置し、カマド東端部を第81号溝跡に切られている。

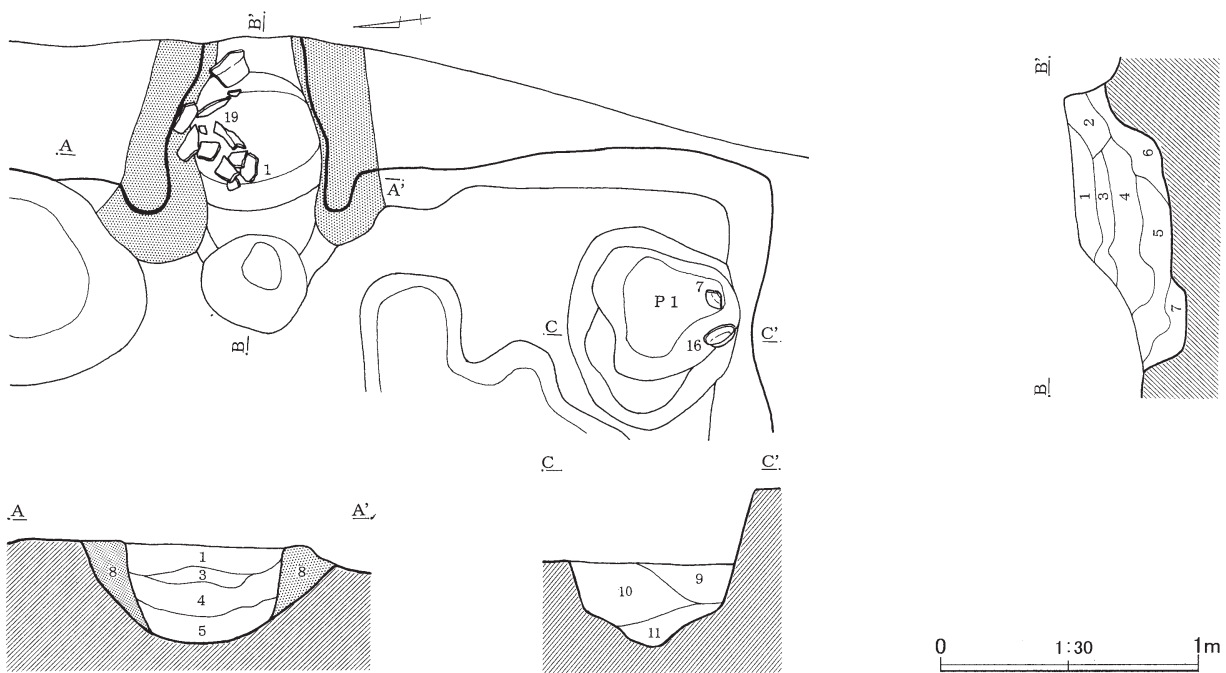
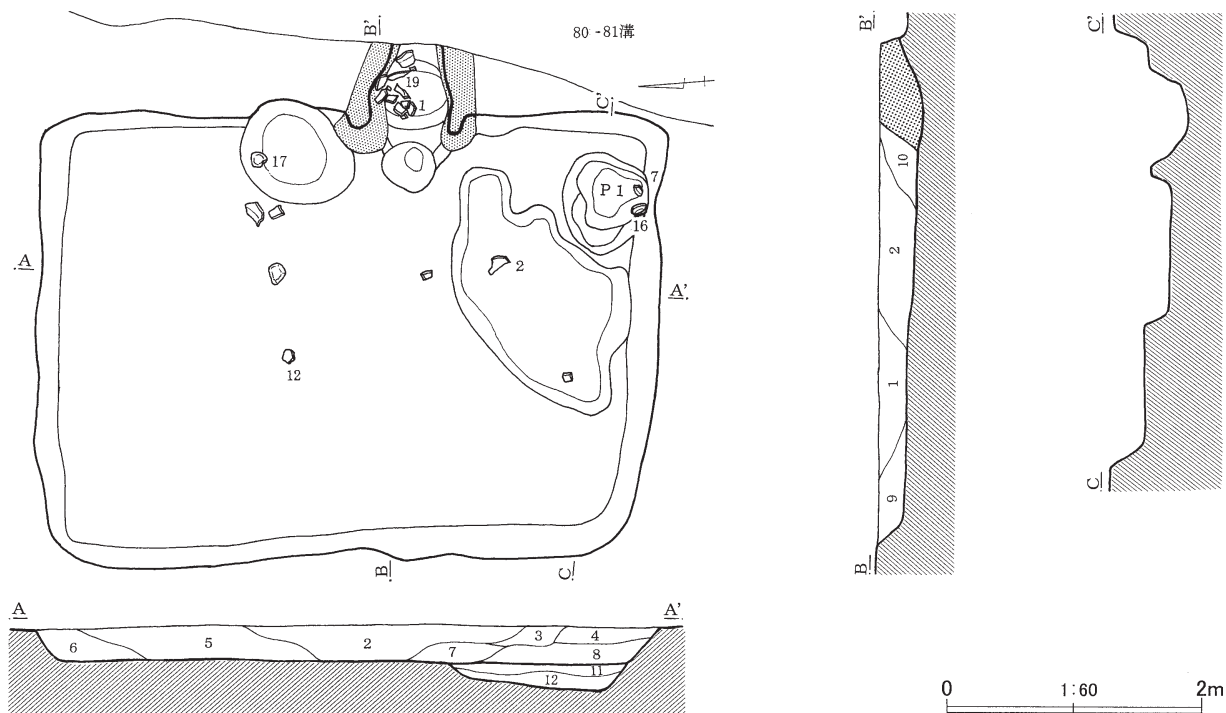
平面形は、東西方向に長い比較的整った長方形を呈している。規模は、東西方向が4.90m南北方向が3.58mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で27cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。ピットは、1カ所検出されている。P1は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居南東側コーナー部に位置する。平面形は80cm×68cmの不整円形を呈し、床面からの深さは33cmある。

カマドは、住居東側壁の中央やや南側寄りの位置に、壁をほぼ直角に掘り込んで付設されている。規模は、残存長115cm、最大幅114cmを測る。燃烧部は、その大部分が住居の壁外に位置し、内面は焼けて赤色化している。燃烧面(火床)は床面よりも若干低く、奥壁は一段立ち上がってから煙道部に移行するようである。袖は、カマド掘り方の壁面内側に灰褐色粘土(第8層)を貼り付けて構築している。焚口部には、直径40cm・深さ8cm程度の小ピットが掘られている。

出土遺物は、覆土中やカマド内及びP1の貯蔵穴内から土器が比較的多く出土している(第85図)。本住居跡の時期は、住居の形態や出土土器の様相から、10世紀初頭頃の平安時代中期と考えられる。

第186号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径(18.9)、残存高23.0。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D.白色粒、石英、角閃石。E.内外-明赤褐色。F.口縁部～胴部下位1/3。H.カマド内。
2	甕	A.口縁部径(19.5)、残存高10.1。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D.白色粒、片岩粒、黒色粒。E.内-黒褐色、外-にぶい赤褐色。F.口縁部～胴部上半1/3。G.胴部内面に黒斑、煤付着。H.覆土中。
3	小形甕	A.口縁部径11.6、残存高10.9。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。D.白色粒、角閃石。E.内-にぶい橙色、外-にぶい褐色。F.口縁部～胴部下位1/2。H.貯蔵穴(P1)内。
4	坏	A.口縁部径(12.6)、底部径(6.2)。器高4.7。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D.白色粒、黒色粒。E.内外-にぶい褐色。F.1/2。H.覆土中。



第84図 第186号住居跡

第186号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒、径0.5～2cmのロームブロックを少量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第2層：暗褐色土層（径0.1cmのローム粒を少量含む、焼土粒を含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第3層：暗褐色土層（径0.2cmのローム粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第4層：暗褐色土層（径0.5～1.5cmのロームブロックを含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第5層：暗褐色土層（径0.5～1cmのローム粒を含む。第4層に類似する。粘性なし、しまりあり。）
- 第6層：暗褐色土層（径0.5～1cmのローム粒を含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第7層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロックを多量に、焼土粒、ローム粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第8層：暗褐色土層（径1～2cmのロームブロック、ローム粒を多量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第9層：暗褐色土層（ローム粒を微量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第10層：暗褐色土層（径0.5cmの焼土粒、炭化物粒を多量に含む、径0.5cmのローム粒を含む。粘性なし、しまりあり。）

第11層：暗褐色土層（径0.5～2 cmのロームブロックを多量含み、径0.5cmの焼土粒を少量含む。粘性あり、しまりなし。）

第12層：暗褐色土層（径2～4 cmのロームブロックを多量含む。粘性、しまり共にあり。）

第186号住居跡カマド・貯蔵穴土層説明

第1層：暗褐色土層（焼土粒を少量含み、ローム粒、炭化物を微量含む。粘性なし、しまりあり。）

第2層：暗褐色土層（焼土粒を多量含み、径1 cmの焼土塊を微量含む。粘性なし、しまりあり。）

第3層：黒褐色土層（炭化物、焼土粒を微量含む。粘性なし、しまりあり。）

第4層：黒褐色土層（径1 cmの焼土塊を多量含み、炭化物を少量、ローム粒、焼土粒を微量含む。粘性なし、しまりあり。）

第5層：暗褐色土層（径1 cmの焼土塊を多量含み、炭化物粒、焼土粒を少量、径1 cmのローム塊、ローム粒、径1 cmの炭化物を微量含む。粘性、しまり共にあり。）

第6層：褐色土層（ローム粒を少量含み、炭化物、焼土粒を微量含む。粘性、しまり共にあり。）

第7層：黒褐色土層（ローム粒、焼土粒を少量含み、炭化物を微量含む。粘性あり、しまりなし。）

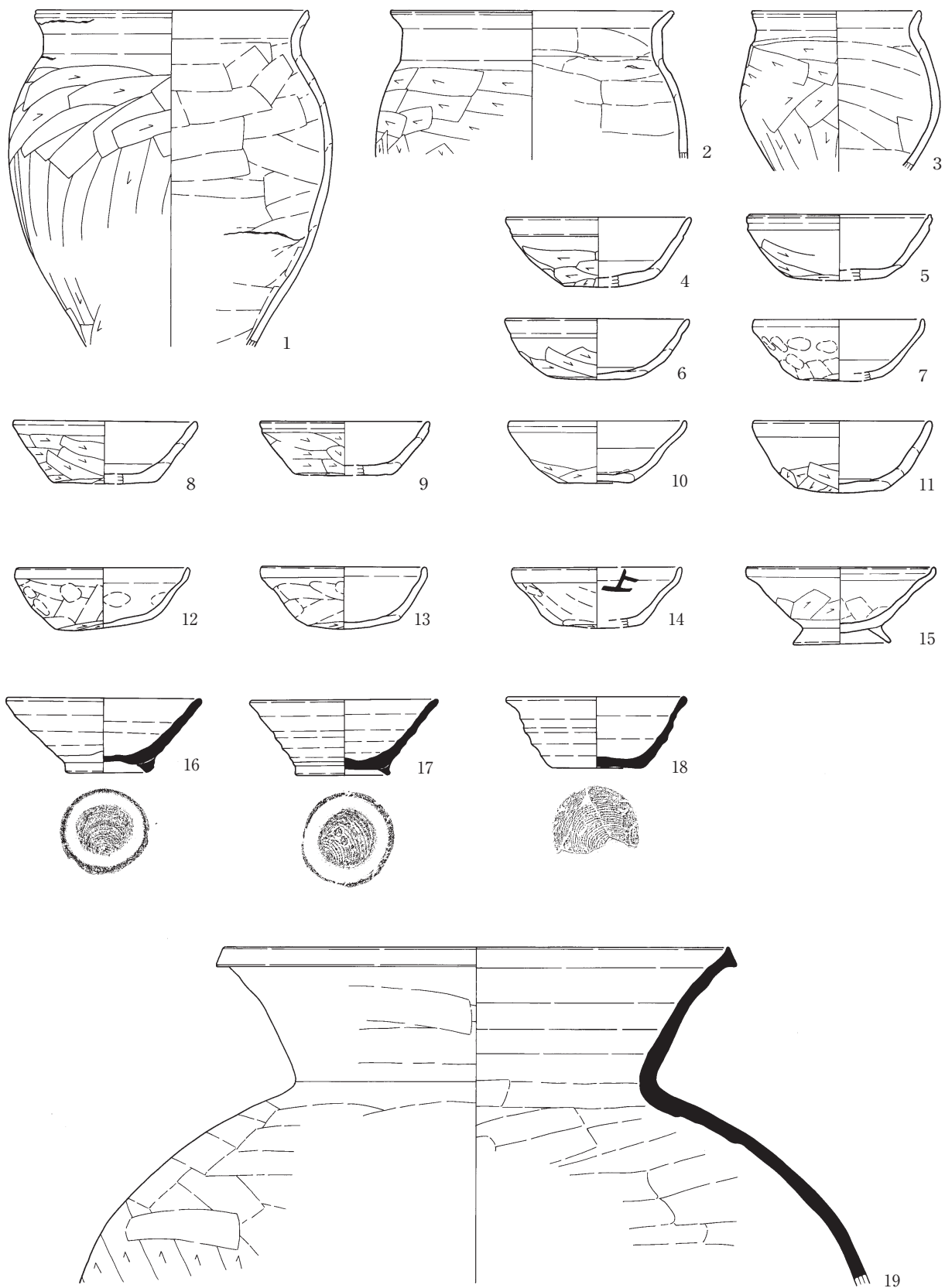
第8層：暗灰褐色土層（灰褐色粘土ブロックを均一に、焼土粒を微量含む。粘性、しまり共にあり。）

第9層：暗褐色土層（径0.3～0.5cmのローム粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）

第10層：暗褐色土層（径0.5～1 cmのローム粒を多量含む。粘性、しまり共にあり。）

第11層：暗褐色土層（径0.5～2 cmのロームブロックを多量含む。粘性、しまり共にあり。）

5	坏	A. 口縁部径 12.4、残存高 4.5、底部径 6.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒、角閃石。E. 内-にぶい赤褐色、外-黒褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
6	坏	A. 口縁部径 12.7、器高 4.2、底部径 6.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒、角閃石、石英。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 4/5。H. 覆土中。
7	坏	A. 口縁部径 11.6、残存高 4.2、底部径 5.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ユビオサエ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒、黒色粒。E. 内-橙色、外-にぶい橙色。F. 1/2。H. 貯蔵穴 (P1) 内。
8	坏	A. 口縁部径 (12.6)、器高 4.3、底部径 (7.1)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒、石英、角閃石。E. 内外-にぶい橙色。F. 1/3。H. 覆土中。
9	坏	A. 口縁部径 (11.5)、器高 3.7、底部径 (6.6)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒、片岩粒、角閃石、赤色粒。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
10	坏	A. 口縁部径 12.0、器高 4.2、底部径 5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒、片岩粒、角閃石、赤色粒。E. 内外-明赤褐色。F. 完形。H. 覆土中。
11	坏	A. 口縁部径 (12.4)、器高 4.9、底部径 6.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒、石英、角閃石。E. 内外-にぶい橙色。F. 1/3。H. 覆土中。
12	坏	A. 口縁部径 11.8、器高 4.3、底部径 6.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデの後部分的に指押え。底部外面ケズリ。D. 白色粒、黒色粒、赤色粒。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 3/4。H. 覆土中。
13	坏	A. 口縁部径 (11.2)、器高 4.3、底部径 6.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデと一部に指押え、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外-にぶい橙色。F. 3/4。H. 覆土中。
14	坏	A. 口縁部径 (11.4)、残存高 4.1、底部径 (6.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後部分的に指押え、内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 1/4。G. 口縁部内面に墨書「上」。H. 覆土中。
15	高台付坏	A. 口縁部径 12.8、器高 5.3、高台部径 6.5。B. 粘土紐積み上げ。高台部貼付。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下半ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。高台部内外面ヨコナデ。D. 白色粒、石英、角閃石。E. 内外-明赤褐色。F. 4/5。H. 覆土中。
16	須恵器高台付坏	A. 口縁部径 13.4、器高 5.1、高台部径 5.5。B. ロクロ成形。高台部貼付。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部回転糸切りの後高台部内外面回転ナデ。D. 白色粒、片岩粒、黒色粒。E. 内外-黄灰色。F. 完形。G. 酸化焰焼成。H. 貯蔵穴 (P1) 内。
17	須恵器高台付坏	A. 口縁部径 12.9、器高 5.1、高台部径 6.5。B. ロクロ成形。高台部貼付。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部回転糸切り。高台部内外面回転ナデ。D. 白色粒、片岩粒。E. 内-にぶい黄褐色、外-灰黄褐色。F. ほぼ完形。G. 酸化焰焼成。H. 床面直上。
18	須恵器坏	A. 口縁部径 12.4、器高 4.8、底部径 6.2。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 白色粒、片岩粒。E. 内外-褐灰色。F. 4/5。G. 還元焰焼成。H. 覆土中。
19	須恵器甕大	A. 口縁部径 (34.6)、残存高 23.0。B. 粘土紐積み上げ後叩き。C. 口縁部外面回転ナデの後ナデ、内面回転ナデ。胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。D. 白色粒、黒色粒、石英。E. 内-にぶい赤褐色、外-にぶい黄褐色。F. 口縁部～胴部上位 1/5。G. 酸化焰焼成。H. カマド内。

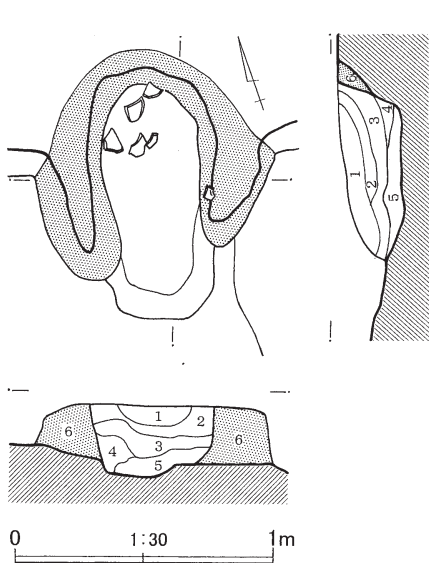
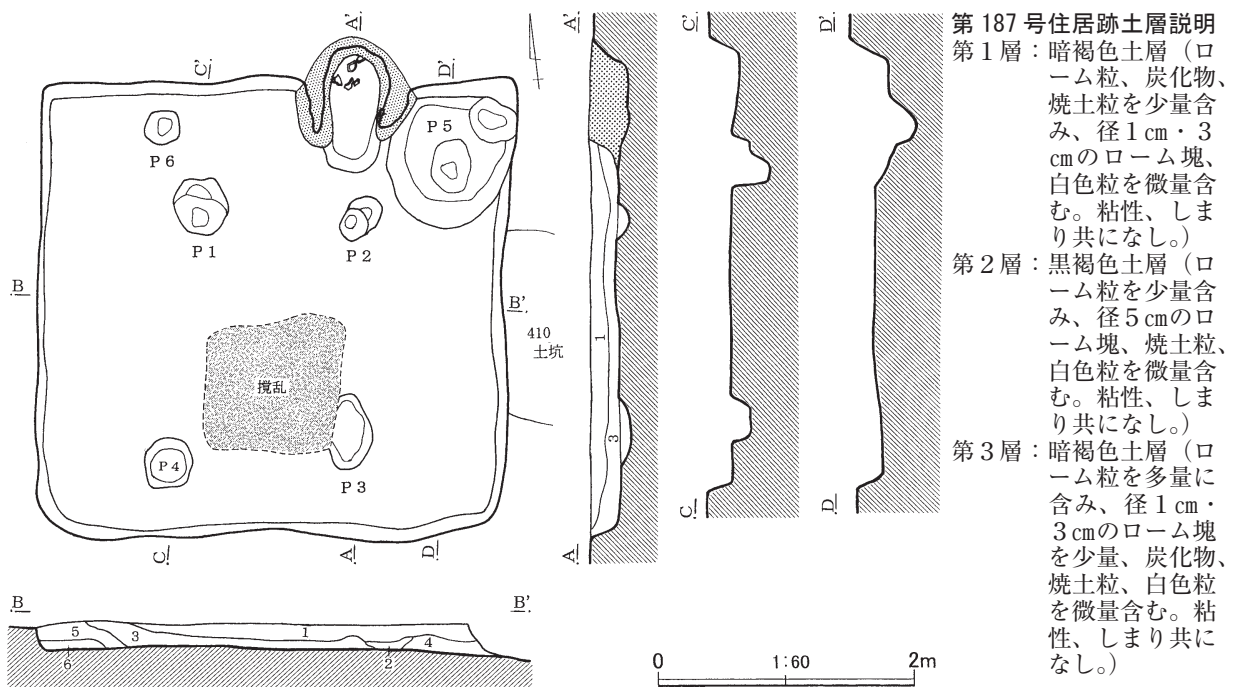


第85图 第186号住居跡出土遺物

第187号住居跡（第86図、図版15）

調査区中央部の東側寄りに位置し、重複する第409号土坑と第410号土坑に切られている。

平面形は、比較的整った方形を呈している。規模は、南北方向が3.46m、東西方向が3.62mある。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で22cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。ピットは、住居跡内から6カ所検出されている。P1～P4は、その配置から主柱穴の可能性が高いものであるが、その配置は住居の対角線上ではなく、やや住居の中心に寄った配置をとっている。そのため、P2はカ

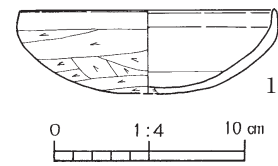


第86図 第187号住居跡

マド焚口の前にあり、不具合な感じを受ける。いずれも長軸が40cm前後の楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは10cm～30cmある。P 5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれるもので、カマド右側の住居北東側コーナー部に位置する。直径100cm程度の円形ぎみの形態で、二段に深くなっており、床面からの深さは30cmある。P 6は、住居の東側壁際にある。直径25cm程度の不整形円形を呈し、床面からの深さは35cmある。

カマドは、住居東側壁の中央やや南側寄りの位置に、壁を直角に掘り込んで付設されている。規模は、全長103cm、最大幅95cmある。燃烧部は、半分住居の壁を掘り込んで、その内側に淡灰褐色粘土塊を含む暗褐色土(第6層)を貼って構築している。燃烧面(火床)は、住居の床面よりやや低く、奥壁は緩やかに立ち上がっている。袖は、淡灰褐色粘土ブロックを均一に含む暗褐色土(第6層)を、燃烧部の奥壁から回して構築している。

出土遺物は、カマド内や覆土中から、土師器や須恵器の破片が少量出土している(第87図)。本住居跡の時期は、住居の形態や出土土器の様相から、7世紀後半の白鳳時代と考えられる。



第87図 第187号住居跡出土遺物

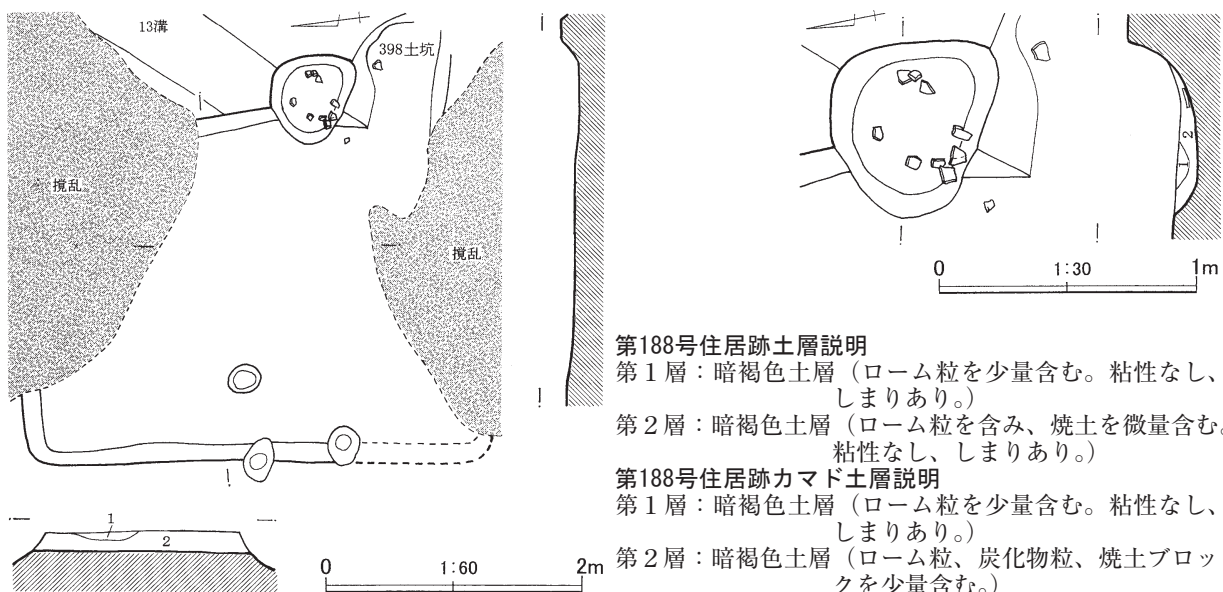
第187号住居跡出土遺物観察表

1	坏	A.口縁部径(13.6)、器高4.4。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外-暗茶褐色。F.2/3。H.覆土中。
---	---	---

第188号住居跡(第88図、図版15)

調査区の中央付近に位置し、重複する第13号溝跡を切り、第398号土坑に切られている。住居跡の南北両側を攪乱によって壊されているため、住居跡の全容は不明である。

平面形は、残存する部分から推測すると、南北方向に長い長方形を基調にしていたと思わ



第188号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層(ローム粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。)
- 第2層：暗褐色土層(ローム粒を含み、焼土を微量含む。粘性なし、しまりあり。)

第188号住居跡カマド土層説明

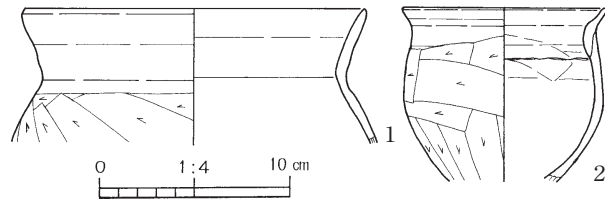
- 第1層：暗褐色土層(ローム粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。)
- 第2層：暗褐色土層(ローム粒、炭化物粒、焼土ブロックを少量含む。)

第88図 第188号住居跡

れる。規模は、東西方向が2.84m、南北方向は3.70m位あると思われる。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは15cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼り床式で、全体的にやや軟弱である。ピットは、住居内から1カ所検出されているが、本住居跡に伴うものではない。

カマドは、住居の東側壁に付設されている。規模は、全長70cm・最大幅65cmを測る。燃焼部は、住居の壁を掘り込んで作られ、あまり焼けていない。燃焼面(火床)は、住居床面よりも若干低い。袖や煙道部は残存していなかった。

出土遺物は、カマド内や覆土中から土器の破片が少量出土しただけである(第89図)。本住居跡の時期は、住居の形態や出土遺物の様相から、9世紀の平安時代前期と考えられる。



第89図 第188号住居跡出土遺物

第188号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径(18.2)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-淡橙褐色。F.口縁部1/2。H.覆土中。
2	小形台付甕	A.口縁部径(10.8)、残存高9.1。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外-茶褐色。F.口縁部1/3。G.内面に黒色付着物あり。H.覆土中。

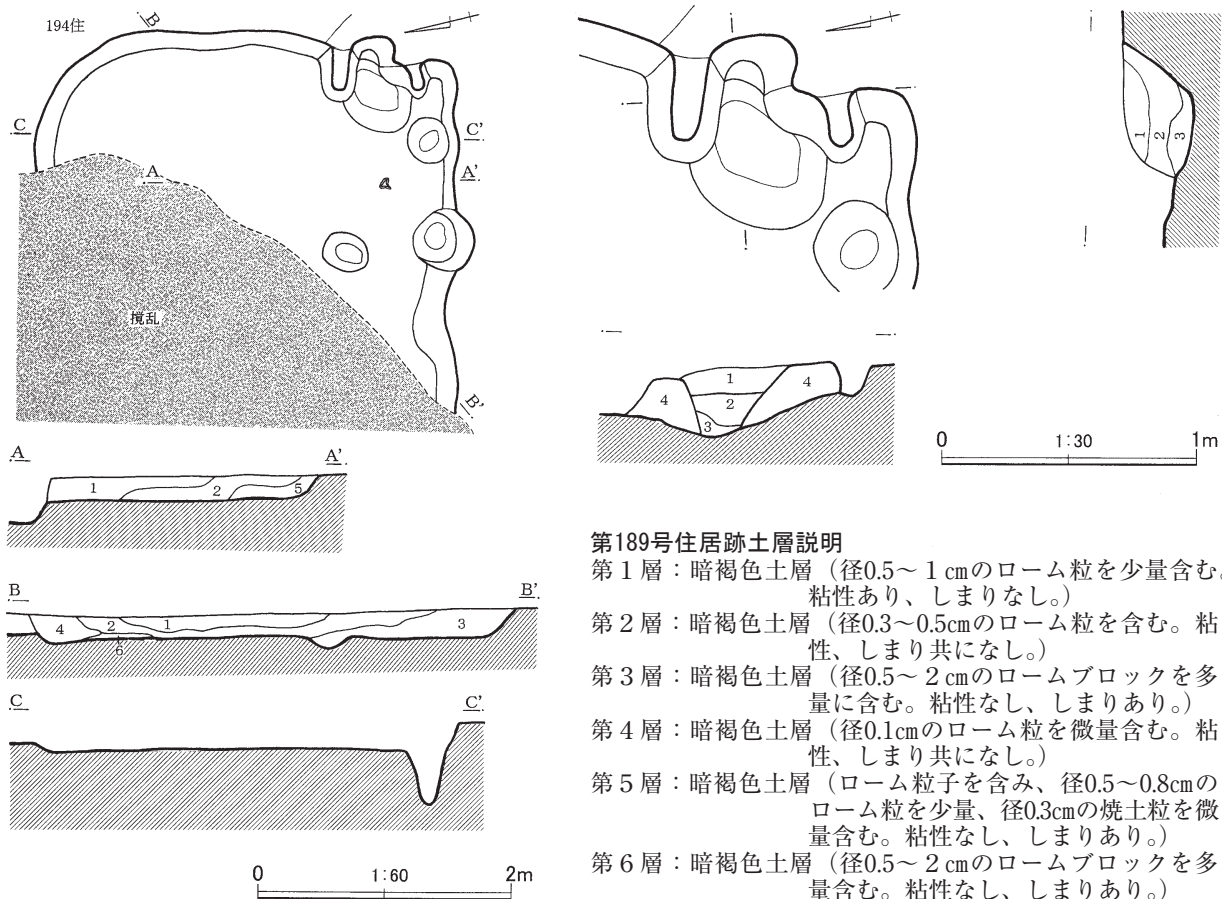
第189号住居跡(第90図、図版15)

調査区の中央部に位置し、重複する第194号住居跡を切っている。住居跡の北西側半分を攪乱によって破壊されているため、本住居跡の全容は不明である。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みを持つ方形を基調にしていたと思われる。規模は、南北方向が3.37m、東西方向は2.85mまで測れる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で20cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼り床式で、全体的にやや軟弱である。ピットは、残存する住居跡内から小規模なものが2カ所検出されているが、その性格は不明である。

カマドは、住居東側壁の南東側コーナー部にかなり寄った位置に付設されている。規模は、全長78cm、最大幅90cmある。燃焼部は、住居の壁を掘り込まずに、住居内に位置している。燃焼面(火床)は、住居の床面よりも若干低く、奥壁は住居壁面と同じで、それから緩やかに立ち上がって煙道部に移行していたようである。袖は、白色粘土ブロックを含む暗褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。

出土遺物は、図化できるものはなかったが、覆土中から古墳時代中期～後期の土器の破片が少量出土している。本住居跡の時期は、出土土器の様相から、古墳時代後期の可能性が高いと思われる。



第189号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～1cmのローム粒を少量含む。粘性あり、しまりなし。）
- 第2層：暗褐色土層（径0.3～0.5cmのローム粒を含む。粘性、しまり共になし。）
- 第3層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロックを多量に含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第4層：暗褐色土層（径0.1cmのローム粒を微量含む。粘性、しまり共になし。）
- 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を含み、径0.5～0.8cmのローム粒を少量、径0.3cmの焼土粒を微量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第6層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロックを多量含む。粘性なし、しまりあり。）

第90図 第189号住居跡

第189号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.3～1cmの焼土粒を多量含む。粘性、しまり共になし。）
- 第2層：暗褐色土層（第1層より暗い。径0.3cmの焼土粒を微量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第3層：暗褐色土層（径0.5～1cmのローム粒を含み、径0.5cmの焼土粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第4層：暗褐色土層（白色粘土ブロック・ロームブロックを少量含む。粘性、しまり共にあり。）

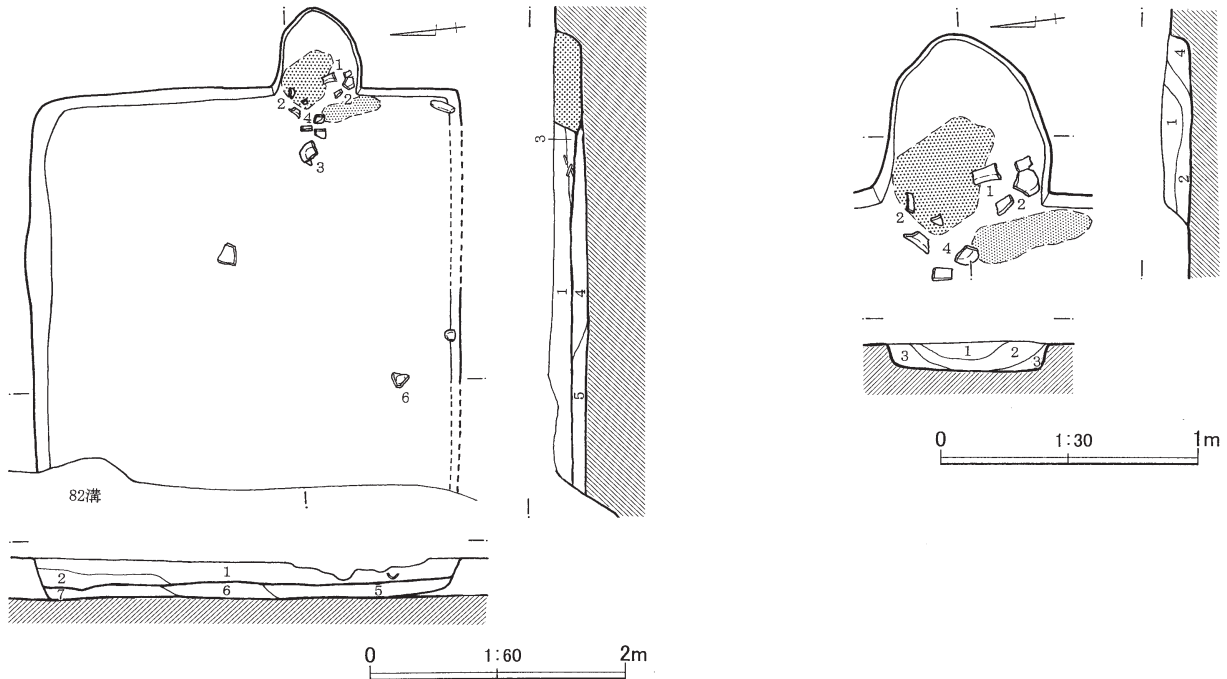
第190号住居跡（第90図、図版15）

調査区中央部の東側寄りに位置し、重複する第82号溝跡と第401号土坑に切られ、第191号住居跡と第192号住居跡を切っている。

平面形は、東西方向に長い長方形を呈していたと思われる。規模は、南北方向が3.36m、東西方向は3.16mまで測れる。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で25cmある。床面は、ローム粒子を含む暗褐色土を埋め戻した貼床式で、全体的にやや軟弱である。

カマドは、住居東側壁の中央やや南側寄りの位置に、壁を掘り込んで直角に付設されている。規模は、全長70m、最大幅67mある。燃烧部は、その大半が住居の壁外に位置する。燃烧面(火床)は、住居の床面とほぼ同じ高さで、よく焼けて赤色化している。カマド焚口付近の床面上には、淡灰褐色粘土のブロックが見られ、崩壊したカマドの構築材と思われる。

出土遺物は、カマドの内外や住居中央から南側周辺部の床面付近から、土器の破片が少量出土しており、土器以外では柱状砥石1点と棒状の鉄製品が見られる(第92図)。本住居跡の時期は、住居の形態や出土土器の様相から、10世紀前半の平安時代中期と考えられる。



第91図 第190号住居跡

第190号住居跡土層説明

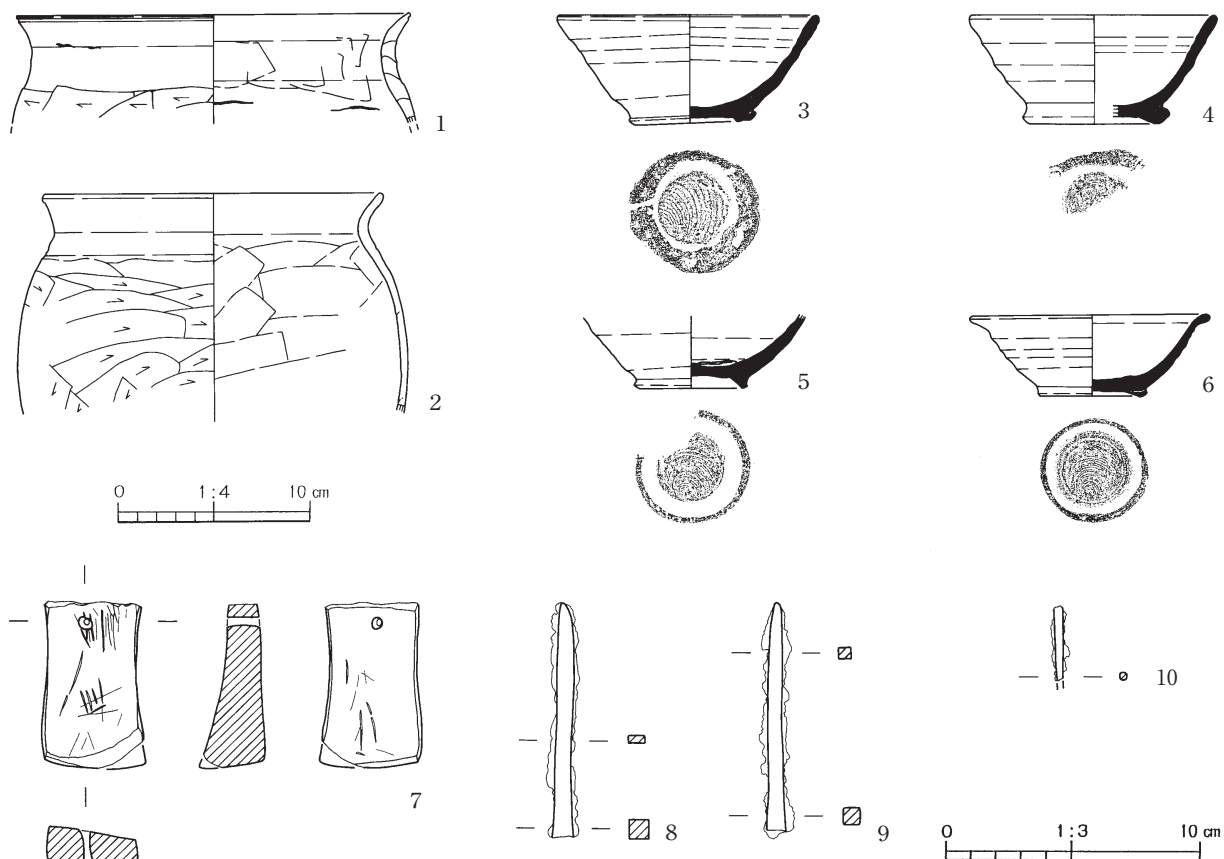
- 第1層：暗褐色土層（径1cmのローム塊、ローム粒、焼土粒を微量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第2層：暗褐色土層（径3cmのローム塊、ローム粒を少量、炭化物、焼土粒を微量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第3層：暗褐色土層（径5cmのローム塊を少量、ローム粒、焼土粒を微量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第4層：暗褐色土層（ローム粒、焼土粒を少量、径1cmのローム塊を微量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第5層：暗褐色土層（ローム粒を極微量含む。粘性、しまり共になし。）
- 第6層：黒褐色土層（ローム粒、焼土粒を微量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第7層：褐色土層（ローム粒を多量に含み、径1cmのローム塊、径3cmの焼土塊、焼土粒、炭化物を微量含む。粘性なし、しまりあり。）

第190号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗赤褐色土層（焼土粒を含む。）
- 第2層：暗赤褐色土層（焼土粒を多量、炭化物を少量、ローム粒を微量含む。）
- 第3層：暗褐色土層（焼土粒を含む。）
- 第4層：暗褐色土層（ローム粒、焼土粒を少量含む。）

第190号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径12.8、残存高5.8。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部上位外面ケズリ、内面窺ナデ。D.角閃石、黒色粒、片岩粒。E.内外-明赤褐色。F.口縁部~胴部上位1/4。H.カマド内。
2	甕	A.口縁部径(18.0)、残存高11.6。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデの後ケズリ、内面窺ナデ。D.白色粒、石英、角閃石。E.内外-にぶい赤褐色。F.口縁部~胴部中位1/2。G.胴部外面煤付着。H.カマド内。
3	須恵器 高台付坏	A.口縁部径13.6、器高6.0、高台部径6.0。B.ロクロ成形。高台部貼付。C.口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。高台部内外面回転ナデ。D.白色粒、片岩粒。E.内外-灰黄褐色。F.完形。G.酸化焰焼成。H.床面直上。
4	須恵器 高台付坏	A.口縁部径12.8、器高5.8、高台部径(6.8)。B.ロクロ成形。高台部貼付。C.口縁部内外面回転ナデ。底部回転糸切り。高台部内外面回転ナデ。D.白色粒、角閃石、片岩粒。E.内-明赤褐色、外-橙色。F.1/3。G.酸化焰焼成。H.カマド内。
5	須恵器 高台付坏	A.高台部径5.4、残存高3.8。B.ロクロ成形。高台部貼付。C.体部内外面回転ナデ。底部外面回転ナデ。高台部内外面回転ナデ。D.白色粒、角閃石、片岩粒。E.内外-橙色。F.体部以下1/2。G.酸化焰焼成。H.カマド内。



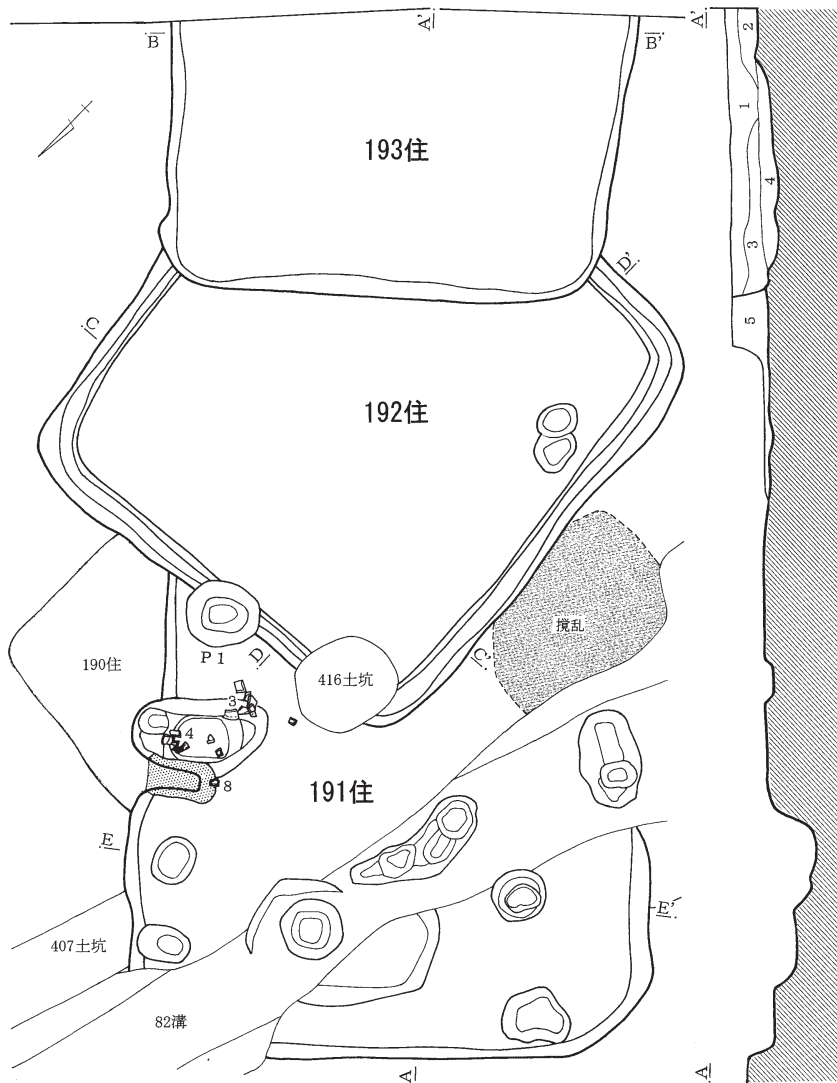
第92図 第190号住居跡出土遺物

6	須恵器 高台付坏	A. 口縁部径 12.2、器高 4.3、高台部径 5.4。B. ロクロ成形。高台部貼付。C. 口縁部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。高台部内外面回転ナデ。D. 白色粒、角閃石、片岩粒。E. 内-黄灰色、外-灰黄色。F. ほぼ完形。G. 還元焰焼成気味。H. 床面付近。
7	石製品 (砥石)	A. 長さ 6.7、幅 4.0、厚さ 2.4。重さ 86.4。C. 表裏面及び両側面下端部平滑。上端部欠損部分に整形痕あり。D. 砂岩。F. 1/2。G. 表裏面上端側に円形の穿孔あり。H. 覆土中。
8	鉄製品 (棒状)	A. 残存長 9.4、幅 0.8、重さ 12.4。D. 鉄製。F. 端部欠損。H. 覆土中。
9	鉄製品 (棒状)	A. 残存長 9.4、幅 0.7、重さ 11.66。D. 鉄製。F. 端部欠損。H. 覆土中。
10	鉄製品 (棒状)	A. 残存長 3.0、幅 0.4、重さ 1.2。D. 鉄製。F. 両端部欠損。H. 覆土中。

第191号住居跡（第93図、図版16）

調査区中央部の東側寄りに位置し、重複する第82号溝跡・第416号土坑・第190号住居跡・第192号住居跡に切られ、第194号住居跡を切っている。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部の丸みが強い方形を呈すると思われる。規模は、北東～南西方向が4.24m、北西～南東方向は3.85mまで測れる。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高27cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。ピットは、住居跡内から多く検出されているが、その性格が分かるものはP 1だけである。P 1は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれている。



第192・193号住居跡土層説明

<第193号住居跡>

第1層：暗褐色土層（径0.1cmのローム粒を少量含み、炭化物を含む。粘性、しまり共になし。）

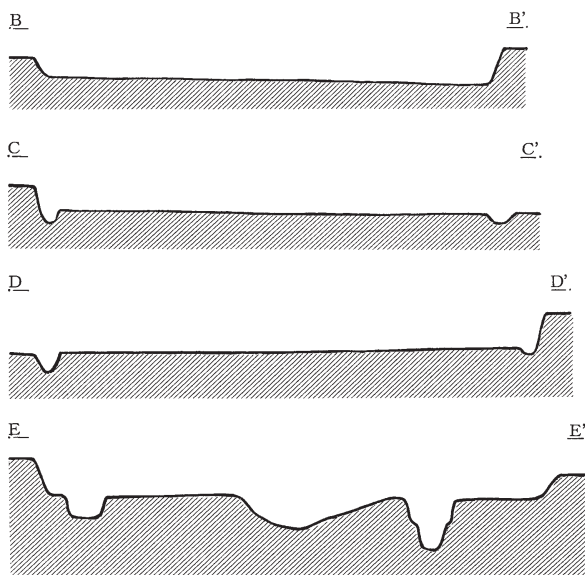
第2層：暗褐色土層（径0.3~0.5cmのローム粒を含む。粘性、しまり共にあり。）

第3層：暗褐色土層（径0.5~2cmのロームブロックを含む。粘性、しまり共にあり。）

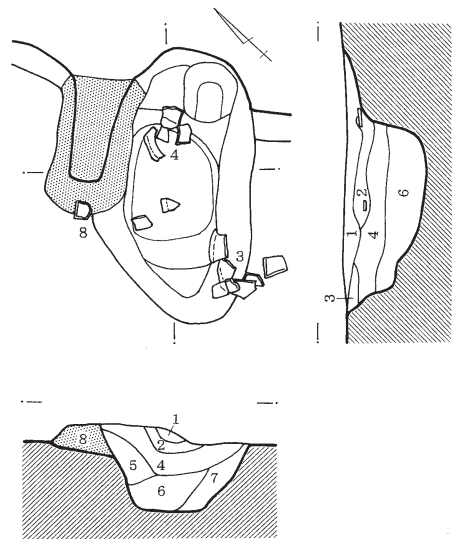
第4層：明るい暗褐色土層（径1~4cmのロームブロックを多量に含む。粘性、しまり共にあり。）

<第192号住居跡>

第5層：暗褐色土層（径0.1cm以下のローム粒を多量含む。粘性なし、しまりあり。）



0 1:60 2m



0 1:30 1m

第93図 第191・192・193号住居跡

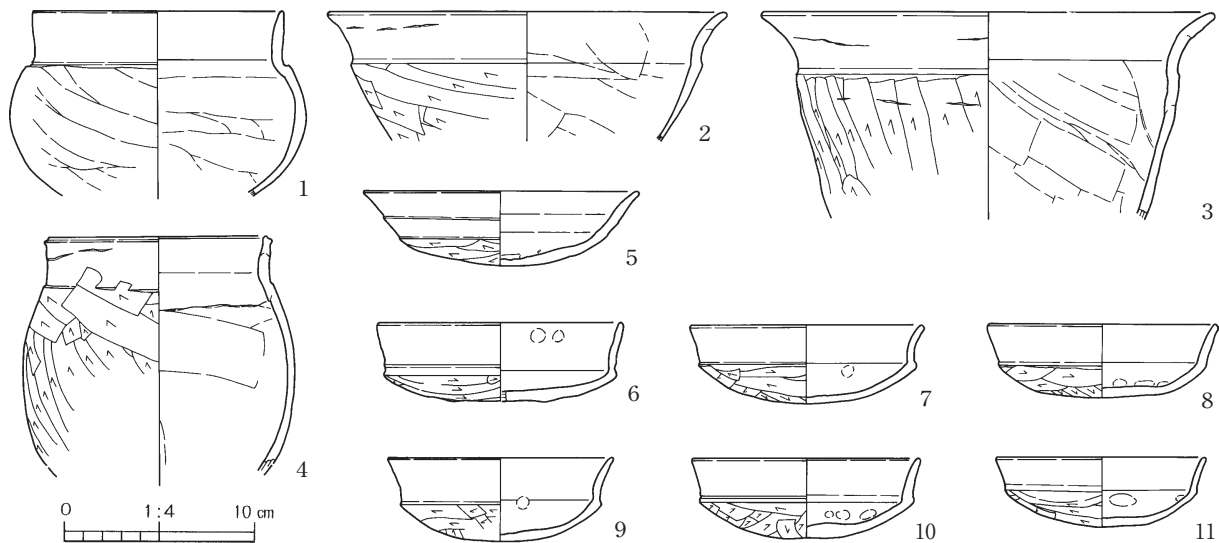
第191号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.4cmのローム粒を多量に含み、径0.3cmの焼土粒を含む。粘性、しまり共になし。）
- 第2層：暗褐色土層（径2～3cmの焼土ブロックを多量に、径0.5cmのローム粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第3層：暗褐色土層（径1cmの焼土粒、径1～2cmのロームブロックを含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第4層：暗褐色土層（径0.5cmのローム粒を少量含み、径0.3～1cmの焼土粒を含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第5層：暗褐色土層（径0.3～1cmの焼土粒を少量含み、径0.5cmのローム粒を含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第6層：暗褐色土層（径0.5～1cmのローム粒、径0.3cmの焼土粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第7層：暗褐色土層（径1～3cmのロームブロックを多量含む。粘性、しまり共になし。）
- 第8層：暗褐色土層（淡灰褐色粘土ブロック、ロームブロックを均一に含む。粘性、しまり共にあり。）

るもので、カマド右側の住居東側コーナー部に位置する。長軸が58cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは45cmある。

カマドは、住居北東側壁の中央付近に位置し、ほぼ直角に付設されている。規模は、全長110cm、最大幅83cmある。燃烧部は、全体が住居内にあり、奥壁は住居の壁とほぼ一致する。燃烧面(火床)は、住居の床面より15cm程度深く、奥壁は一度立ち上がってから煙道部に移行するようである。袖は、淡灰褐色粘土ブロックとロームブロックを住居の壁に直接貼り付けて構築している。No3の甕は、袖先端の補強に使われていたものかもしれない。

出土遺物は、カマド内や覆土中から、土器の破片が比較的多く出土している(第94図)。本住居跡の時期は、住居の形態や出土土器の様相から、7世紀前半頃の古墳時代後期と考えられる。



第94図 第191号住居跡出土遺物

第191号住居跡出土遺物観察表

1	小形鉢	A.口縁部径13.1、残存高9.7。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.角閃石、石英、赤色粒。E.内-橙色、外-にぶい赤褐色。F.口縁部～胴部下位1/3。H.覆土中。
2	大形鉢	A.口縁部径20.8、残存高6.8。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒、角閃石。E.内外-にぶい赤褐色。F.口縁部～体部1/4。H.覆土中。
3	大形甕	A.口縁部径23.6、残存高10.9。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窺ナデ。D.片岩粒、チャート。E.内-明赤褐色、外-にぶい赤褐色。F.口縁部～胴部上半1/4。H.カマド袖先端。
4	小形甕	A.口縁部径11.3、残存高12.4。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窺ナデ。D.赤色粒、片岩粒、石英。E.内-明赤褐色、外-にぶい赤褐色。F.口縁部～胴部下位2/3。H.カマド内。

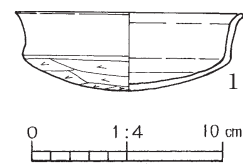
5	坏	A. 口縁部径 14.2、器高 3.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、角閃石、片岩粒。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 完形。G. 外面に黒斑あり。H. 覆土中。
6	坏	A. 口縁部径 12.8。器高 3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、片岩粒。E. 内外-にぶい橙色。F. 1/2。H. 覆土中。
7	坏	A. 口縁部径 12.4、器高 4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、片岩粒。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。H. カマド内。
8	坏	A. 口縁部径 12.0、器高 3.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角閃石、褐色粒。E. 内外-橙色。F. 1/3。H. 床面付近。
9	坏	A. 口縁部径 11.8、器高 4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒、角閃石、片岩粒。E. 内外-橙色。F. 1/3。H. 覆土中。
10	坏	A. 口縁部径 11.9、器高 4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、角閃石。E. 内外-にぶい橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
11	坏	A. 口縁部径 11.1、器高 3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角閃石、片岩粒、褐色粒。E. 内外-橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。

第192号住居跡（第93図、図版16）

調査区中央部の東側寄りに位置し、重複する第416号土坑・第190号住居跡・第193号住居跡に切られ、第191号住居跡を切っている。

平面形は、コーナー部が丸みをもつ方形を呈している。規模は、南北方向が4.08m、東西方向が3.95mある。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高27cmある。壁溝は、各壁下を途切れずに均一な幅で巡っている。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的に堅く締まっている。ピットは、住居西側の壁際から重複して2ヵ所検出されている。いずれも長軸が35cm前後の楕円形を呈し、床面からの深さは25cm前後である。

出土遺物は、覆土中から土器の破片が少量出土しただけである(第95図)。本住居跡の時期は、出土遺物の様相から、6世紀後半の古墳時代後期と考えられる。



第95図 第192号住居跡
出土遺物

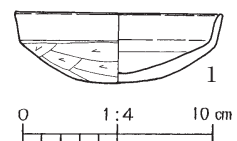
第192号住居跡出土遺物観察表

1	坏	A. 口縁部径 12.0、器高 4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-淡茶褐色、内-黒色。F. ほぼ完形。H. 覆土中。
---	---	---

第193号住居跡（第93図、図版16）

調査区中央部の東端に位置し、重複する第192号住居跡を切っている。調査区内で検出されたのは、住居の北西側半分だけであるため、本住居跡の全容は不明である。

平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形か長方形を呈しているものと思われる。規模は、北東～南西方向が3.75m、北西～南東方向は2.30mまで測れる。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高30cmある。床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、全体的にやや軟弱である。



第96図 第193号住居跡
出土遺物

出土遺物は、覆土中から土器の破片が少量出土しただけである(第96図)。本住居跡の時期は、出土土器から、7世紀後半の白鳳時代と考えられる。

第193号住居跡出土遺物観察表

1	坏	A. 口縁部径(11.0)、器高3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-明橙褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
---	---	--

第194号住居跡(第97図、図版16)

調査区の中央部に位置し、重複する第189号住居跡・第191号住居跡・第414号土坑・第417号土坑に切られている。おそらく、第83号溝跡も本住居跡より新しいものと思われる。

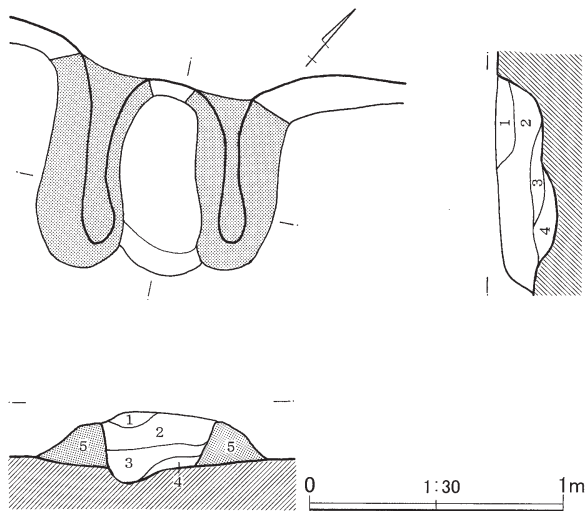
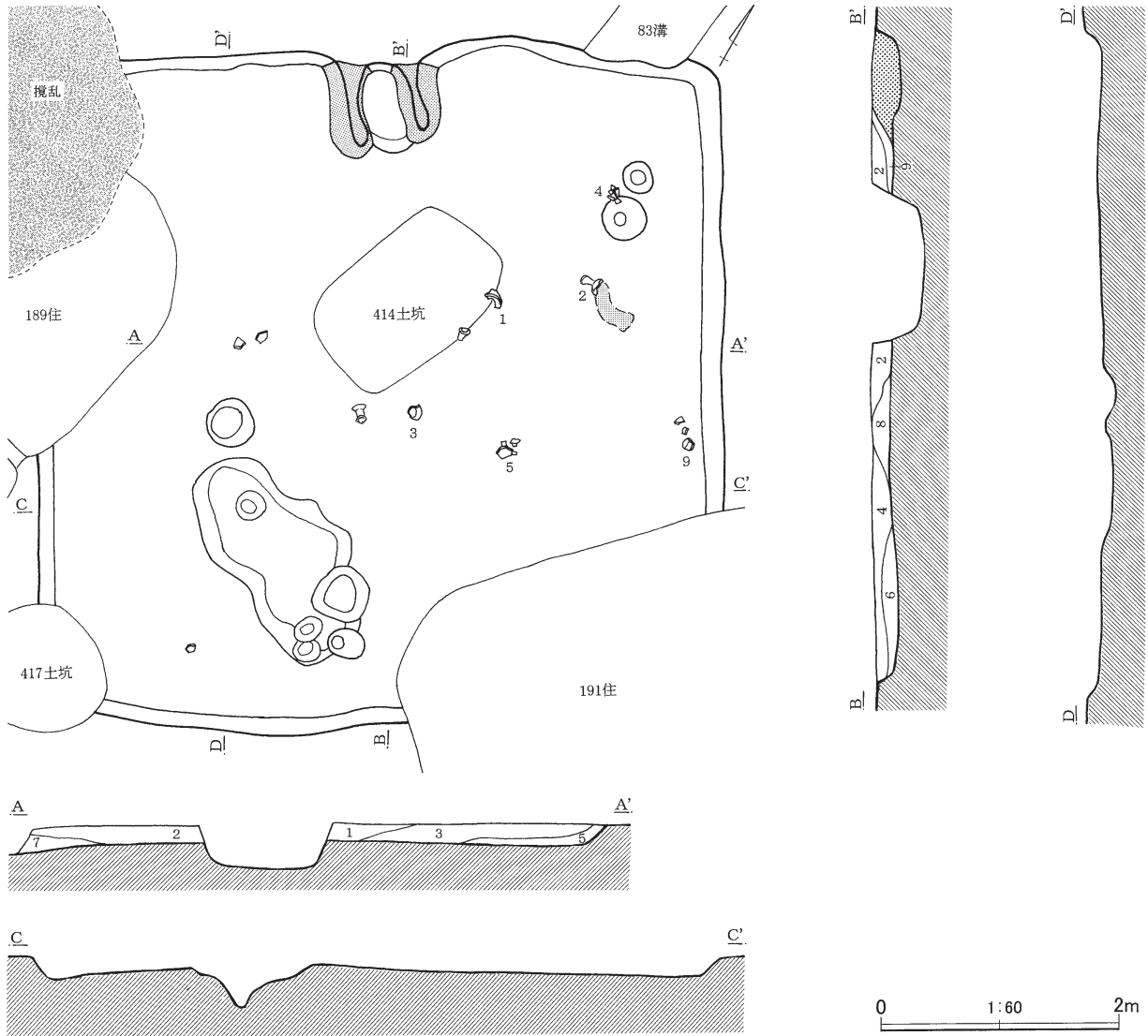
平面形は、残存する部分から推測すると、比較的整った方形を呈すると思われる。規模は、南北方向が5.78m、東西方向が5.70mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で20cmある。床面はロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式である。ピットは、住居跡内から小規模なものが8カ所検出されているが、その性格が分かるものはない。

カマドは、住居北側壁のほぼ中央に位置し、壁に対してやや斜めに付設されている。規模は、全長78cm、最大幅94cmある。燃焼部は住居内にあり、あまり焼けていない。燃焼面(火床)は、住居の床面よりも若干低い。袖は、灰白色粘土ブロックとロームブロックを均一に含む暗灰褐色土を、住居の壁に直接貼り付けて構築している。

出土遺物は、覆土中から土器の破片が少量と、石製紡錘車1点が出土している(第98図)。この他には、中世渡来銭の「熙寧元宝」が1点覆土中に混入して出土している。本住居跡の時期は、住居の形態や出土土器の様相から、5世紀後半の古墳時代後期と考えられる。

第194号住居跡出土遺物観察表

1	壺	A. 口縁部径(20.0)、残存高9.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部上位外面ケズリ、内面窺ナデ。D. 白色粒、角閃石、片岩粒。E. 内外-赤褐色。F. 口縁部~胴部上位1/2。H. 床面付近。
2	高 坏	A. 残存高13.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ナデ。脚柱部外面ナデ、内面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外-にぶい赤褐色。F. 坏部下半~脚端部上半1/2。H. 床面付近。
3	坏	A. 口縁部径(13.0)、器高5.0、底部径4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 片岩粒、白色粒、黒色粒。E. 内外-赤褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
4	坏	A. 口縁部径(12.5)、器高7.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内-にぶい赤褐色、外-暗赤褐色。F. 1/2。H. 覆土中。
5	高 坏	A. 口縁部径17.7、器高17.1、脚端部径(16.7)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ナデ。脚柱部外面ナデ、内面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 片岩粒、白色粒、角閃石。E. 内-にぶい褐色、外-にぶい赤褐色。F. 1/2。H. 床面付近。
6	高 坏	A. 残存高9.5、脚端部径(12.6)。B. 粘土紐積み上げ。C. 脚部外面ナデ、内面ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒、片岩粒。E. 内外-淡赤褐色。F. 脚部1/3。H. 覆土中。
7	古 銭	A. 直径2.4。D. 銅製。F. 完形。G. 「熙寧元宝」。熙寧元年(1068)年初鑄。北宋銭。裏は無文。H. 覆土中。
8	小 形 坏	A. 口縁部径9.6、残存高5.8、底部径(5.6)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面指ナデ、内面ヨコナデ。底部外面ケズリの後部分的に指押え。D. 片岩粒、角閃石、白色粒。E. 内-赤褐色、外-にぶい赤褐色。F. 1/3。H. 覆土中。
9	小 形 坏	A. 口縁部径8.1、器高5.4、底部径4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面指ナデ、内面指ナデと指押え。底部外面ナデ。D. 白色粒、片岩粒。E. 内-黒色、外-にぶい黄褐色。F. 2/3。G. 口縁部に穿孔1ヶ所。H. 覆土中。



第194号住居跡土層説明

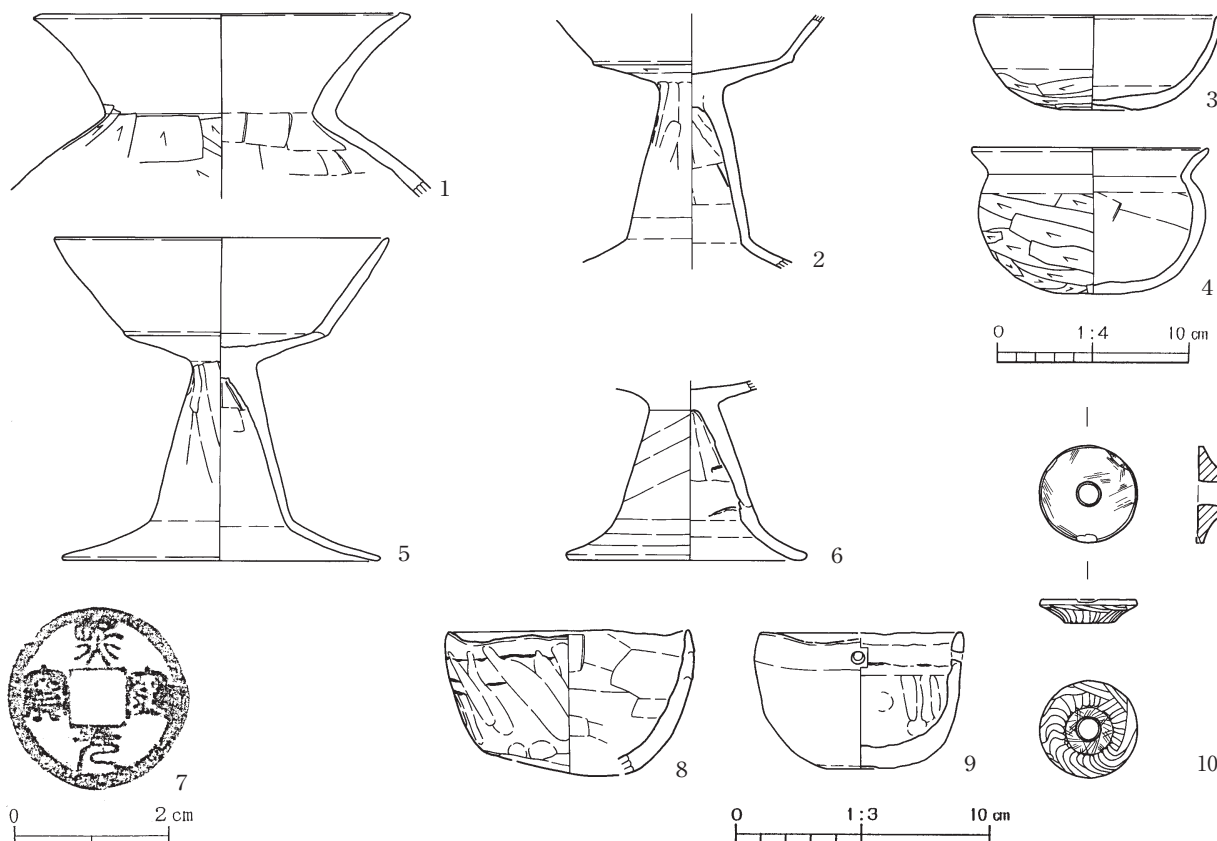
- 第1層：暗褐色土層（ローム粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒を含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第3層：暗褐色土層（ローム粒を多量に含み、ロームブロックを含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第4層：暗褐色土層（ローム粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第5層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第6層：暗褐色土層（ローム粒を多量に含み、ロームブロックを含む。粘性あり、しまりなし。）
- 第7層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロックを含む。粘性、しまり共になし。）
- 第8層：暗褐色土層（径2～4cmのロームブロックを含む。粘性、しまり共になし。）
- 第9層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロックを含み、焼土粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）

第97図 第194号住居跡

第194号住居跡カマド土層説明

- 第1層：赤褐色土層（赤化した粘土ブロック、ローム粒を含み、焼土粒を含む。粘性あり、しまりなし。）
- 第2層：暗褐色土層（焼土粒、ローム粒を均一に多量含む。粘性、しまり共になし。）
- 第3層：暗褐色土層（ローム粒を多量に含み、粘土ロームを全体に含む。粘性、しまり共になし。）
- 第4層：暗褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第5層：暗灰褐色土層（灰白色粘土ブロック、ロームブロックを均一に含む。粘性、しまり共にあり。）

10	石製品 (紡錘車)	A. 直径3.9。厚さ0.9。重さ19.14。C. 表面良く研磨される。裏面放射状のケズリ。D. 滑石。F. 完形。 H. 覆土中。
----	--------------	---

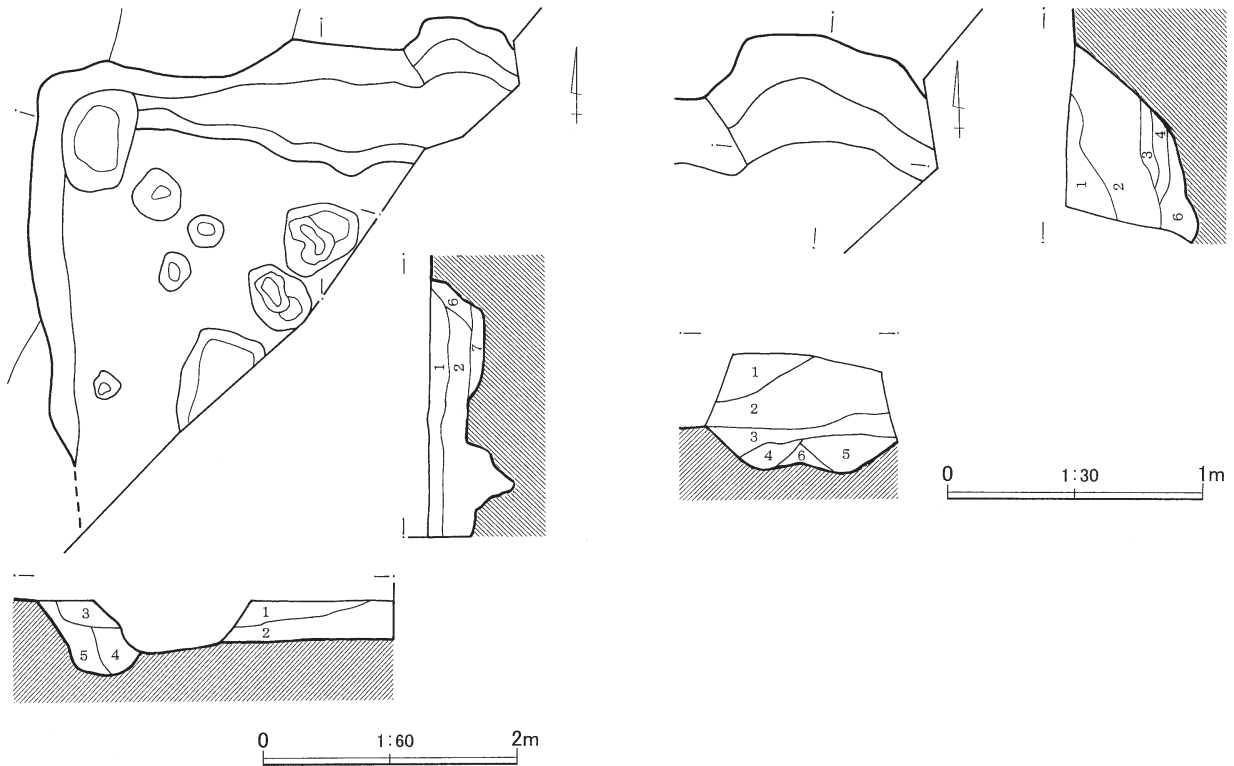


第98図 第194号住居跡出土遺物

第195号住居跡（第99図、図版16）

調査区中央部の東端に位置し、重複する第79号溝跡に切られている。調査区内で検出されたのは住居跡の北西側コーナー部付近だけであるため、本住居跡の全容は不明である。

平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、方形か長方形を基調にしているものと思われる。規模は、南北方向が1.68mまで、東西方向が1.92mまで測れる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で17cmある。壁溝は、北側壁下にその痕跡が見られる。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。ピットは、住居跡内から8カ所検出されているが、北西側コーナー部の楕円形を呈する土坑状の掘り込みは、あるいは支柱を据えた穴の可能性も考えられる。



第99図 第195号住居跡

第195号住居跡土層説明

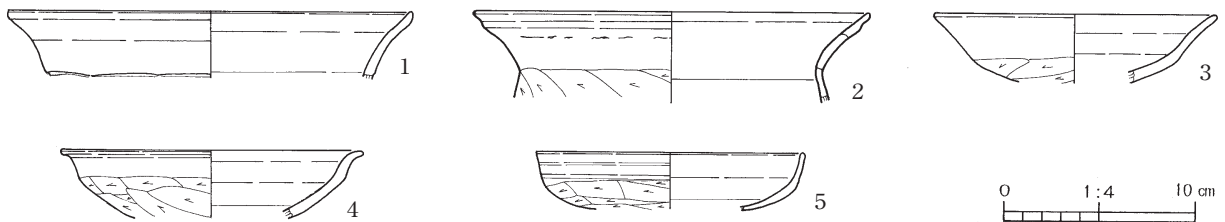
- 第1層：暗褐色土層（径0.3～0.5cmのローム粒、径0.3cmの焼土粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第2層：暗褐色土層（径0.1～1cmのローム粒を含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第3層：暗褐色土層（径0.3～0.8cmのローム粒を少量、径0.3cmの炭化物粒を微量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第4層：暗褐色土層（径0.1～1.3cmのローム粒を含み、径1cmの炭化物粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第5層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロックを多量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第6層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロックを多量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第7層：暗褐色土層（径0.3～1.5cmのロームブロックを多量含む。層状にローム粒子を凝集する。）

第195号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（攪乱。）
- 第2層：暗褐色土層（径0.5～1cmの焼土粒を多量に含み、径0.5cmのローム粒を含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第3層：暗褐色土層（径3cmのロームを多量に含み、暗褐色土を水平に部分的に含む。粘性、しまり共になし。）
- 第4層：暗褐色土層（径0.5cmのローム粒、径0.5cmの焼土粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第5層：暗褐色土層（径1～3cmの焼土ブロック、ローム粒子を含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第6層：暗褐色土層（径0.5cmの焼土粒を少量含み、径0.3cmのローム粒を均一に多量含む。粘性、しまり共にあり。）

カマドは、住居北側壁に加部を若干掘り込んで付設されているが、燃焼部の掘り込みしか残存していないため、詳細は不明である。

出土遺物は、覆土中から土師器や須恵器の破片が少量出土しただけである(第100図)。本住居跡の時期は、出土遺物の様相から、7世紀後半の白鳳時代と考えられる。



第100図 第195号住居跡出土遺物

第195号住居跡出土遺物観察表

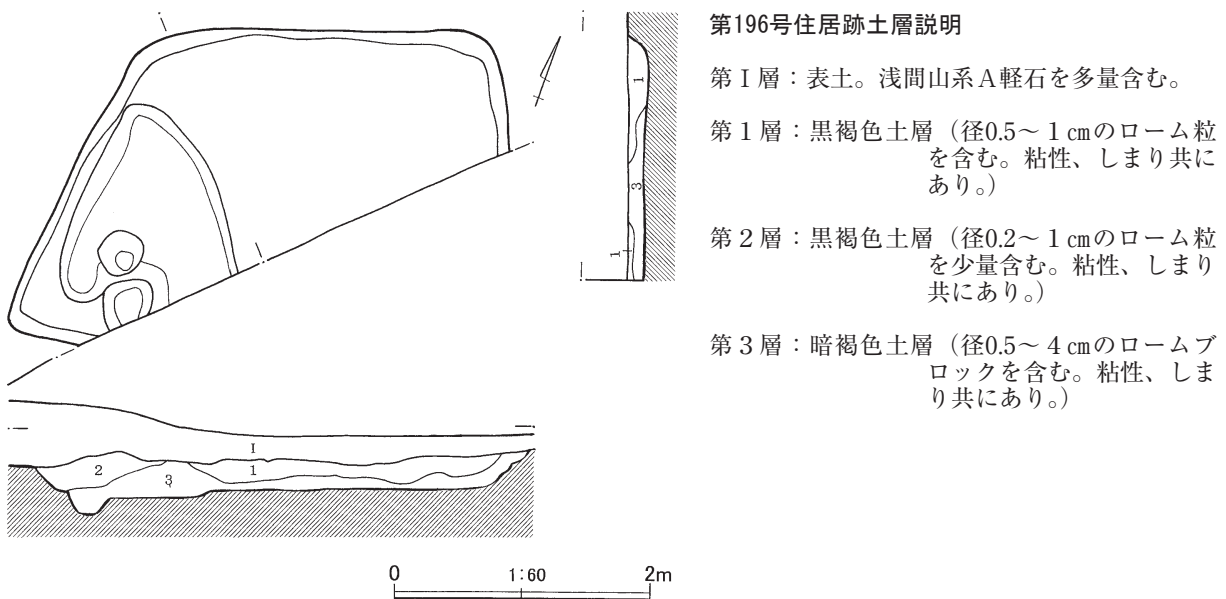
1	甕	A.口縁部径(21.4)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。D.白色粒。E.内外-茶褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
2	甕	A.口縁部径(21.0)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.片岩粒、白色粒。E.内外-茶褐色。F.口縁部1/3。H.覆土中。
3	皿	A.口縁部径(15.0)、残存高3.6。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-淡橙褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
4	皿	A.口縁部径(16.0)、残存高3.6。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外-暗茶褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
5	坏	A.口縁部径(14.2)、残存高3.0。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-淡茶褐色。F.1/4。H.覆土中。

第196号住居跡(第101図、図版16)

調査区中央部の東端に位置する。住居跡の南東側半分は調査区外のため、本住居跡の全容は不明である。

平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、コーナー部が丸みを持つ方形か長方形を基調にしていると思われる。規模は、東西方向が2.90m、南北方向は1.80mまで測れる。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは最高30cmある。床面は、ほぼ平坦である。調査区内で検出された部分には、住居内の施設は見られない。

出土遺物は、覆土中や遺構の周辺から、古墳時代前期～後期の土師器や須恵器の破片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、不明である。

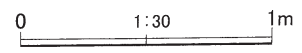
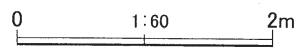
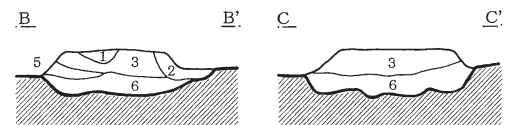
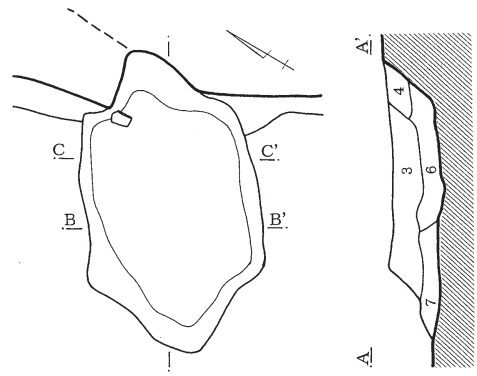
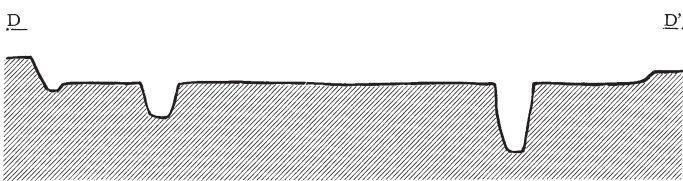
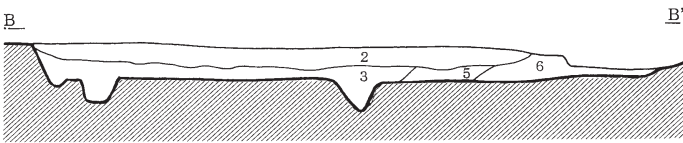
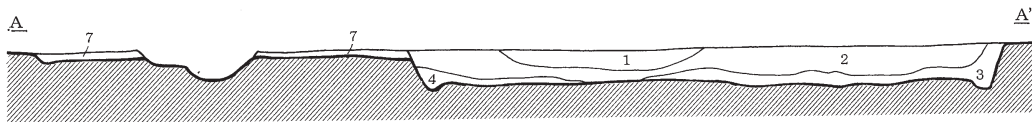
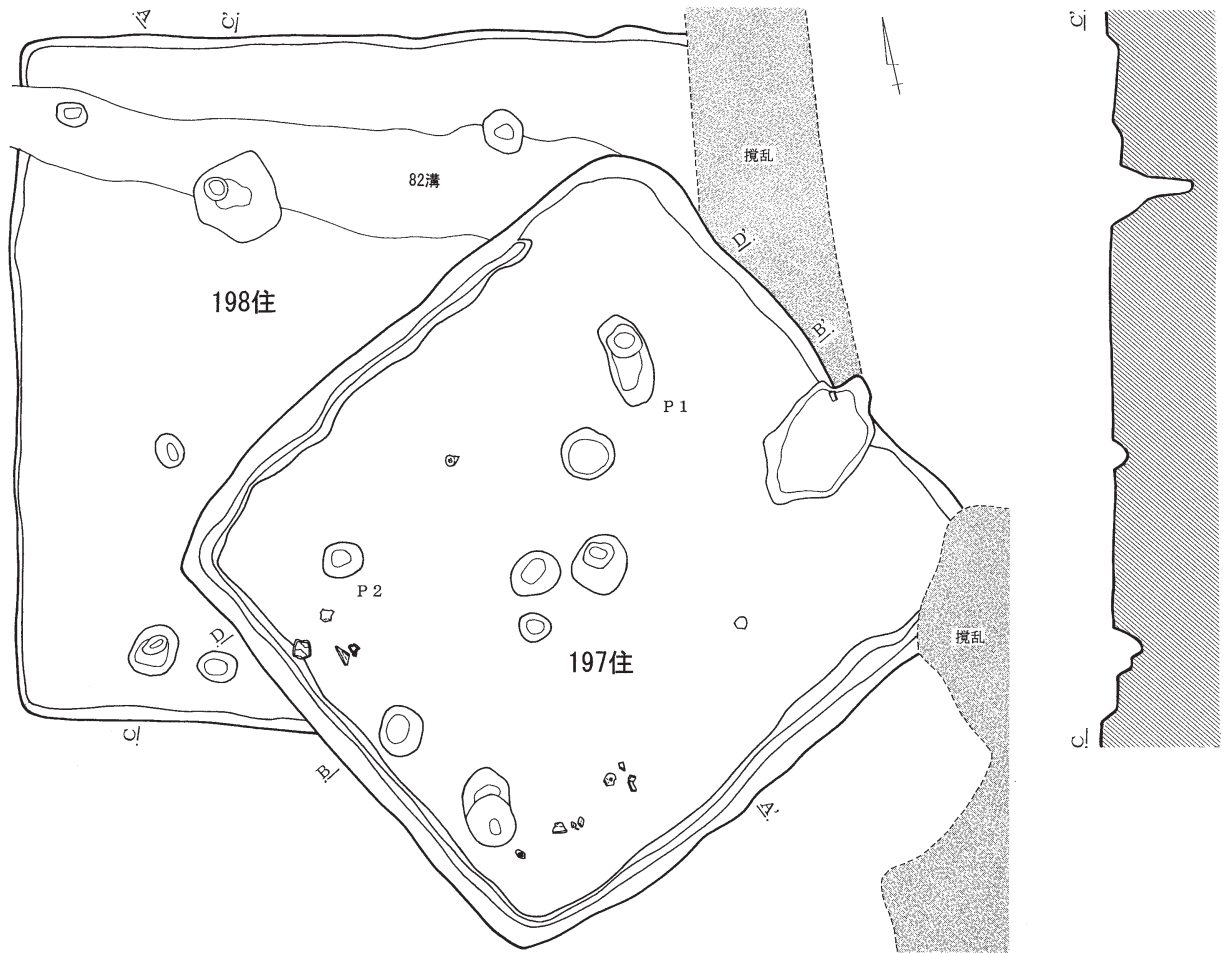


第101図 第196号住居跡

第197号住居跡(第102図、図版17)

調査区中央部の西側寄りに位置し、重複する第198号住居跡を切り、第82号溝跡に切られている。

平面形は、コーナー部がやや丸みを持つ方形を呈している。規模は、北東～南西方向が



第102図 第197・198号住居跡

第197・198号住居跡土層説明

- 第1層：黒褐色土層（ローム粒、焼土粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第2層：暗褐色土層（ロームブロックを少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第3層：暗褐色土層（ロームブロックを含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第4層：暗褐色土層（焼土粒、炭化物粒を少量含む、ロームブロックを含む。）
- 第5層：暗褐色土層（焼土粒、ローム粒、炭化物粒を少量含む。粘性あり、しまりなし。）
- 第6層：暗褐色土層（ローム粒を多量に、炭化物粒を少量含む、焼土粒を含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第7層：暗褐色土層（粘性、しまり共にあり。）

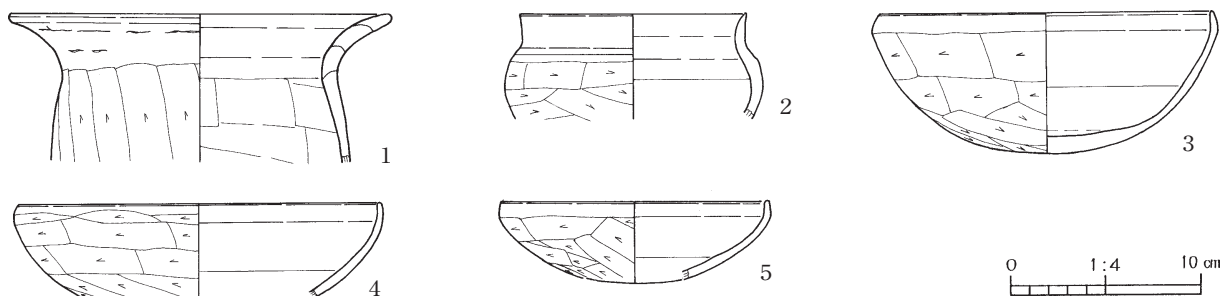
第197号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒を多量に、焼土粒を含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第2層：暗褐色土層（焼土粒、ローム粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第3層：暗褐色土層（焼土粒を多量に、ローム粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第4層：暗褐色土層（焼土粒、ローム粒少量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第5層：暗褐色土層（ローム粒、焼土粒を含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第6層：暗褐色土層（焼土粒、ロームブロックを少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第7層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性、しまり共にあり。）

5.05m、北西～南東方向が4.80mある。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高28mある。壁溝は、幅15cm程度、床面からの深さ5cmの均一な形態で、住居北東側壁以外の各壁下に巡っている。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。ピットは、住居跡の中央部や壁際から、小規模なものが8カ所検出されている。この中でP1とP2は、住居の対角線上に位置しており、4本主柱の柱穴の一部である可能性が考えられる。いずれも直径30cm前後の円形か楕円形を呈し、床面からの深さはP1が55cm、P2が25cmある。

カマドは、住居北東側壁の中央やや南東側寄りの位置に、壁に対してほぼ直角に付設されていたようである。燃焼部の掘り込み部分しか残存していないが、掘り込み部分の規模は、全長121cm、最大幅71cmである。

出土遺物は、覆土中から土器の破片が少量出土しただけである(第103図)。本住居跡の時期は、出土土器の様相から、7世紀後半の白鳳時代と考えられる。



第103図 第197号住居跡出土遺物

第197号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径(20.0)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-淡茶褐色。F.口縁部1/3。H.覆土中。
2	広口短頸壺	A.口縁部径(12.0)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-暗茶褐色。F.口縁部1/3。H.覆土中。
3	坏	A.口縁部径(17.8)、器高7.5。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-明橙褐色。F.1/4。H.覆土中。

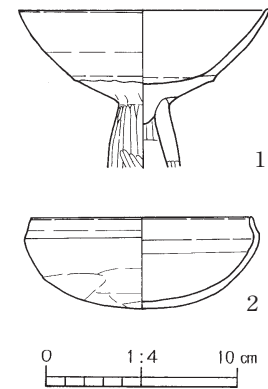
4	坏	A.口縁部径(19.2)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-淡橙褐色。F.口縁部1/3。H.覆土中。
5	坏	A.口縁部径(14.2)、残存高4.1。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.片岩粒、白色粒。E.内外-明橙褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。

第198号住居跡（第102図、図版17）

調査区中央部の西側寄りに位置し、重複する第197号住居跡と第82号溝跡に切られている。

平面形は、コーナー部がやや丸みを持つ比較的整った方形か長方形を呈するものと思われる。規模は、南北方向が5.57m、東西方向は5.45mまで測れる。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高15cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。ピットは、住居跡内から小規模なものが6カ所検出されている。残存する壁にはカマドの痕跡が見られないことから、おそらくカマドは住居の東側壁に付設されていたものと思われる。

出土遺物は、覆土中から土器の破片が少量出土しただけである（第104図）。本住居跡の時期は、出土土器の様相から、5世紀末の古墳時代後期と考えられる。



第104図 第198号住居跡
出土遺物

第198号住居跡出土遺物観察表

1	高 坏	A.口縁部径(13.2)、残存高8.4。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ナデ。脚部外面ミガキ、内面窠ナデ。D.白色粒。E.内外-暗茶褐色。F.1/4。H.覆土中。
2	坏	A.口縁部径(11.8)、器高4.9。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリの後ミガキ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外-茶褐色。F.2/3。H.覆土中。

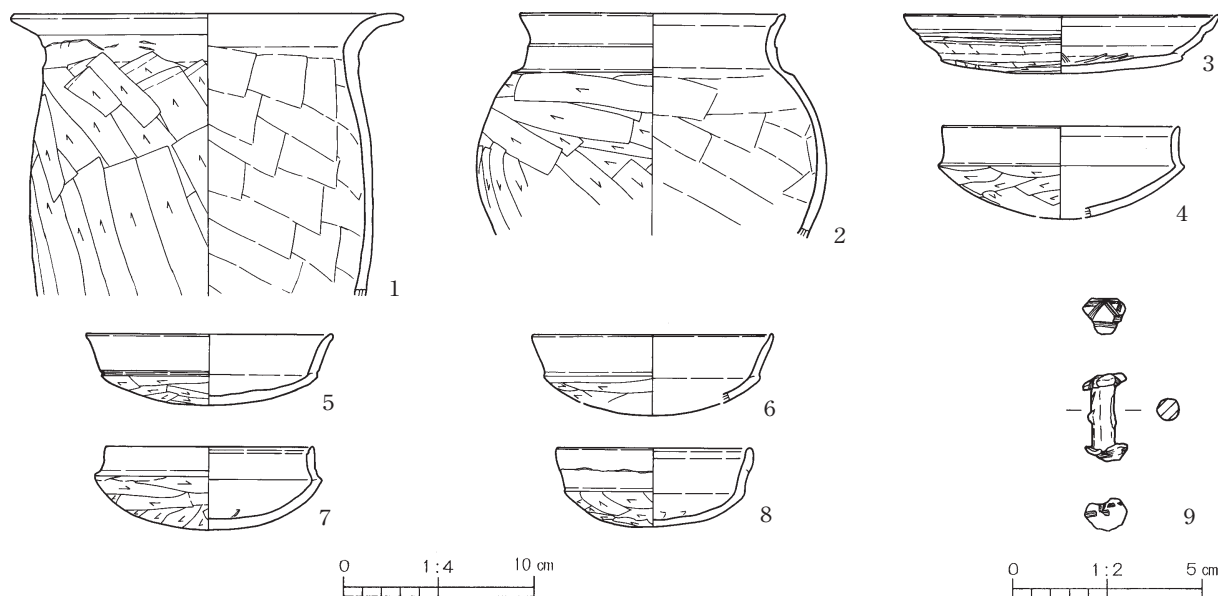
第199号住居跡（第75図、図版17）

調査区中央部の西端に位置し、住居跡の西側半分を第45号住居跡に、東側上面を第427号土坑・第431号土坑・第432号土坑に切られている。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部が丸みをもつ方形を呈すると思われる。規模は、南北方向が4.75m、東西方向は4.30mまで測れる。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高30cmある。壁溝は、残存する各壁下には見られない。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。住居北東コーナー部付近のP1南側には、長さ110cm・幅25cm前後、床面からの高さが5cm程度の帯状の土堤が見られる。ピットは、住居跡内から9カ所検出されているが、その性格がわかるのはP1だけである。P1は住居北東側コーナー部付近に位置し、その位置や形態から貯蔵穴と考えられる。直径50cmの円形を呈し、床面からの深さは60cmある。

カマドは、残存していないが、住居北側壁の中央からやや東側寄りの床面上に、焼土が濃密に分布している場所があり、おそらくそこに付設されていたものと思われる。

出土遺物は、床面付近から土器の破片が比較的多く出土している(第105図)。土器以外では、鉄製品の両頭金具(弓金具)が1点出土している(第105図No9)。本住居跡の時期は、出土土器や住居の形態から、6世紀後半の古墳時代後期と考えられる。



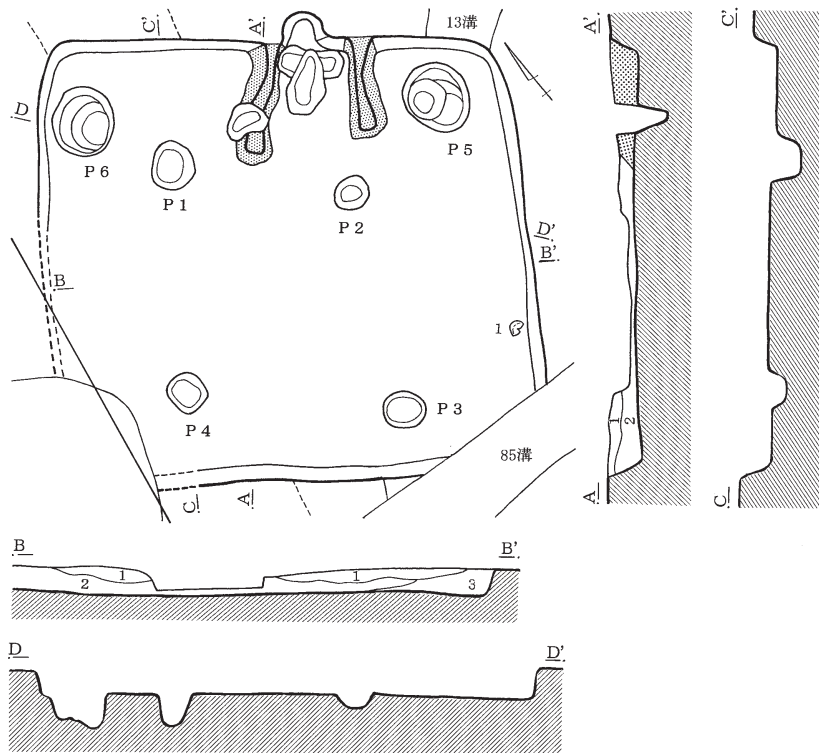
第105図 第199号住居跡出土遺物

第199号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径 20.8、残存高 15.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 黒色粒、角閃石。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 口縁部~胴部上半 2/3。H. 覆土中。
2	甕	A. 口縁部径 (14.0)、残存高 11.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 白色粒、片岩粒。E. 内-黒褐色、外-灰黄褐色。F. 口縁部~胴部上半 1/2。G. 胴部外面器面剥落。H. 貯蔵穴(P1)上面。
3	坏	A. 口縁部径 (16.5)、器高 3.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデの後放射状のミガキ。D. 白色粒、片岩粒、角閃石。E. 内-にぶい黄褐色、外-黒褐色。F. 2/3。H. 覆土中。
4	坏	A. 口縁部径 (12.6)、器高 (4.9)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 角閃石、白色粒。E. 内外-淡橙色。F. 1/3。H. 覆土中。
5	坏	A. 口縁部径 (13.0)、器高 3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ヨコナデ。D. 角閃石、片岩粒、褐色粒。E. 内外-淡橙色。F. 1/2。H. 覆土中。
6	坏	A. 口縁部径 (12.8)、残存高 3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ヨコナデ。D. 角閃石、片岩粒、褐色粒。E. 内外-橙色。F. 1/4。H. 覆土中。
7	坏	A. 口縁部径 11.0、器高 4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ヨコナデ。D. 片岩粒、角閃石、白色粒。E. 内-にぶい黄褐色、外-黒褐色。F. 完形。H. 床面付近。
8	坏	A. 口縁部径 10.4、器高 4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ヨコナデ。D. 片岩粒、褐色粒。E. 内-にぶい黄褐色、外-黒褐色。F. 完形。H. 床面付近。
9	鉄製品 (両頭金具)	A. 長 2.35、幅 0.55、重さ 1.95。F. ほぼ完形。G. 弓金具。一部に木質残存。H. 覆土中。

第200号住居跡(第106図、図版17)

調査区南側の西端に位置し、重複する第13号溝跡を切り、第85号溝跡とB1地点の第2号地下式坑(松本・大熊他2009)に切られている。

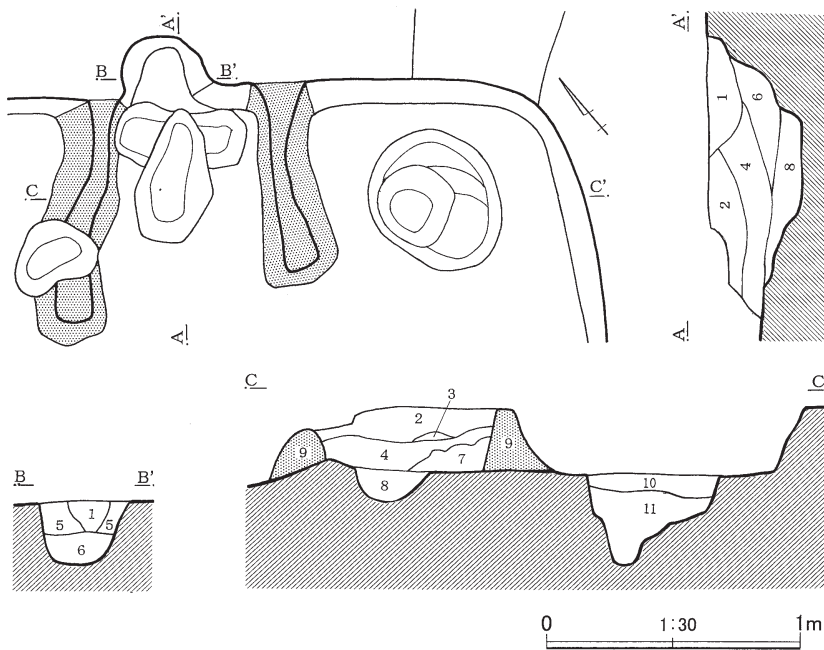


第200号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒を少量含む。粘性あり、しまりなし。）
- 第2層：暗褐色土層（ロームブロックを含む。粘性あり、しまりなし。）
- 第3層：暗褐色土層（ローム粒を少量含む。粘性あり、しまりなし。）

第200号住居跡カマド・貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒を少量、焼土粒を均一に含む。粘性、しまり共になし。）
- 第2層：暗褐色土層（焼土粒を少量、ローム粒を含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第3層：暗褐色土層（焼土粒を多量含む。粘性、しまり共になし。）
- 第4層：暗褐色土層（焼土粒を少量、ローム粒を均一に多量含む。粘性あり、しまりなし。）
- 第5層：暗褐色土層（ローム粒、焼土粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第6層：暗褐色土層（ローム粒を含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第7層：暗褐色土層（ローム粒を含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第8層：暗褐色土層（ロームブロック含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第9層：灰褐色土層（灰褐色粘土ブロックを多量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第10層：暗褐色土層（ロームブロックを含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第11層：暗褐色土層（ローム粒を含む。粘性なし、しまりあり。）



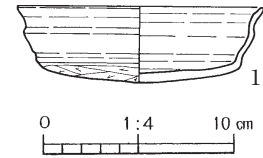
第106図 第200号住居跡

平面形は、コーナー部が丸みを持つ方形を呈している。規模は、北東～南西方向が3.53m、北西～南東方向が3.86mある。壁は、直線的にやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で25cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、住居中央部は比較的堅く締まっているが、壁際の周辺部はやや軟弱である。ピットは、

住居跡内から6ヵ所検出されているが、この中でその性格が分かるものはP5だけである。P5は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれているもので、カマド右側の住居東側コーナー部に位置している。平面形は、60cm×50cmの楕円形を呈している。底面は二段に深くなっており、床面からの深さは36cmある。

カマドは、住居北東側壁の中央やや東側寄りの位置にあり、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は、全長122cm、最大幅120cmある。燃烧部は、住居の壁を若干掘り込んでおり、燃烧面(火床)は住居の床面とほぼ同じである。袖は、灰褐色粘土を住居の壁に直接貼り付けている。

出土遺物は、覆土中から土器の破片が少量出土しただけである。本住居跡の時期は、住居の形態や出土土器の様相から、6世紀後半以降の古墳時代後期と考えられる。



第107図 第200号住居跡出土遺物

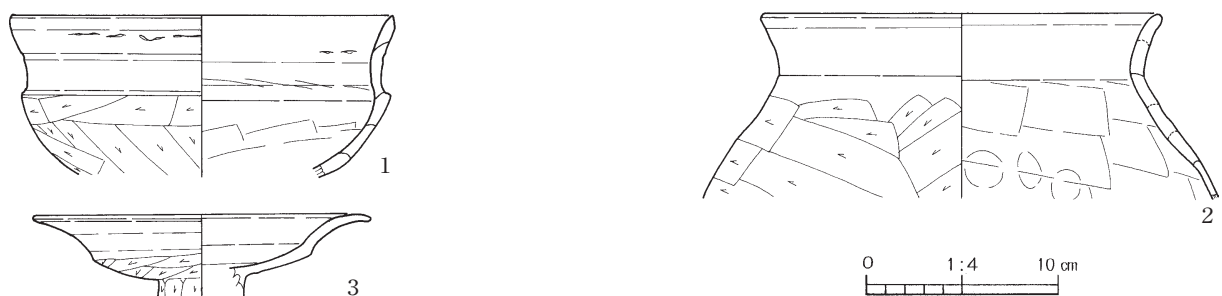
第200号住居跡出土遺物観察表

1	坏	A.口縁部径(13.0)、器高4.0。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外-淡褐色、内-淡茶褐色。F.1/2弱。H.覆土中。
---	---	---

第201号住居跡(第109図、図版17)

調査区の南側に位置し、重複する第85号溝跡に切られている。

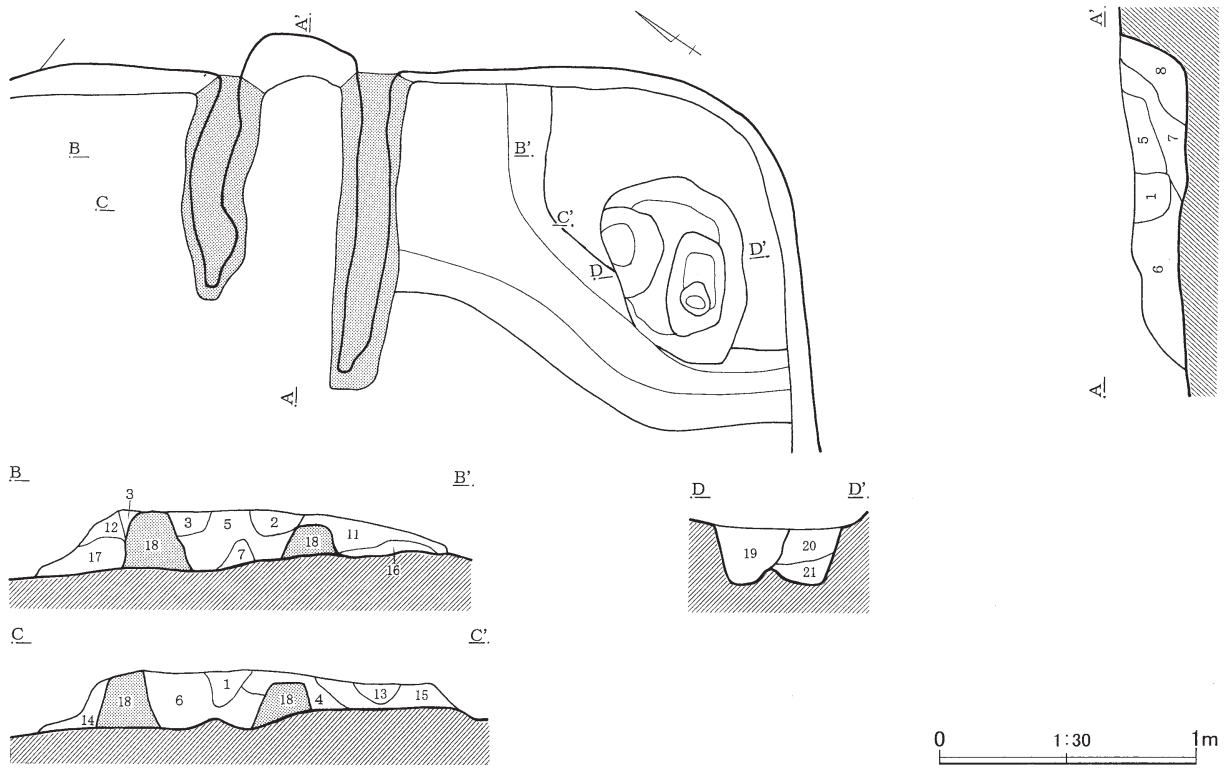
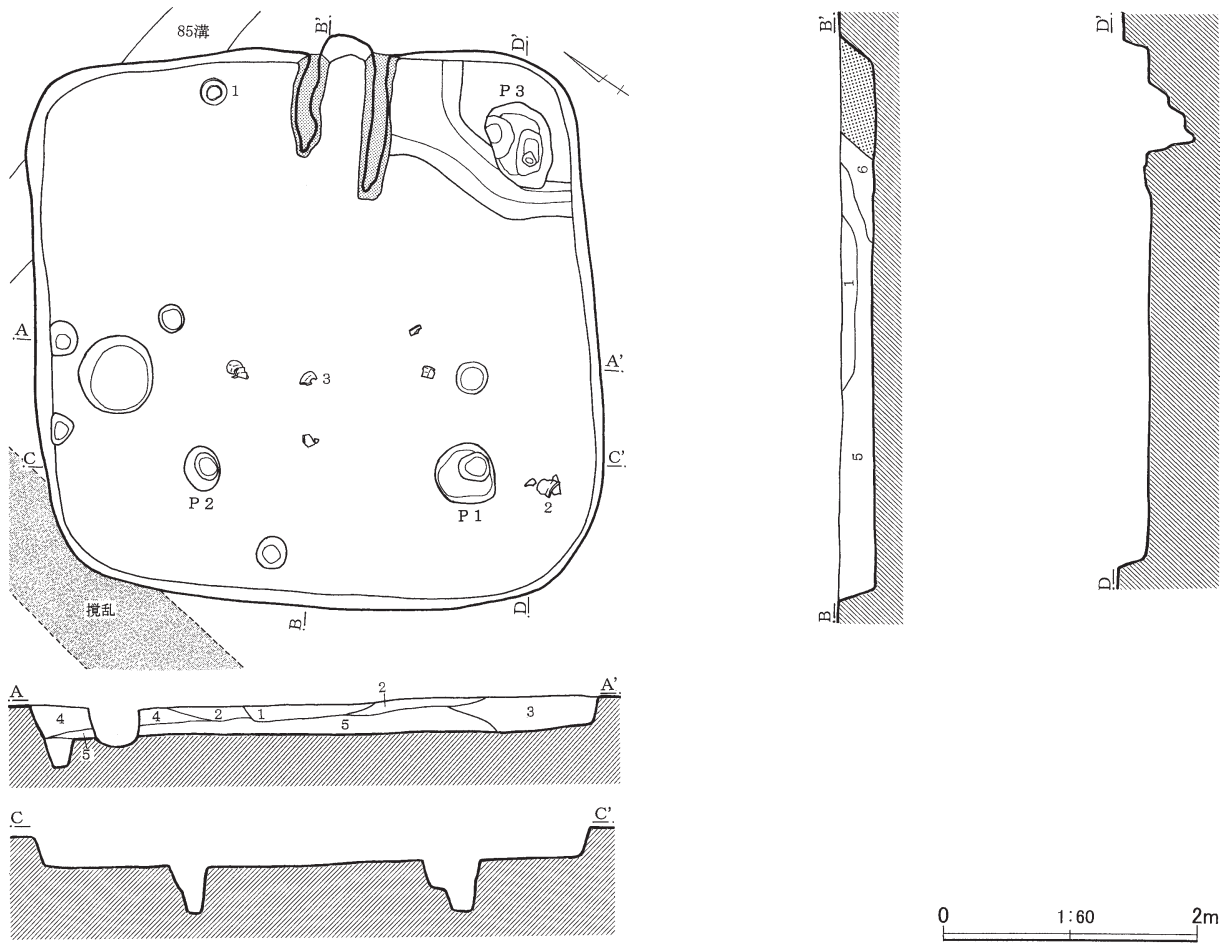
平面形は、コーナー部の丸みが強い方形を呈している。規模は、北東～南西方向4.42m、北西～南東方向4.40mある。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で28mある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式である。ピットは、住居跡内から9ヵ所検出されている。この中でP1とP2は、その配置から4本主柱穴の一部を構成するピットの可能性がある。長さ35cmから45cmの楕円形や円形ぎみの形



第108図 第201号住居跡出土遺物

第201号住居跡出土遺物観察表

1	大形鉢	A.口縁部径20.2。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面寛ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外-暗茶褐色、内-明茶褐色。F.体部下半欠損。H.床面付近。
2	甕	A.口縁部径21.2。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面寛ナデ。D.白色粒。E.外-淡茶褐色、内-明茶褐色。F.口縁部1/2。H.床面付近。
3	高坏	A.口縁部径17.8。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-明橙褐色。F.坏部1/2。H.覆土中。



第109図 第201号住居跡

第201号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（第2～5層より暗い。径0.5～1cmのローム粒を含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第2層：暗褐色土層（径0.3cmのローム粒を含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第3層：暗褐色土層（径0.1cmのローム粒を多量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第4層：暗褐色土層（径0.1cm以下のローム粒を多量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第5層：暗褐色土層（径1～2cmのロームブロック、径0.3cm以下のローム粒を多量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第6層：暗褐色土層（径0.5cmのローム粒を含み、径0.5cmの焼土粒を少量、径1～3cmの粘土ブロックを下方に多量含む。粘性、しまり共にあり。）

第201号住居跡カマド土層説明

- 第1層：明黄褐色土層（粘土を主体とし、暗褐色土を少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第2層：暗褐色土層（径1cmの粘土を少量含み、径1.5cmの焼土ブロックを含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第3層：暗褐色土層（径0.3～0.7cmの焼土粒を含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第4層：暗褐色土層（径0.5～1.5cmの焼土ブロックを含む。粘性、しまり共になし。）
- 第5層：暗褐色土層（黄色味が強い。径0.5cmの焼土粒を少量含み、径1～2cmの粘土ブロックを含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第6層：暗褐色土層（径0.2cmの焼土粒、径0.1cmのローム粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第7層：暗褐色土層（黒味が強い。径0.5～1cmの焼土粒を多量含み、径1cmの粘土粒、径0.5cmの黒褐色土を少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第8層：暗褐色土層（やや黄色味が強い。径0.5cmのローム粒を少量含み、焼土粒を多量含む。粘性あり、しまりなし。）
- 第11層：暗褐色土層（径0.3cmの粘土粒を多量に含み、径0.5cmの焼土粒を含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第12層：暗褐色土層（径0.5cmの焼土粒、径0.3cmの粘土粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第13層：暗褐色土層（径0.5cmの焼土粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第14層：暗褐色土層（径0.5cmの焼土粒を多量含む。粘性あり、しまりなし。）
- 第15層：暗褐色土層（径0.5～1cmの焼土粒、径0.3cmの粘土粒を含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第16層：灰白色土層（径1～3cmの灰白色粘土ブロック主体。）
- 第17層：暗褐色土層（径1～2cmの灰白色粘土ブロックを多量に含み、径0.5～1cmの焼土粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第18層：灰白色土層（灰白色粘土ブロックを均一に含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第19層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロックを均一に多量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第20層：暗褐色土層（径0.1cmのローム粒を含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第21層：暗褐色土層（径1～2cmのロームブロック、灰白色粘土ブロックを含む。粘性、しまり共にあり。）

態で、床面からの深さはいずれも40cm程度ある。P3は、いわゆる貯蔵穴と呼ばれているもので、カマド右側の住居東側コーナー部に位置している。72cm×48cmの楕円形ぎみの形態で、床面からの深さは38cmある。このP3の周りには、幅が25cm～40cmで、高さが4cm程度の土堤が巡っている。

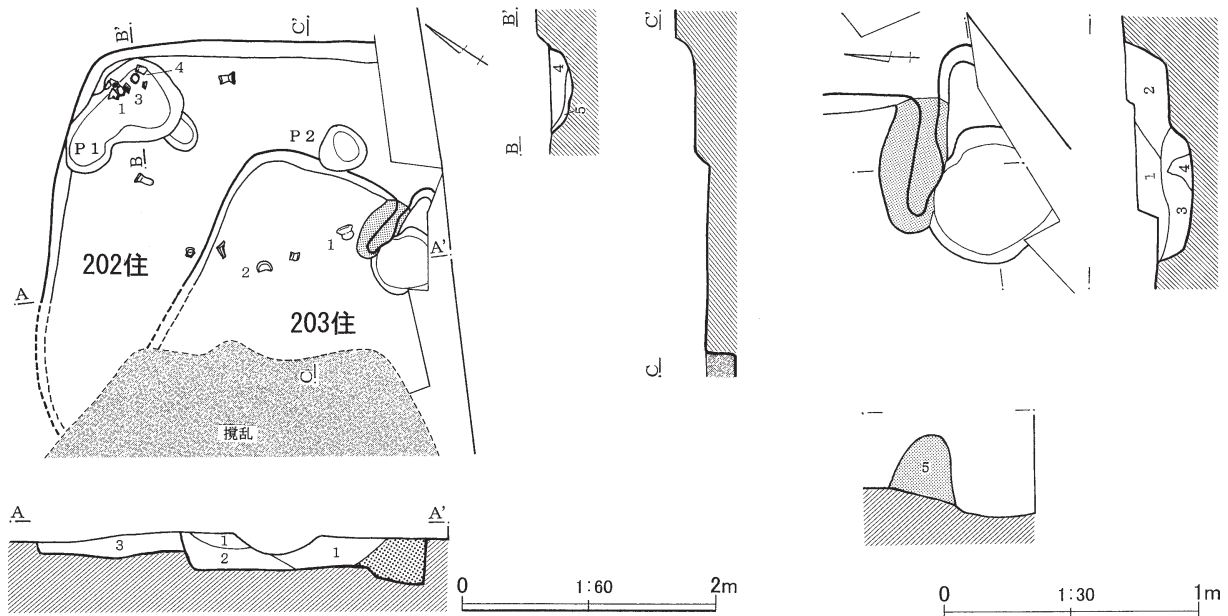
カマドは、住居北東側壁の中央やや東側寄りの位置に、壁に対してほぼ直角に付設されている。規模は全長128cm、最大幅80cmある。燃烧部は住居内にあり、あまり焼けていない。燃烧面(火床)は、住居の床面とほぼ同じ高さである。袖は、灰白色粘土ブロックを住居の壁に直接貼り付けて構築している。

出土遺物は、住居の床面付近や覆土中から、土器の破片が比較的多く出土している(第108図)。本住居跡の時期は、住居の形態や出土土器の様相から、6世紀後半の古墳時代後期と考えられる。

第202号住居跡(第110図、図版18)

調査区の南側に位置し、重複する第203号住居跡に切られている。住居跡の南側半分は調査区外に位置し、西側は攪乱によって切られているため、本住居跡の全容は不明である。

平面形は、残存する部分から推測すると、コーナー部の丸みが強い方形か長方形を呈するものと思われる。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で15cmある。



第110図 第202・203号住居跡

第202・203号住居跡土層説明

<第203号住居跡>

第1層：暗褐色土層（径0.1cmのローム粒子を多量に含み、径0.3cmの焼土粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）

第2層：暗褐色土層（径0.3～1.5cmのロームブロックを含む。粘性、しまり共にあり。）

<第202号住居跡>

第3層：暗黄褐色土層（径2～4cmのロームブロックを多量含む。粘性、しまり共にあり。（貼床））

第4層：暗褐色土層（径0.5cmのローム粒を含む。粘性なし、しまりあり。）

第5層：暗褐色土層（径1～3cmのロームブロックを多量含む。粘性、しまり共にあり。）

第203号住居跡カマド土層説明

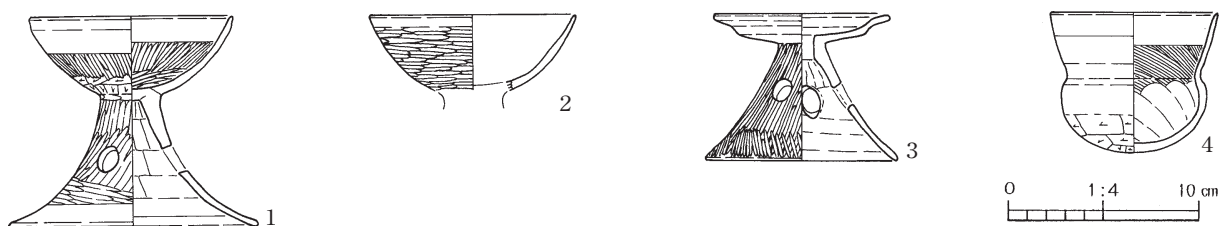
第1層：暗褐色土層（径0.2cmの焼土粒を少量含み、径0.5cmのローム粒、礫を含む。粘性、しまり共にあり。）

第2層：暗褐色土層（径0.5～1.5cmのロームブロック、径1cmの焼土粒を含む。粘性、しまり共にあり。）

第3層：暗褐色土層（径1cmのローム粒を多量含み、径0.5cmのローム粒を含む。粘性、しまり共にあり。）

第4層：灰白色土層（灰白色粘土ブロック。）

第5層：灰白色土層（灰白色粘土ブロックを均一に含む。粘性、しまり共にあり。）



第111図 第202号住居跡出土遺物

第202号住居跡出土遺物観察表

1	高 坏	A. 口縁部径 10.8、器高 11.1、脚端部径 (13.2)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面ケズリの後ミガキ、内面ミガキ。脚部外面ミガキ、内面篋ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 1/2。G. 脚部穿孔は3カ所。H. P 1内。
2	高 坏	A. 口縁部径 (11.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 坏部外面ミガキ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 坏部 1/3。H. 覆土中。
3	器 台	A. 口縁部径 (9.4)、器高 7.7、脚端部径 10.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 器受部内外面ミガキ。脚部外面ミガキ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明橙褐色。F. 3/4。G. 脚部穿孔は3カ所。H. P 1内。
4	小形直口壺	A. 口縁部径 (8.8)、器高 7.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面丁寧なナデの後上半ヨコナデ、内面ハケの後上半ヨコナデ。胴部外面ケズリの後上半丁寧なナデ、内面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 2/3。H. P 1上面。

床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式で、全体的にやや軟弱である。ピットは、2カ所検出されている。P1は、住居北側コーナー部に位置する。105cm×65cmの不整形を呈し、床面からの深さは15cmある。中からは、土器の破片がかたまって出土している。P2は、長さ35cmの不整形円形を呈し、床面からの深さは35cmある。

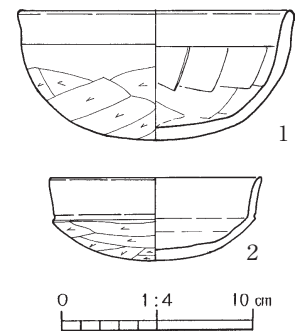
出土遺物は、覆土中には古墳時代中期の土器片が多く見られるが、P1内から古墳時代前期の土器片がまとまって出土している(第111図)。本住居跡の時期は、P1内出土土器の様相から、古墳時代前期と考えられる。

第203号住居跡(第110図、図版18)

調査区の南側に位置し、重複する第202号住居跡を切っている。住居跡の南側半分は調査区外に位置し、西側は攪乱によって切られているため、本住居跡の全容は不明である。

平面形は、コーナー部の丸みが強い方形か長方形を呈するものと思われる。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは28cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。

カマドは、住居東側壁に位置し、壁に対してほぼ直角に付設されている。カマドの南側半分は調査区外のため、全容は不明であるが、規模は全長87cm、幅は72cmまで測れる。燃烧部は、若干住居の壁を掘り込んでおり、焚口部は一段深くなっている。袖は、灰白色粘土ブロックを住居の壁に直接貼り付けて構築している。出土遺物は、覆土中から土器の破片が少量出土しただけである(第112図)。本住居跡の時期は、出土土器の様相から、6世紀中頃の古墳時代後期と考えられる。



第112図 第203号住居跡出土遺物

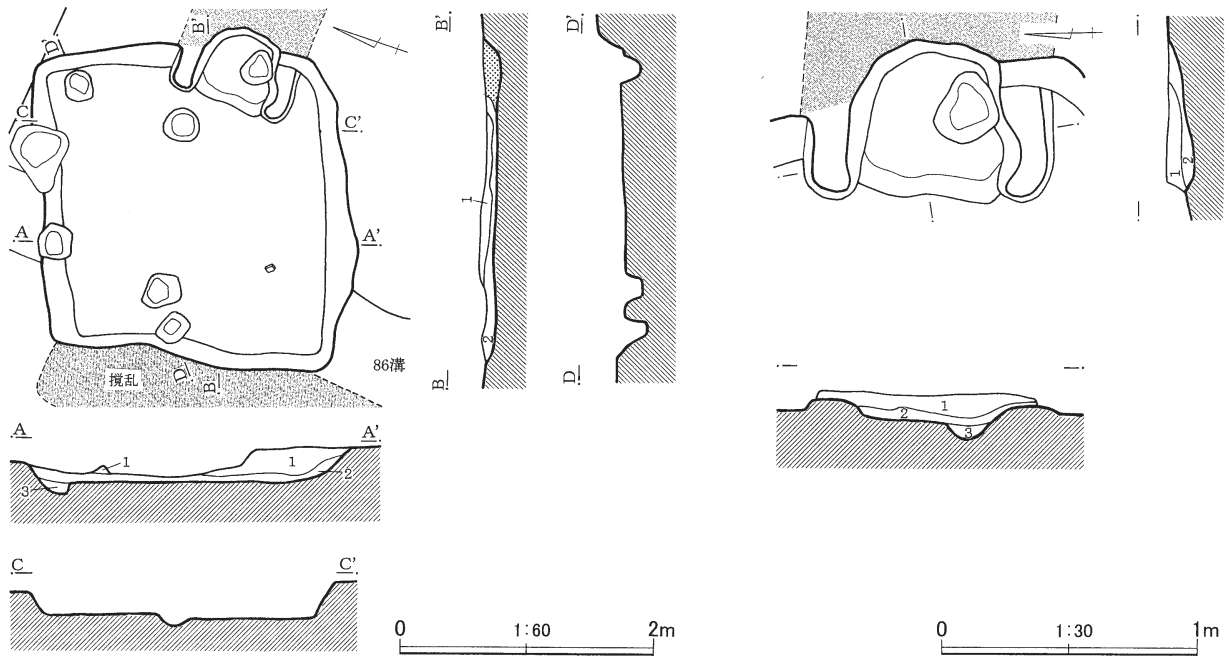
第203号住居跡出土遺物観察表

1	鉢	A.口縁部径(14.6)、器高6.9。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面匏ナデ。D.片岩粒、赤色粒、白色粒。E.外-明茶褐色、内-茶褐色。F.1/3。H.覆土中。
2	坏	A.口縁部径11.2、器高4.4。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外-明橙褐色。F.1/2強。H.床面付近。

第204号住居跡(第113図、図版18)

調査区中央部の西端に位置し、住居跡の上面を建物の基礎による攪乱と後世の溝跡によって削平されている。

平面形は、若干西側壁が歪んだ方形を基調にしている。規模は、東西方向が2.47m、南北方向が2.45mある。壁は、緩やかに傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で28cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した貼床式である。ピットは、住居跡内から5カ所検出されている。これらは、いずれも長さ25cm～30cmの不整形円形を呈し、床面からの深さは15cm前後で、その配置に規則性や特徴は見られない。



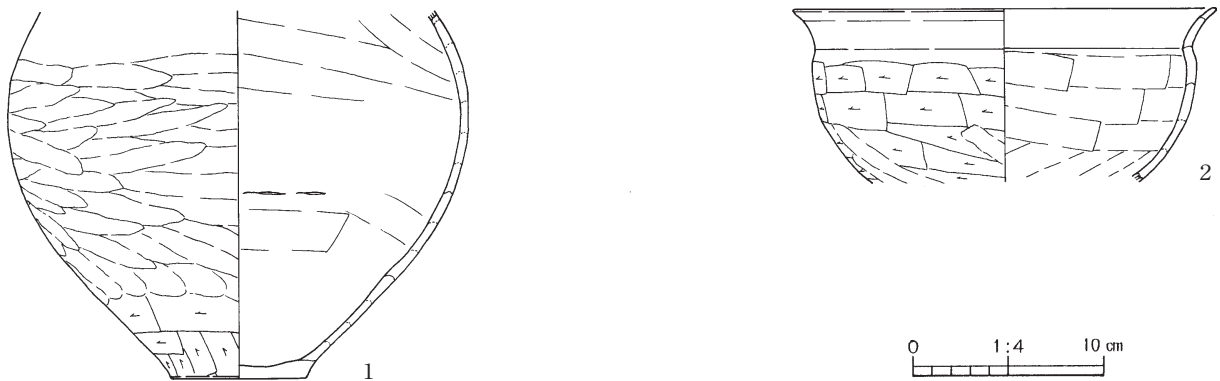
第113図 第204号住居跡

第204号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5cmのローム粒を少量含む。粘性あり、しまりなし。）
- 第2層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロックを多量含む。粘性あり、しまりなし。）
- 第3層：暗褐色土層（径0.3cmのローム粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。）

第204号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～1cmの焼土粒、径0.3cmのローム粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第2層：暗褐色土層（径0.5cmの焼土粒を少量含み、径1～2cmのロームブロックを含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第3層：暗褐色土層（径0.5～1.5cmの焼土ブロックを多量含む。粘性あり、しまりなし。）



第114図 第204号住居跡出土遺物

第204号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 残存高(19.2)、底部径7.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ケズリの後ナデ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-暗褐色、内-茶褐色。F. 胴下半1/4。H. 覆土中。
2	大形鉢	A. 口縁部径(22.2)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗褐色。F. 1/2。H. 覆土中。

カマドは、住居東側壁の南東側コーナー部寄りの位置に、壁に対してやや斜めに付設されている。規模は、全長62cm、最大幅98cmある。燃烧部は、住居壁面を若干掘り込んでいる。

燃焼面(火床)は、住居床面より5cm程度深く、若干奥壁に向かって傾斜している。支脚の痕跡は見られなかった。袖は、地山ロームを床面より5cm程度掘り残して基部としており、おそらくその上に粘土を盛り上げて構築していたものと思われる。

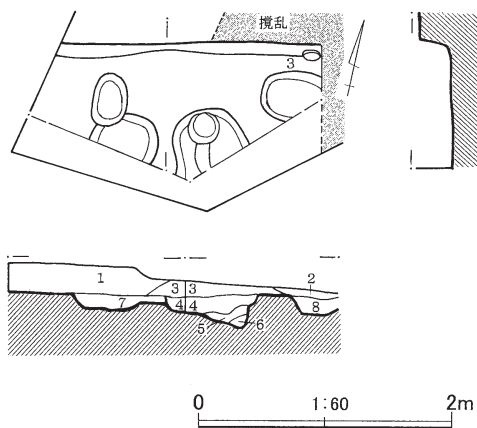
出土遺物は、古墳時代前期から中世の土器が見られるが、主体は5世紀中頃の古墳時代中期の土器である(第114図)。本住居跡の時期は、出土土器の様相からすると、5世紀中頃の古墳時代中期と考えられる。この時期は、当地域のカマド出現期にあたるが、本住居跡のカマドには、燃焼部の住居壁外への掘り込みや袖基部の地山掘り残しなど、後期住居跡のカマド構築によく見られる技法的要素がすでにこの段階から見られることは注目される。

第205号住居跡(第115図、図版18)

調査区の南端に位置し、住居跡の上面と東側を建物の基礎の攪乱によって削平されている。調査区内で検出されたの住居跡の北側壁の一部だけで、住居跡の大半は調査区外のため、本住居跡の全容は不明である。西側のB1地点では、本住居跡は検出されていない。

平面形は、不明である。壁は、直線的に傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは最高で25cmある。床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を平坦に埋め戻した、貼床式である。ピットは、4カ所検出されているが、大半は住居の床下に伴うものである。

出土遺物は、覆土中から古代の土師器や須恵器の破片が少量出土しただけである(第116図)。本住居跡の時期は、出土土器の様相から、7世紀後半の白鳳時代と考えられる。



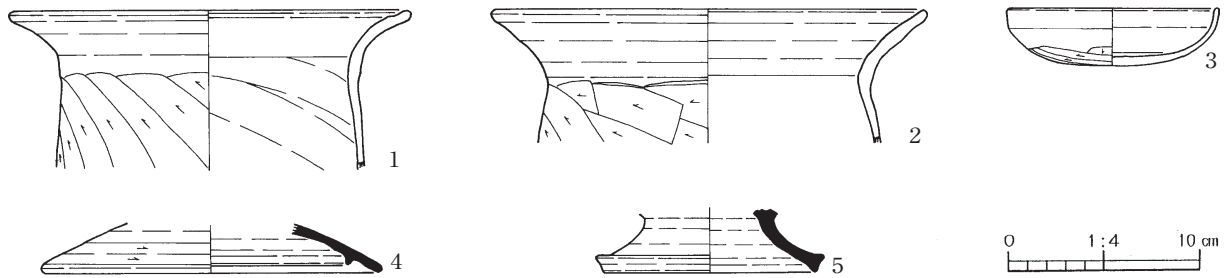
第115図 第205号住居跡

第205号住居跡土層説明

- 第1層：黒褐色土層(径0.3cmのローム粒、焼土粒を少量含む。粘性、しまり共になし。)
- 第2層：暗褐色土層(径0.1~1cmのローム粒を含み、焼土粒を微量含む。粘性、しまり共になし。)
- 第3層：黒褐色土層(径0.3~1cmの焼土粒、径0.3cmのローム粒を少量含む。粘性、しまり共になし。)
- 第4層：暗褐色土層(径0.5~0.7cmの焼土粒、径0.3cmのローム粒を多量含む。粘性、しまり共にあり。)
- 第5層：暗褐色土層(径3cmのロームブロック、焼土粒子を少量含む。粘性、しまり共にあり。)
- 第6層：暗褐色土層(径0.5cmの焼土粒、径0.3cmのローム粒を含む。粘性、しまり共にあり。)
- 第7層：暗褐色土層(径0.5~2cmのロームブロックを均一に多量含む。粘性、しまり共にあり。)
- 第8層：暗褐色土層(径1~3cmのロームブロック、径0.5cmの焼土粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。)

第205号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口縁部径(21.2)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面篋ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-明茶褐色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
2	甕	A.口縁部径(23.0)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-淡橙褐色。F.口縁部1/4弱。H.P1内。
3	坏	A.口縁部径11.2、器高3.1。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後ケズリ、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-明茶褐色。F.完形。H.壁際。
4	須恵器蓋	A.口縁部径(18.0)。B.ロクロ成形。C.天井部外面上半回転ナデ、下半回転篋ケズリ。内面回転ナデ。D.白色粒、黒色粒。E.内外-白灰色。F.口縁部1/4。H.覆土中。
5	須恵器高台付壺	A.台端部径(12.0)。B.高台部貼り付け。C.台部内外面回転ナデ。D.白色粒。E.内外-黒灰色、肉-暗茶褐色。F.高台部1/4。H.覆土中。



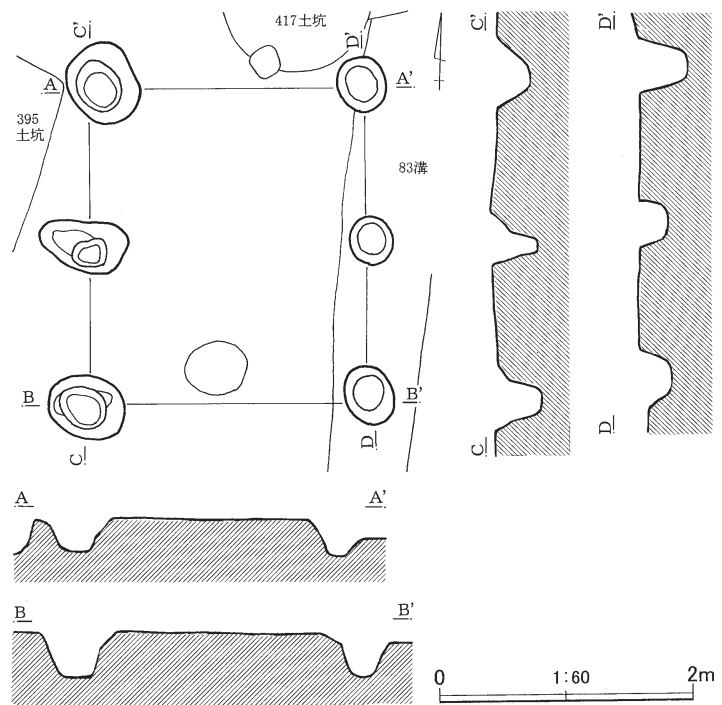
第116図 第205号住居跡出土遺物

2. 掘立柱建物跡

第13号掘立柱建物跡（第117図、図版18）

調査区中央部のやや南側寄りに位置し、建物跡の東側柱穴列の上面を重複する第83号溝跡に切られている。建物の形態は、南北方向2間、東西方向1間の、平面形が南北方向に長い長方形を呈する側柱式建物である。規模は、南北方向が2.50m、東西方向が2.20mある。柱通りは比較的良く、いずれの側柱穴も直線上に並んでいる。柱心間は、南北方向が1間1.25mの等間隔である。他の遺構と重複していない西側の側柱穴は、長軸の長さが60cm～70cmの楕円形ぎみの形態で、確認面からの深さは25cm～38cmある。

出土遺物は、柱穴覆土中から古墳時代中期を主とする古代の土師器の小破片が少量出土しただけである。本建物跡の時期は、出土遺物が少なく明確にできないが、建物跡の向きが調査区内で検出された第186号住居跡・第188号住居跡・第190号住居跡などの平安時代の竪穴式住居跡と同じであることから、それらの住居跡と同じ平安時代の可能性が高いと思われる。



第117図 第13号掘立柱建物跡

3. 井戸跡

第15号井戸跡（第118図、図版19）

調査区北側の中央付近に位置し、重複する第78号溝跡に切られている。

井戸掘り方の平面形は、円形か楕円形を基調にしているようである。規模は、東西方向が

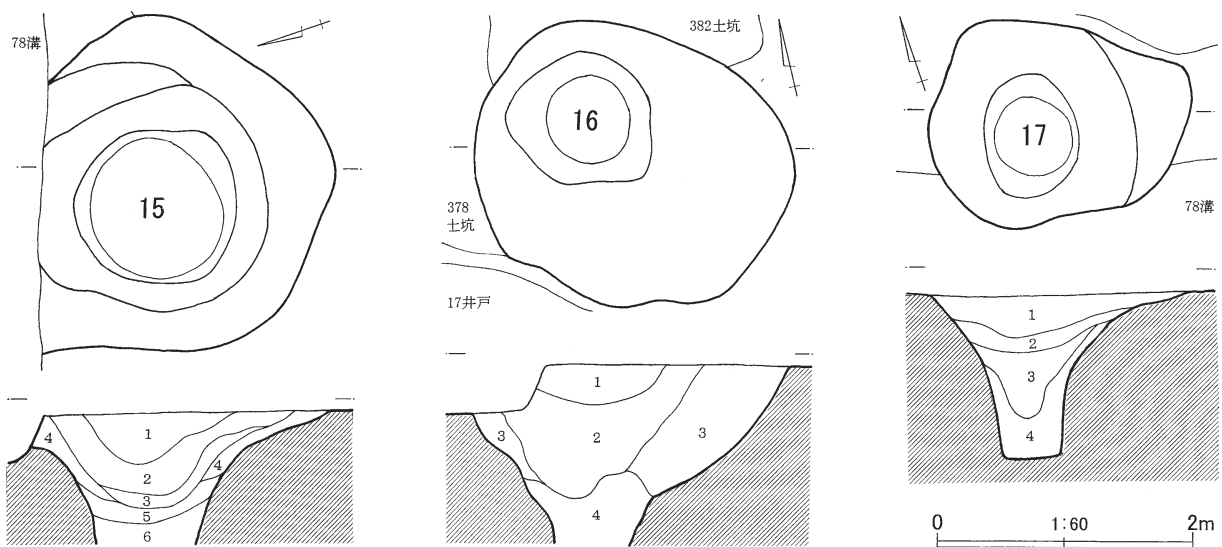
2.65m、南北方向は2.40mまで測れる。確認面からの深さは、完掘していないが1 m以上はある。断面は、上半の壁がかなり緩やかに傾斜して落ち込み、中位から直径85cmの筒状に深くなる漏斗状の形態である。

出土遺物は、覆土中から少量の古代の土師器や須恵器の破片とともに、中世の常滑窯系の甕の破片が2片出土している。本井戸跡の時期は、出土遺物から中世以降と考えられる。

第16号井戸跡（第118図）

調査区北側の中央付近に位置し、重複する第378号土坑と第382号土坑に切られている。南側は第17号井戸跡と接している。

井戸掘り方の平面形は、東西方向に長い楕円形を呈している。規模は、北西～南東方向が



第118図 井戸跡

第15号井戸跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（浅間山系A軽石、径1～3cmの礫を少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第2層：暗褐色土層（径0.5cmのローム粒を少量、径2～5cmの礫を含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第3層：黒褐色土層（径0.5～1cmのローム粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第4層：黄褐色土層（径2～7cmのロームブロックを多量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第5層：暗褐色土層（ローム粒を多量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第6層：暗褐色土層（ローム粒を多量に、径1～3cmのロームブロックを少量含む。粘性、しまり共にあり。）

第16号井戸跡土層説明

- 第1層：黄褐色土層（径2.5cmのロームブロックを多量に、浅間山系A軽石を少量含み、径0.1cmのローム粒を含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第2層：暗褐色土層（粘性、しまり共にあり。）
- 第3層：暗褐色土層（径1～3cmのロームブロックを少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第4層：暗褐色土層（径0.5cm～1cmのローム粒を多量含む。粘性、しまり共にあり。）

第17号井戸跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径1cmのローム粒、径2～3cmの粘土ブロック、径3～5cmの礫を含む。）
- 第2層：暗褐色土層（径0.5cmのローム粒、径0.5cmの焼土粒を少量含み、径4～10cmの粘土ブロックを含む。）
- 第3層：暗褐色土層（径0.5～1.5cmのロームブロックを多量に含み、炭化物粒を層状に含む。）
- 第4層：暗褐色土層（径0.5cmのローム粒を少量含む。）

2.50m、北東～南西方向が2.10mある。確認面からの深さは、完掘していないが1.50m以上はある。断面は、上半の壁が緩やかに傾斜して落ち込み、中位から直径65mの筒状に深くなる漏斗状の形態で、井筒は井戸掘り方の北西側に片寄っている。

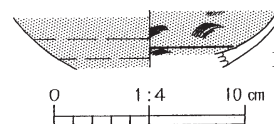
出土遺物は、覆土中から古墳時代～平安時代中期の土器片が少量出土しただけである。本井戸跡の時期は、明確ではないが、近接する他の井戸と同じく中世以降の可能性が高いと思われる。

第17号井戸跡（第118図、図版19）

調査区北側の中央付近に位置し、重複する第78号溝跡に切られている。北側は第16号井戸跡と接している。

井戸掘り方の平面形は、東西方向に長い楕円形を基調にしているようである。規模は、東西方向が2.61m、南北方向が1.66mある。確認面からの深さは、1.30mある。断面は、上半の壁がかなり緩やかに傾斜して落ち込み、中位から直径55cmの筒状に深くなる漏斗状の形態である。

出土遺物は、覆土中から古代の土器破片とともに、中世前半頃の白磁碗の破片（第119図No1）が1片出土している。本井戸跡の時期は、出土遺物から中世以降と考えられる。



第119図 第17号井戸跡出土遺物

第17号井戸跡出土遺物観察表

1	白磁碗	B. ロクロ成形。C. 体部内外面回転ナデ。内面に7本歯の櫛描文と下半に沈線を施す。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-淡灰白色。F. 破片。G. 内外面に施釉。H. 覆土中。
---	-----	---

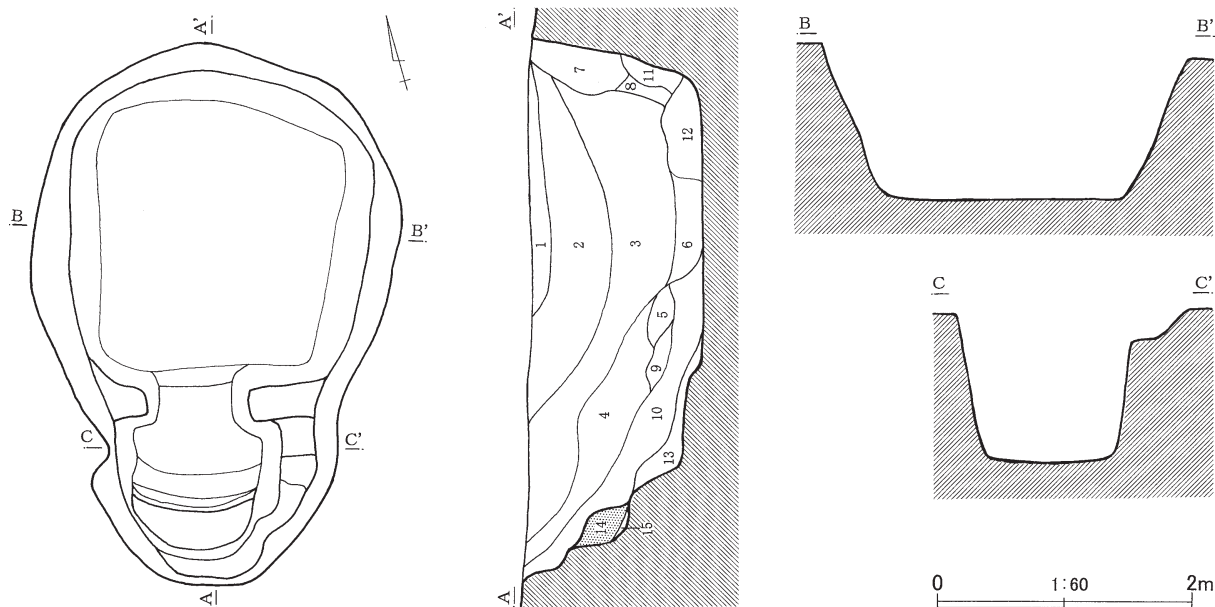
4. 地下式坑

第4号地下式坑（第120図、図版19）

調査区の南側に位置し、重複する第1号住居跡を切っている。覆土の観察では、陥没等による明確な天井部の大規模崩落土は見られないが、規模や形態等から地下式坑と考えられる。

形態は、南北方向に長く、南側に入口部、北側に室部をもつ構造である。規模は、南北方向が4.34m、東西方向が2.93mある。入口部の竪坑は、室部壁面の外にあり、底面は平坦で室部より10cm程度高く、南側は黄白色粘土（第14層）を貼り付けて階段状にしている。室部は、底面が2.14m×1.88mのコーナー部分が丸みを持つ隅丸方形を呈し、確認面からの深さは最高で1.48mある。底面は平坦で、壁面は直線的にやや傾斜して立ち上がっている。室部と入口部の境は、門状に入口の幅を狭くしており、幅60cm・長さ50cm程度の短い羨道が付く構造になっている。閉塞施設の痕跡は見られなかった。

出土遺物は、覆土中から常滑窯系の甕や瀬戸窯系の大皿の破片、在地産の内耳鍋や播鉢及び片口鉢の破片が少量出土している（第121図）。この他では、被熱痕のある長さ15cm程度の円礫の角閃石安山岩が1個出土している。本地下式坑の時期は、出土土器の様相から、中世後

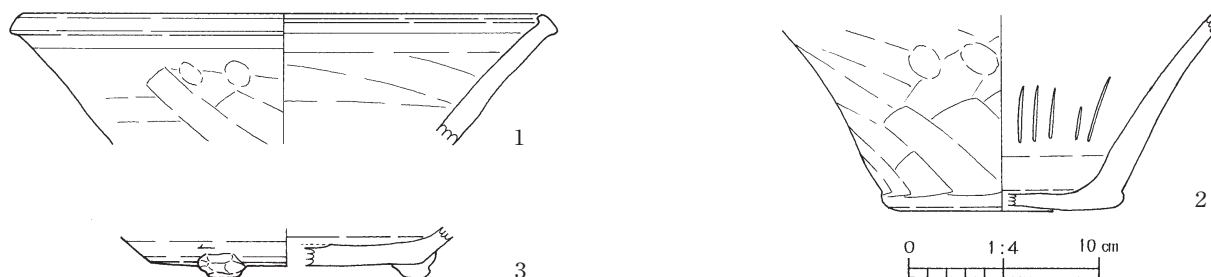


第120図 第4号地下式坑

第4号地下式坑土層説明

- 第1層：黒褐色土層（径1～2cmのロームブロックを含む。攪乱層。）
- 第2層：黒褐色土層（径3～5cmの小礫を少量含み、径1～1.5cmのロームブロックを微量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第3層：黒褐色土層（径0.5cmのローム粒、径3～5cmの小礫を少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第4層：暗褐色土層（径0.3～2cmのロームブロックを含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第5層：暗褐色土層（径2～5cmのロームブロックを多量に含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第6層：暗褐色土層（部分的に砂の様な感じで水平に堆積する。径2～5cmのロームブロックと黒褐色土の混合土。粘性、しまり共にあり。）
- 第7層：黄褐色土層（全体がローム土で暗褐色土を少量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第8層：暗褐色土層（第7層に似るが、暗褐色土の割合が50%程度である。粘性、しまり共にあり。）
- 第9層：黄褐色土層（径5～10cmのロームブロックを含み、暗褐色土を少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第10層：鈍い黄褐色土層（粘土化した様なローム土。粘性、しまり共にあり。）
- 第11層：鈍い黄褐色土層（やや砂の様な粘土化したローム土。粘性、しまり共にあり。）
- 第12層：黄褐色土層（径20cmのロームブロックを均一に含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第13層：黄褐色土層（径1～3cmのロームブロックを多量に含み、暗褐色土を少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第14層：暗黄白色土層（黄白色粘土ブロックを多量に、ロームブロックを少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第15層：黒褐色土層（ローム粒、焼土粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）

期の15世紀後半頃と考えられる。本地下式坑の性格や使用目的については、その特徴を示す遺物や痕跡が見られないため、明らかにすることができなかった。



第121図 第4号地下式坑出土遺物

第4号地下式坑出土遺物観察表

1	片口鉢	A.口縁部径(29.0)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外-淡灰褐色、内-黒灰色。F.口縁部1/8。H.覆土中。
2	播鉢	A.底部径(12.8)。B.粘土紐積み上げ。C.体部内外面ナデ。底部外面ナデ。D.白色粒。E.内外-暗灰色。F.底部1/4。G.内面に播目を施す。内面は良く磨れて磨滅している。H.覆土中。
3	瀬戸窯系大皿	A.底部径(14.4)。B.ロクロ成形。足貼り付け。C.体部外面回転篋ケズリ、内面回転ナデ。底部外面回転糸切り後周辺回転篋ケズリ。D.白色粒。E.内外-淡灰褐色。F.底部1/4。H.覆土中。

5. 土 坑

調査区内で土坑として扱ったものは、全部で66基ある(第122~126図)。出土遺物によって時期が特定できるものは、古墳時代前期の第433号土坑、古墳時代後期の第418号土坑と第437号土坑、平安時代中期の第384号土坑だけであるが、性格の分かるものはほとんどない。南北方向や東西方向に長軸をもつ超長方形土坑は、大半が近世以降のもので、畑地に多く見られる作物等を保管するための貯蔵用の穴であろう。各土坑の詳細は、以下のとおりである。

久下東遺跡F1地点土坑一覧表

番号	平面形	規模(cm)	深さ	出土遺物	時期	備考
41	不整形	87×84	30	なし。	不明	
375	隅丸長方形	246×95	21	土師器片少量(古墳中~後期)。	古代以降	
376	超長方形	(310)×75	23	土師器片少量(古墳前期~白鳳)。	近世以降	377土に切られる。
377	隅丸超長方形	(515)×62	40	土師器・須恵器片(古代)、古銭(寛永通宝)。	近世以降	184住、376土を切る。
378	超長方形	(428)×94	40	土師器・須恵器片、山茶碗窯系片口鉢片、瀬戸美濃産灰釉皿片少量。	近世以降	16井戸を切り、379土に切られる。
379	隅丸超長方形	(490)×136	29	土器片(縄文中期)、土師器・須恵器片(古代)、近世以降陶器片少量。	近世以降	16井戸、378・382土を切る。
380	超長方形	460×86	20	土師器・須恵器7片(白鳳~平安中期)。	近世以降	13溝を切る。
381	〃	615×105	24	土師器・須恵器片少量(古代)。砥石片1片。	近世以降	23・78溝を切る。
382	隅丸長方形	(173)×104	22	なし。	近世以降	16井戸を切る。
383	〃	220×100	28	土師器・須恵器片少量(古墳中期~白鳳)。	古代以降	
384	不整隅丸長方形	(235)×166	30	土師器片多量(平安中期)。	平安中期	79溝に切られる。
385	超長方形	580×80	52	土師器・須恵器・灰釉陶器片少量(平安中期)。	近世以降	79溝を切る。
386	不整形	75×70	25	土師器6片(古代)。	古代以降	
387	〃	162×136	24	土師器5片(古墳前期~平安中期)。	古代以降	
388	〃	110×105	45	土師器片少量(古墳前期~平安中期)。	古代以降	118住を切る。
389	不整隅丸長方形	216×130	24	土師器・須恵器片少量(平安中期)。	古代以降	21・79溝に切られる。
390	不整形	(118)×81	24	土師器3片(白鳳~平安)。	古代以降	13溝を切る。
391	不整隅丸長方形	158×80	23	土師器1片(古墳中期)。	古代以降	
392	隅丸超長方形	236×80	10	土師器小片少量(古墳前~後期)。	近世以降	184住を切る。
393	不整形	210×155	55	なし。	不明	184住を切る。
394	隅丸長方形	205×95	16	土師器2片(古代)。	近世以降	184住を切る。
395	〃	175×110	33	土師器・須恵器片少量(古代)。	古代以降	396土を切る。
396	〃	137×86	24	土師器9片(古墳前~後期)。	古代以降	395土に切られる。
397	不整楕円形	182×109	15	土師器片少量(古墳後期)。	古代以降	
398	〃	(115)×130	25	土師器3片(古墳中期~平安)。	古代以降	188住・13溝を切る。
399	円形	123×110	16	土師器8片(古墳前~後期)。	古代以降	13溝を切る。
400	隅丸長方形	160×85	13	土師器・須恵器3片(平安)。	近世以降	
401	円形	106×(88)	12	なし。	古代以降	190住を切る。
402	長方形	150×123	25	土師器7片(古墳後期)。	近世以降	84溝を切る。
403	方形	128×(70)	10	なし。	近世以降	84溝を切る。
404	不整形	135×118	12	須恵器1片(古代)。	古代以降	
405	隅丸長方形	84×(150)	30	土師器5片(古墳後期)。	近世以降	84溝を切り、406土に切られる。

406	超長方形	548 × 90	37	土師器・須恵器・埴輪片少量（古墳後期～平安）。	近世以降	405土を切る。
407	隅丸超長方形	(500) × 70	28	土師器片少量（古墳中～後期）。	中世以降	191住・82溝を切る。
408	不整隅丸方形	90 × 83	57	土師器5片（古墳後期）。	近世以降	13・83溝を切る。
409	長方形	110 × 90	30	土師器片少量（古墳後期）。	古代以降	187住を切る。
410	隅丸長方形	150 × 89	27	なし。	古代以降	187住を切る。
411	〃	200 × 100	30	土師器片少量（古墳後期～平安）。	古代以降	81溝に切られる。
412	不整方形	140 × 125	33	土師器5片（古墳後期）。	古代以降	
413	隅丸長方形	286 × 92	26	土師器片少量（古墳中期～平安中期）。	近世以降	
414	隅丸長方形	165 × 105	36	土師器・須恵器3片（古墳中～後期）。	古代以降	194住を切る。
415	楕円形	105 × 86	46	なし。	不明	
416	〃	81 × 70	30	土師器片少量（古墳前期～平安中期）。	古代以降	190・192住を切る。
417	〃	118 × 10	27	土師器片少量（古墳後期）。砥石。	中世以降	194住を切る。
418	〃	104 × (56)	17	土師器・須恵器片少量（古墳中期～白鳳）。	古墳後期	81溝に切られる。
419	不整長方形	93 × 69	14	なし。	近世以降	84溝を切る。
420	不整楕円形	195 × (70)	23	土師器4片（古墳前期）。	古代以降	
421	隅丸長方形	(260) × 185	16	土師器片少量（古墳前期～白鳳）、瀬戸美濃産鉄釉壺1片（近世以降）。	近世以降	
422	不整長方形	134 × 95	10	土師器片少量（古墳前期～白鳳）、かわらけ1片（中世後期）。	中世以降	
423	長方形	(270) × 90	16	土師器片少量（古墳前～後期）。	近世以降	
424	不整楕円形	85 × 61	36	土師器片少量（古墳中期～平安）。	古代以降	
425	〃	114 × (95)	20	土師器片少量（古墳前～後期）。	近世以降	
426	不明	(135) × (50)		土師器片少量（古墳前～後期）。	近世以降	
427	隅丸超長方形	371 × 115	25	土師器片少量（古墳前～後期）。	近世以降	199住を切る。
428	不整形	145 × 98	19	なし。	不明	
429	不整円形	94 × 80	20	土師器4片（古墳前～白鳳）。	古代以降	
430	不整形	140 × 80	31	土師器片少量（白鳳）。	古代以降	
431	超長方形	184 × 125	16	土師器片少量（古墳後期）。	近世以降	199住を切る。
432	〃	570 × 100	13	土師器・須恵器片少量（古墳前～平安中期）。	近世以降	199住を切る。
433	円形	2.80 × 2.80	50	土師器片多量（古墳前期）。	古墳前期	13溝を切る。
434	不整方形	106 × 101	18	土師器片少量（古墳前～白鳳）。	古代以降	
435	隅丸長方形	393 × (132)	45	土師器・須恵器片少量（古墳前～白鳳）。	近世以降	45住を切り、439土に切られる。
436	楕円形	113 × 71	7	なし。	不明	
437	不整長方形	68 × 52	42	土師器片少量（古墳前～後期）。白玉。	古墳後期	
438	隅丸長方形	(255) × 90	20	土師器・須恵器片少量（古墳前～白鳳）、かわらけ片（中世後期）。	近世以降	13溝を切る。
439	不明	182 × (90)	31	なし。	近世以降	435土を切る。

第41号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.1～0.3cmのローム粒を少量含む。粘性、しまり共になし。）
 第2層：暗黄褐色土層（径0.5～2cmのロームブロックを多量含む。粘性なし、しまりあり。）

第375号土坑土層説明

第1層：黒褐色土層（径0.5cmのローム粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。）
 第2層：暗褐色土層（径1～4cmのロームブロックを多量含む。粘性なし、しまりあり。）

第376号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.5～1cmのローム粒を均一に多量含む。粘性なし、しまりあり。）

第377号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径1～4cmのロームブロックを多量含む。粘性なし、しまりあり。）
 第2層：暗褐色土層（径2～6cmのロームブロックを多量含む。粘性なし、しまりあり。）

第378・379・382号土坑土層説明

<第378・379号土坑>

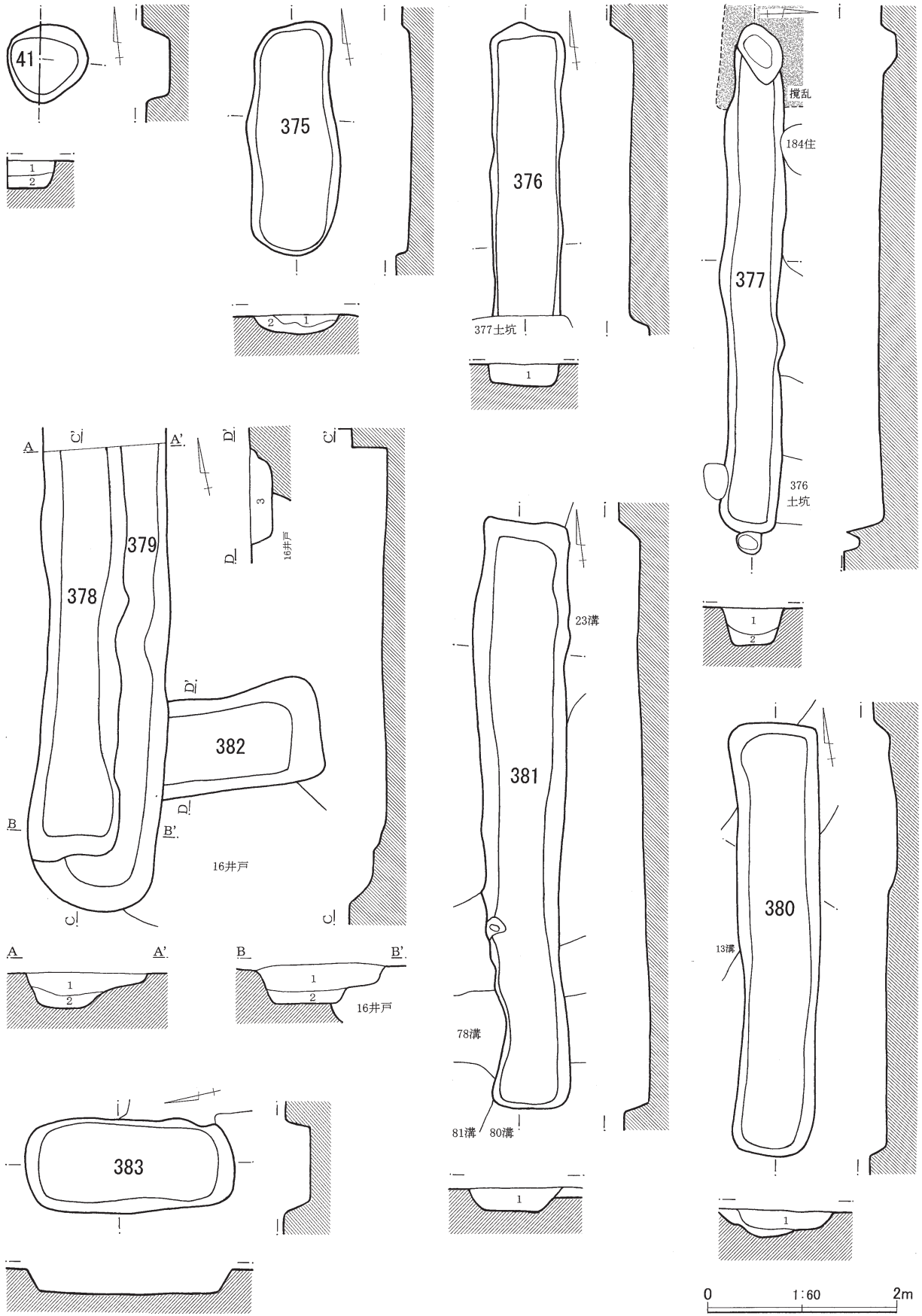
第1層：暗褐色土層（径0.5cmのローム粒、浅間山系A軽石を少量含む。粘性、しまり共にあり。）
 第2層：暗褐色土層（径0.5～1.5cmのロームブロックを多量含む。粘性なし、しまりあり。）

<第382号土坑>

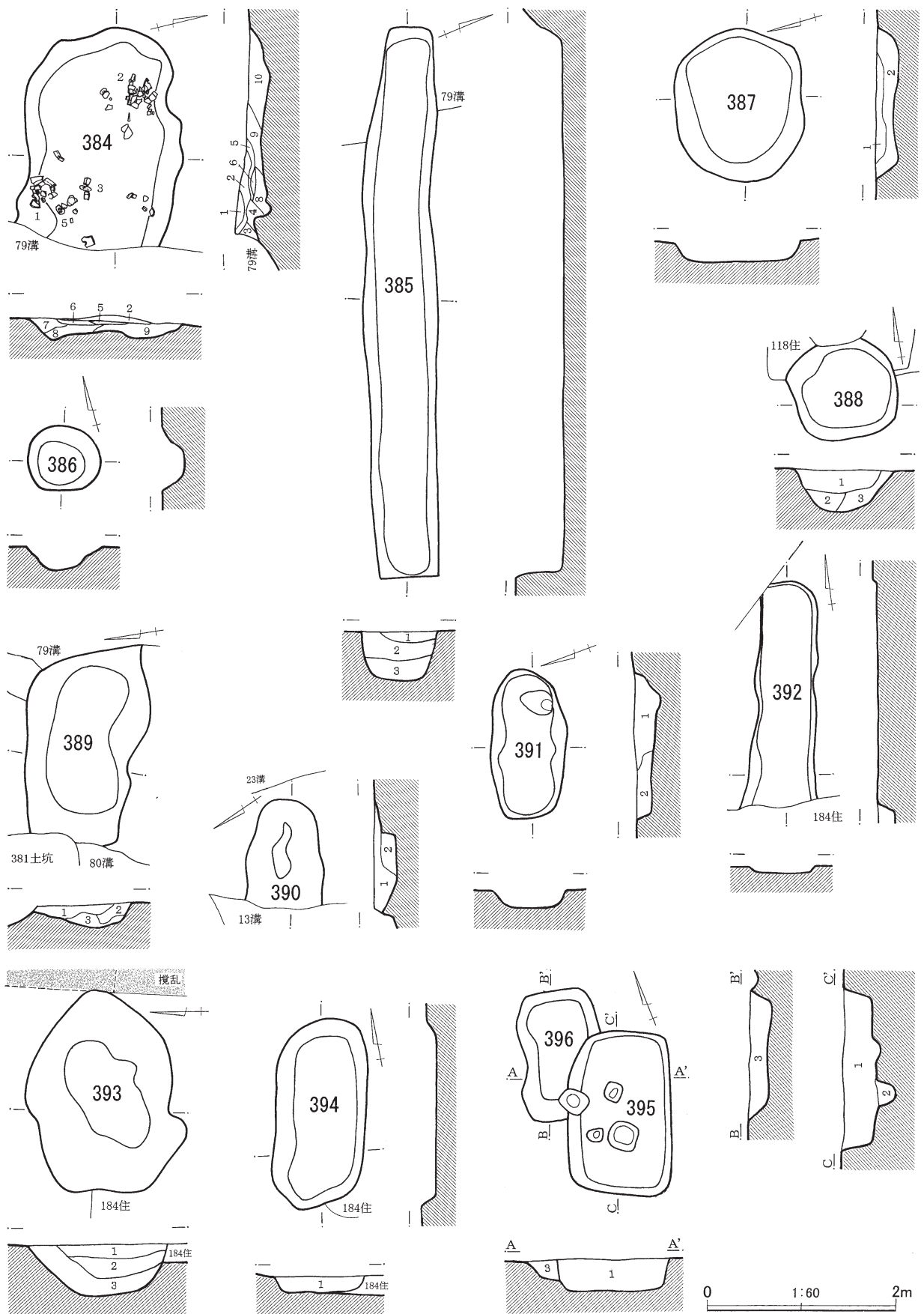
第3層：暗褐色土層（径3～5cmのロームブロック、浅間山系A軽石を少量、径0.1cmのローム粒を含む。粘性、しまり共にあり。）

第380号土坑土層説明

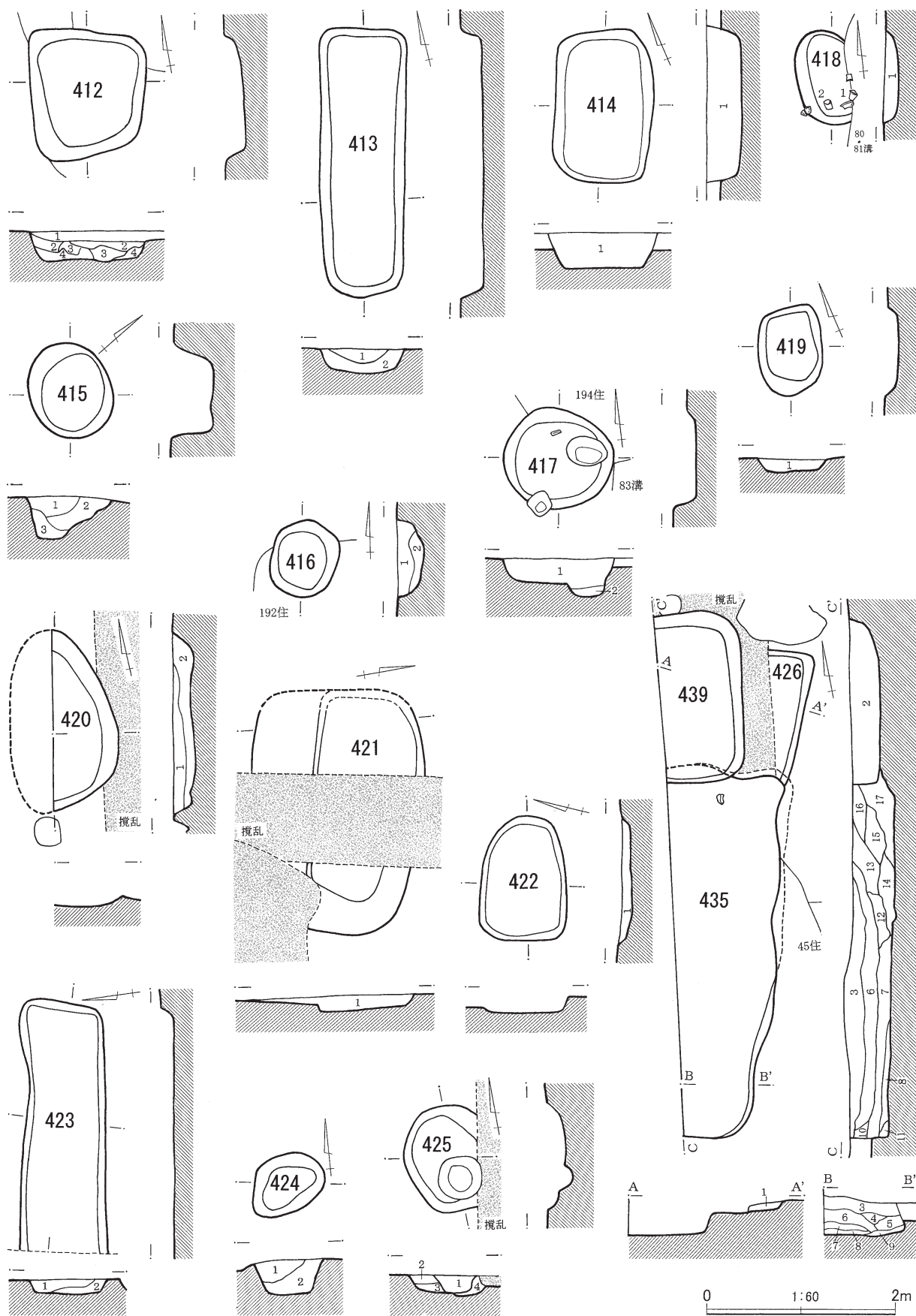
第1層：暗褐色土層（径0.5～4cmのロームブロック、浅間山系A軽石を含む。粘性なし、しまりあり。）



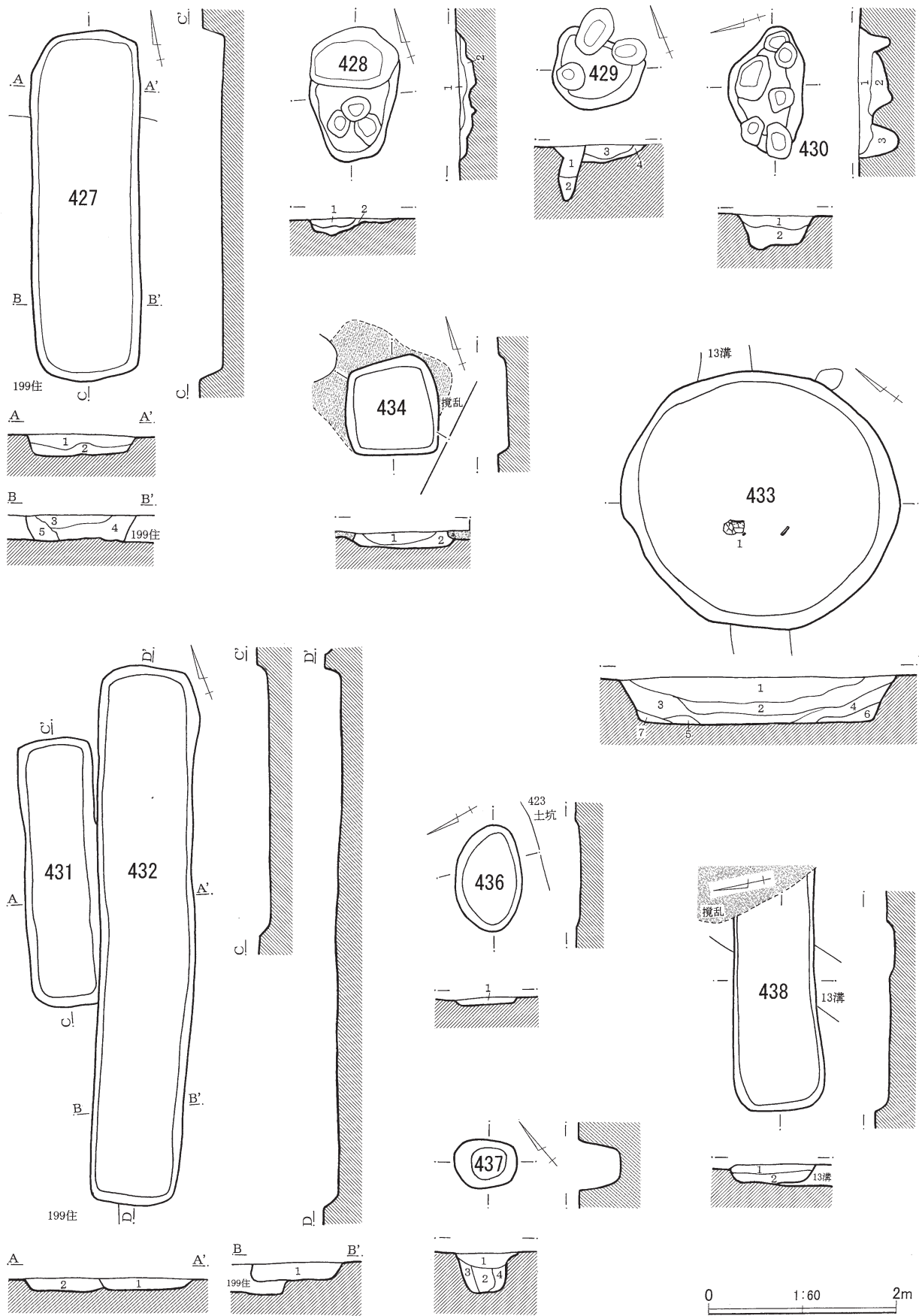
第122图 土坑(1)



第123图 土坑(2)



第125図 土 坑 (4)



第126図 土 坑 (5)

第381号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロック、浅間山系A軽石を含む。粘性なし、しまりあり。）

第384号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（焼土を少量含む。粘性、しまり共になし。）

第2層：暗褐色土層（径0.5cmの焼土粒を含む。粘性、しまり共になし。）

第3層：暗褐色土層（径0.8cmのローム粒、径0.5cmの焼土粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。）

第4層：暗褐色土層（径1cmのローム粒を含み、径0.5cmの焼土粒を多量に、径0.5cmの炭化粒を部分的に水平に層状で含む。粘性、しまり共になし。）

第5層：暗褐色土層（径0.3cmの焼土粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。）

第6層：暗褐色土層（径0.5～1cmの粘土粒を含み、径0.5cmの焼土粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）

第7層：暗褐色土層（径0.5cmの焼土粒を多量に、径0.5cmのローム粒を少量含み、径0.5～1cmの炭化物粒を含む。粘性、しまり共にあり。）

第8層：暗褐色土層（径0.5～1.5cmのロームブロックを含む。粘性、しまり共にあり。）

第9層：暗褐色土層（径0.5cmのローム粒を含み、径0.5cmの焼土粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）

第10層：暗褐色土層（径0.5～1.5cmのロームブロックを含む。粘性、しまり共にあり。）

第385号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒、浅間山系A軽石を少量含む。粘性なし、しまりあり。）

第2層：暗褐色土層（ロームブロック、ローム粒を多量含む。粘性なし、しまりあり。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒を含む。粘性なし、しまりあり。）

第387号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.3cmのローム粒を少量含む。粘性あり、しまりなし。）

第2層：暗褐色土層（径1～1.5cmのロームブロックを含む。粘性、しまり共にあり。）

第388号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.5～1cmのローム粒、焼土を少量含む。粘性、しまり共にあり。）

第2層：暗褐色土層（径0.5cmのローム粒を多量含む。粘性、しまり共にあり。）

第3層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロックを多量含む。粘性、しまり共にあり。）

第389号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.8～2cmのロームブロックを少量含む。粘性、しまり共にあり。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒を多量含み、ロームブロックを含む。粘性、しまり共にあり。）

第3層：暗褐色土層（径1～3cmのロームブロックを多量含む。粘性、しまり共にあり。）

第390号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.3cmのローム粒を多量含む。粘性なし、しまりあり。）

第2層：暗褐色土層（径0.3cmのローム粒を多量に、径0.5～1cmのローム粒を含む。粘性なし、しまりあり。）

第391号土坑土層説明

第1層：黒褐色土層（径0.5cmのローム粒を少量含む。粘性、しまり共になし。）

第2層：暗褐色土層（径1～2cmのロームブロックを含む。粘性、しまり共になし。）

第393号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径1cmのローム粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。）

第2層：暗褐色土層（径1～2cmのロームブロックを含む。粘性なし、しまりあり。）

第3層：暗褐色土層（径1～6cmのロームブロックを多く含む。粘性なし、しまりあり。）

第394号土層説明

第1層：暗褐色土層（浅間山系A軽石、径0.5～0.8cmのローム粒を含む。粘性、しまり共になし。）

第395・396号土坑土層説明

<第395号土坑>

第1層：黒褐色土層（径0.8cmの未風化のローム粒を多量含む。粘性なし、しまりあり。）

第2層：暗褐色土層（径0.1～0.3cmのローム粒を含む。粘性、しまり共になし。）

<第396号土坑>

第3層：黒褐色土層（径1.5cmのロームブロックを含む。粘性なし、しまりあり。）

第397号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.1～0.4cmのローム粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。）

第2層：暗褐色土層（径0.1～0.5cmのローム粒を含む。粘性なし、しまりあり。）

第3層：暗褐色土層（径1～3cmのロームブロックを多量に、炭化物を少量含む。粘性なし、しまりあり。）

第4層：暗褐色土層（径1～2cmのロームブロックを含む。粘性、しまり共になし。）

第398号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.3cmのローム粒を少量含み、径0.5～1cmの焼土粒を含む。粘性なし、しまりあり。）

第2層：暗褐色土層（径0.5cmの焼土粒を少量含み、径0.5～1cmのローム粒を含む。粘性、しまり共にあり。）

第399号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.5cmのローム粒を均一に含む。粘性なし、しまりあり。）

第400号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.5cmのローム粒を少量含む。粘性あり、しまりなし。）

第2層：暗褐色土層（浅間山系A軽石を多量に、径0.5cmローム粒を少量含む。粘性、しまり共になし。）

第3層：暗褐色土層（浅間山系A軽石、径0.5～1.5cmのロームブロック、ローム粒を含む。）

第401・402・403号土坑土層説明

第1層：黒褐色土層（径0.1～0.5cmのローム粒を含む。粘性、しまり共にあり。）

第2層：暗褐色土層（径0.3～1.5cmのロームブロックを多量に全体に均一に含む。粘性、しまり共にあり。）

第3層：暗褐色土層（径0.5～1cmのローム粒を含む。粘性、しまり共にあり。）

第404号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.5～1cmのローム粒を含む。粘性、しまり共にあり。）

第405号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.1～0.5cmのローム粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）

第2層：暗褐色土層（径2～4cmのロームブロックを多量含む。粘性、しまり共にあり。）

第3層：暗褐色土層（径0.1～0.2cmのローム粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）

第406号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒を含む。粘性、しまり共にあり。）

第2層：暗褐色土層（径0.8～1.5cmのロームブロック、ローム粒を多量含む。粘性、しまり共にあり。）

第3層：暗褐色土層（径1.5～2.5cmのロームブロックを多量に、ローム粒を均一に含む。粘性、しまり共にあり。）

第407号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.2～1cmのローム粒を少量含む。粘性あり、しまりなし。）

第2層：暗褐色土層（径0.5～4cmのロームブロックを多量含む。粘性あり、しまりあり。）

第3層：暗褐色土層（径0.5～1cmのローム粒を含む。粘性あり、しまりなし。）

第408号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロックを含む。粘性、しまり共にあり。）

第2層：暗褐色土層（径0.5～3cmのロームブロックを均一に多量含む。粘性、しまり共にあり。）

第3層：黒褐色土層（径0.3cmのローム粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）

第409号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.1cm以下のローム粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。）

第2層：暗褐色土層（径0.1～0.3cmのローム粒を少量含み、ローム粒を全体に含む。粘性なし、しまりあり。）

第3層：暗褐色土層（径0.1～0.3cmのローム粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。）

第4層：暗褐色土層（径0.1～0.5cmのローム粒を含む。粘性、しまり共にあり。）

第410号土坑土層説明

第1層：黒褐色土層（径0.5cmの炭化物粒を少量、ローム粒、焼土粒を微量含む。粘性、しまり共にあり。）

第2層：暗褐色土層（ローム粒を多量に、径3cmのロームブロック、炭化物を微量含む。粘性、しまり共になし。）

第3層：暗褐色土層（径1cmのローム粒を多量に、炭化物を微量含む。粘性、しまり共になし。）

第4層：暗褐色土層（径0.5cmのローム粒を多量に、炭化物を微量含む。粘性、しまり共になし。）

第5層：暗褐色土層（径3cmのロームブロック、径0.5cmの炭化物粒を微量含む。粘性なし、しまりあり。）

第6層：暗褐色土層（径3～4cmのロームブロック、0.5cmのローム粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。）

第411号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.1～0.3cmのローム粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。）

第2層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロックを少量含む。粘性なし、しまりあり。）

第412号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.3cmのローム粒を均一に、2～3cmの炭化物を微量含む。粘性、しまり共になし。）

第2層：暗褐色土層（径0.1cmのローム粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）

第3層：暗褐色土層（径2～3cmのロームブロック、ローム粒を多量含む。粘性、しまり共にあり。）

第4層：黄褐色土層（径5～10cmのロームブロックを均一に含む。粘性なし、しまりあり。）

第413号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.5～2cmのロームブロック、浅間山系A軽石を少量含む。粘性なし、しまりあり。）

第2層：暗褐色土層（径0.5～1cmのローム粒、浅間山系A軽石を含む。粘性なし、しまりあり。）

第414号土坑土層説明

第1層：暗褐色土層（径0.5cm～1cmのローム粒を多量含む。粘性、しまり共にあり。）

第415号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.8cmローム粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第2層：暗褐色土層（径0.5～1cmのローム粒を含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第3層：暗褐色土層（径2～3cmのロームブロックを多量含む。粘性、しまり共にあり。）

第416号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径1～1.5cmのロームブロック、焼土、炭化物を少量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第2層：暗褐色土層（径1～2.5cmのロームブロックを多量含む。粘性なし、しまりあり。）

第417号土坑土層説明

- 第1層：黒褐色土層（径0.3～0.5cmのローム粒を含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第2層：暗褐色土層（径0.5～1cmのローム粒を多量含む。粘性、しまり共にあり。）

第418号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～1cmのローム粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。）

第419号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径1cmのローム粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）

第420号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5cmのローム粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第2層：暗褐色土層（径2～3cmのロームブロックを多量含む。粘性なし、しまりあり。）

第421号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径1.5～5cmのロームブロックを多量含む。粘性、しまり共になし。）

第422号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径1.5～5cmのロームブロックを多量含む。粘性なし、しまりあり。）

第423号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径1～2cmのロームブロックを含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第2層：暗褐色土層（径0.5cmのローム粒を含む。粘性なし、しまりあり。）

第424号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5～1.5cmのロームブロックを含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第2層：暗褐色土層（径0.5～4cmのロームブロックを含む。粘性なし、しまりあり。）

第425号土坑土層説明

- 第1層：暗灰色土層（浅間山系A軽石を多量に、ローム粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第2層：暗褐色土層（径1.5cmのロームブロックを少量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第3層：暗褐色土層（径1～3cmのロームブロックを多量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第4層：暗褐色土層（径0.5cmのローム粒を多量含む。粘性なし、しまりあり。）

第426・435・439号土坑土層説明

＜第426号土坑＞

- 第1層：暗褐色土層（径0.1cmのローム粒を少量含む。粘性、しまり共になし。）

＜第439号土坑＞

- 第2層：暗褐色土層（ローム粒、径2cm程度のロームブロックをやや多く含み、焼土粒、白色粒を微量含む。粘性なし、しまりあり。）

＜第435号土坑＞

- 第3層：暗褐色土層（ロームブロックを多量に含み、焼土粒、炭化物粒を微量含む。しまりあり。）
- 第4層：黒褐色土層（ローム粒、ロームブロックを少量含み、焼土粒を微量含む。しまりあり。）
- 第5層：黒褐色土層（ロームブロックを多く含む。しまりあり。）
- 第6層：暗褐色土層（ローム粒、径3cmの未風化ロームブロックを多量に含み、焼土粒、炭化物粒を微量含む。しまりあり。）
- 第7層：黒褐色土層（ローム粒、ロームブロックをやや多く含み、焼土粒、炭化物粒を微量含む。しまりあり。）
- 第8層：黒褐色土層（ロームブロックをやや多く含み、焼土粒を微量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第9層：暗褐色土層（ローム粒を少量含む。しまりなし。）
- 第10層：暗褐色土層（ローム粒、ロームブロックを少量含み、焼土粒を極めて微量含む。）
- 第11層：黒褐色土層（ローム粒、ロームブロックを微量含む。）
- 第12層：黒褐色土層（ロームブロック（不整形）を極めて多量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第13層：黒褐色土層（径0.5～2cm程度のロームブロックをやや多く含む。しまりあり。）
- 第14層：黒褐色土層（径0.5～1cmローム粒が集中的に局所に含まれる。しまりあり。）
- 第15層：黒褐色土層（径0.5cm程度のローム粒を極めて多量に含み、径3cm程度のロームブロックを少量含む。しまりあり。）
- 第16層：暗褐色土層（径1cm以下のローム粒をやや多量に含み、焼土粒を微量含む。しまりあり。）
- 第17層：黒褐色土層（ロームブロック（不整形）を多く含む。しまりあり。）

第427号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5cmのローム粒を多量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第2層：暗褐色土層（径3～5cmのロームブロックを多量含み、径0.5cmの炭化物粒を少量、土器少片を含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第3層：黒褐色土層（径0.5cmのローム粒、ロームブロック、焼土粒を少量含む。）
- 第4層：黒褐色土層（径1～4cmのロームブロックをやや多く含み、焼土粒を少量含む。）
- 第5層：黒褐色土層（径0.5～1cmのローム粒を少量含む。局所的に焼土化した粘土ブロックあり。）

第428号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5cmのローム粒を含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第2層：暗褐色土層（径1～5cmのロームブロックを多量含む。粘性なし、しまりあり。）

第429号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径1～3cmのロームブロックを均一に含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第2層：暗褐色土層（径1～1.5cmのロームブロックを含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第3層：暗褐色土層（径0.5～1cmのローム粒を少量含む。粘性、しまり共になし。）
- 第4層：暗褐色土層（径3～5cmのロームブロック主体。粘性、しまり共になし。）

第430号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径1～2cmのロームブロックを含む。粘性、しまり共になし。）
- 第2層：暗褐色土層（径1～4cmのロームブロック主体。粘性、しまり共にあり。）
- 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を全体に含み、径0.5cmのローム粒を少量含む。）

第431・432号土坑土層説明

<第432号土坑>

- 第1層：暗褐色土層（径1～1.5cmのロームブロックを含む。粘性、しまり共にあり。）

<第431号土坑>

- 第2層：暗褐色土層（径1～2cmのロームブロックを含む。粘性、しまり共にあり。）

第433号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.1cmのローム粒を多量含む。粘性あり、しまりなし。）
- 第2層：暗褐色土層（粘性あり、しまりなし。）
- 第3層：暗褐色土層（粘性あり、しまりなし。）
- 第4層：暗褐色土層（径1cmのロームブロックを少量、ローム粒を微量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第5層：暗黄褐色土層（径1～2cmのロームブロックを多量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第6層：暗黄褐色土層（径1～3cmのロームブロックを多量に、炭化物粒を少量含む。粘性、しまり共にあり。）
- 第7層：黄褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性、しまり共にあり。）

第434号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.5cmのローム粒、土器片を含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第2層：暗褐色土層（径0.5～1cmのローム粒、土器片を含む。）

第436号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒を多量含む。粘性あり、しまりなし。）

第437号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（径0.1～0.3cmのローム粒を含む。粘性、しまり共になし。）
- 第2層：暗褐色土層（径0.1～0.5cmのローム粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第3層：暗黄褐色土層（径0.3～1.5cmのロームブロックを含む。粘性あり、しまりなし。）
- 第4層：暗黄褐色土層（径0.2～3cmのロームブロックを多量含む。粘性あり、しまりなし。）

第438号土坑土層説明

- 第1層：暗褐色土層（砂質。ロームブロックを少量含む。）
- 第2層：黒褐色土層（砂質。ローム粒、白色粒を少量含む。）

第377号土坑出土遺物観察表

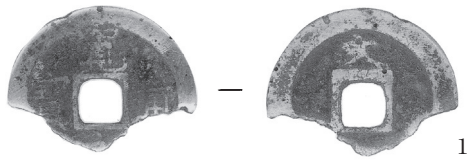
1	古 銭	A.直径2.5。B.鑄造。D.銅製。F.1/2。G.「寛永通宝（文銭）」、寛文8年（1668年）初鑄。H.覆土中。
---	-----	---

第437号土坑出土遺物観察表

1	白 玉	A.直径1.1、高さ0.6。B.管切り。C.側面研磨。上下面は未調整。D.滑石。F.完形。H.覆土中。
---	-----	---

第381号土坑出土遺物観察表

1	砥 石	A.残存長10.5、幅6.3、厚さ6.0。B.削り。C.各面とも研磨。D.凝灰岩。F.破片。G.剥離面に鉄分付着。H.覆土中。
---	-----	---



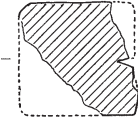
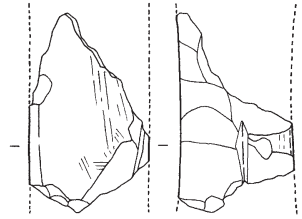
0 2 cm

(第377号土坑)



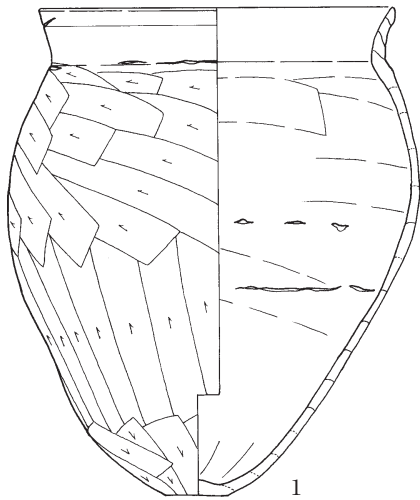
0 2 cm

(第437号土坑)

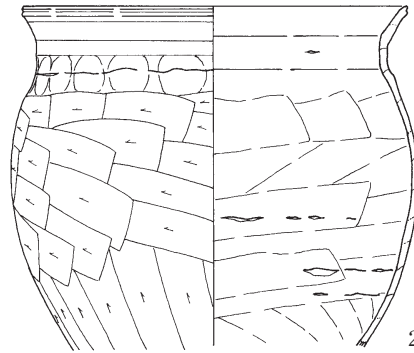


1

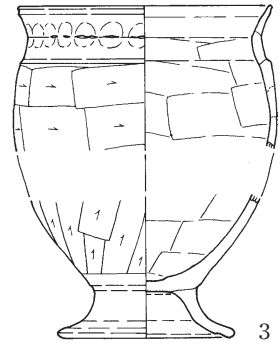
(第381号土坑)



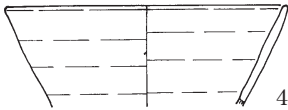
1



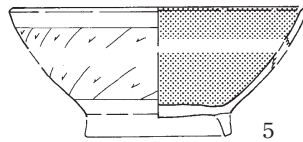
2



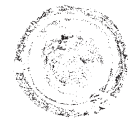
3



4

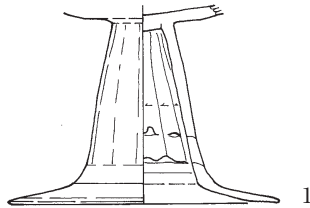


5

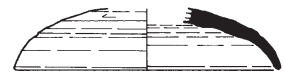


6

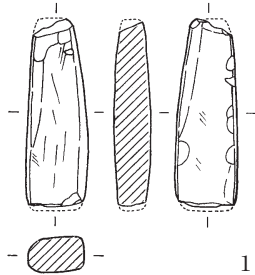
(第384号土坑)



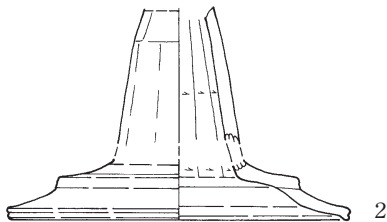
1



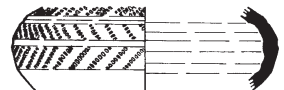
1



1



2



2

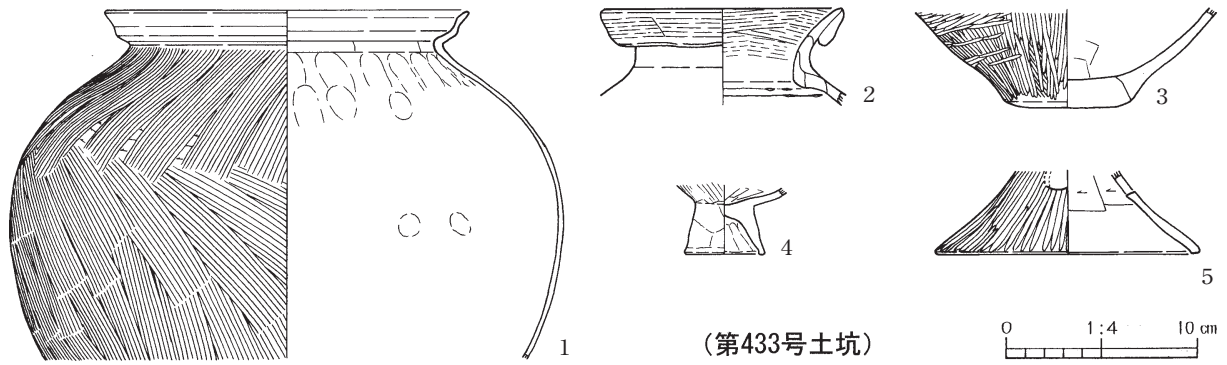
(第417号土坑)

(第418号土坑)

(第432号土坑)

0 1:4 10 cm

第127图 土坑出土遗物 (1)



第128図 土坑出土遺物(2)

第384号土坑出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径 18.8、器高 25.9、底部径 3.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ナデの後ヨコナデ、内面ナデ。胴部外面ケズリ、内面窺ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 上4/5。G. 外面煤付着。H. 覆土中。
2	甕	A. 口縁部径 20.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面中位と上端ヨコナデ、内面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窺ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 上半のみ。H. 覆土中。
3	小形台付甕	A. 口縁部径 (13.4)、推定高 (17.5)、台端部径 9.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面窺ナデ。台部内外面ヨコナデ。D. 白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 上半1/3、下半1/3、台部4/5。G. 胴部外面煤付着。H. 覆土中。
4	須恵器 坏	A. 口縁部径 (15.0)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。D. 片岩粒、白色粒。E. 内外-淡灰褐色。F. 口縁部1/3。G. 環元不良。H. 覆土中。
5	高台付碗	A. 口縁部径 (15.8)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面横方向の丁寧なミガキ。底部外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-暗橙褐色、内面-黒色。F. 口縁部小破片、体部下半のみ。G. 内面黒色処理。H. 覆土中。
6	高台付坏	A. 口縁部径 (12.6)、器高 5.5、高台部径 5.9。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 体部内外面回転ナデ。底部外面回転糸切り。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-淡褐色。F. 1/2。G. 環元不良。末野産。H. 覆土中。

第417号土坑出土遺物観察表

1	砥石	A. 全長 10.0、幅 3.2、厚さ 1.9。B. 削り。C. 各面とも研磨。D. 凝灰岩。F. 両端部欠損。G. 側面煤付着。H. 覆土中。
---	----	--

第418号土坑出土遺物観察表

1	高坏	A. 脚端部径 (14.4)。B. 粘土紐積み上げ。C. 脚柱部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 脚部1/3。H. 覆土中。
2	有段高坏	A. 脚端部径 (18.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 脚柱部外面ケズリの後ナデ、内面ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 脚部3/4。H. 覆土中。

第432号土坑出土遺物観察表

1	須恵器 坏 蓋	A. 口縁部径 (14.0)、器高 3.2。B. ロクロ成形。C. 口縁部内外面回転ナデ。天井部外面回転窺ケズリ。D. 白色粒。E. 内外-淡灰色。F. 口縁部1/10。G. 搬入品。H. 覆土中。
2	須恵器 壺	A. 胴部最大径 (14.0)。B. ロクロ成形。C. 胴部内外面回転ナデの後、外面に櫛歯による綾杉状の刺突文を施す。D. 白色粒。E. 内外-淡灰色。F. 胴部破片。H. 覆土中。

第433号土坑出土遺物観察表

1	S字状口縁 甕	A. 口縁部径 19.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ後ハケ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 上半1/2。G. 外面煤付着。H. 覆土中。
2	壺	A. 口縁部径 (12.8)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ハケの後ナデ。胴部内外面ナデ。D. 片岩粒、赤色粒、白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. 頸部1/2。H. 覆土中。
3	壺	A. 底部径 6.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ハケの後ミガキ、内面ナデ。底部外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-暗茶褐色、内-淡茶褐色。F. 底部1/2。H. 覆土中。
4	小形台付甕	A. 台端部径 4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ハケ、内面窺ナデ。台部内外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-暗茶褐色、内-淡茶褐色。F. 底部1/2。G. 底部外縁磨減顕著。H. 覆土中。
5	高坏	A. 脚端部径 14.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 脚部外面ナデの後ミガキ、内面上半ケズリ・下半ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-茶褐色。F. 脚部下半1/2。G. 脚部穿孔は4カ所の可能性が高い。H. 覆土中。

6. 溝 跡

第1号溝跡（第130図、図版20）

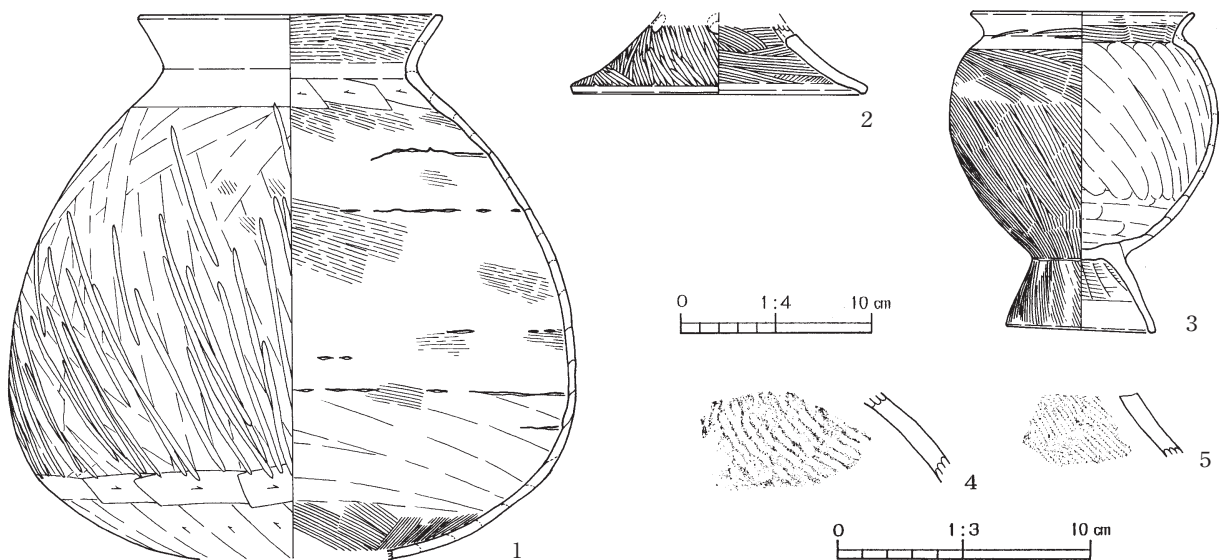
調査区の南端付近に位置し、重複する第10号住居跡を切っている。形態は、東西方向に向いて直線的な流路をとり、西側は隣接するB1地点の第1号溝跡と、東側は昭和57年度に調査した久下東遺跡第1地点の第3号溝跡と繋がっている。それによると本溝跡は、B1地点の第1号溝跡から東に向かって直線的に伸び、第1地点で南に向かって直角に曲がる区画を目的とした溝のようである。規模は、溝の上幅が65cmの比較的均一な幅で、確認面からの深さは最高で15cmある。溝の断面は、逆台形を呈し、底面は広く平坦である。

出土遺物は、覆土中から古代の土器の破片が少量出土しただけである。本溝跡の時期は、B1地点の第1号溝跡と同一の溝であることから、15世紀後半の中世後期と考えられる。

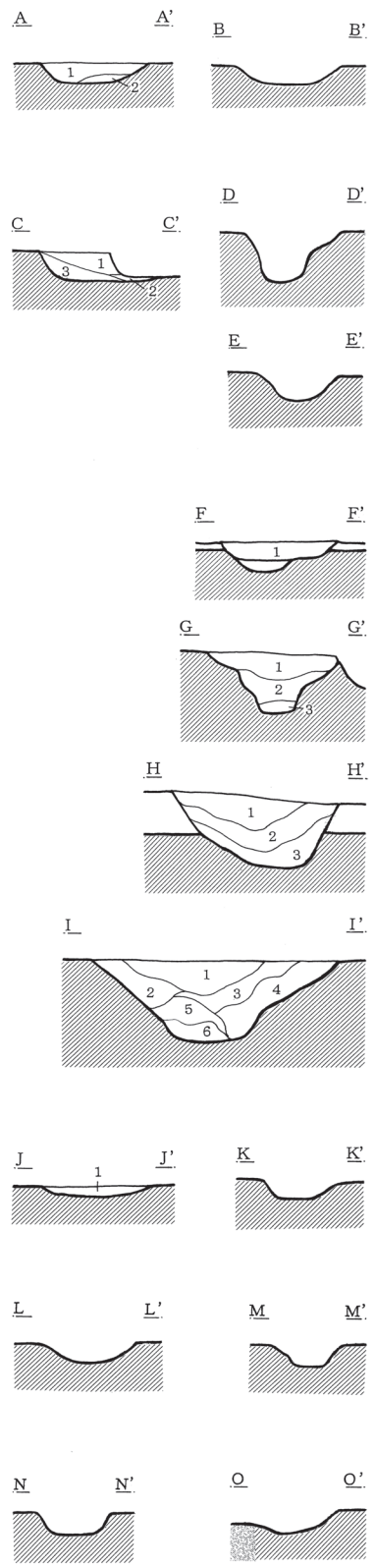
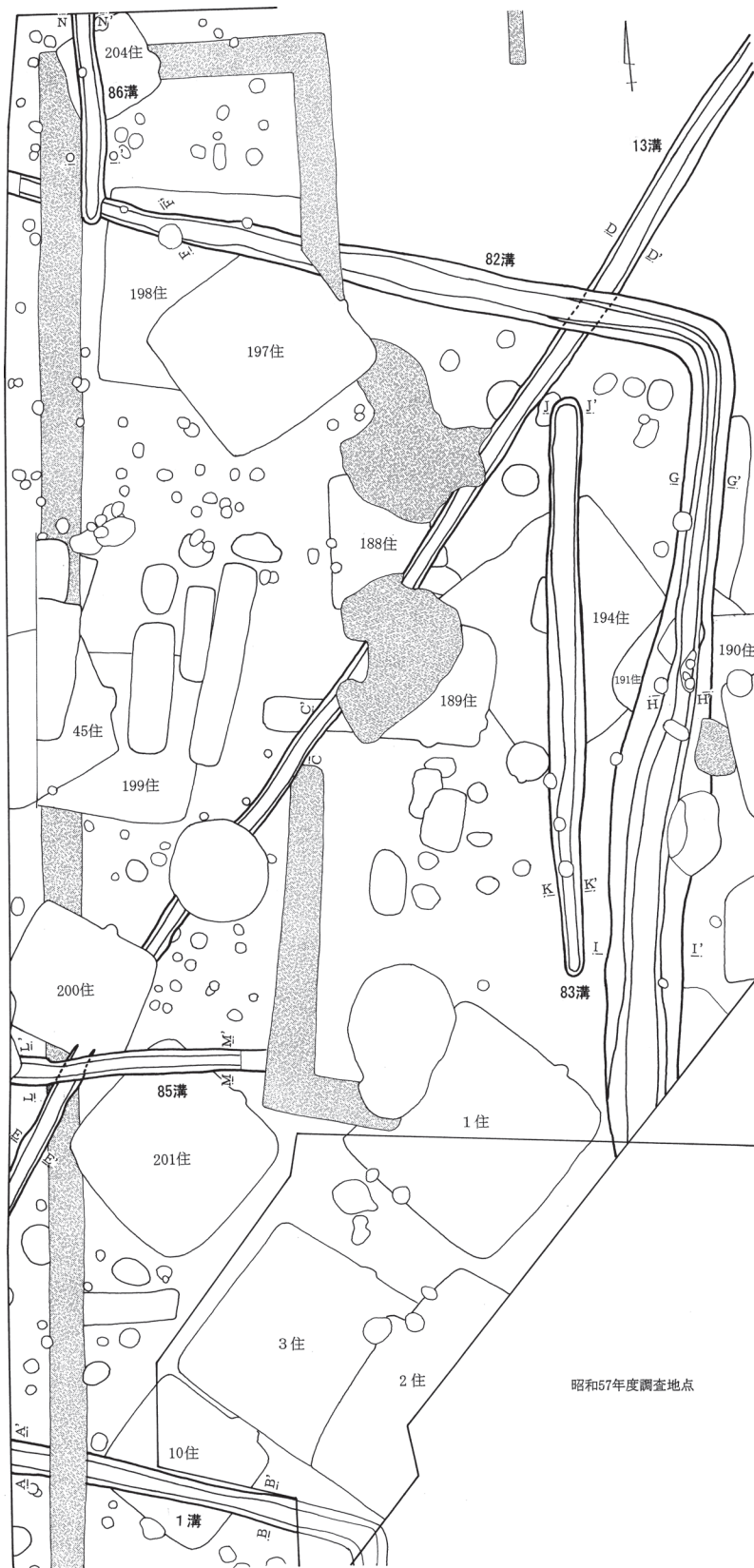
第13号溝跡（第130・133図、図版20）

調査区のほぼ中央を縦断し、重複する第188号住居跡・第200号住居跡・第433号土坑・第438号土坑・第399号土坑・第82号溝跡・第85号溝跡に切られている。形態は、南西から北東方向に向かって、ほぼ直線的な流路をとり、その北東側の延長は隣接する久下東遺跡C1地点(恋河内・的野2010)で、南西側の延長は隣接する久下東遺跡B1地点の第4号溝跡(松本・大熊他2009)として検出されている。規模は、溝の上幅が50cm～80cmの比較的均一な幅である。溝の断面は、逆台形状の整った形態で、確認面からの深さは20cm～30cmある。覆土は、ローム粒を含む暗褐色土を主体にしており、水が恒常的に流れていたような形跡は見られない。本溝跡は、おそらく土地の区画等を目的とした排水溝と思われる。

出土遺物は、覆土中から古墳時代前期の土器片が少量出土している(第129図)。本溝跡の



第129図 第13号溝跡出土遺物



昭和57年度調査地点

0 4m

0 1:60 2m

第130図 溝 跡 (1)

溝跡（1）土層説明

第1号溝跡土層説明（A-A'）

第1層：暗褐色土層（径0.1cmのローム粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。）

第2層：暗黄褐色土層（径1～1.5cmのロームブロックを多量含む。）

第13号溝跡土層説明（C-C'）

第1層：暗褐色土層（径0.1cm以下のローム粒を均一に少量含む。粘性、しまり共にあり。）

第2層：暗褐色土層（径1～2cmのロームブロックを含み、ローム粒を全体に含む。粘性、しまり共にあり。）

第3層：暗褐色土層（径0.5～1cmのローム粒を含む。粘性、しまり共にあり。）

第82号溝跡土層説明

（F-F'）

第1層：暗褐色土層（径1cmのローム粒を含む。粘性あり、しまりなし。）

（G-G'）

第1層：暗褐色土層（径0.2～0.4cmのローム粒を少量、径0.2cmの焼土粒、径0.3cmの炭化物粒を微量含む。粘性なし、しまりあり。）

第2層：暗褐色土層（径0.3～1cmのローム粒を含み、径0.1cmの焼土粒を微量含む。粘性なし、しまりあり。）

第3層：暗褐色土層（径2～3cmのロームブロックを多量含む。粘性なし、しまりあり。）

（H-H'）

第1層：黒褐色土層（炭化物を少量、径0.5cmのローム塊、焼土粒、浅間山系A軽石？を微量含む。粘性なし、しまりあり。）

第2層：暗褐色土層（径0.5cmのローム塊、ローム粒、炭化物、焼土粒を微量含む。粘性、しまり共になし。）

第3層：暗褐色土層（ローム粒を多量に含み、焼土粒を微量含む。粘性なし、しまりあり。）

（I-I'）

第1層：暗褐色土層（径0.3cmのローム粒を多量含む。粘性なし、しまりあり。）

第2層：暗褐色土層（径0.5～1.5cmのロームブロックを多量含む。粘性、しまり共にあり。）

第3層：暗褐色土層（径1～1.5cmのロームブロック少量、径0.2cmのローム粒を含む。粘性、しまり共にあり。）

第4層：暗褐色土層（径0.5～1cmのローム粒を多量含む。粘性、しまり共にあり。）

第5層：暗灰黄色土層（径0.3～0.5cmのローム粒を含む。粘性、しまり共にあり。）

第6層：オリブ褐色土層（径0.3cmのローム粒、径2～3cmの黒色土ブロックを含む。粘性、しまり共にあり。）

第83号溝跡土層説明（J-J'）

第1層：暗褐色土層（径0.1cmの焼土粒を少量、径0.1cmのローム粒を含む。粘性、しまり共にあり。）

時期は、B1地点の調査では、第4号溝跡の覆土上層中に浅間山系A軽石が少量見られたことから、近世以降とされたが(松本・大熊他2009)、今回のF1地点の調査でC1地点の第13号溝跡(恋河内・的野2010)に繋がる溝であることが判明し、覆土の状態や遺構の重複関係及び出土土器の様相から、古墳時代前期に遡る可能性が高い溝であることが明らかになった。

第13号溝跡出土遺物観察表

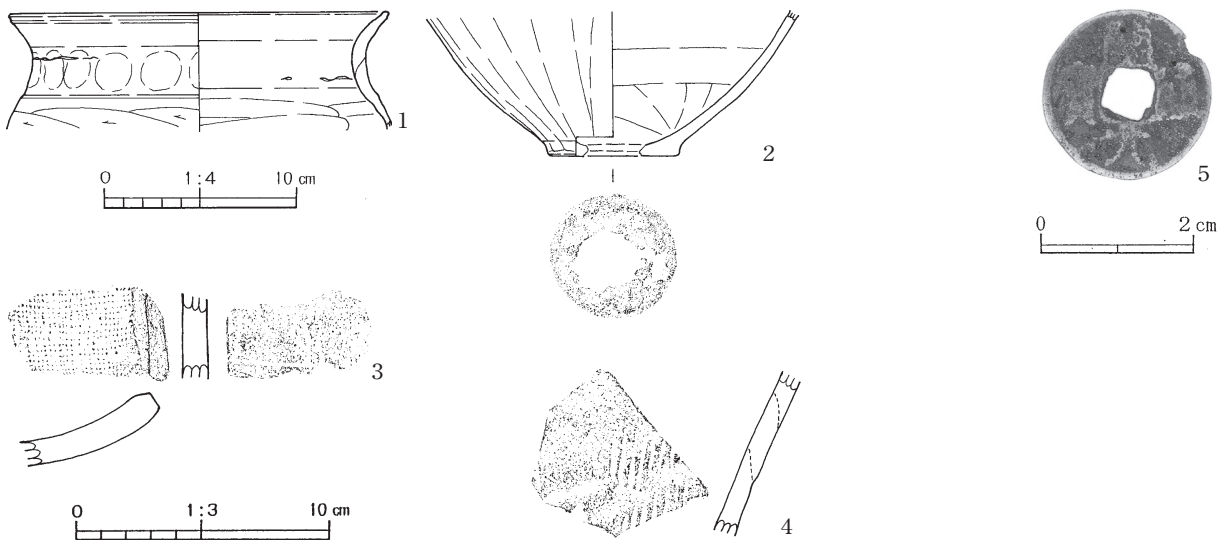
1	広口壺	A.口縁部径(16.0)、残存高28.7。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ハケの後ヨコナデ。胴部外面上半ハケの後ナデその後雑なミガキ、下半ケズリの後ナデ。胴部内面ハケの後ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-明茶褐色。F.1/3。H.覆土中。
2	高坏	A.脚端部径(15.6)。B.粘土紐積み上げ。C.脚部外面ミガキ、内面ハケ。D.白色粒。E.内外-明茶褐色。F.脚端部1/4。G.脚部穿孔は4カ所の可能性あり。H.覆土中。
3	台付甕	A.口縁部径(11.8)、器高17.0、台端部径7.9。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ハケの後ヨコナデ。胴部外面ナデの後ハケ、内面指ナデ。台部外面ハケの後部分的なナデ、内面ハケの後下半ヨコナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-明茶褐色。F.ほぼ完形。G.胴部外面煤附着。H.覆土中。
4	壺	B.粘土紐積み上げ。C.胴部外面無節縄文施文、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.外-暗橙褐色、内-暗灰色。F.胴部破片。H.覆土中。
5	壺	B.粘土紐積み上げ。C.胴部外面単節縄文(RL)施文、内面ナデ。D.赤色粒、白色粒。E.内外-淡褐色。F.胴部破片。H.覆土中。

第21号溝跡（第133図、図版21）

調査区の北東端に位置し、重複する第79号溝跡を切っている。調査区北側で東西方向に流

路をとる第78号溝跡と同一の溝と考えられるが、東西方向から南北方向に流路を変える部分から一段深くなっている。北側に隣接するC1地点では、弓状に湾曲して再び流路を東西方向に変えている。規模は、溝の上幅が調査区内では145cm前後の比較的均一な幅で、確認面からの深さは80cm前後ある。断面の形態は、底面がやや狭い薬研堀風の逆台形を呈している。

出土遺物は、覆土中から古代の土師器や須恵器の破片が少量と、中世前期の白磁碗・山茶碗窯系の片口鉢・常滑窯系の甕の破片(No4)が1片ずつ出土している。この他に土器や陶磁器以外では、古代の平瓦の破片(No3)と古銭の開元通宝(No5)が1点ずつ出土している(第131図)。なお、北側隣接地のC1地点では、古代の土師器・須恵器・灰釉陶器の破片とともに、中世前期の龍泉窯系青磁碗や山茶碗窯系片口鉢の破片が出土している(恋河内・的野2010)。本溝跡の時期は、覆土の状態や出土遺物から、中世以降と考えられる。



第131図 第21号溝跡出土遺物

第21号溝跡出土遺物観察表

1	甕	A. 口縁部径(20.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ナデのケズリ、内面指ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外-淡茶褐色。F. 口縁部1/4。H. 覆土中。
2	壺	A. 底部径(7.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部内外面縦ナデ。底部外面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-明茶褐色。F. 胴部下半1/4。G. 焼成後に底部穿孔を施す。H. 覆土中。
3	平瓦	A. 残存長(3.5)、残存幅5.7、厚さ1.0。B. 不明。C. 凸面ナデ。凹面布目圧痕を残す。D. 白色粒。E. 凹凸-暗灰色。F. 破片。H. 覆土中。
4	常滑窯系甕	B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ナデの後押印文を施す。内面ナデ。D. 白色粒。E. 外-暗茶褐色、内-暗灰褐色。F. 胴部破片。H. 覆土中。
5	古銭	A. 直径2.2。B. 铸造。D. 銅製。F. 完形。G. 「開元通宝」(621年初铸)。裏面無文。全体に磨滅している。H. 覆土上面。

第23号溝跡(第133図、図版21)

調査区の北東端に位置し、重複する第381号土坑に切られている。調査区内では南北方向に直線的な流路を取っており、おそらく南側の第80号溝跡か第81号溝跡と同一の溝と思われる。北側に隣接するC1地点では、本溝跡の北側延長部分は北西方向に向かって流路を変えている。規模は、溝の上幅が70cm~75cmの比較的均一な幅で、確認面からの深さは10cm程度ある。

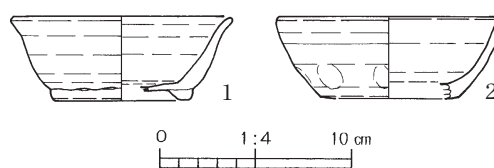
溝の断面は、底面が広く平坦な箱堀状の逆台形を呈している。

遺物は、何も出土しなかった。本溝跡の時期は、中世以降と思われる。

第78号溝跡（第133図、図版21）

調査区の北側に位置し、重複する第15・17号井戸跡・第389号土坑・第13・80・81号溝跡を切り、第381号土坑に切られている。調査区内では東西方向に向いて直線的な流路をとり、東側で第21号溝跡と合流して直角的に南北方向に流路を変えている。そして北側に隣接するC1地点では、弓状に湾曲して再び流路を東西方向に変えている。規模は、溝の上幅が80cm～130cmの比較的均一な幅で、確認面からの深さは35cm前後ある。断面の形態は、底面がやや狭い葉研堀風の逆台形を呈している。

出土遺物は、覆土中から古墳時代前期から平安時代中期の土師器や須恵器の破片が少量出土しただけである。本溝跡の時期は、本溝跡と同一の第21号溝跡と同じく、中世以降と考えられる。



第132図 第78号溝跡出土遺物

第78号溝跡出土遺物観察表

1	高台付 坏	A. 口縁部径 (12.0)、器高 4.4、高台部径 (7.4)。B. ロクロ成形。高台部貼り付け。C. 内外面回転ナデ。 D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡灰褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
2	坏	A. 口縁部径 (12.0)、器高 4.3、底部径 (7.2)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデ。 D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. 1/4。H. 覆土中。

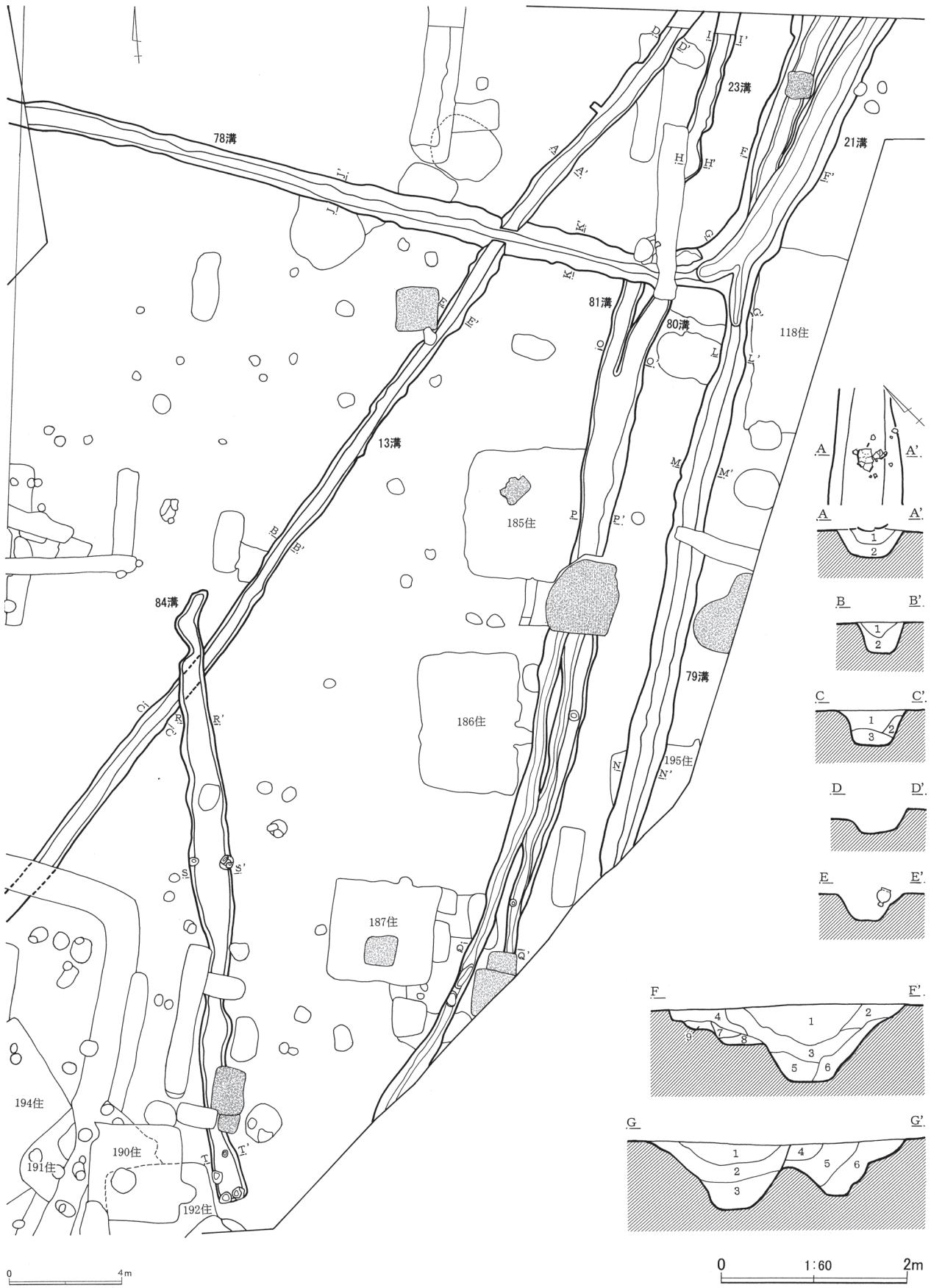
第79号溝跡（第133図、図版21）

調査区の北東側に位置し、重複する第385号土坑と第21号溝跡に切られ、第118号住居跡・第195号住居跡・第384号土坑を切っている。調査区内では南北方向に向いて直線的な流路をとり、西側の第80・81号溝跡と2m～2.5m程度の間隔を保って並走している。本溝跡の北側延長部分は、北側に隣接するC1地点の第22号溝跡と考えられ、そこでは第80・81号溝跡と同一の溝と考えられる第23号溝跡とともに北西方向に流路を変えている。規模は、溝の上幅が120cm～140cmの比較的均一な幅で、確認面からの深さは40cm前後ある。断面の形態は、底面が平坦な箱堀状の逆台形を呈している。

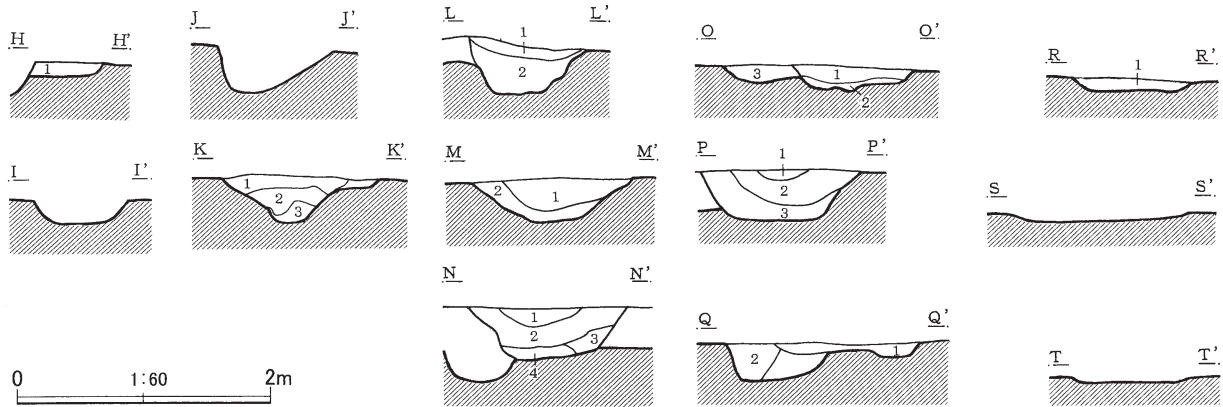
出土遺物は、覆土中から古代の土師器や須恵器の破片が少量出土している。この他では、時期不明の羽口の破片が1片見られる。本溝跡の時期は、時期を特定できる遺物や鍵層が見られないため明確にできないが、古代の竪穴式住居跡をすべて切っていることから、中世以降と考えられる。

第80号溝跡（第133図、図版21）

調査区の東側に位置し、重複する第381号土坑に切られ、第81号溝跡を切っている。調査区内では南北方向に向いて直線的な流路をとり、東側の第79号溝跡と一定の間隔を保って並走



第133図 溝 跡 (2)



第134図 溝 跡 (3)

溝跡 (2) (3) 土層説明

第13号溝跡土層説明

<A-A'>

- 第1層：暗褐色土層 (径0.1cmのローム粒を少量含む。粘性、しまり共になし。)
- 第2層：黒褐色土層 (径2~3cmのロームブロックを含み、径0.1cmのローム粒を少量含む。粘性、しまり共になし。)

<C-C'>

- 第1層：暗褐色土層 (径0.1cm以下のローム粒を均一に少量含む。粘性、しまり共にあり。)
- 第2層：暗褐色土層 (径1~2cmのロームブロックを含み、ローム粒を全体に含む。粘性、しまり共にあり。)
- 第3層：暗褐色土層 (径0.5~1cmのローム粒を含む。粘性、しまり共にあり。)

第21号溝跡土層説明

<F-F'>

- 第1層：暗褐色土層 (径0.1cmのローム粒を多量含む。粘性、しまり共になし。)
- 第2層：暗褐色土層 (第1・3層よりやや暗い。粘性、しまり共になし。)
- 第3層：暗褐色土層 (径0.1cmのローム粒を多量含む。粘性、しまり共にあり。)
- 第4層：暗褐色土層 (径0.5~1cmのローム粒を含む。粘性、しまり共になし。)
- 第5層：暗褐色土層 (径0.3~0.5cmのローム粒を含む。粘性、しまり共になし。)
- 第6層：暗黄褐色土層 (径0.5~3cmのロームブロックを含む。粘性、しまり共になし。)
- 第7層：黒褐色土層 (径0.5cmのローム粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。)
- 第8層：暗褐色土層 (径0.5~1cmのローム粒を含む。粘性なし、しまりあり。)
- 第9層：暗褐色土層 (径1~3cmのロームブロックを多量含む。粘性なし、しまりあり。)

第21・79号溝跡土層説明

<G-G'>

- 第1層：暗褐色土層 (浅間山系A軽石、径1cmのローム粒を少量、径0.5cmの礫を含む。粘性、しまり共にあり。)
- 第2層：暗褐色土層 (径0.3~0.5のローム粒、径5~10cmの礫を少量含む。粘性、しまり共にあり。)
- 第3層：暗褐色土層 (径0.5~1.5cmのローム粒を含む。粘性、しまり共にあり。)
- 第4層：暗褐色土層 (ローム粒を均一に含む。粘性、しまり共にあり。)
- 第5層：暗褐色土層 (ローム粒を多量含む。粘性あり、しまりなし。)
- 第6層：暗黄褐色土層 (ローム粒を含む。粘性あり、しまりなし。)

第23号無溝跡土層説明

<H-H'>

- 第1層：暗褐色土層 (径0.5~2cmのロームブロックを多量含む。粘性、しまり共にあり。)

第78号溝跡土層説明

<K-K'>

- 第1層：暗褐色土層 (径0.3cmのローム粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。)
- 第2層：黒褐色土層 (径0.5~0.7cmのローム粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。)
- 第3層：暗褐色土層 (径0.5~3cmのロームブロックを多量含む。粘性なし、しまりあり。)

第79号溝跡土層説明

<L-L'>

- 第1層：暗褐色土層 (径0.5cmのローム粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。)
- 第2層：暗褐色土層 (径1cmのローム粒を多量含む。粘性なし、しまりあり。)

<M-M'>

- 第1層：暗褐色土層 (径0.5cmのローム粒を少量含む。粘性あり、しまりなし。)
- 第2層：暗褐色土層 (径1~2cmのロームブロックを含む。粘性あり、しまりなし。)

<N-N'>

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒、白色粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒を多量含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第3層：暗褐色土層（ローム粒、ロームブロックを含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第4層：暗褐色土層（ローム粒を多量含む。粘性なし、しまりあり。）

第80・81号溝跡土層説明

<O-O'>

<第80号溝跡>

- 第1層：暗赤褐色土層（径0.1cmのローム粒子を含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第2層：暗赤褐色土層（径1～3cmのロームブロックを多量含む。粘性なし、しまりあり。）

<第81号溝跡>

- 第3層：暗褐色土層（径1～1.5cmのロームブロックを少量含む。粘性、しまり共にあり。）

<P-P'>

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒を少量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒、鉄分を多量含む。粘性なし、しまり強い。）
- 第3層：暗褐色土層（ロームブロック、焼土粒を少量含む。粘性なし、しまりあり。）

<Q-Q'>

- 第1層：暗赤褐色土層（径0.1～0.3cmのローム粒を含む。粘性なし、しまりあり。）
- 第2層：暗褐色土層（径0.5cmのローム粒均一に含む。粘性なし、しまりあり。）

第84号溝跡土層説明

<R-R'>

- 第1層：暗褐色土層（径0.3cmのローム粒を含む。粘性、しまり共にあり。）

している。規模は、溝の上幅が40cm～100cmで、確認面からの深さは10cm～20cmある。断面の形態は、底面が広く平坦な箱堀状の逆台形を呈している。

出土遺物は、覆土中から古代の土師器や須恵器の破片が少量出土しただけである。本溝跡の時期は、時期を特定できる遺物や鍵層が見られないため明確にできないが、第79号溝跡と並走していることから、それと近時した時期と思われる。

第81号溝跡（第133図、図版21）

調査区の東側に位置し、重複する第78号溝跡と第80号溝跡に切られ、第185号住居跡・第186号住居跡・第411号土坑を切っている。調査区内では南北方向に向いて直線的な流路をとっているが、南端はやや西側に流路が向いている。その南側の延長には、昭和57年度に調査した第1地点の第2号溝跡があり、あるいはそれと同一の溝である可能性も考えられる。規模は、溝の上幅が50cm～70cmで、確認面からの深さは20cm～40cmある。断面の形態は、底面はやや狭く細かな凹凸をもつ、箱堀状の逆台形を呈している。

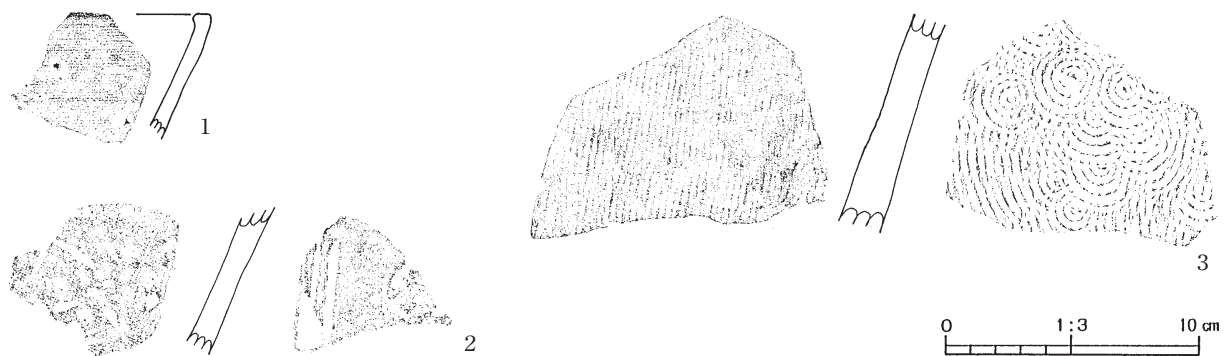
出土遺物は、覆土中から古代の土師器や須恵器の破片が少量出土しただけである。本溝跡の時期は、時期を特定できる遺物や鍵層が見られないため明確にできないが、遺構の重複関係から見て、中世以降と思われる。

第82号溝跡（第130図、図版21）

調査区の中央部に位置し、重複する古代の住居跡を切り、第407号土坑に切られている。溝の北西端で重複している第86号溝跡との新旧関係は不明である。調査区内では、北側は東西方向に向いて直線的な流路をとり、その東端ではほぼ直角に曲がって南に流路を変えている

が、この北側の部分と東側の部分では、溝の形態や規模が異なっている。規模は、溝の上幅が北側で60cm～130cm、東側で120cm～270cmある。確認面からの深さは、北側の東西方向に向く部分は浅く15cm程度で、東側の南北方向に向く部分は南に向かって徐々に深くなり南端で最高66cmある。断面の形態は、北側の東西方向に向く部分は底面が広く平坦な箱堀状の逆台形であるが、東側の南北方向に向く部分は底面がやや狭い薬研堀状の逆台形を呈している。

出土遺物は、覆土中から古代の土師器や須恵器の破片が少量と、15世紀末～16世紀初頭頃の内耳鍋や播鉢の破片が1片ずつ出土しただけである(第135図)。本溝跡の時期は、覆土の状態や出土遺物の様相から、15世紀末の中世後期以降と考えられる。



第135図 第82号溝跡出土遺物

第82号溝跡出土遺物観察表

1	内 耳 鍋	B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 外-黒褐色、内-淡褐色。F. 口縁部破片。G. 環元不良。H. 覆土中。
2	播 鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部内外面ナデ。D. 白色粒。E. 内外-淡灰色。F. 胴部破片。G. 内面に挿り目を施す。内面は良く擦れている。H. 覆土中。
3	須 恵 器 甕	B. 粘土紐積み上げ後叩き。C. 胴部外面に平行叩き目、内面に当道具痕(青海波文)を残す。D. 白色粒。E. 内外-灰色。F. 胴部破片。H. 覆土中。

第83号溝跡 (第130図、図版21)

調査区中央部の第82号溝跡の内側に位置する。おそらく、重複する第194号住居跡よりも新しいと思われる。形態は、南北方向に向いて直線的な流路をとっており、南北両端は途切れている。規模は、全長16m、溝の上幅が南側で55cm・北側で90cmあり、確認面からの深さは南側で15cm・北側で10cmある。断面の形態は、底面が広い逆台形を呈しているが、底面は一定ではなく緩やかな起伏が見られる。

出土遺物は、覆土中から古代の土師器や須恵器の破片が少量出土しただけである。本溝跡の時期は、時期を特定できる遺物や鍵層が見られないため明確にできないが、流路が第82号溝跡に規制されていることから、15世紀末以降の第82号溝跡掘削以後と考えられる。

第84号溝跡 (第133図、図版21)

調査区の中央部に位置し、重複する第13号溝跡を切り、第402・403・405号土坑に切られ

ている。形態は、南北方向に向いて直線的な流路をとっており、南北両端は途切れている。規模は、全長22m、溝の上幅70cm～150cmあり、確認面からの深さは最高で10cm程度ある。断面の形態は、底面が広く細かな凹凸が見られ、壁はかなり緩やかに立ち上がっている。

出土遺物は、覆土中から古代の土師器や須恵器の破片が少量出土しただけである。本溝跡の時期は、時期を特定できる遺物や鍵層が見られないため、不明である。

第85号溝跡（第130図、図版21）

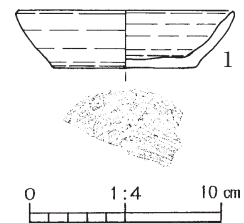
調査区の南側に位置し、重複する第200号住居跡・第201号住居跡・第13号溝跡を切っている。形態は、調査区内では東西方向に向いてほぼ直線的な流路を取っており、北泉中部土地改良事業以前の地表面に見られた旧地割りと一致している。規模は、溝の上幅が50cm～80cmあり、確認面からの深さは18cm程度ある。断面の形態は、底面が広く平坦な、逆台形を呈している。

出土遺物は、覆土中から古代の土師器や須恵器の破片が少量出土しただけである。本溝跡の時期は、時期を特定できる遺物や鍵層が見られないため明確にできないが、北泉中部土地改良事業以前の旧地割りと一致していることから、近現代の所産と考えられる。

第86号溝跡（第130図、図版21）

調査区中央部の西端に位置し、重複する第200号住居跡を切っている。本溝跡の南端で重複している第82号溝跡との新旧関係は不明である。形態は、調査区内では南北方向に向いて直線的な流路をとっており、南端は第82号溝跡と重複する部分で途切れるようである。規模は、溝の上幅が60cm～70cmの比較的均一な幅で、確認面からの深さは17cm程度ある。断面の形態は、底面が広く平坦な、逆台形を呈している。

出土遺物は、覆土中から古代の土師器や須恵器の破片とともに、中世のかわらけの破片(第136図No 1)が出土している。本溝跡の時期は、遺構の重複関係や出土遺物から、中世後期以降と考えられる。

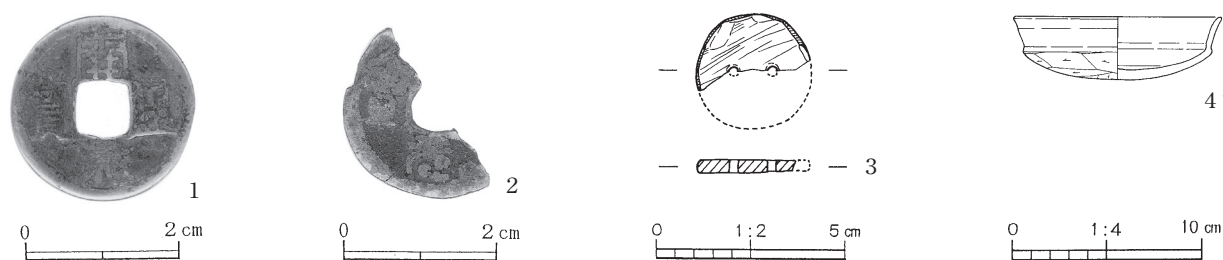


第136図 第86号溝跡
出土遺物

第86号溝跡出土遺物観察表

1	かわらけ	A. 口縁部径 (11.5)、器高 3.0、底部径 (7.7)。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部外面木口状工具によるナデ。D. 赤色粒、白色針状、白色粒。E. 内外-暗茶褐色。F. 1/4。H. 覆土中。
---	------	--

7. 調査区内出土の遺物



第137図 調査区内出土遺物

調査区内出土遺物観察表

1	古 銭	A. 直径 2.4。B. 鑄造。D. 銅製。F. 完形。G. 「開元通宝」(621年初鑄)。裏面無文。H. 調査区中央部表土層。
2	古 銭	A. 直径 2.4。B. 鑄造。D. 銅製。F. 1/2。G. 「□元□宝」。裏面無文。H. 調査区南側確認面。
3	石製模造品 (有孔円盤)	A. 直径 3.0、厚さ 0.3。C. 表裏面・側面とも丁寧な研磨。D. 緑色片岩。F. 1/2。H. 調査区中央部表土層。
4	坏	A. 口縁部径 (11.0)、器高 3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。D. 赤色粒、白色粒。E. 内外-淡橙褐色。F. 1/2。H. 表土層。



第Ⅵ章 ま と め

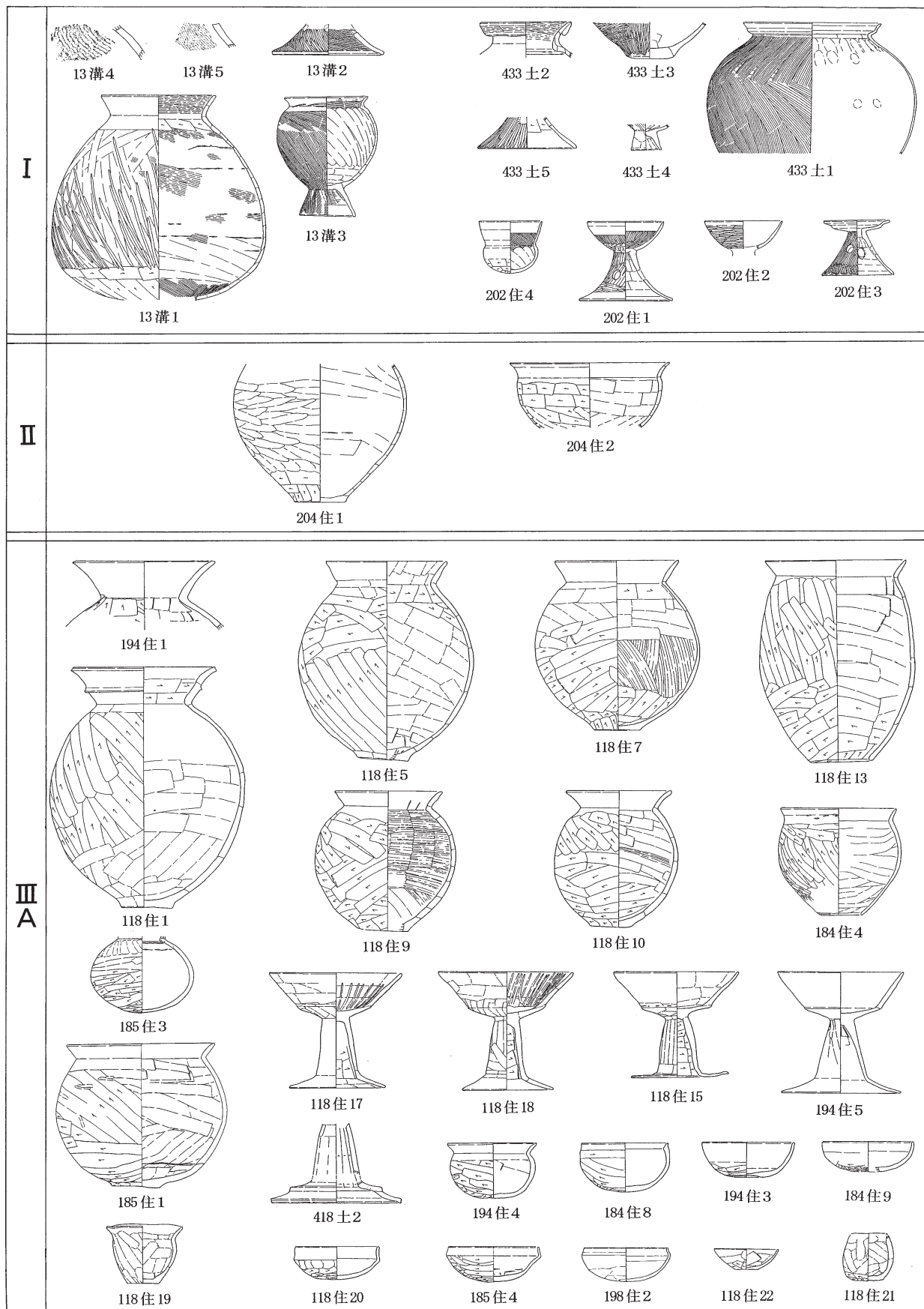
第1節 久下東遺跡F1地点出土の古代土器の様相

久下東遺跡F1地点で検出された古代の遺構から出土した土器は、4世紀代の古墳時代前期から10世紀代の平安時代中期にわたるものである。これらの土器は、従来の土器型式の区分に合わせて、Ⅰ期(五領式・石田川式)、Ⅱ期(和泉式)、Ⅲ期(鬼高式)、Ⅳ期(真間式)、Ⅴ期(国分式)に大別でき、このうちⅢ期はA・B・C、Ⅳ期はA・B、Ⅴ期はA・Bにとりあえず細別することができる。以下、時期毎に土器の様相について説明を行う。

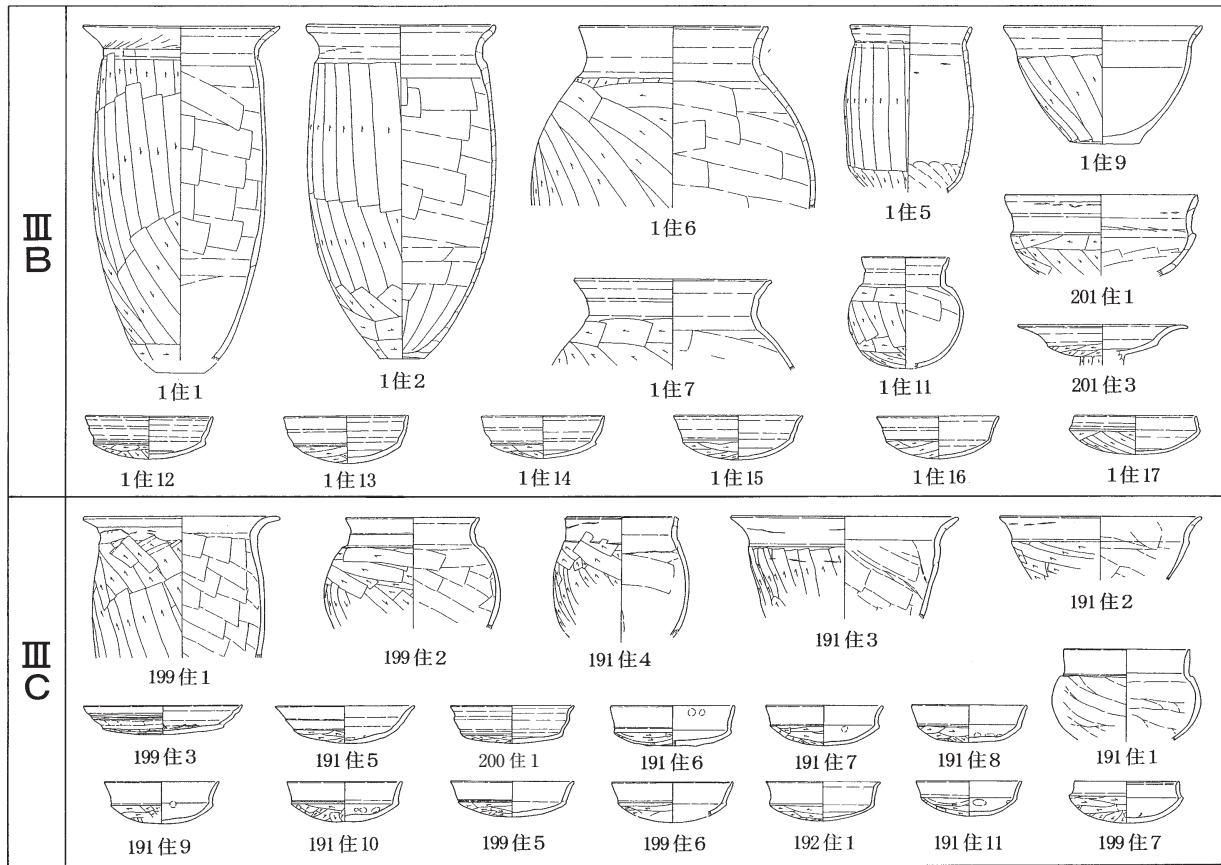
<Ⅰ期> 第13号溝跡・第202号住居跡・第433号土坑の出土土器が該当する。第13号溝跡は第433号土坑に切られており、出土土器も他に比べてやや古相を呈すると思われる。第13号溝跡出土土器は、壺・台付甕・高坏が見られる。No4とNo5の壺の破片は、胴部に縄文を横位施文した文様をもつもので、縄文原体の特徴から、No4は在地の吉ヶ谷式系、No5は吉ヶ谷式系か南関東系と考えられる。No1の広口壺は、当地域では一般的に見られるものではなく、その系譜は不明である。No3の小形の台付甕は、その形態的特徴から南関東地方の系譜を引くものと思われるが、胴部内面に斜方向の指ナデと台部外面に縦方向のスリット状のナデを施しており、その器表面の調整技法に一部S字状口縁台付甕の影響が認められる。第204号住居跡と第433号土坑の出土土器は、器形の全容が分かるものは少ないが、複合口縁壺・S字状口縁台付甕・小形台付甕・高坏・器台・小形直口壺が見られる。第433号土坑No2の折り返し状の複合口縁壺は、頸部が短く広口状で、複合口縁の幅がやや広めであることから、パレス壺の系譜を引くものかもしれない。No1のS字状口縁台付甕は、S字甕D類並行期の胴部篋ケズリの後にハケを施す当地域で一般的な上野型のS字甕である。第202号住居跡No4の小形直口壺は、胴部内面に斜方向の左回りの指ナデ整形が施されており、該期の一般的なものとは異なった新しい技法的特徴が認められる。

<Ⅱ期> 第204号住居跡出土土器が該当する。出土遺物が少なく、器形の全容が分かるものがないため明確ではないが、No1の甕は器肉が薄く、外面調整もケズリの後にナデを加えるなど、ⅢA期の甕よりも古いと考えられる。

<ⅢA期> 第118号住居跡・第184号住居跡・第185号住居跡・第194号住居跡・第198号住居跡・第418号土坑出土土器が該当する。器種は、壺・甕・甑・鉢・高坏・坏・小形土器などが見られる。壺は、二重口縁壺(第118号住居跡No1)・単純口縁壺(第194号住居跡No1)・中形直口壺(第185号住居跡No3)がある。二重口縁壺は、胴部が長胴化したもので該期まで存在する。単純口縁壺は、口縁部の長さで頸部の収縮の差によるが、その形状や使用状況においては、甕との区別が不明瞭である。中形直口壺は、胴部の扁平化が進行したものである。甕は、大・中の法量差が認められる。第118号住居跡では、形状は胴部の張りがまだ強く、長胴化があまり顕著でないものが主体である。甑は、大形甑(第118号住居跡No12・13)



第138図 久下東遺跡F1地点出土土器の時期区分(1)



第139図 久下東遺跡F 1地点出土土器の時期区分（2）

と小形甕(第184号住居跡No 4)が見られる。大形甕は、いずれも樽形のもので、以後定型化する砲弾形は見られない。小形甕は、口縁部が外反し胴部が張る小形の甕形を呈するものである。鉢は、大形のもの(第185号住居跡No 1)と小形のもの(第118号住居跡No 19)が見られるが、古墳時代の鉢形土器には、大形・小形のものに法量分化などの有機的な関係はない。大形のは、該期にのみ見られる特徴的な形態のもので、Ⅲ B期・Ⅲ C期の大型鉢(鈴木1993)とは法量や形態が全く異なる。高坏は、和泉型高坏と有段高坏が見られる。和泉型高坏は、口縁部径が18cm前後、器高が16cm前後の小形化したものが主体で、坏部内面に放射状暗文を施すものも多い。有段高坏(第184号住居跡No 7)は、当地域では間違いなく該期まで残存する。坏は、模倣坏(第118号住居跡No 20・第185号住居跡No 4・第198号住居跡No 2)・和泉型坏(第194号住居跡No 4)・内斜口縁坏(第184号住居跡No 8)・半球形の坏(第184号住居跡No 4・第194号住居跡No 3)などが見られる。この中の模倣坏は、短めの口縁部が直立もしくは内傾する丸底形態で、まだ須恵器の形態的模倣度が低い段階のものである。

<Ⅲ B期> 第1号住居跡・第201号住居跡出土土器が該当する。器種は、甕・小形壺・大形鉢・高坏・坏が見られる。甕は、長胴甕・胴張甕・小形甕が見られる。長胴甕(第1号住居跡No 1～4)は、口縁部に最大径をもち、胴部があまり張らず、底部は突出部がケズリ落されて突出しない形態のもので主体である。胴張甕(第1号住居跡No 6～8、第201号住居跡No 2)は、胴部が強く張る形態のものが多い。大形鉢は、鉢形のもの(第1号住居跡No 9・

10)と坏形(第201号住居跡No1)のものが見られる。坏は、口縁部径が13cm前後の模倣坏で、坏蓋形の有段口縁坏(第1号住居跡No12~14・16)や単純口縁坏(第1号住居跡No12~15)と、坏身形模倣坏(第1号住居跡No17)が見られる。

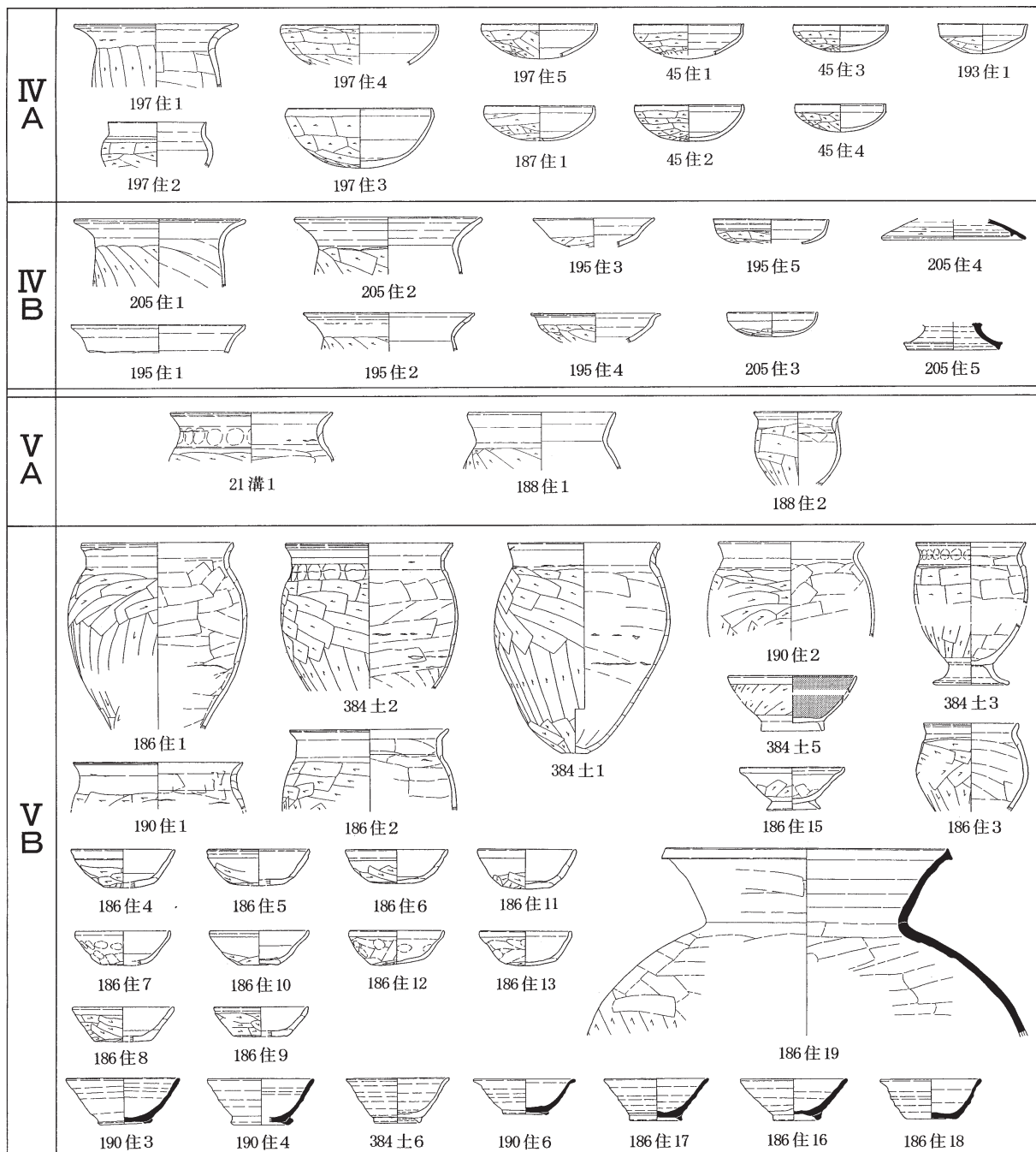
<ⅢC期> 第191号住居跡・第192号住居跡・第199号住居跡・第200号住居跡出土土器が該当する。大形甗・大形鉢・有段口縁坏の形態差からⅢB期と分離して考えたが、あまり時間差はないかもしれない。器種は、甗・大形甗・鉢・坏が見られる。甗は、長胴甗(第199号住居跡No1)・小形甗(第191号住居跡No4)がある。大形甗(第191号住居跡No3)は、胴部が長く直線的な形態になると思われる。鉢は、大形鉢(第191号住居跡No2)と鉢(第191号住居跡No1)があり、大形鉢は器高が低くなり、底部は丸底ぎみの形態になるものと思われる。坏は、坏蓋形の有段口縁坏(第191号住居跡No5、第199号住居跡No3、第200号住居跡No1)や単純口縁坏(第191号住居跡No6~11、第192号住居跡No1、第199号住居跡No5・6・8)と、坏身形模倣坏(第199号住居跡No4・7)がある。有段口縁坏は、口縁部の外傾や体部の扁平が強い形態である。単純口縁坏は、口縁部径12cm程度のものが主体で、口縁部がやや短く外反するものが多い。

<ⅣA期> 第45号住居跡・第187号住居跡・第193号住居跡・第197号住居跡出土土器が該当する。器種は、甗・広口短頸壺・坏が見られる。甗(第197号住居跡No1)は、最大径を口縁部にもち、胴部上半に縦方向の篋ケズリを施すものである。坏は、内屈口縁坏と模倣坏がある。内屈口縁坏は、大(第197号住居跡No3・4)・中(第187号住居跡No1、第197号住居跡No5、第45号住居跡No2)・小(第45号住居跡No3・4)の法量分化が認められ、口縁部が短く内屈もしくは直立ぎみの形態のものが多い。模倣坏(第193号住居跡No1)は、口縁部径が11cm程度の坏蓋形で、口縁部が短めの形態のⅢ期からの系譜を引くものである。

<ⅣB期> 第195号住居跡・第205号住居跡出土土器が該当する。器種は、甗・皿・坏と、須恵器の蓋・高台付壺が見られる。甗(第195号住居跡No1・2、第205号住居跡No1・2)は、口唇部内側に弱い稜を持ち、胴部上半に斜方向の篋ケズリを施すものである。皿(第195号住居跡No3・4)は、口縁部径が15cm程度の小ぶりのものである。坏(第195号住居跡No5、第205号住居跡No3)は、口縁部がやや長めに直立する形態のものである。須恵器蓋(第205号住居跡No4)は、やや大ぶりで内面に返りを持つものである。

<ⅤA期> 第188号住居跡出土土器が該当し、第21号溝跡出土No1の甗も該期のもと考えられる。器種は、甗と小形台付甗が見られる。甗(第188号住居跡No1、第21号溝跡出土No1)は、いわゆる口縁部の断面形態が「コ」の字を呈するもので、口縁部上半の屈曲部以上が長めの形態である。

<ⅤB期> 第186号住居跡・第190号住居跡・第384号土坑出土土器が該当する。器種は、甗・小形台付甗・高台付壺・高台付坏・坏と、須恵器の大甗・高台付坏・坏が見られる。甗は、口唇部外面に平坦面をもつ「コ」の字甗(第186号住居跡No1、第190号住居跡No1、第



第140図 久下東遺跡F1地点出土土器の時期区分(3)

384号土坑No2)と、「コ」の字甕の直立していた口縁部下半が強く内傾したために口縁部が「く」の字状に見える甕(第190号住居跡No2、第384号土坑No1)がある。小形台付甕(第186号住居跡No3、第384号土坑No3)も、形状は該期の「コ」の字甕と同じである。高台付碗(第384号土坑No5)は、内面を黒色処理したもので、体部外面を篋ケズリにより器肉を薄く仕上げている。高台付坏(第186号住居跡No15)は、該期の坏に高台を貼り付けたものであるが、高台は須恵器のものと異なって細くやや長い。坏は、口縁部径が12cm程度で、体部がやや内湾ぎみに開き、体部外面下半を篋ケズリするもの(第186号住居跡No4~6・11)、体

部が直線的に開き底部平底で、体部外面を篋ケズリするもの(第186号住居跡No8・9)、体部がやや内湾ぎみに開いて口縁部を摘み上げ、体部外面下半を篋ケズリするもの(第186号住居跡No7・10・12~14)の三者が見られる。須恵器坏(第186号住居跡No18)は、口縁部径が12cm~13cm程度の口縁部が丸く外反する形態である。須恵器高台付坏(第186号住居跡No16・17、第190号住居跡No3~6、第384号土坑No6)は、体部が直線的もしくは内湾ぎみに開く坏に、低く太い潰れたような高台が付いたものである。

以上、久下東遺跡F1地点から出土した古代の土器をI期~V期に大別し、その中で時期差が考えられるものについては細別を行ったが、これ以外に単独や混入として出土した単体の土器の中には、時期の特定が困難なものもいくつかある。それらについては、単体の土器でも編年の位置が明確にできるような、器種毎の系譜による緻密な型式組列を整備して、その時期的な位置付けを考えていかなければならない。また、I期~V期内の空白期については、当然ながら集落内での時期的な中心の移動や盛衰も考えられるため、今後の本遺跡の発掘調査資料の整理作業の進展により、集落全体の時期的な動態を把握していく必要がある。

各時期の実年代については、概ねI期を4世紀頃、II期を5世紀前半、III A期を5世紀後半、III B期とIII C期を6世紀後半~7世紀初頭頃、IV A期を7世紀後半、IV B期を7世紀末~8世紀初頭頃、V A期を9世紀前半、V B期を10世紀前半に想定しておきたい。

第2節 中世の出土土器・陶磁器の様相

今回報告する久下前遺跡D1地点と久下東遺跡F1地点では、中世の井戸跡・土坑・溝跡などの遺構から、貿易陶磁器・国産陶器・在地産土器が出土している。時期的には、中世前期に属するものは、貿易陶磁器の白磁と青磁や、国産陶器の常滑窯系製品、在地産片口鉢の破片などが数片見られるだけで、ほとんどが後期の15世紀以降のものである。以下、種類毎にその概要を述べる。

<貿易陶磁器> 中国産の白磁碗と青磁碗が出土しているが、量的には非常に少なく、いずれも小破片である。

白磁碗(久下東F1第17号井戸跡No1)は、体部内面の下端に細い沈線による浅い段をもち、櫛描による文様を施したもので、白磁碗V-4b類(横田・森田1978)に類似する。時期は、12世紀後半頃と考えられる。

青磁碗(久下前D1第20号井戸跡No7)は、体部外面に鎬蓮弁文を施す龍泉窯系青磁碗I-5b類(横田・森田1978)と思われ、時期は13世紀頃と考えられる。

<国産陶器> 瀬戸窯系と常滑窯系の製品が見られるが、量は少なく、いずれも破片である。

瀬戸窯系製品は、ほとんどが14世紀後葉以降の古瀬戸後期様式(藤澤1991)と思われる。器種は、四(三)耳壺(久下前D1第18号井戸跡No5)、花瓶Ⅲ類(久下前D1第21号井戸跡No4)、瓶子(久下前D1第21号井戸跡No5、第27号溝跡No3)、大皿(久下東F1第4号地下式坑

No 3)、天目茶碗(久下前D 1 第20号井戸跡)が見られ、この中の花瓶Ⅲ類は後Ⅰ期(14世紀末)、大皿は後Ⅳ期(15世紀中頃)と思われ、天目茶碗は15世紀末以降の大窯期のものかもしれない。

常滑窯系製品は、甕と片口鉢Ⅰ類がある。甕は、久下前D 1 第23号井戸跡No 3が中野晴久氏の6 a型式(13世紀後半)、久下前D 1 第27号溝跡No 1が概ね8型式(14世紀後半)に比定できる(中野1995)。この他、久下前D 1 第23号井戸跡No 4や久下東F 1 第21号溝跡No 4の甕の胴部破片は、古い時期の特徴である胴部下半の押印文が見られることから、中世前期のものと考えられる。片口鉢Ⅰ類(久下前D 1 第27号溝跡No 4)は、体部が直線的で傾きがやや急な形態であることから、おそらく5型式(13世紀前半)頃のものと思われる。

<在地産土器> 内耳鍋、片口鉢、播鉢、かわらけが見られる。これらの大半は、久下前遺跡D 1 地点の井戸跡や区画堀の第27号溝跡から出土しており、日常品の煮沸具の内耳鍋や調理具の片口鉢と播鉢は、かなり使い込まれて廃棄されたものが多い。

内耳鍋は、中世後期の15世紀後半～16世紀前半頃のもので、当地域の内耳鍋の時期区分(恋河内2009)によるⅣ期・Ⅴ期・Ⅵ期の3時期のものが見られる。Ⅳ期は、久下前D 1 第22号井戸跡No 1、第27号溝跡No 6～13、第390号土坑No 1が該当する。Ⅴ期は、久下前D 1 第18号井戸跡No 1・2、第20号井戸跡No 1、第21号井戸跡No 1～3、第24号溝跡No 1、久下東F 1 第82号溝跡No 1が該当する。Ⅵ期は、久下前D 1 第27号溝跡No 5の1片だけである。主体となるⅣ期とⅤ期の内耳鍋には、Ⅳ期の久下前D 1 第27号溝跡出土例やⅤ期の久下前D 1 第21号井戸跡出土例のように、大小の法量差が認められる。

片口鉢は、明確なものは口縁部形態の分かる久下前D 1 第27号溝跡No 15と第18号井戸跡No 4だけで、体部以下の破片は播目が磨滅した播鉢との区別が困難なものが多い。第27号溝跡No 15は、口縁部の断面形態が半円のいわゆる「半月状」を呈するもので、荒川正夫氏により13世紀後半に比定されている(荒川1998)。第18号井戸跡No 4は、口唇部が内外に肥厚しないやや丸みを帯びた平坦面のいわゆる「角状」を呈するもので、14世紀頃の常滑窯製品7～8型式の片口鉢Ⅱ類の影響によるものではないかと思われる。

播鉢は、15世紀後半～16世紀前半頃のもので比較的多く出土している。口唇部の形態は様々であるが、平坦面を持ち内外の両方かどちらか一方に肥厚するものが多い。形態は、体部が深いもの(久下前D 第18号井戸跡No 3)と浅いもの(久下前D 1 第23号井戸跡No 1)がある。播目は、弓状に湾曲しながら間隔をあけて放射状に施すもの(久下前D 1 第18号井戸跡No 3、第23号井戸跡No 1)と、ハの字状に施すもの(久下前D 1 第20号井戸跡No 2)が見られる。

かわらけは、量的には比較的少ない。形態は、体部が外反ぎみに開くもの(久下前D 1 第20号井戸跡No 3・4、第27号溝跡No 21・22)と、体部が内湾ぎみに開くもの(久下前D 1 第20号井戸跡No 5、第27号溝跡No 24)の二者があり、前者には口縁部径が10cm以上と、10cm以下(久下前D 1 第404号土坑No 2、第18号井戸跡No 6)の大小の法量分化が認められる。

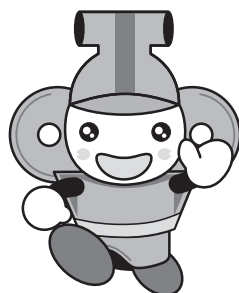
以上、久下前遺跡D 1 地点と久下東遺跡F 1 地点の調査で出土した中世の陶磁器や土器に

ついて概観したが、これらは主に、平面形が長方形ぎみの形態に圍繞する規模の大きな薬研堀状の久下前D 1 第27号溝跡と、その内外の井戸や土坑から出土したもので、その様相は久下前D 1 第27号溝跡と北側の久下東B 第1・2号溝跡(松本・大熊他2009)によって圍繞された区画地周辺の性格をある程度反映しているものと思われる。中世後期という時期的な問題もあり、権威や階層的な象徴の一つである貿易陶磁器が極端に少なく、瀬戸窯製品や在地産土器の種類も少ないが、日常的な調理器具である内耳鍋や播鉢と、調理加工具の粉挽き臼が多数出土していることは、多くの人々が日常的に共同生活を営んでいたことが窺え、当地方の館に關係する遺跡の出土遺物の様相と類似している。本地点の場合、板碑の破片や五輪塔の部品なども多く出土しており、これらの時間的な關係が整理されていない現状では、墓地や宗教施設の可能性もあって単純ではない。また、階層的な嗜好品と思われる茶臼や、小破片ではあるが瀬戸窯系の天目茶碗(久下前D 1 第20号井戸跡)などが出土していることは、「茶の湯」のような文化的嗜みを志向する身分的・知識的階層が、本地点周辺に存在していたことを示唆するものかもしれない。

<参考文献>

- 荒川 正夫 (1998) 『大久保山Ⅵ』 早稲田大学本庄校地文化財調査報告6
- 恋河内昭彦・松本 完 (2008) 『七色塚遺跡Ⅱ - B 1 地点 - ・北堀新田前遺跡 - A 1 地点 -』 本庄市埋蔵文化財調査報告書第7集
- 恋河内昭彦・的野善行 (2010) 『北堀久下塚北遺跡Ⅱ (B 地点)・久下東遺跡Ⅳ (C 1・D 1・E 1 地点)・久下前遺跡Ⅱ (A 1・B 1 地点)』 本庄市埋蔵文化財調査報告書第19集
- 恋河内昭彦 (2009) 『真鏡寺後遺跡Ⅳ』 本庄市遺跡調査会報告書第24集
- 佐々木藤雄 (2010) 『北堀新田遺跡』 本庄市埋蔵文化財調査報告書第22集
- 鈴木 徳雄 (1983) 「古代北武蔵における土師器製作技法の画期」 『土曜考古』 第7号 土曜考古学研究会
- (1984) 「いわゆる北武蔵系土師器坏の動態」 『土曜考古』 第9号 土曜考古学研究会
- (1993) 「鬼高式における大形鉢の意義」 『土曜考古』 第17号 土曜考古学研究会
- 中野 晴久 (1995) 「常滑・渥美」 『概説 中世の土器・陶磁器』 中世土器研究会 真陽社
- 藤澤 良祐 (1991) 「古瀬戸後期様式の編年」 『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』 X
- 増田 一裕 (1985) 『本庄遺跡群発掘調査報告書Ⅱ - 久下東遺跡・遺構編 -』 本庄市埋蔵文化財調査報告書第7集
- (2002) 「消滅した男堀川条里型地割について」 『土曜考古』 第26号 土曜考古学研究会
- 増田逸朗・坂本和俊他 (1987) 『埼玉県古式古墳調査報告書』 埼玉県史編さん室
- 松本 完・町田奈緒子 (2002) 『大久保山遺跡浅見山 I 地区(2次)・北堀前山古墳群(第2・3次)発掘調査報告書』 本庄市遺跡調査会報告第6集
- 松本 完・大熊季広他 (2009) 『浅見山 I 遺跡(Ⅲ次)・久下東遺跡(Ⅲ次) A 1・B 1 地点・北堀久下塚北遺跡』 本庄市埋蔵文化財調査報告書第13集
- 松本 完・的野善行 (2010) 『久下前遺跡Ⅲ (C 1 地点)・北堀新田遺跡Ⅱ (A 1 地点)・宍勝寺北裏遺跡Ⅲ (A 1・B 1 地点)』 本庄市埋蔵文化財調査報告書第23集
- 横田賢次郎・森田 勉 (1978) 「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」 『九州歴史資料館研究論集4』

写真図版



本庄市マスコット

はにぽん



久下前遺跡D 1・E 1 地点遠景（西から）



久下前遺跡F 1 地点全景（北から）



久下前遺跡D 1 地点全景（東から）



久下前遺跡D 1 地点全景（真上から）



第171号住居跡



第171号住居跡遺物出土状態



第18号井戸跡



第19号井戸跡



第20号井戸跡



第20号井戸跡板碑出土状態



第21号井戸跡



第21号井戸跡土層堆積状態



第22号井戸跡



第23号井戸跡



調査区北側土坑群 (第394~409号土坑)



調査区東側土坑群 (第386~420号土坑)



第381号土坑



第381・382号土坑



第383・384号土坑



第385号土坑



第390号土坑（西から）



第390号土坑（南から）



第391号土坑



第392号土坑



第393号土坑



第394号土坑



第410号土坑



第411号土坑



第21・22号溝跡



第23号溝跡



第24・25・32号溝跡



第26号溝跡



第27号溝跡全景



第27号溝跡西側溝



第27号溝跡西側溝土層断面



第27号溝跡南側溝



第27号溝跡南側溝土層断面



第27号溝跡東側溝



第27号溝跡東側溝土層断面



第27号溝跡五輪塔（火輪）出土状態



第27号溝跡内耳鍋出土状態



第29～35号溝跡（真上から）



第29～35号溝跡（西から）



第29・30号溝跡



第29・30号溝跡土層断面



第31号溝跡土層断面



第34・35号溝跡土層断面



第31号溝跡遺物出土状態



第35号溝跡遺物出土状態



河川跡（西から）



河川跡（東から）



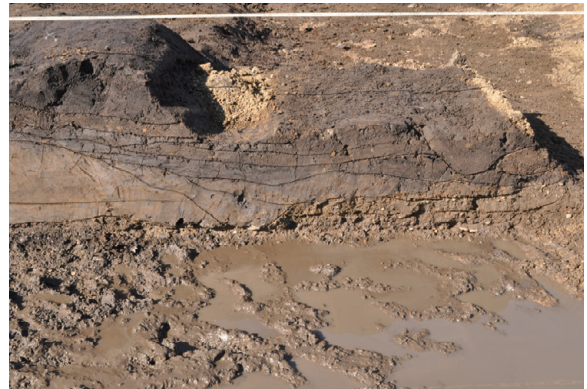
河川跡（北西から）



河川跡（北東から）



河川跡土層断面 A - A'



河川跡土層断面 B - B'



河川跡遺物出土状態（1）



河川跡遺物出土状態（2）



久下前遺跡E地点全景（真上から）



久下前遺跡E地点全景（北から）



第36・37・38号溝跡（北から）



第37号溝跡



第37号溝跡遺物出土状態（1）



第37号溝跡遺物出土状態（2）



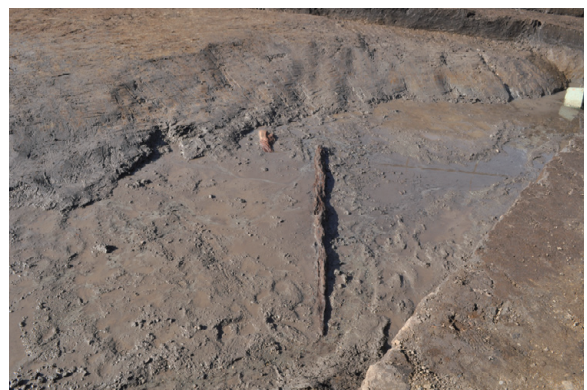
河川跡（北から）



河川跡（西から）



河川跡自然木出土状態（1）



河川跡自然木出土状態（2）



久下東遺跡 F 1 - A 地点全景 (東から)



久下東遺跡 F 1 - BC 地点 (真上から)



第1号住居跡



第1号住居跡カマド



第10号住居跡



第10号住居跡遺物出土状態



第45号住居跡



第45号住居跡カマド



第118号住居跡



第118号住居跡遺物出土状態



第118号住居跡カマド遺物出土状態



第118号住居跡カマド



第184号住居跡



第184号住居跡カマド



第185号住居跡



第185号住居跡遺物出土状態



第186号住居跡



第186号住居跡カマド



第187号住居跡



第187号住居跡カマド



第188号住居跡



第188号住居跡カマド



第189号住居跡



第189号住居跡カマド



第190号住居跡



第190号住居跡カマド



第191号住居跡



第191号住居跡カマド



第192号住居跡



第193号住居跡



第194号住居跡



第194号住居跡カマド



第195号住居跡



第196号住居跡



第197・198号住居跡



第198号住居跡カマド



第199号住居跡



第199号住居跡遺物出土状態



第200号住居跡



第200号住居跡カマド



第201号住居跡



第201号住居跡カマド



第202・203号住居跡



第202号住居跡遺物出土状態



第203号住居跡



第203号住居跡カマド



第204号住居跡



第204号住居跡カマド



第205号住居跡



第13号掘立柱建物跡



第15号井戸跡



第17号井戸跡



第4号地下式坑 (北から)



第4号地下式坑 (東から)



第377号土坑



第381号土坑



第384号土坑



第417号土坑



第418号土坑



第431・432・437号土坑



第433号土坑



第437号土坑



第1号溝跡



第13号溝跡 (調査区北側)



第13号溝跡 (調査区南側)



第13号溝跡遺物出土状態



第21号溝跡



第23号溝跡



第78号溝跡



第79・80・81号溝跡



第82・83号溝跡



第84号溝跡



第85号溝跡



第86号溝跡



久下前遺跡D 1 地点第171号住居跡出土遺物



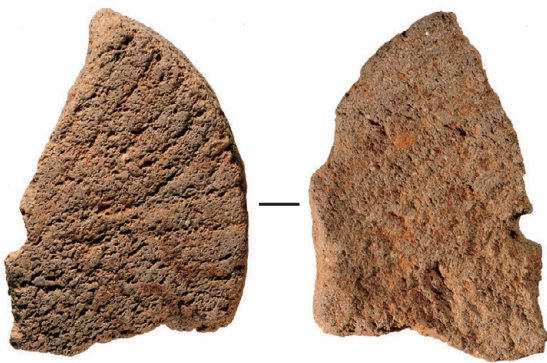
久下前遺跡D 1 地点第18号井戸跡出土遺物



久下前遺跡D 1 地点第19号井戸跡出土遺物



久下前遺跡D1 地点第20号井戸跡出土遺物



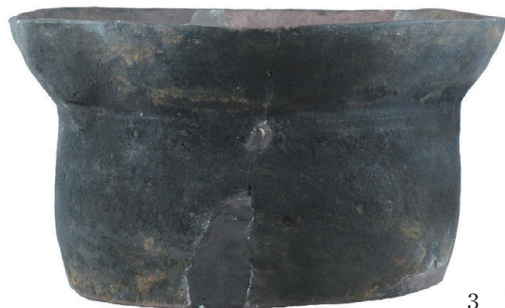
久下前遺跡D 1 地点第20号井戸跡出土遺物



1



2



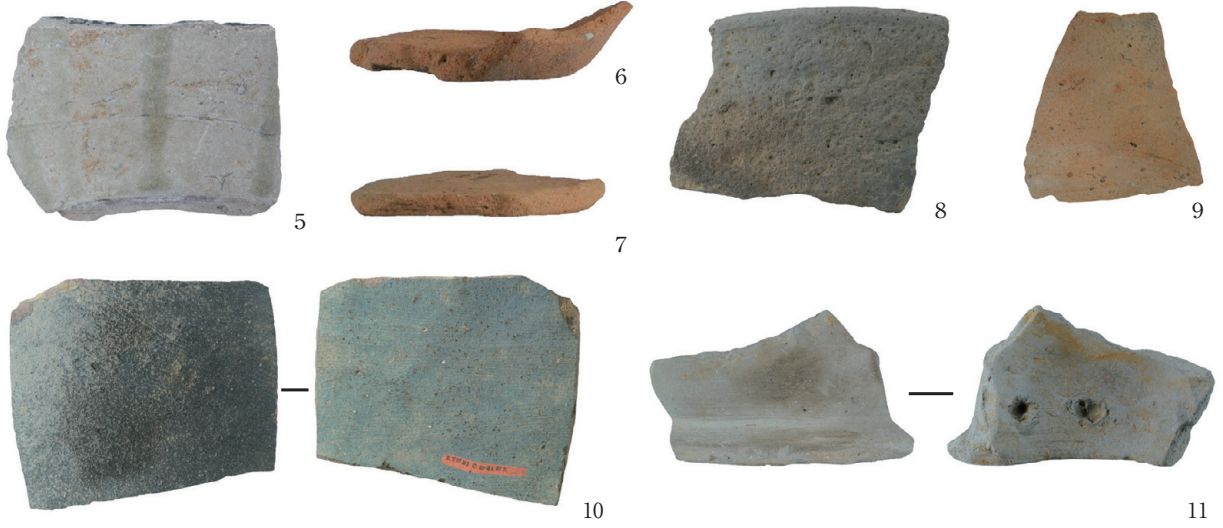
3



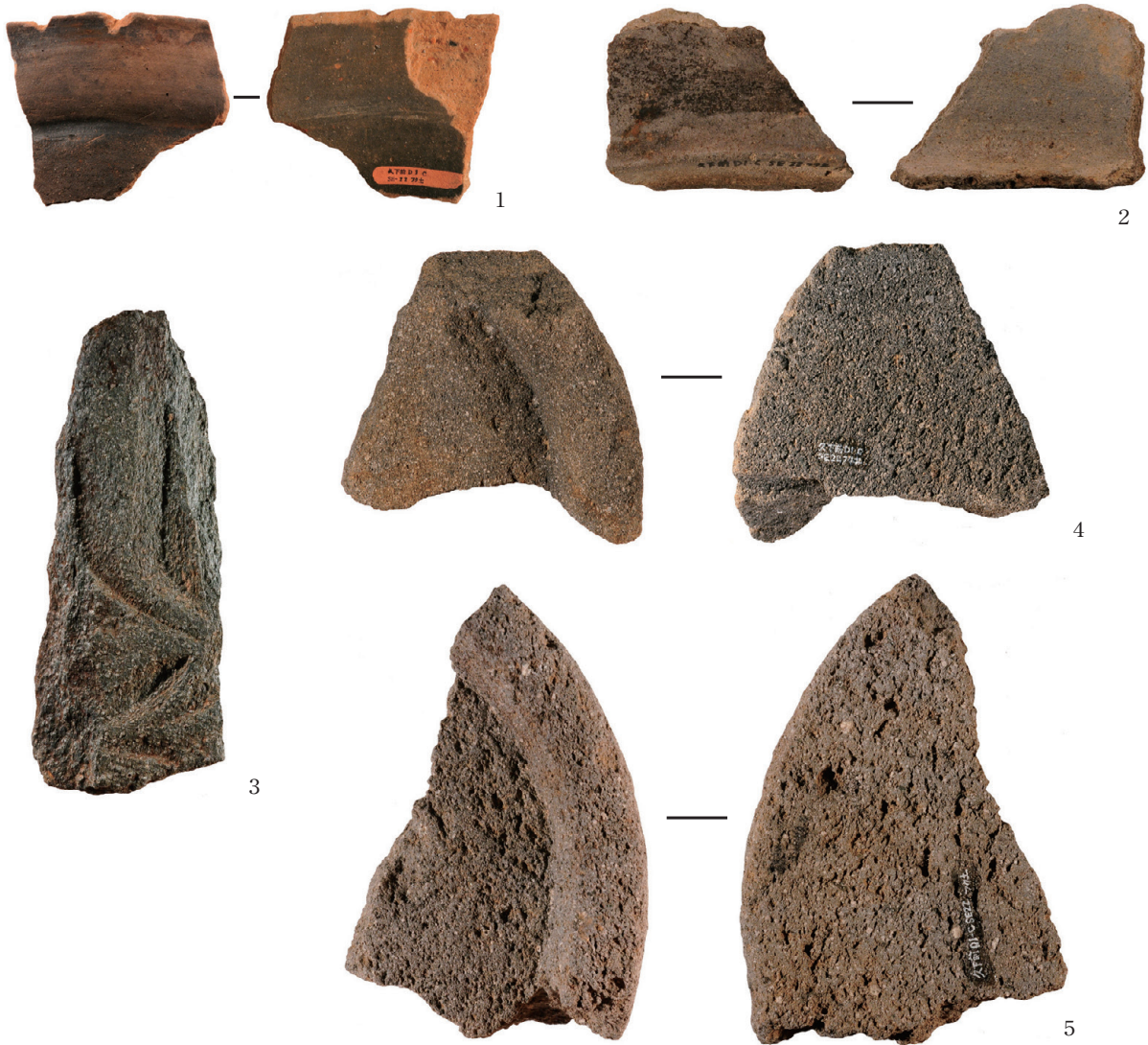
4



久下前遺跡D1 地点第21号井戸跡出土遺物 (1)



久下前遺跡D1 地点第21号井戸跡出土遺物 (2)



久下前遺跡D1 地点第22号井戸跡出土遺物



久下前遺跡D 1 地点第23号井戸跡出土遺物



久下前遺跡D 1 地点第381号土坑出土遺物



久下前遺跡D 1 地点第383号土坑出土遺物



久下前遺跡D 1 地点第385号土坑出土遺物



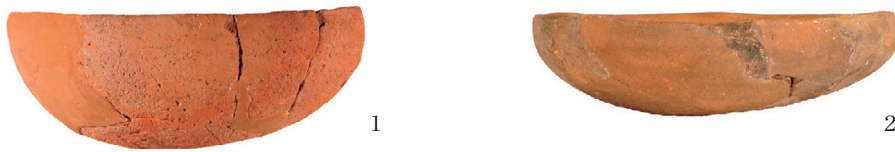
久下前遺跡D 1 地点第390号土坑出土遺物



久下前遺跡D 1 地点第393号土坑出土遺物



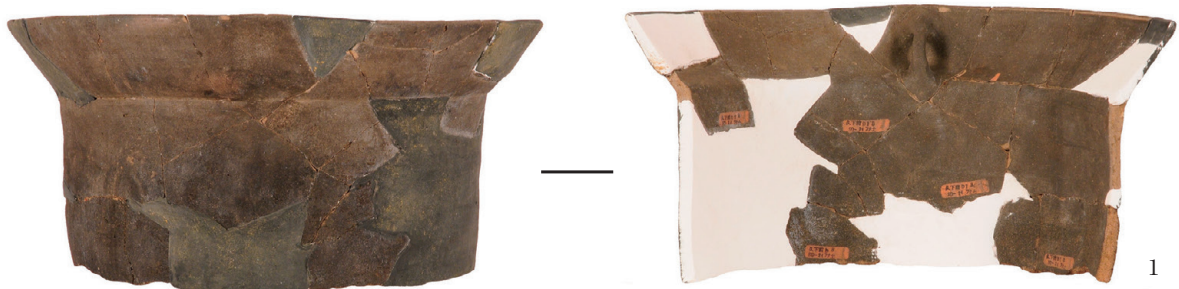
久下前遺跡D 1 地点第394号土坑出土遺物



久下前遺跡D 1 地点第403号土坑出土遺物



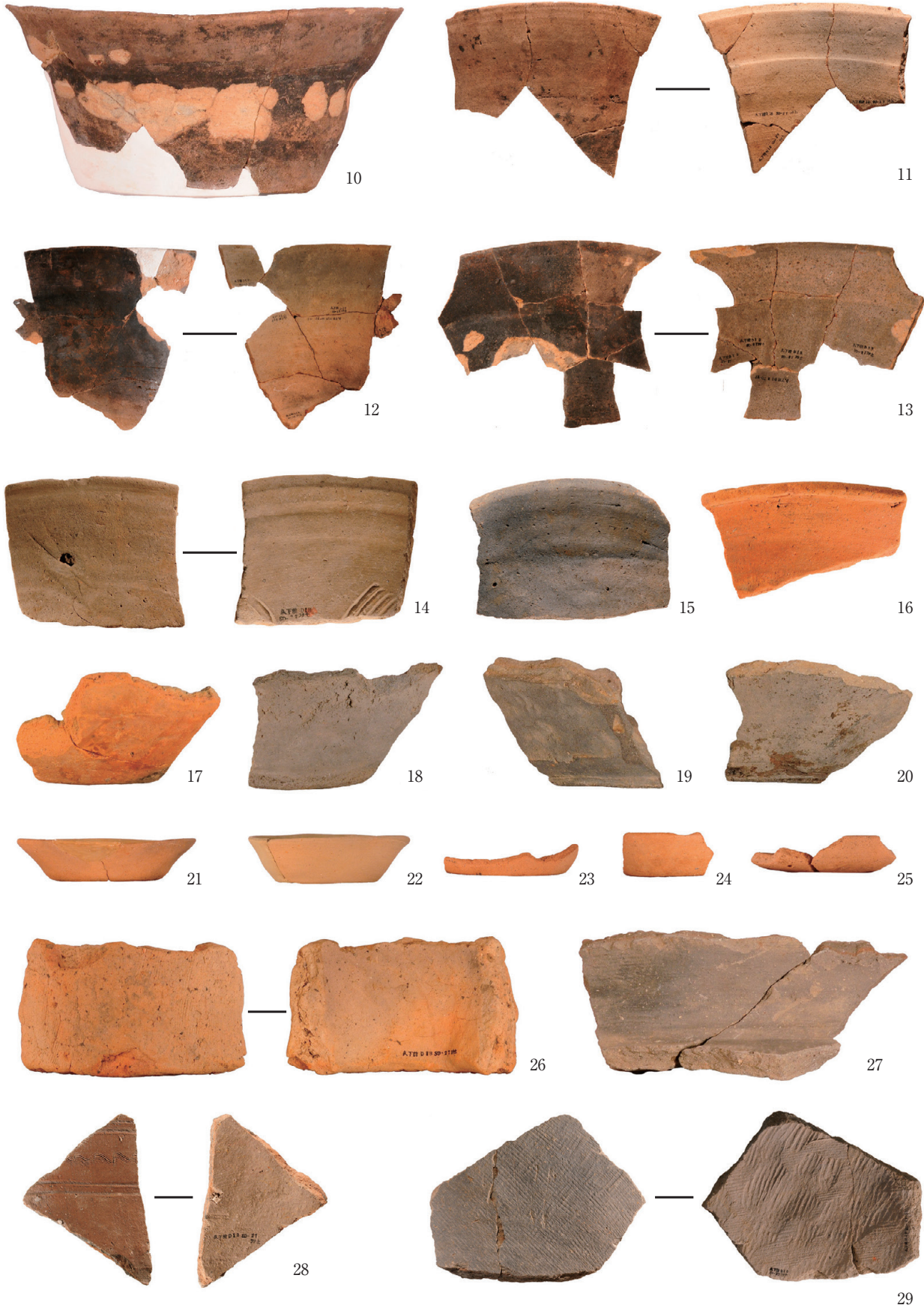
久下前遺跡D 1 地点第404号土坑出土遺物



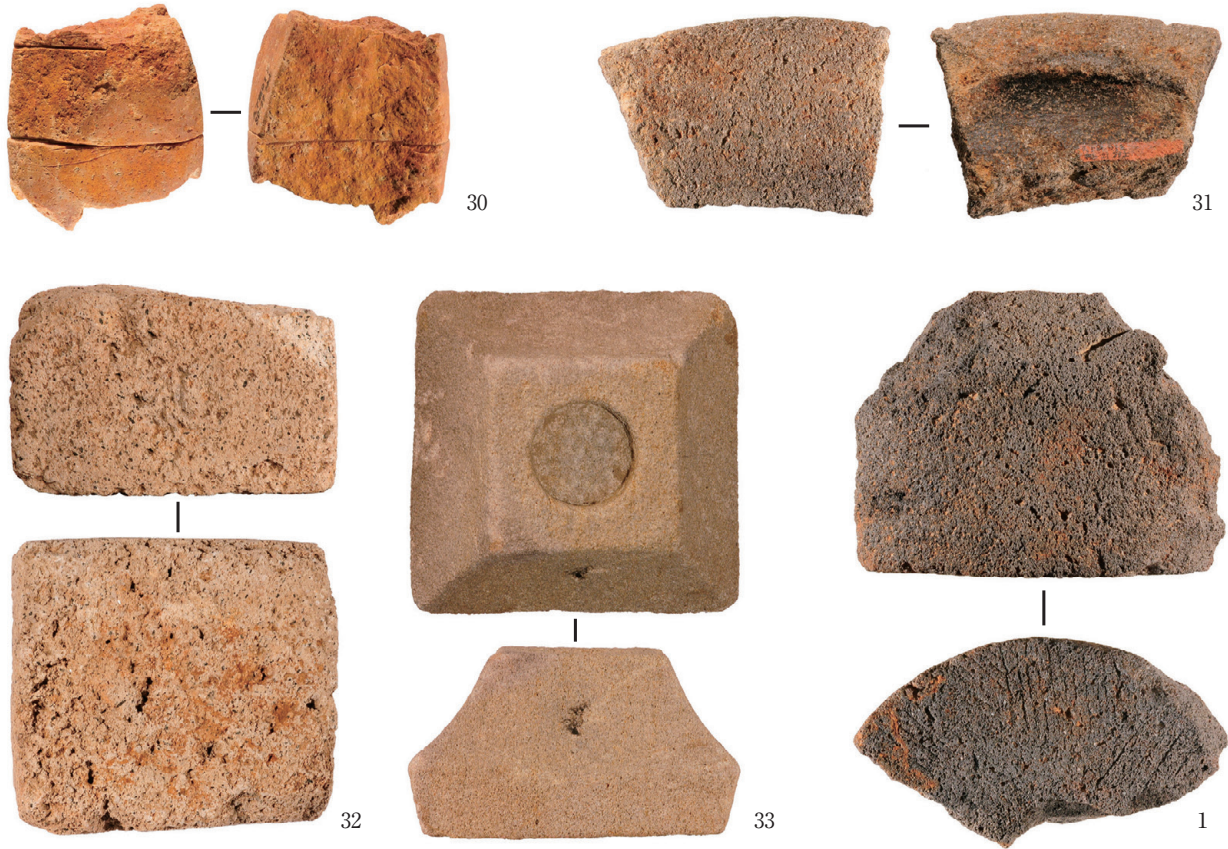
久下前遺跡D 1 地点第24号溝跡出土遺物



久下前遺跡D 1 地点第27号溝跡出土遺物 (1)



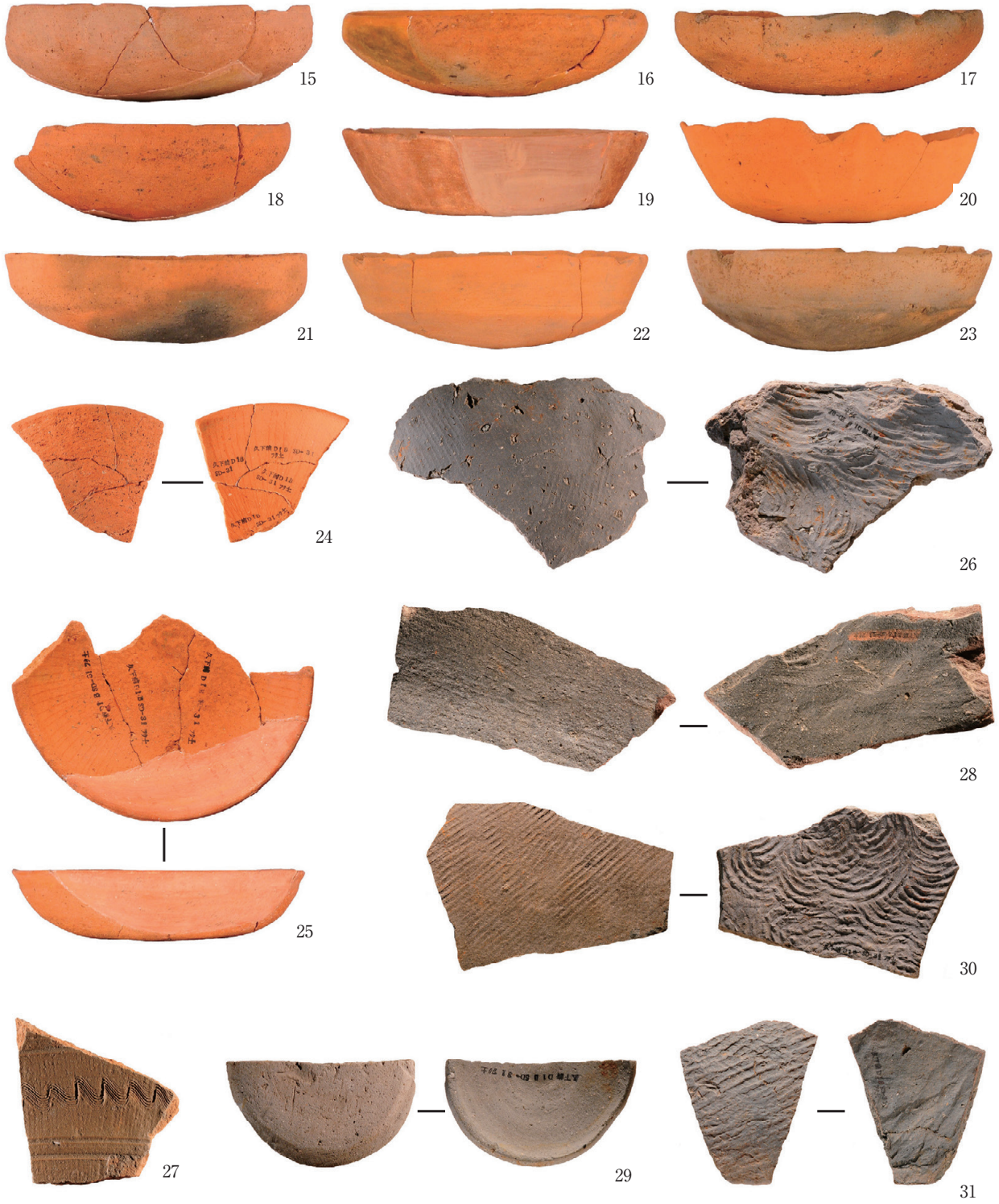
久下前遺跡D 1 地点第27号溝跡出土遺物 (2)



久下前遺跡D 1 地点第27号溝跡出土遺物 (3)、第30号溝跡出土遺物



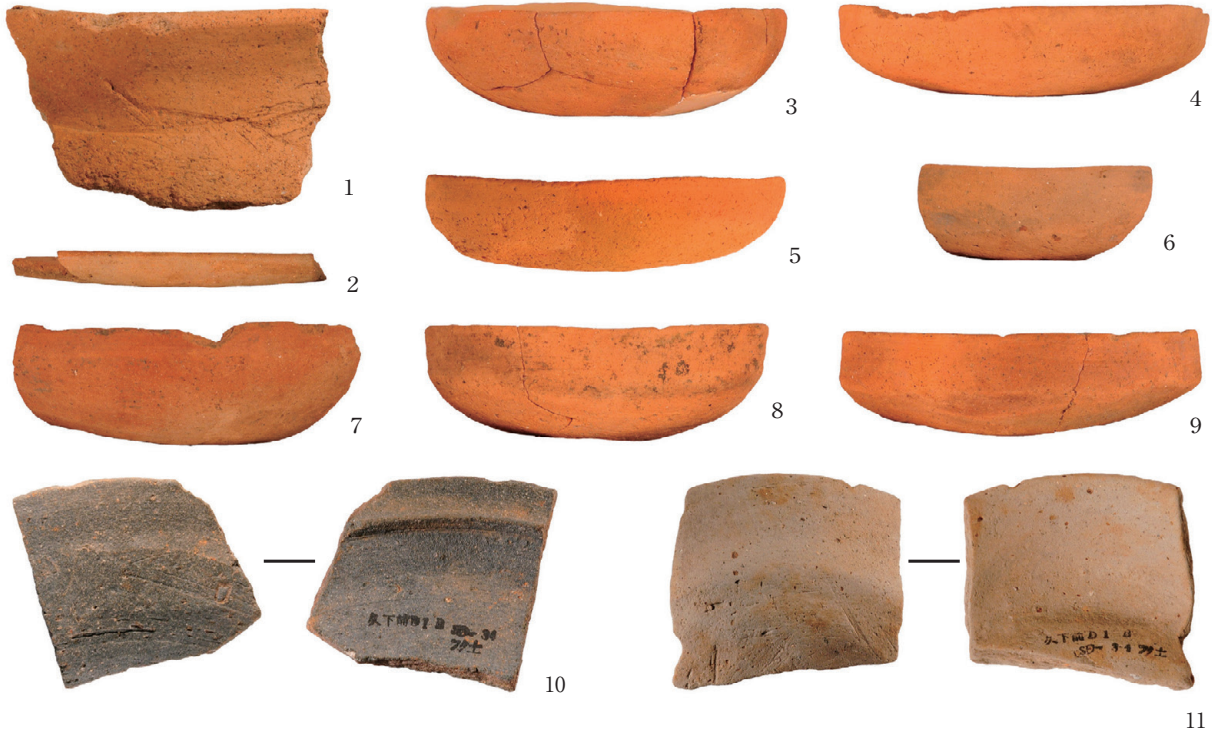
久下前遺跡D 1 地点第31号溝跡出土遺物



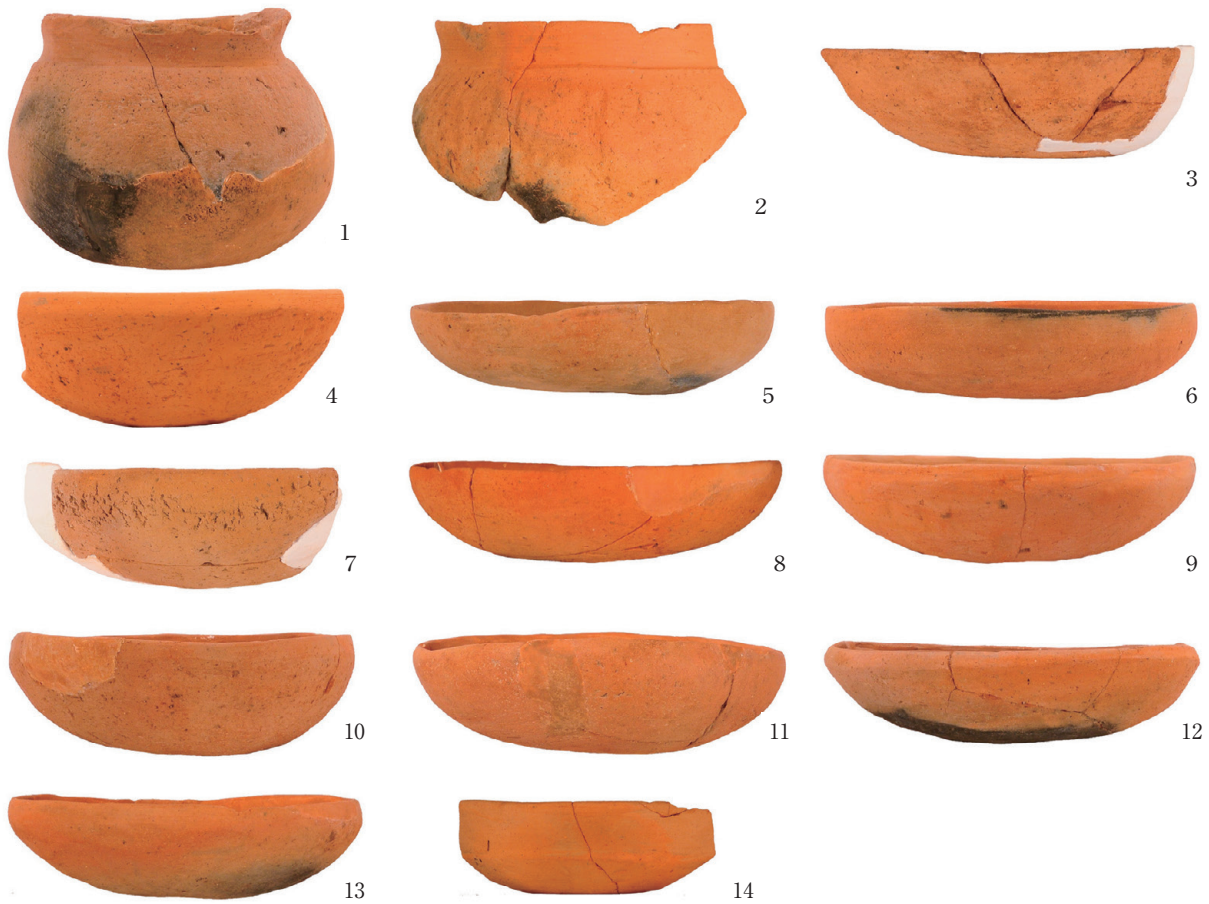
久下前遺跡D 1 地点第31号溝跡出土遺物



久下前遺跡D 1 地点第33号溝跡出土遺物



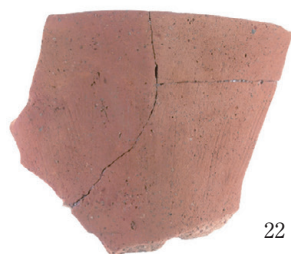
久下前遺跡D1 地点第34号溝跡出土遺物



久下前遺跡D1 地点第35号溝跡出土遺物



久下前遺跡D1 地点河川跡出土遺物 (1)



久下前遺跡D1 地点河川跡出土遺物 (2)



久下前遺跡D1 地点河川跡出土遺物 (3)



46



47



48



49



50



51



52



54



53



55



56

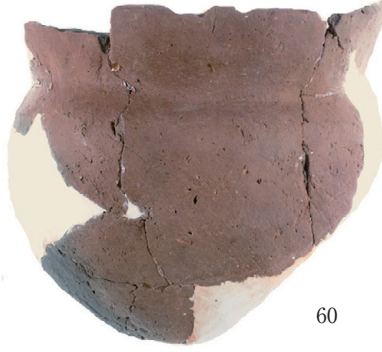


57



58

久下前遺跡D1 地点河川跡出土遺物 (4)



71

久下前遺跡D1 地点河川跡出土遺物 (5)



72



74



75



73



76



77



78



79



80



81



82



83

久下前遺跡D1 地点河川跡出土遺物 (6)



84



85



86



87



88



89



90



91



92



93



94



95



96



97

久下前遺跡D1 地点河川跡出土遺物 (7)



98



99



100



101



102



103



104



105



106



107



108



109



110



111



112



113



114



115



116



117



118

久下前遺跡D1 地点河川跡出土遺物 (8)



119



120



121



122



123



124



125



126



127



128



129



130



131



132



133



134



135



136



137



138



139



140



141



142

久下前遺跡D1 地点河川跡出土遺物 (9)



143



144



145



146



147



148



149



150



151



152



153



154



155



156



157



158



159



160



161



162



163



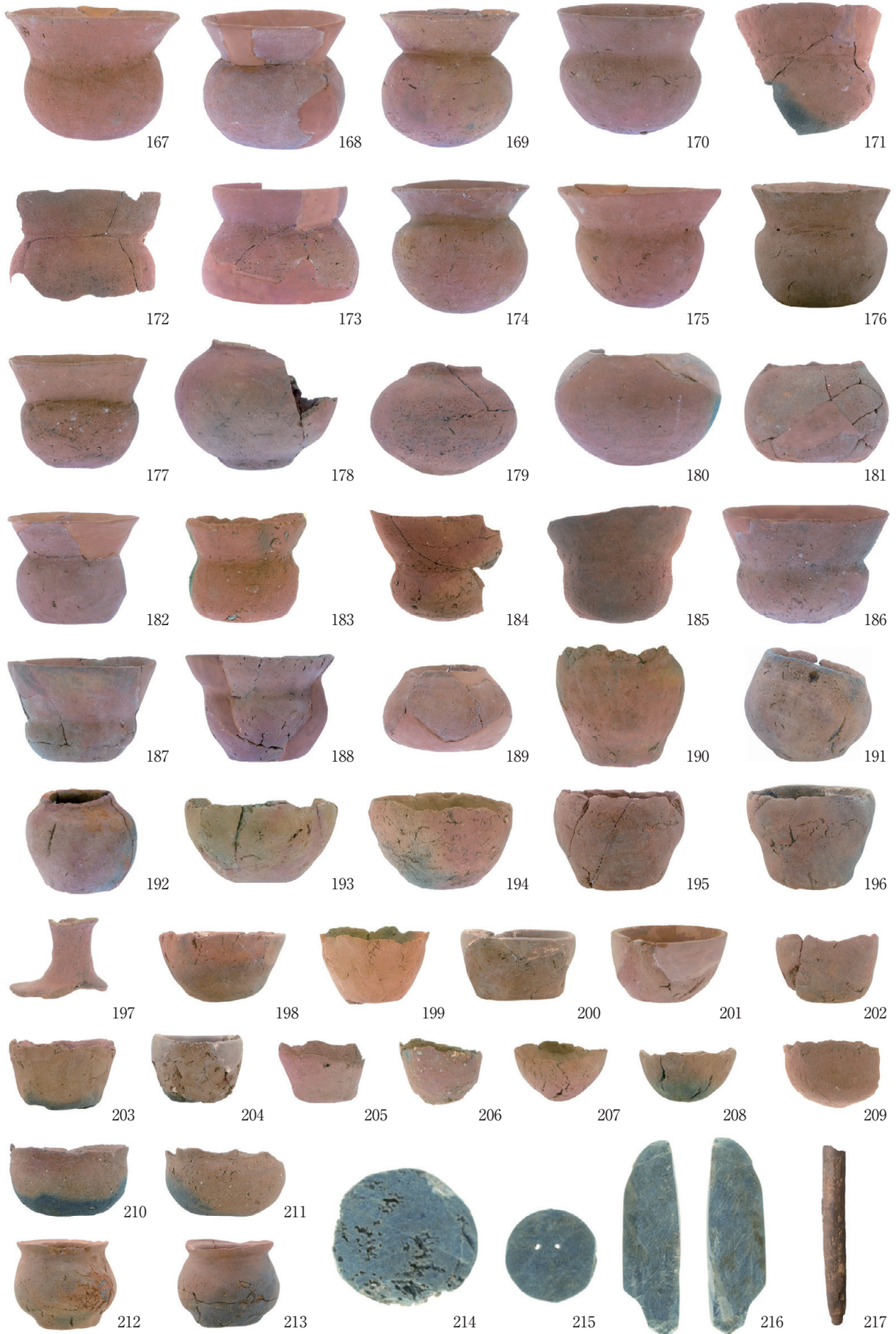
164



165



166



久下前遺跡D 1 地点河川跡出土遺物 (11)



久下前遺跡E 1 地点表土出土遺物



久下前遺跡E 1 地点第36・37号溝跡出土遺物



久下前遺跡E 1 地点河川跡出土遺物



久下東遺跡F 1 地点第 1 号住居跡出土遺物 (1)



久下東遺跡F 1 地点第 1 号住居跡出土遺物 (2)



久下東遺跡F 1 地点第10号住居跡出土遺物



久下東遺跡F 1 地点第45号住居跡出土遺物



久下東遺跡F 1 地点第118号住居跡出土遺物 (1)



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14

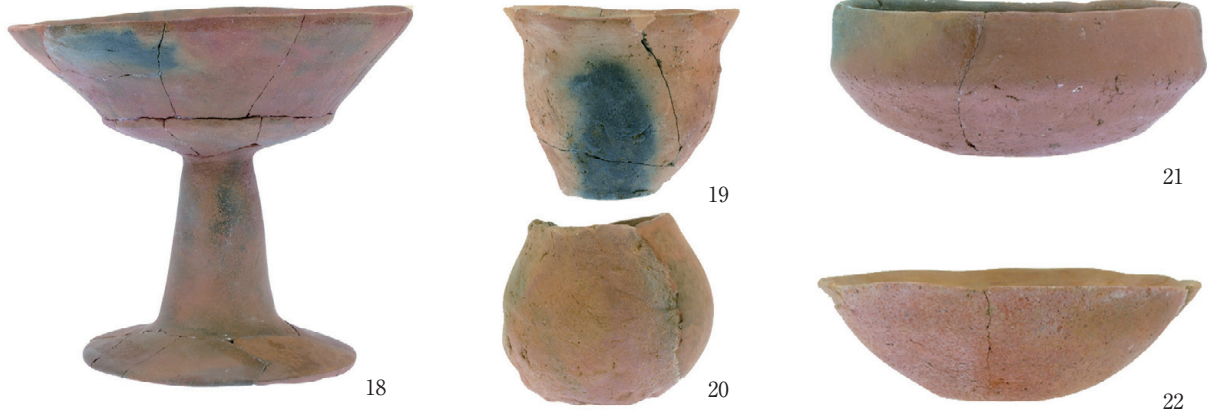


15



17

久下東遺跡F1 地点第118号住居跡出土遺物 (2)



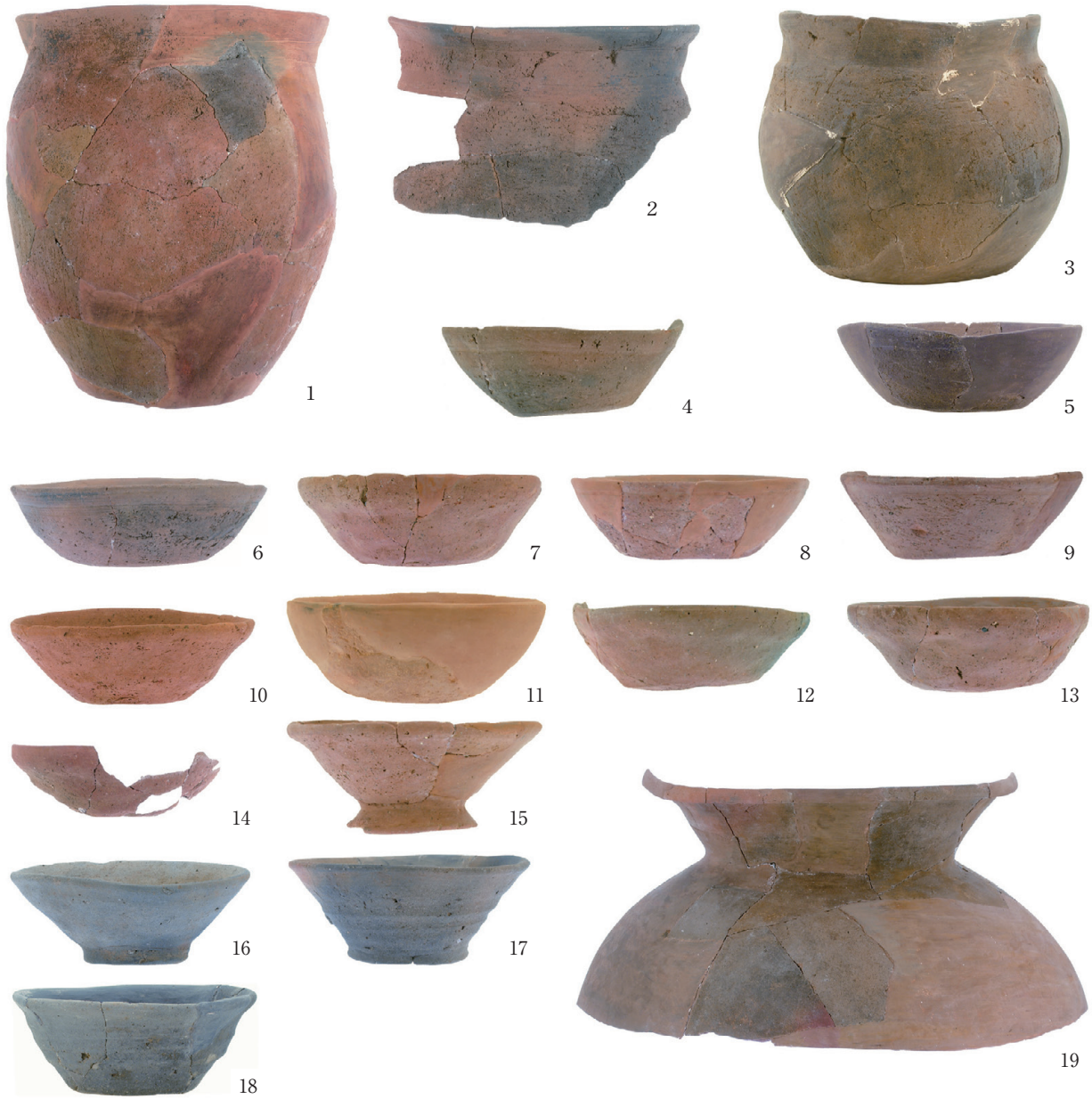
久下東遺跡F 1 地点第118号住居跡出土遺物 (3)



久下東遺跡F 1 地点第184号住居跡出土遺物



久下東遺跡F 1 地点第185号住居跡出土遺物

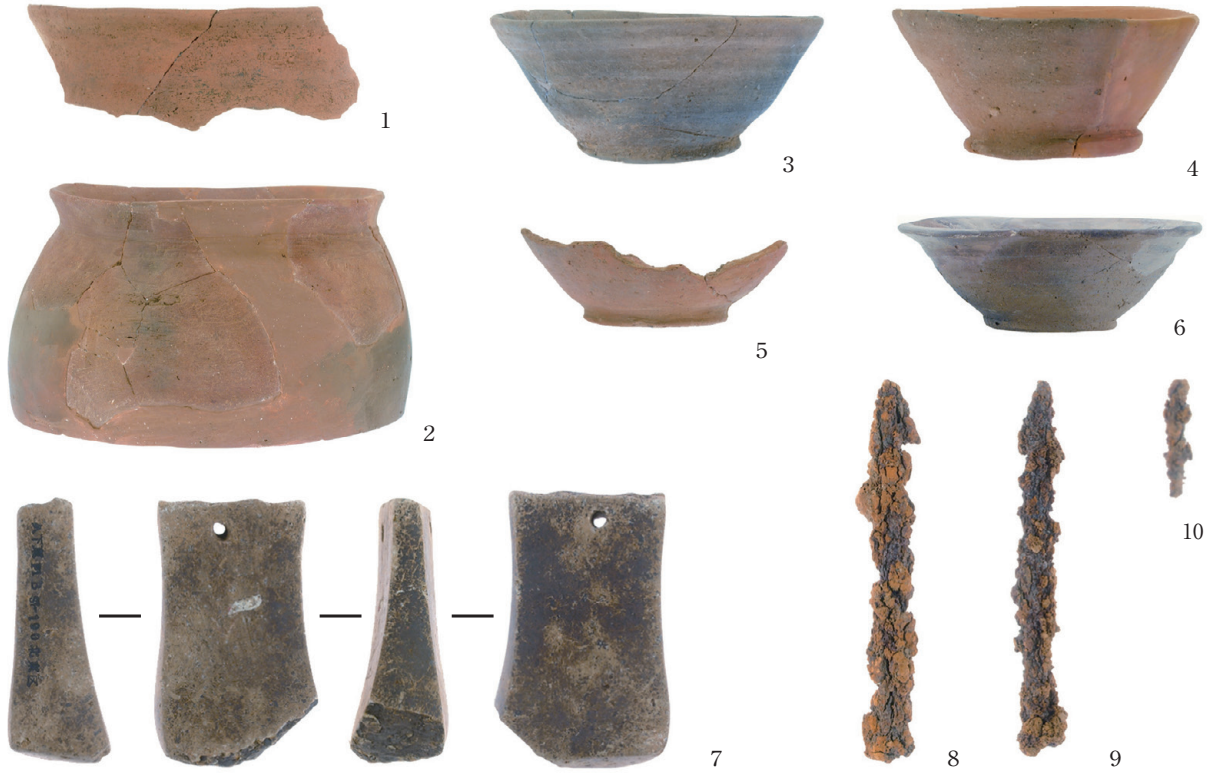


久下東遺跡F 1 地点第186号住居跡出土遺物

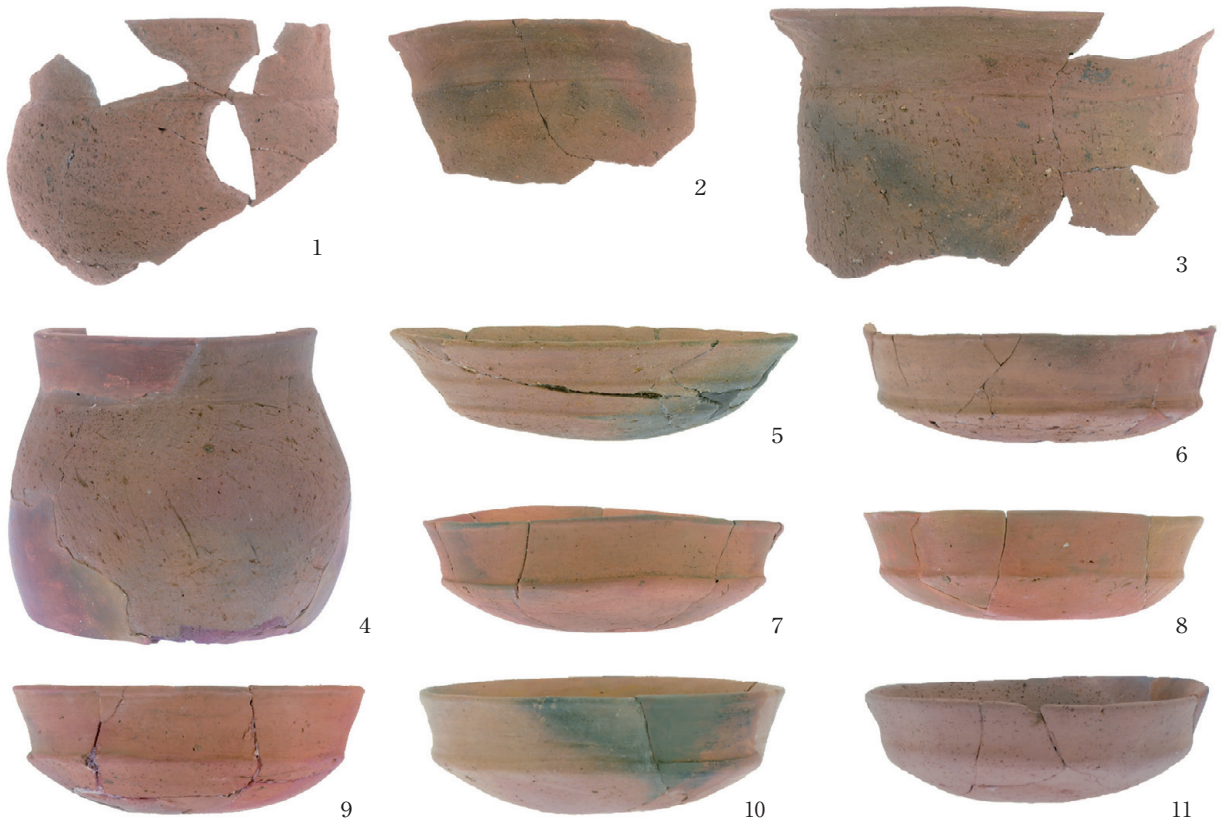


久下東遺跡F 1 地点
第187号住居跡出土遺物

久下東遺跡F 1 地点第188号住居跡出土遺物



久下東遺跡F 1 地点第190号住居跡出土遺物



久下東遺跡F 1 地点第191号住居跡出土遺物



1

久下東遺跡F 1 地点
第192号住居跡出土遺物



1

久下東遺跡F 1 地点
第193号住居跡出土遺物



1



2



4



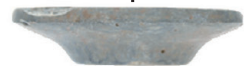
5



6



1



1



8



9



7



10

久下東遺跡F 1 地点第194号住居跡出土遺物



1



2



3



4



5

久下東遺跡F 1 地点第195号住居跡出土遺物



1



2



3



4



5

久下東遺跡F 1 地点第197号住居跡出土遺物



1



2

久下東遺跡F 1 地点第198号住居跡出土遺物



1



2



3



4



5



6



7



8



9

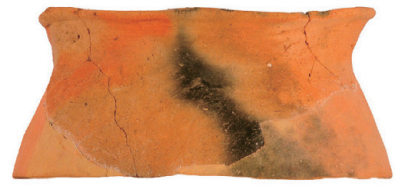
久下東遺跡F 1 地点第199号住居跡出土遺物



1



1



2



3

久下東遺跡F 1 地点
第200号住居跡出土遺物

久下東遺跡F 1 地点第201号住居跡出土遺物



1



2



3



4

久下東遺跡F 1 地点第202号住居跡出土遺物

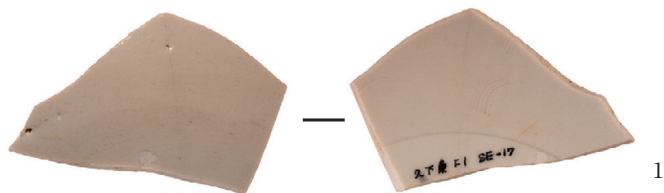


久下東遺跡F 1 地点
第203号住居跡出土遺物

久下東遺跡F 1 地点第204号住居跡出土遺物



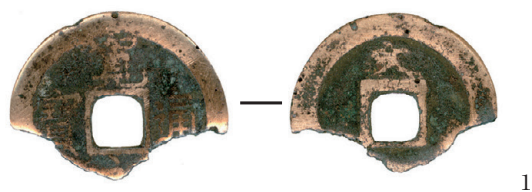
久下東遺跡F 1 地点第205号住居跡出土遺物



久下東遺跡F 1 地点第17号井戸跡出土遺物



久下東遺跡F 1 地点第 4 号地下式坑出土遺物



久下東遺跡F 1 地点第377号土坑出土遺物



久下東遺跡F 1 地点第437号土坑出土遺物



久下東遺跡F 1 地点第384号土坑出土遺物



久下東遺跡F 1 地点第381号土坑出土遺物



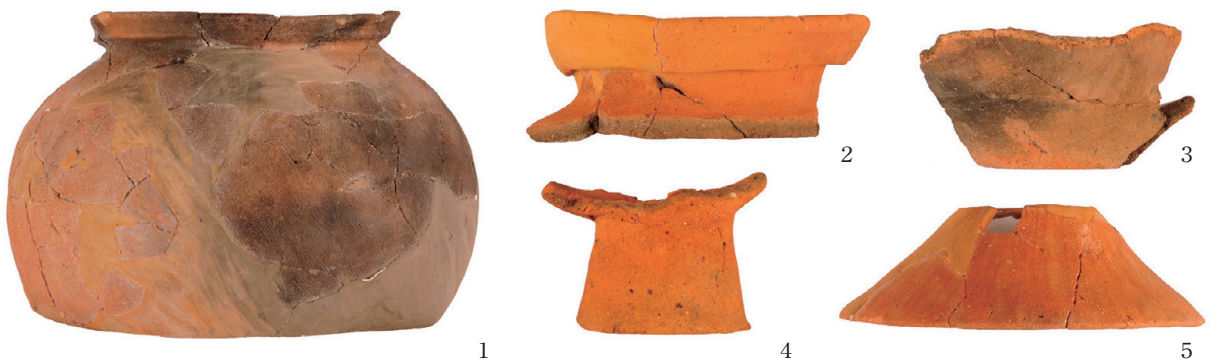
久下東遺跡F 1 地点第417号土坑出土遺物



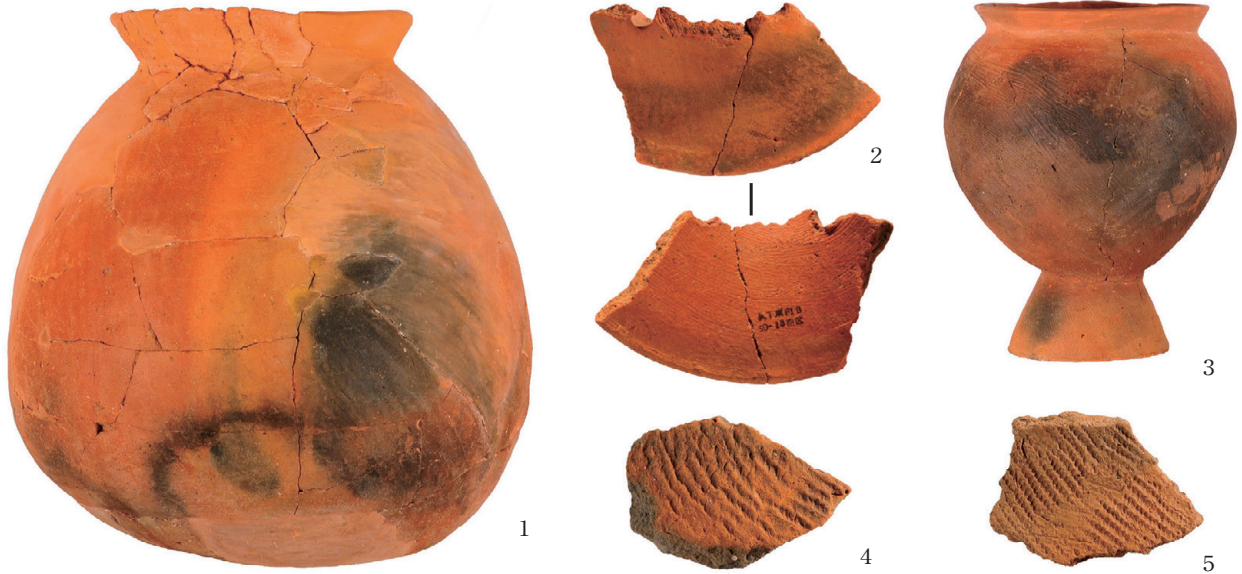
久下東遺跡F 1 地点第381号土坑出土遺物



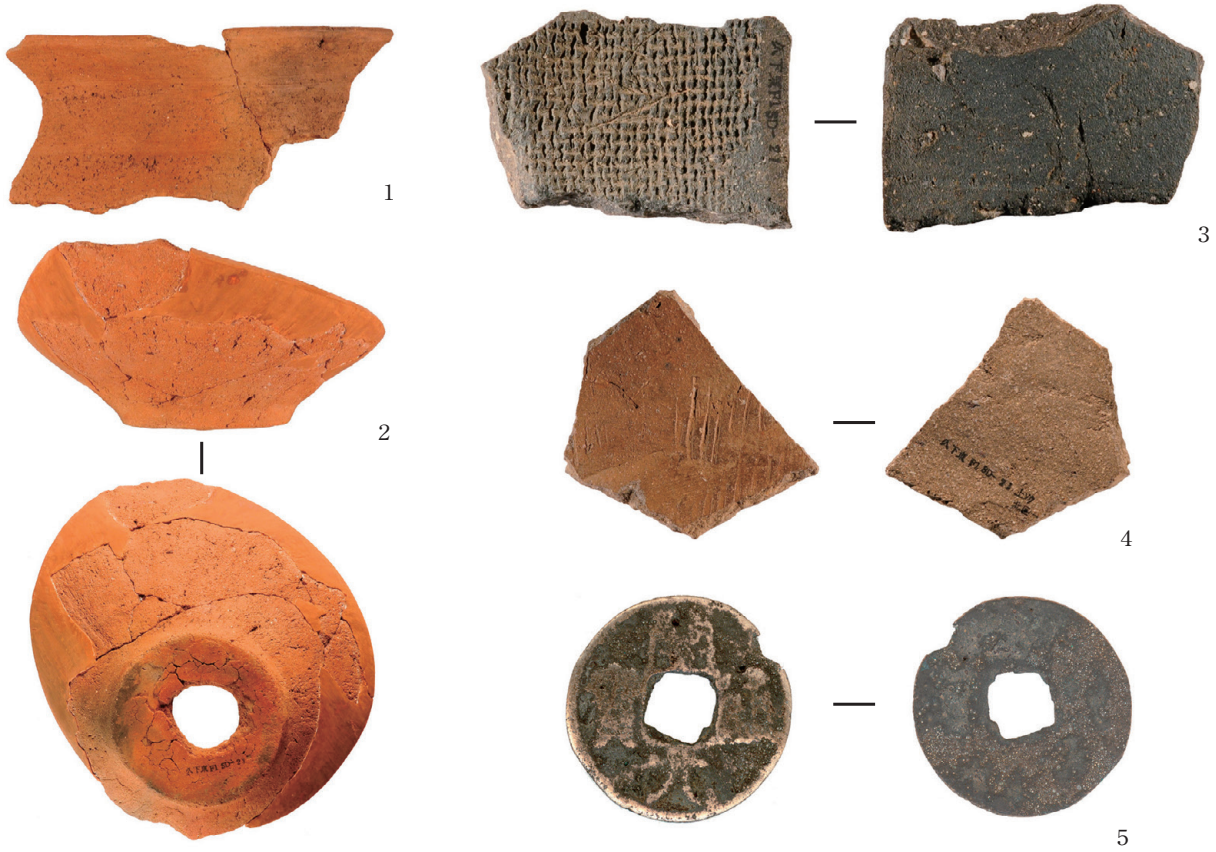
久下東遺跡F 1 地点第417号土坑出土遺物



久下東遺跡F 1 地点第433号土坑出土遺物



久下東遺跡F1 地点第13号溝跡出土遺物



久下東遺跡F1 地点第21号溝跡出土遺物



久下東遺跡F1 地点第78号溝跡出土遺物



久下東遺跡F 1 地点第86号溝跡出土遺物



久下東遺跡F 1 地点調査区内出土遺物

報 告 書 抄 録

フリガナ	クゲマエイセキⅣ (D1・E1チテン)・クゲヒガシイセキⅤ (F1チテン)							
書名	久下前遺跡Ⅳ (D1・E1地点)・久下東遺跡Ⅴ (F1地点)							
副書名	本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書5							
シリーズ	本庄市埋蔵文化財調査報告書					巻次	第28集	
編著者	恋河内昭彦							
編集機関	本庄市教育委員会							
所在地	〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号 TEL 0495-25-1185							
発行日	西暦2012年(平成24年)3月14日							
フリガナ 所収遺跡	フリガナ 所在地	コード		北緯 (°'")	東経 (°'")	調査期間	調査 面積	調査 原因
久下前遺跡 (D1地点)	本庄市北堀 1317、 1318、1319、1320、 1601他	112119	53-065	36° 13' 19"	139° 10' 53"	20100705 ～ 20110126	約 1996 ㎡	道路 建設
久下前遺跡 (E1地点)	本庄市北堀 1313	112119	53-065	36° 13' 17"	139° 10' 57"	20101124 ～ 20110114	約 450 ㎡	道路 建設
久下東遺跡 (F1地点)	本庄市北堀 1303、 1304、1591-3	112119	53-064	36° 13' 20"	139° 10' 55"	20100510 ～ 20110228	約 1960 ㎡	道路 建設
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
久下前遺跡 (D1地点)	集落	古墳 前～後期	堅穴住居1、井戸1、 土坑1、河川1	土師器、須恵器、円筒埴輪、砥石、石製 模造品、鉄製品、漆				
		白鳳～平安	土坑3、溝4	土師器、須恵器				
	屋敷	中世 後期	井戸5、土坑4、溝3	龍泉窯系青磁碗、常滑窯系甕・片口鉢、 瀬戸窯系壺・花瓶、在地産片口鉢・播 鉢・内耳鍋・かわらけ、板碑、五輪塔、 粉挽き臼、茶臼				
久下前遺跡 (E1地点)		古墳 前～中期	河川1	土器、種子(モモ・エゴノキ)				
		白鳳	溝3	土師器、須恵器				
		中・近世		五輪塔、瀬戸美濃産灯明皿				
久下東遺跡 (F1地点)	集落	古墳 前～後期	堅穴住居16、土坑3、 溝1	土師器、須恵器、石製紡錘車、石製模 造品、鉄製品				
	集落	白鳳～平安	堅穴住居10、掘立建物 1、土坑1	土師器、須恵器、瓦、砥石、鉄製品				
	屋敷	中世以降	井戸3、地下式坑1、 土坑2、溝9	白磁碗、常滑窯系甕、瀬戸窯系大皿、 在地産片口鉢、播鉢、内耳鍋、かわらけ、 古銭				
		近世以降	土坑28、溝2	瀬戸美濃産灰釉皿・鉄釉壺、丹波産播 鉢、古銭				

本庄市埋蔵文化財調査報告書第28集

久下前遺跡Ⅳ（D1・E1地点）・久下東遺跡Ⅴ（F1地点）
—本庄早稲田駅周辺地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書5—

平成24年 3月 10日 印刷

平成24年 3月 14日 発行

発行／本庄市教育委員会

埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号

印刷／山進社印刷株式会社

埼玉県本庄市本庄3丁目3番36号